

SHARP

シャープ 環境・社会報告書 2010



編集にあたって	002
トップメッセージ	003
CSR(企業の社会的責任)についての考え方	005
企業ビジョン	007

特集

グリーン社会の実現をめざして	008
----------------	-----

クローズアップ

1. 「グリーンフロント 堺」がいよいよ稼動!	012
2. インドネシアにおける環境社会貢献活動	014
3. 生物多様性保全へのハイブリッド型アプローチ	016

マネジメント

マネジメントの目標と実績	017
コーポレート・ガバナンス／内部統制	018
CSR推進体制／リスク管理	020
コンプライアンス	024



表紙について

省エネの液晶パネルと創エネの太陽電池を量産する、世界最先端の環境先進ファクトリー「グリーンフロント 堺」の最終完成予想図。詳細はP.12・13参照。

環境とシャープ

環境への貢献をめざして	029
環境面の目標と実績	030
マスバランス	032
環境会計	033

■ テクノロジー

オンリーワン環境技術の開発	034
---------------	-----

■ プロダクト

環境性能の高い商品・デバイスの開発	041
使用済み商品のリサイクルの推進	051

■ オペレーション

環境マネジメントシステムの推進	054
工場の環境配慮性を高める取り組み	057
オフィスの環境配慮性を高める取り組み	061
温室効果ガスの排出抑制	063
廃棄物の排出抑制と再資源化	067
水の有効利用	070
生産工場で使用する化学物質の適正管理	071
物流・包装における環境負荷低減	073

■ リレーションシップ

環境コミュニケーションの推進	075
環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準	077

社会とシャープ

社会面の目標と実績	080
-----------	-----

■ お客さまとともに

安心と満足をお届けする製品・サービスの提供	083
-----------------------	-----

■ お取引先さまとともに

仕入先さま、販売店さまとの共存共栄	090
-------------------	-----

■ 株主・投資家とともに

適切な利益還元と情報開示	094
--------------	-----

■ 従業員とともに

公平で働きやすく、成長できる職場づくり	096
---------------------	-----

■ 地域社会とともに

企業市民としての社会貢献活動	104
----------------	-----

社外からの評価	110
---------	-----

シャープグループの概要	112
-------------	-----

独立保証報告書	114
---------	-----

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

■「シャープ環境・社会報告書2010」および情報開示体系について

シャープの環境面・社会面をはじめとするCSR(企業の社会的責任)の取り組みに関する情報を、さまざまなステークホルダーのニーズにお応えするため、以下3種類の媒体を用いて開示します。

<年次報告書要約版> (2010年7月末発行予定)

2009年度におけるCSRの特長な取り組みを、読みやすく、わかりやすくダイジェストした報告書を冊子で発行するとともに、シャープホームページにもPDFで掲載します。

<年次報告書詳細版> **本報告書**

2009年度におけるCSRの取り組みについて、「特集・クローズアップ」「マネジメント」「環境とシャープ」「社会とシャープ」の大きく4つに分けて、関連データとともに詳細に報告します。また、環境配慮の観点から、印刷物ではなく、PDFで作成してシャープホームページに掲載します。

シャープホームページに掲載している関連情報については、をつけて記載しています。

<Webサイト> (2010年8月上旬リニューアル予定)

詳細版(本報告書)の内容に加え、補完データや最新情報などを、よりスムーズにアクセスしてご覧いただけるようにリニューアルします。

シャープホームページ「社会環境活動」ページ
<http://www.sharp.co.jp/corporate/eco/>

■対象期間・対象範囲等

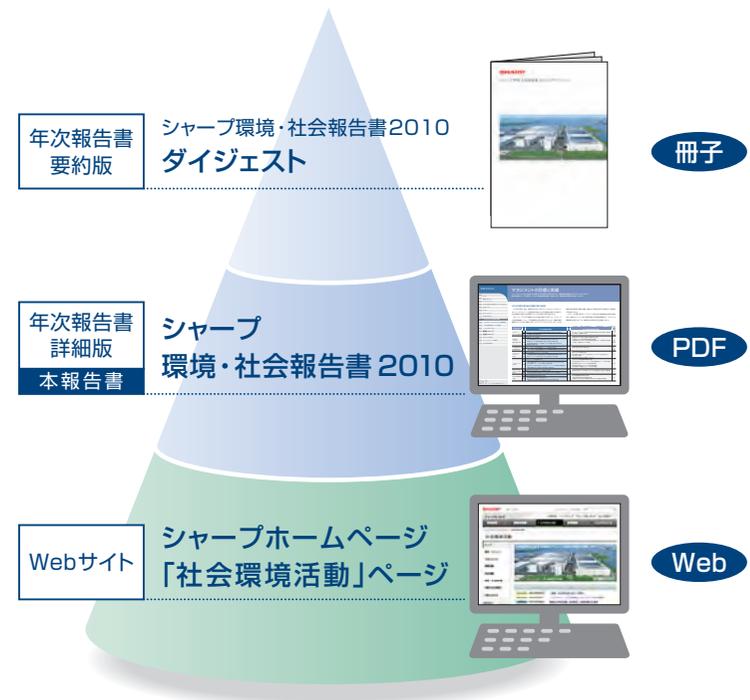
対象期間:

2009年度(2009年4月~2010年3月)。ただし、当該期間の前後の事実、および今後の方針や目標・計画などについても一部記載しています。

対象範囲:

シャープ株式会社および国内・海外の子会社、関連会社。
 環境パフォーマンスデータ集計範囲はP.77、環境パフォーマンス指標算定基準はP.78・79をご参照ください。

本文中では、シャープ株式会社を「シャープ(株)」「当社」と表記し、シャープグループを「シャープ」「シャープグループ」と表記することで区別しています。



■参考にしたガイドライン

- 環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」
- グローバル・リポーティング・イニシアティブ(GRI)「サステナビリティ・リポーティング・ガイドラインVersion3.0(2006年)」
- 環境省「環境会計ガイドライン2005年版」

 環境報告ガイドライン対照表、GRIガイドライン対照表

■次回発行予定

2011年6月(1999年以来、毎年発行)

■お問い合わせ先

シャープ株式会社
 〒545-8522 大阪市阿倍野区長池町22番22号
 E-mail:eco-info@sharp.co.jp
 環境安全本部 環境企画推進部
 TEL 06-6625-0438 FAX 06-6625-0153
 CSR推進本部 企画室
 TEL 06-6625-1167 FAX 06-6625-1274

001	目次
002	編集にあたって
003 ・ 004	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

独自の技術とモノづくりで、 太陽光発電と省エネ商品をグローバルに提供し、 グリーン社会の実現に貢献します。



「グリーンフロント 堺」の最終完成予想図



代表取締役会長 町田 勝彦

代表取締役社長 片山 幹雄

太陽電池の取り組みが、 「IEEEマイルストーン※」に認定されました

このほど、シャープの「1959年から1983年にかけての太陽電池の商業化および産業化」が、電気・電子・情報・通信分野における世界最大の学会であるIEEEより、栄誉ある「IEEEマイルストーン」に認定されました。

当社の創業者である早川徳次は、未来を語る際に、いつも最初に太陽電池をとりあげました。早川曰く、「無限にある太陽の光で電気をおこすことを工夫すれば、人類にどれだけ寄与するか、はかりしれないものがある」。

創業者をはじめ当社の先達は、今から51年前に太陽電池の研究を始め、創意工夫を重ねて4年後に量産化に成功しました。その後も灯台や人工衛星などに用途が限られる中、苛酷な環境下でも安定して発電するように地道に研究開発を続けたことが、今あらためて評価されました。

先達が描いた人類の未来に貢献する夢、そして、その実現に邁進する創意の精神は、シャープのDNAとなって今日まで確実に受け継がれています。

※ 世界最大の電気・電子学会であるIEEEが、電気・電子技術およびその関連分野において、社会に貢献した重要な歴史的偉業を称えるために1983年に制定。

「エコ・ポジティブ カンパニー」をめざし、 環境に貢献する取り組みをグローバルに展開しています

シャープは事業ビジョンとして、「省エネ・創エネ機器を核とした環境・健康事業で世界に貢献する」、および「オンリーワン液晶ディスプレイでユビキタス社会に貢献する」の二つを掲げ、事業展開を図っています。そして、企業活動全体として、シャープがめざすべき姿、すなわち企業ビジョンを「エコ・ポジティブ カンパニー」と決めました。

「エコ・ポジティブ カンパニー」とは、すべてのステークホルダーとともに、環境にプラスの影響(ポジティブ・インパクト)を与える企業を意味します。

シャープは、その実現に向けて「エコ・ポジティブ戦略」を進めています。

この戦略では、テクノロジー、プロダクト、オペレーション、リレーションシップという4つの切り口を中心に、環境への積極的な取り組みをグローバルに展開しています。

2009年度におけるその代表的な成果として、大幅な省エネを実現した

001	目次
002	編集にあたって
003 ・ 004	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

液晶テレビ「LED AQUOS」やLED電球などの商品化、青色LEDチップの量産開始、さらには独自技術による使用済みプラスチックの再生利用量累計5,050トンの達成、スーパーグリーンプロダクト・デバイスの5年連続での売上高構成比目標達成、国内外24工場のスーパーグリーンファクトリー達成、シャープグループトータルの温室効果ガス排出量の抑制と廃棄物等排出量の削減、そして「グリーンフロント 堺」における液晶パネル工場と太陽電池工場の稼働などをあげることができます。

「グリーンフロント 堺」から世界の国々へ、 グリーン社会の実現に貢献するモノづくりを進めます

「グリーンフロント 堺」は、来るべきグリーン社会にふさわしいモノづくりをめざし、世界最先端の技術と知見を集約した環境先進ファクトリーです。

シャープは、世界初の第10世代マザーガラスを用いた液晶パネル工場と、最大で1GW/年の生産能力を有する太陽電池工場をここに建設し、前者は2009年10月に、後者は2010年3月にそれぞれ稼働させました。業種を超えて多くの先進企業に参画いただいております、英知を結集して環境負荷の低い画期的な生産システムを構築しています。

また、シャープは「グリーンフロント 堺」で、次の時代に貢献する新たな技術や知見の創出をめざして、大阪府立大学と共同で植物栽培や廃棄物再資源化の研究を開始しました。

シャープはこれまで、液晶パネルや太陽電池の前半工程の工場を国内に建設してきましたが、今後は「グリーンフロント 堺」をマザー工場として、海外の消費地にも現地の有力企業と提携し、工場を建設する考えです。すでに中国では液晶パネル、欧州では太陽電池の生産プロジェクトをスタートさせており、現地の産業の発展に貢献する地産地消のモノづくりをグローバルに展開してまいります。

また、太陽光発電においては、太陽電池の材料やセル・モジュールの生産、システムインテグレーション、さらには独立系発電事業に至るまで、バリューチェーン全体を手掛ける「トータル・ソリューション・カンパニー」をめざします。

太陽の光は地球上に均等に降り注ぎます。いずれの国においても太陽光発電のエネルギーは地産地消が可能です。太陽光発電に適した日射量の多い地域には新興国や発展途上国がたくさんあり、そこにはエネルギーと産業に対するトータル・ソリューションの莫大な需要があります。

経営理念および経営信条「誠意と創意」のもと、 国際社会の一員として、社会的責任を果たしてまいります

リーマンショック以降、国際社会のパワーバランスは大きく変化しつつあります。また、地球環境を保全するグリーン社会への移行も急がれています。

激変する経営環境の中で、シャープは、先述のビジョンを目標に据えて、社会の発展に貢献する事業の推進に注力する一方、国際社会の一員としてグループ全体で社会的責任を果たしてまいります。

コーポレート・ガバナンスやコンプライアンスなどのマネジメント体制の強化とともに、製品安全およびCS(顧客満足)活動、株主への利益還元、人材の育成と職場の安全衛生、社会貢献活動など、ステークホルダーからの期待や要請を踏まえ、グローバルに取り組みを進めています。また、昨年6月に参加した国連グローバル・コンパクトの「人権」「労働基準」「環境」「腐敗防止」に関する10原則を継続して支持し、関連施策を拡充いたします。

シャープはこれからも、経営理念および経営信条「誠意と創意」のもと、「モノづくり」を基盤として、しかるべき社会的責任を果たし、社会から信頼される企業グループとなることをめざします。

今後も企業活動に関する情報の開示に努め、皆さまからの貴重なご意見を経営に反映してまいります。忌憚のないご意見をお待ちしております。

2010年6月

代表取締役会長

岡田 勝彦

代表取締役社長

片山 幹雄

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005・006	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

シャープは、「モノづくり」を通じて社会に貢献します。

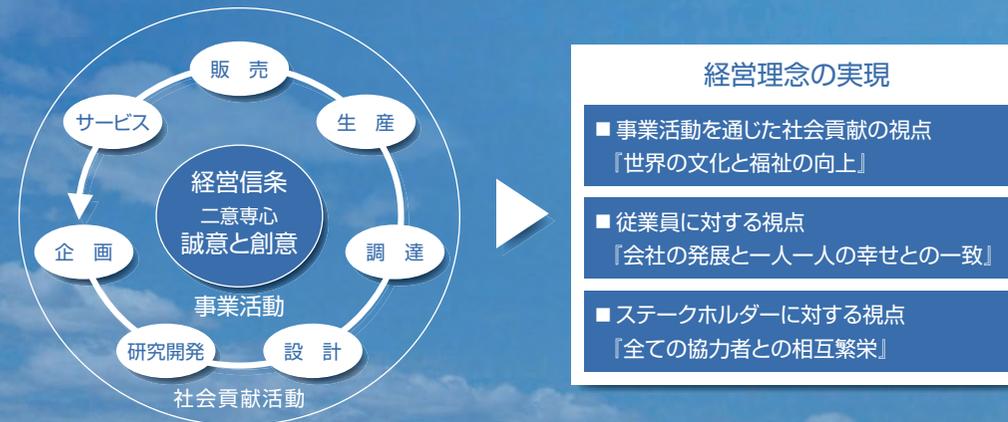
「他社がまねするような商品をつくれ」。シャープの創業者 早川徳次のメッセージには、メーカーとして、次の時代のニーズをいち早くかたちにすることで社会に貢献するという経営の考え方が凝縮されています。歴代の経営者は、それぞれ言葉の表現は違うものの、メーカーとして、モノづくりを通じて社会に貢献し、信頼される企業をめざす経営を実践してきました。

1973年、この創業以来不変の精神を、経営理念・経営信条として明文化しました。シャープがめざす姿である経営理念には、「世界の文化と福祉の向上に貢献する」などの言葉で、社会・ステークホルダーとの共存共栄をめざす、今日のCSR※に通じる思想が明確に盛り込まれています。経営信条には「誠意と創意」を掲げ、経営理念を実現するために全社員が堅持すべき信念として徹底しています。

シャープがCSRへの取り組みを通じてめざすゴールは、事業活動を通じて、また、事業分野を重点とした社会貢献活動により、経営理念を実現することにほかなりません。シャープはこれからも、誠意のある行動・活動をもって、環境・社会をはじめとする分野での社会的責任を果たし、創業以来脈々と流れる創意の遺伝子とともに、オンリーワン商品や新しいライフスタイルを提案し、皆さまから信頼される企業であり続けます。

※ CSR: Corporate Social Responsibility

■すべての事業プロセスで「誠意と創意」をもって業務を行い、経営理念を実現する



- 経営信条はすべての事業活動の中心となる軸。
- 「誠意」とは、すべての周囲の人に、どうすれば本当に役立ち、喜ばれるかを考えて仕事をする事。
- 「創意」とは、現状に満足せず、より高い付加価値を追求し、そのために常に工夫と改善に取り組むこと。

経営理念

いたすらに規模のみを追わず、誠意と独自の技術をもって、
広く世界の文化と福祉の向上に貢献する。
会社に働く人々の能力開発と生活福祉の向上に努め、
会社の発展と一人一人の幸せとの一致をはかる。
株主、取引先をはじめ、全ての協力者との相互繁栄を期す。

経営信条

二意専心
誠意と創意

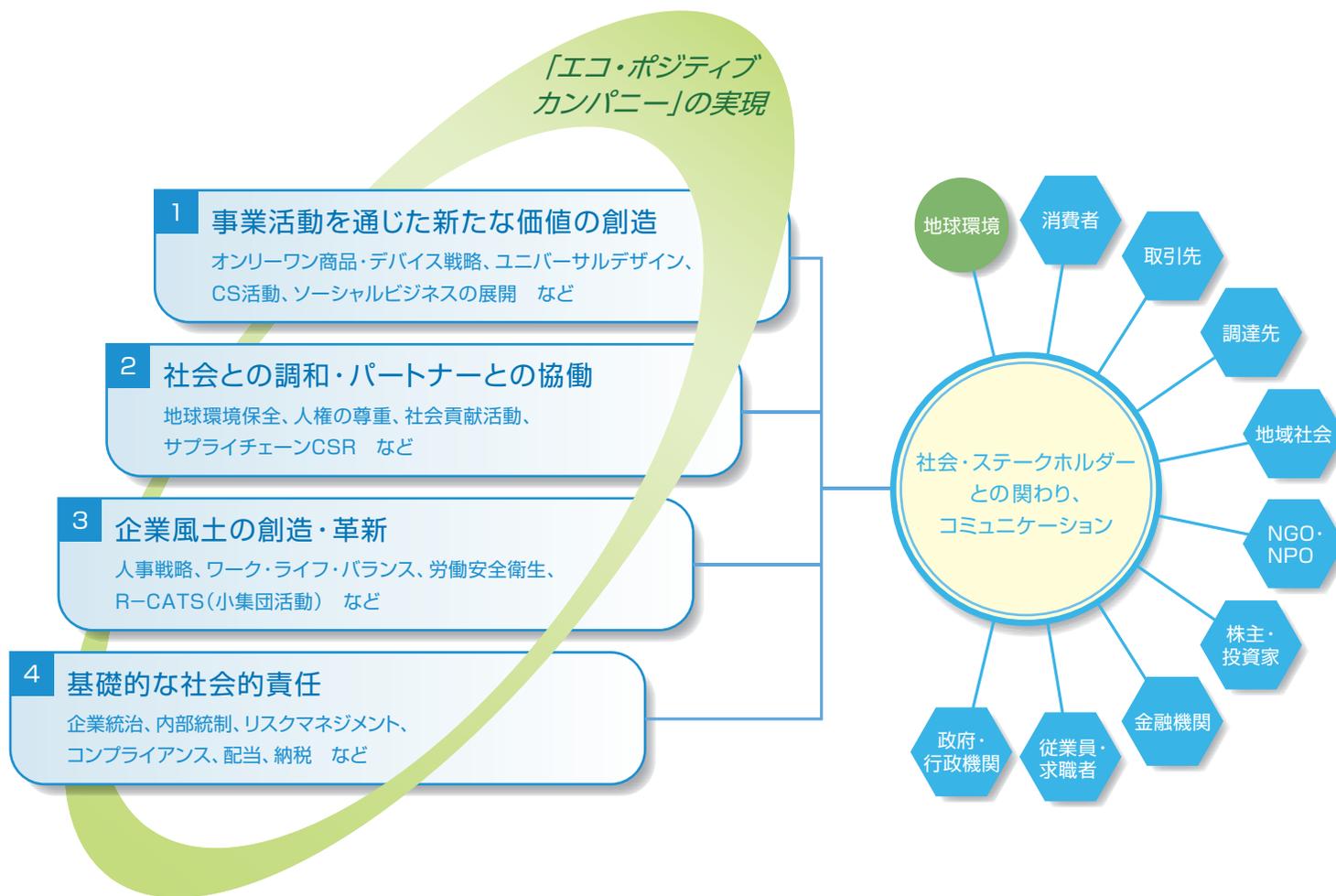
この二意に溢れる仕事こそ、人々に心からの満足と
喜びをもたらす真に社会への貢献となる。

誠意は人の道なり、すべての仕事にまごころを
和は力なり、共に信じて結束を
礼儀は美なり、互いに感謝と尊敬を
創意は進歩なり、常に工夫と改善を
勇気は生き甲斐の源なり、進んで取り組み困難に

CSRの取り組みへのアプローチ

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005・006	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

シャープでは、CSRの取り組みを大きく4つのカテゴリーに分類し、それぞれの取り組みステップとカテゴリーとの相互のバランスを確認し、社会・ステークホルダーとの関わり、コミュニケーションを重視して、推進しています。
そして、それぞれのカテゴリーにおいて、企業ビジョン「エコ・ポジティブ カンパニー」実現に向けて取り組んでいます。



企業ビジョン「エコ・ポジティブ カンパニー」

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

シャープは創業100周年にあたる2012年に向けて、二つの事業ビジョンを掲げています。一つは「省エネ・創エネ機器を核とした環境・健康事業で世界に貢献する」、そしてもう一つは、「オンリーワン液晶ディスプレイでユビキタス社会に貢献する」というものです。いずれも当社が長年にわたり開発に取り組み、磨き上げてきた独自の技術を基盤として、次の時代に貢献しようとするものです。そして、これらの事業ビジョンへの取り組みをはじめとする企業活動全体を通じて、シャープがめざすべき姿、すなわち企業ビジョンを「エコ・ポジティブ カンパニー」と決めました。

「エコ・ポジティブ カンパニー」とは

シャープがめざす「エコ・ポジティブ カンパニー」とは、すべてのステークホルダーとともに、事業活動による環境負荷(ネガティブ・インパクト)を大幅に上回る環境貢献(ポジティブ・インパクト)を果たす企業を意味します。

特に温室効果ガスについては、2012年度までに、シャープの創エネ・省エネ商品をお客さまにお使いいただくことによる削減貢献量が、シャープの事業活動による排出量の2倍以上になるように、太陽電池と省エネ商品の開発と普及を進めるとともに、排出量の抑制に取り組みます。

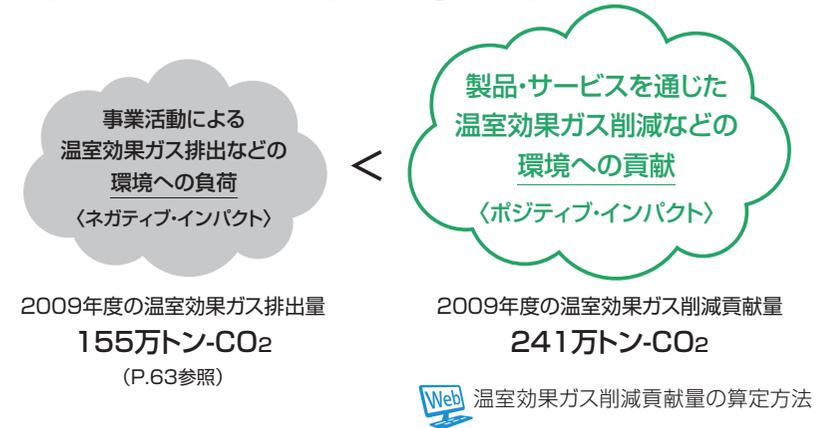
2009年度は、シャープグループの温室効果ガス排出量155万トン-CO₂に対して削減貢献量は241万トン-CO₂に達し、排出量の約1.6倍となりました。

「エコ・ポジティブ戦略」の推進

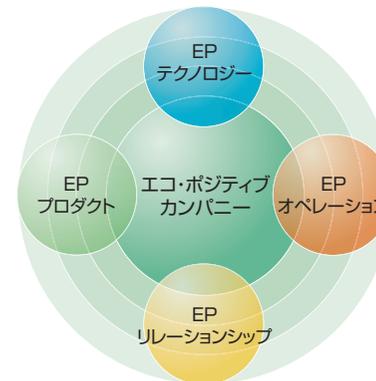
企業ビジョンの実現に向けて、環境戦略「エコ・ポジティブ戦略」を推進しています。

2004~2008年度に展開した「スーパーグリーン戦略」で社内に蓄積してきた環境保全のノウハウをさらに磨き上げながら、すべてのステークホルダーとともに、4つの切り口から新たな取り組みを加え、バリューチェーン全体に展開していきます。

■ 企業ビジョン「エコ・ポジティブ カンパニー」の概念図



■ 「エコ・ポジティブ戦略」の4つの切り口



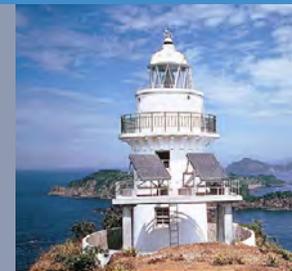
EP: エコ・ポジティブ

- **エコ・ポジティブ テクノロジー**
オンリーワン環境技術を通じた新規事業の創出
- **エコ・ポジティブ プロダクト**
製品・サービスを通じた環境貢献の拡大
- **エコ・ポジティブ オペレーション**
モノづくりにおける環境負荷の低減
- **エコ・ポジティブ リレーションシップ**
社会との関わり合いを通じた企業価値の拡大

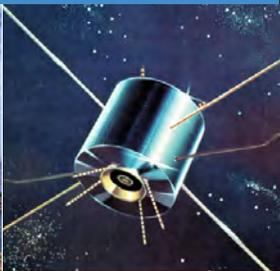
グリーン社会の実現をめざして

シャープは1959年に太陽電池の研究開発をスタートし、4年後の1963年に量産化に成功、その後継続して商品化と用途開発を進めてきました。来るべきグリーン社会に向けて、太陽光発電のトータル・ソリューションに取り組み、世界各地で太陽光発電の普及拡大を進めます。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008 ▼ 011	特集 シャープの太陽光発電への取り組み グリーン社会の実現をめざして
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書



長崎県尾上島灯台の太陽光発電システム (1966年設置当時の写真)
写真提供: 海上保安庁



実用衛星「うめ」 (1976年打ち上げ)
写真提供: 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

Web 「IEEEマイルストーン」認定

太陽電池の取り組みが「IEEE マイルストーン」に認定

シャープの「1959年から1983年にかけての太陽電池の商業化および産業化」が、電気・電子・情報・通信分野における世界最大の学会であるIEEEより、「IEEEマイルストーン」に認定されました。

「IEEEマイルストーン」は、電気・電子・情報・通信分野における技術革新の中で、工学上のユニークなソリューションを構築するとともに、地域社会や産業の発展に貢献し、かつ開発完了から25年以上経過していることが認定の要件となります。

今回の認定は、灯台用・宇宙用から住宅用に至る当社の太陽電池の商業化と産業化への取り組みが高く評価されたものです。2005年の「電卓の先駆的開発(1964年～1973年)」に続いて、当社にとって2度目の認定となり、日本では14件目となります。

〈当社太陽電池の商業化および産業化の歴史 1959年～1983年〉

- 1959年 太陽電池の研究開発に着手
- 1963年 単結晶太陽電池の量産化に成功
- 1966年 長崎県尾上島の灯台に当時世界最大225Wの太陽電池モジュールを設置
- 1967年 宇宙用太陽電池の開発に着手
- 1976年 実用衛星「うめ」へ搭載
(当社は、日本で唯一の宇宙航空研究開発機構(JAXA)認定太陽電池メーカー)
- 1983年 アモルファス太陽電池の開発に着手

太陽光発電で得られるクリーンエネルギーの利用を拡大する技術開発を、大いに期待しています

シャープの太陽電池への取り組みには、いろいろと驚かされました。開発当初の用途といえば、灯台や人工衛星ぐらいですから、とても採算の合う事業ではなかったはずですが、それを粘り強く継続させた。また、宇宙用太陽電池では日本で唯一、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の認定メーカーということにも感じました。さらに、灯台や宇宙での使用ですから、要求される品質や信頼性は極めて厳しいはずで、その対応も並大抵ではなかったものと想像します。

そういった地道な技術開発の蓄積が今日の太陽光発電の発展につながっているわけで、今回の「IEEEマイルストーン」の認定は、まさにそこが評価されたものと言えます。

シャープへの期待として、太陽光で発電した直流の電力を直流のまま家庭で無駄なく利用できる直流・交流配電システムをつくって業界で標準化し、住宅メーカーと連携して是非実現させてほしい。さらには、淡水化や農業といった地球規模の課題に対しても、太陽光発電を応用した技術開発で果敢に挑戦してほしいと思います。



IEEE関西支部理事
大阪大学 名誉教授
工学博士 白川 功 さま

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008 ▼ 011	特集 シャープの太陽光発電への取り組み グリーン社会の実現をめざして
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書



米国・カリフォルニア州 ワイン工場



大阪府・万博記念公園



オランダ・アムステルダム オランダ中央銀行



ドイツ・マインツ サッカースタジアム



英国・オックスフォード 環境庁



ドイツ・バイエルン州ゾネン ソーラー発電所



オーストリア・ザルツブルグ空港



英国・マンチェスター CISタワー

半世紀にわたる研究開発と普及拡大の取り組み

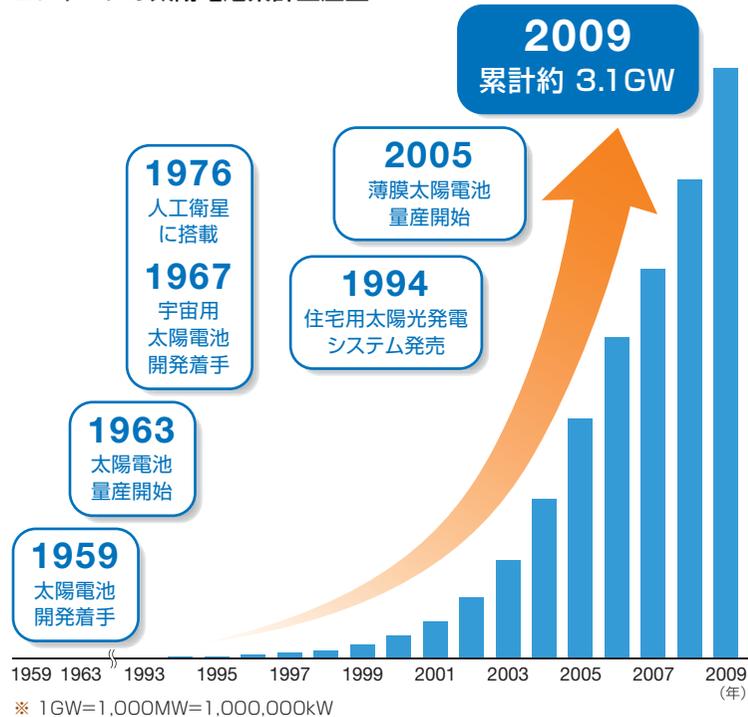
シャープが太陽電池の研究開発をスタートしたのは1959年。クリーンエネルギーの将来性にいち早く着目し、歴代トップの強い意志のもと、約半世紀にわたり、太陽光発電の開発と普及拡大に取り組んできました。

研究着手から4年間の試行錯誤を経て、1963年に量産化に成功しましたが、開発当初はまだコストが高く、主な用途は灯台に代表される電力網の届かない場所での独立型の電力源でした。1966年には、長崎県尾上島に当時世界最大となる225Wの灯台用太陽電池を設置しました。そして、1967年には宇宙用太陽電池の開発に着手し、1976年に実用衛星「うめ」に搭載されました。2010年3月までに、シャープの太陽電池は160基以上の人工衛星と2,500箇所以上の灯台で使われています。

激しい風雨にさらされる灯台や温度差の激しい宇宙という苛酷な環境下で、シャープの太陽電池は貴重なエネルギー源として働き続け、信頼性を実証してきました。そしてその技術は、その後1994年の住宅用システムや2005年の薄膜太陽電池の量産などに幅広く生かされ、世界各地で活躍しています。

半世紀を超える取り組みの結果、2009年末までのシャープの太陽電池累計生産量は3.1GW(ギガワット)*に達しており、これは、IEA(国際エネルギー機関)などのデータから推定する全世界の太陽電池導入量の約1/6に相当します。

■ シャープの太陽電池累計生産量

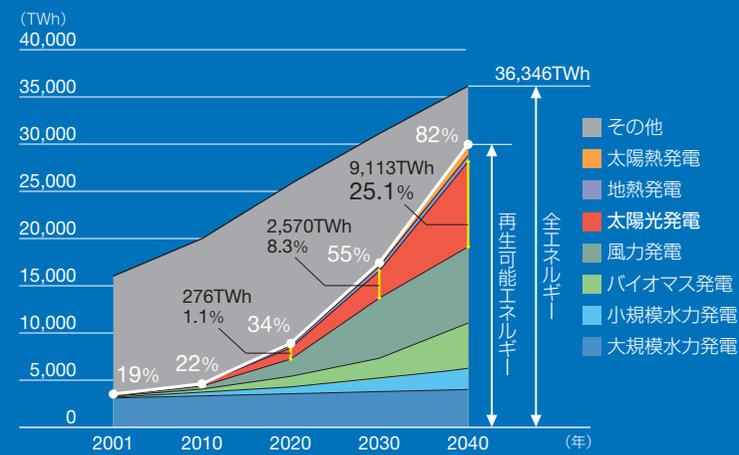


001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008 ▼ 011	特集 シャープの太陽光発電への取り組み グリーン社会の実現をめざして
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書



2010年3月に稼動を開始した「グリーンフロント 堺」の太陽電池工場

■世界の電力需要予測



結晶太陽電池に加えて薄膜太陽電池の開発を強化

シャープはこれまで結晶太陽電池を中心に事業を拡大してきましたが、太陽光発電の可能性を大きく広げる取り組みとして、薄膜太陽電池の性能向上と生産拡大を進めています。薄膜太陽電池は結晶太陽電池と比べて、シリコンの使用量が約100分の1と少なく、また、生産プロセスを短縮でき、生産効率を高めやすいことから、量産により発電コストを低減できるものと期待されています。

2008年10月に葛城工場(奈良県葛城市)の薄膜太陽電池の生産能力を15MW/年から160MW/年に増強したのに続き、2010年3月には「グリーンフロント 堺」(大阪府堺市)で建設を進めてきた太陽電池工場の第1次展開として160MW/年の生産をスタートしました。

結晶太陽電池は変換効率が高く、設置面積が限られる住宅向けなどの用途に適し、薄膜太陽電池は高温域での出力の低下が少ないことから、温暖な地域での大規模発電システムに適しています。

シャープは結晶太陽電池と薄膜太陽電池の両輪体制で、それぞれの特性に合わせて幅広いニーズに対応し、世界規模での普及拡大を進めていきます。

太陽電池のトータル・ソリューション・カンパニーをめざして

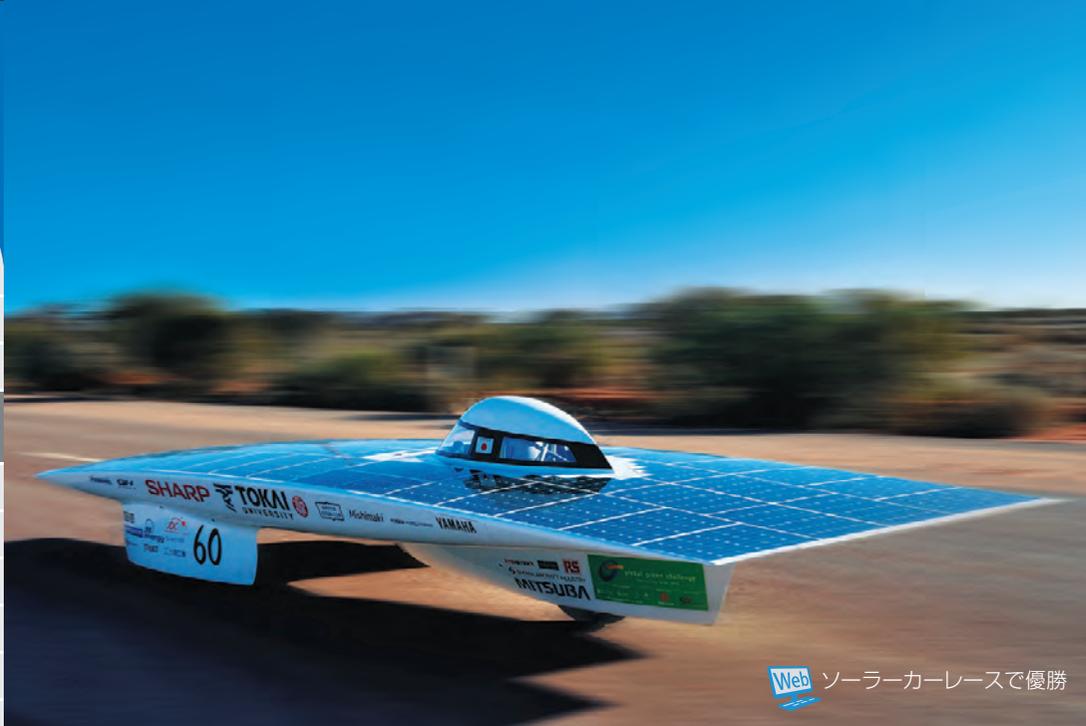
太陽光発電の中長期的な需要動向については、EREC(欧州再生可能エネルギー評議会)などによる「世界の電力需要予測」(上図)で、太陽光発電が2040年には世界の電力需要全体の4分の1を占めると予測されるなど、グローバルに拡大が進むものと期待されています。

近年大幅に拡大した欧州の需要は、金融危機などの影響で一時的に停滞しましたが、大規模発電プロジェクトなどにより、中期的には市場の拡大が続くものと予想されています。米国でもグリーン・ニューディール政策の下で、メガソーラー発電所などの大規模システムの建設が数多く計画されています。

これまでシャープは太陽電池の工場を国内に建設してきましたが、世界各地の旺盛な需要に応えるため、今後は現地企業との提携によって、現地で工場展開を図り、部材の調達から生産、販売といった一連のバリューチェーンを消費地域内で完結させる「地産地消」を進めます。

また、太陽電池の材料やセル・モジュールの生産、システムインテグレーション、さらには独立系発電事業など、太陽光発電のバリューチェーン全体を手掛けるトータル・ソリューション・カンパニーをめざします。

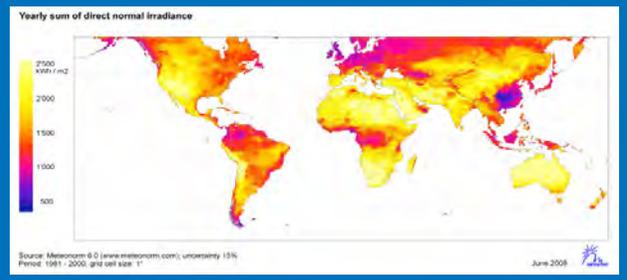
001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008 ▼ 011	特集 シャープの太陽光発電への取り組み グリーン社会の実現をめざして
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書



Web ソーラーカーレースで優勝

■ 世界の日射量

出典: METEONORM



- ▲ 多くの新興国や発展途上国が位置する南半球や赤道付近などは日射量が多く、太陽光発電を導入すれば、膨大な再生可能エネルギーを生み出すことができます。
- ◀ オーストラリア大陸を縦断するソーラーカーレース「グローバル・グリーン・チャレンジ」で、シャープの化合物太陽電池(セル変換効率30%)を搭載した東海大学チームの「Tokai Challenger」が、約3,000kmのコースを平均時速100kmを超えるスピードで駆け抜けて見事優勝!(2009年10月)

グリッドパリティの実現に向けて

シャープは50年以上に及ぶ太陽電池の研究開発の中で、継続してコストダウンに挑戦してきました。具体的には変換効率を高めるための研究開発であり、シリコンの使用量を減らす省資源化設計であり、さらには高効率生産技術の開発です。

これらの取り組みによって、これまでに結晶太陽電池の変換効率は倍以上になり、シリコンの厚さは約半分になり、コストは1/10以下にまで下がりました。また、薄膜太陽電池も、並行して研究開発を進めてきました。

しかしながら、現状ではまだ太陽光発電のコストは他の発電方式に比べて相対的に高く、普及させるためには、「グリッドパリティ」すなわち「既存電力並みの発電コスト」の実現が不可欠です。

今後、世界の国々が経済発展を遂げる上で、限りある化石資源の消費をこれ以上拡大するわけにはいきません。無尽蔵の太陽光から電気を起こす太陽光発電が果たす役割は極めて重要です。

シャープは今後、世界各地で現地の政府や企業と連携して、太陽光発電のバリューチェーン全体を手掛けるトータル・ソリューションを「地産地消」で展開していきます。これにより、「グリッドパリティ」を実現し、太陽光発電の加速度的な普及によって、グリーン社会の実現に貢献する考えです。

2050年に向けて、トリプル50に挑戦します!

EREC(欧州再生可能エネルギー評議会)などによる「世界の電力需要予測」(前頁)によれば、2040年に世界の電力需要全体の4分の1にあたる9,113TWh/年を太陽光発電で賄うとされています。これを実現するためには、9TWの太陽電池が地球上に設置されている必要があり、そのためには、今後毎年前年比109%の新規生産ラインを増設し、そのラインは30年間フル生産し、生産された太陽電池は30年間発電する必要があるということになります。そこには当然技術革新が不可欠となります。

シャープは2050年に向けて、「トリプル50」という目標を掲げています。これは、第1にセル変換効率を50%にまで高める、次に発電寿命を50年に延ばす、そしてモジュールのコストを50円/Wまで低減する、という開発目標です。

いずれも極めて高い目標ですが、達成に向けて、スマートグリッドやホームエネルギー・マネジメントシステムなどの研究開発も含めたトータル・ソリューションを「地産地消」で進める中で、世界各地から英知を集めて研究開発を進めます。



執行役員
ソーラーシステム開発本部
本部長 村松 哲郎

「グリーンフロント 堺」がいよいよ稼動!

省エネの液晶パネルと創エネの太陽電池を量産する、世界最先端の環境先進ファクトリー「グリーンフロント 堺」が稼動を開始しました。「グリーンフロント 堺」には、環境への貢献と、新しいエレクトロニクス社会の実現を両立する、独自の知見が盛り込まれています。



破線部分と屋上のソーラーパネルは最終予想図。グリーンフロントの敷地外は実際とは異なります。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
	クローズアップ
012	「グリーンフロント 堺」がいよいよ稼動!
013	
014	インドネシアにおける環境社会貢献活動
016	生物多様性保全へのハイブリッド型アプローチ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

省エネ・創エネパネルを創出

「グリーンフロント 堺」(大阪府堺市)は、省エネの液晶パネルと創エネの太陽電池を一つのエリアで創り出す、最新鋭の工場です。

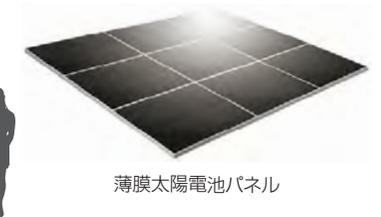
2009年10月に稼動した液晶パネル工場では、世界最大※1の第10世代マザーガラスを採用し、当社独自の「UV²A技術※2」による、省エネ性に優れた40型以上の大型液晶パネルを生産しています。

また、2010年3月に稼動した太陽電池工場では、1,000mm×1,400mmの大型ガラス基板を採用し、シリコンの使用量が結晶太陽電池の約1/100と省資源の薄膜太陽電池を生産しています。 ※1 2009年10月時点。 ※2 P.38参照。



第10世代マザーガラス

グリーンフロント 堺



薄膜太陽電池パネル

「共創」によるエコ&高効率オペレーション

最先端の技術を持つ企業が「グリーンフロント 堺」に集結して、あたかも一つの会社のように連動する「バーチャル・ワン・カンパニー」を形成し、「共創」という発想でエコ&高効率オペレーションを実現しています。

統合エネルギー管理センターでは、グリーンIT・液晶大画面・ブロードバンドなどを駆使し、エネルギー源の「見える化」(使用量予測、危険予知、最適運転など)を実現。「グリーンフロント 堺」全体の省エネ・省力化を図っています。

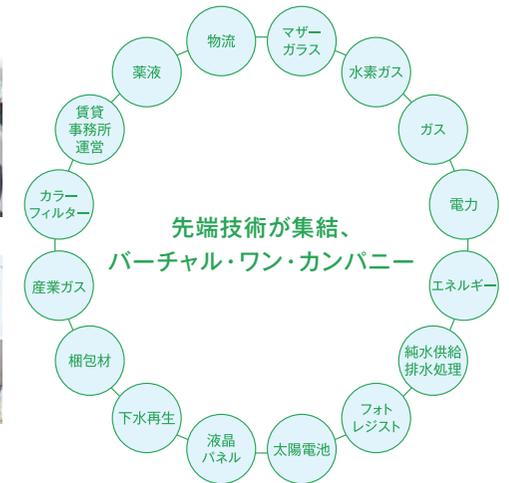
また、各工場を棟間搬送システムで連結。リードタイムの短縮に加え、輸送に伴うCO₂排出を削減し、高効率生産を実現しました。



統合エネルギー管理センター



棟間搬送システム



先端技術が集結、バーチャル・ワン・カンパニー

世界最先端の環境工場

敷地内建物の屋上などを活用して、太陽光発電システムを設置し、工場でする電力の一部として利用する予定です。

また、照明には省エネ・長寿命のLED照明を全面的に採用。その規模は世界最大クラスの約10万台です。屋外にはソーラー・LED照明灯を設置しています。

そのほか、液晶パネルの廃材を活用した透水性ブロックの歩道への採用や電気を使用する低公害車の利用など、先進の環境設備を導入しています。



LED照明を全面的に採用



歩道に採用した透水性ブロック

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
	クローズアップ
012・013	「グリーンフロント 堺」がいよいよ稼動!
014	インドネシアにおける環境社会貢献活動
016	生物多様性保全へのハイブリッド型アプローチ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

社会との共生

「グリーンフロント 堺」は、地域社会との共生をめざしています。環境モデル都市に認定された大阪府堺市と連携し、低炭素都市「クールシティ・堺」の実現に貢献します。

また、公共下水処理水を高度処理し、空調などに有効活用するとともに、下水処理水から回収した熱を空調に活用しています。

さらに、大阪府立大学と共同で、太陽光発電、LED照明などを活用する「植物栽培」と「廃棄物の再資源化」の研究を進めています。そのほか、万一の災害発生時には、隣接する防災拠点に対して、積極的に支援をする計画です。

エコ & 高効率オペレーションで環境先進ファクトリーを実現

「グリーンフロント 堺」は、当社の液晶パネル工場や太陽電池工場を中心に、主要な部材メーカーやユーティリティ会社など総勢19社が集結し、あたかも一つの会社(バーチャル・ワン・カンパニー)のように「エコ&高効率オペレーション」の仕組みを構築しています。

また、地元の大阪府立大学様が設置した「エコロジー研究所」と連携して環境をテーマとする共同研究を進めたり、近隣の下水道局様と連携して公共下水処理水の再利用を進めたりするなど、「環境モデル都市」堺市とともに、「クールシティ・堺」の実現をめざして環境先進ファクトリーの確立に邁進しています。



グリーンフロント堺
企画推進センター
エネルギー管理部
部長 成田 幸喜

グリーン社会の創造をめざして

シャープは、「グリーンフロント 堺」を核に、新しい環境事業を次々に創出していきます。省エネ液晶パネルによる新液晶ディスプレイ、太陽電池応用商品、太陽光発電事業、直流電流の活用によるDCエコハウス、環境と生産性を両立したエコオフィス、トリジェネレーション※などを利用した植物栽培など、環境に配慮した工場と省エネ・創エネのエレクトロニクス技術でグリーン社会の創造をめざします。

※ 太陽光発電の電力、工場から排出されるCO₂と排熱

エコオフィス

太陽電池の設置による発電、省エネ性に優れたLED照明の設置、プラズマクラスターイオン搭載商品の導入、大画面TV会議システムによる業務効率化など、環境と生産性を両立したオフィスを提案します。



新液晶ディスプレイ開発

新液晶ディスプレイの開発により、サインボードを液晶に変えるなど、多彩な活用を可能にします。

太陽光発電事業

クリーンなエネルギーである太陽電池を活用した発電事業にも取り組んでいきます。



スペイン/カナリア諸島
住友商事株式会社様



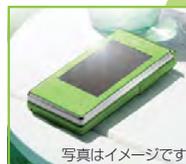
GREEN FRONT

自動車用太陽電池

屋根に取り付けた太陽電池で発電。運転時に使用する電気の一部を賄います。

太陽電池応用商品

太陽電池搭載商品を積極的に創出し、便利で環境負荷の少ないライフスタイルを実現します。



写真はイメージです

DC(直流)エコハウス

太陽光発電で生まれた直流電流をそのまま無駄なく活用できる、直流で動く家電製品を創出していきます。



写真はイメージです

トリジェネレーションなどを利用した植物栽培

太陽光発電の電力と工場から排出されるCO₂および排熱を植物栽培に有効利用。加えて、LED照明やプラズマクラスターイオンを活用し、新たな農業の可能性を大きく広げていきます。

インドネシアにおける環境社会貢献活動

インドネシアにおけるシャープの家電製品生産・販売会社SEIDと電子部品生産会社SSIは、環境への取り組みを経営における重要課題の一つとして位置付け、幅広い活動を進めています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
	クローズアップ
012	「グリーンフロント 堺」がいよいよ稼動!
014	インドネシアにおける環境社会貢献活動
015	
016	生物多様性保全へのハイブリッド型アプローチ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

インドネシアとシャープ

シャープは、インドネシアにおいて、現在のSEID※1の前身となる生産工場を1970年に設立していましたが、1994年にテレビや冷蔵庫、オーディオ機器の生産・販売会社としてSEIDを、続いて1995年にはICやオプトデバイスなどの電子部品の生産会社としてSSI※2を設立しました。40年あまりの事業活動を通して、地域に根ざした企業として受け入れていただき、現在では、SHARPはインドネシアの人々の間に、テレビや冷蔵庫をはじめとする白物家電などの身近なブランドとして浸透しています。

インドネシアの生産工場における環境取り組み

1万7千を超える島々で構成されるインドネシアは、多様な生物が生息し、豊かな自然に恵まれています。しかし近年、熱帯雨林の減少や都市部における大気汚染や水質汚濁などの環境問題が発生しており、喫緊の課題とされています。

そうした背景のもと、SEIDとSSIは環境取り組みを経営における重要課題の一つに位置付けており、ISO14001をSSIは2000年に、SEIDは2004年に取得し、工場の環境負荷削減をはじめ、環境社会貢献活動など、それぞれの特性に応じた取り組みを積極的に推進しています。

※1 PT. Sharp Electronics Indonesia
 ※2 PT. Sharp Semiconductor Indonesia



学生から環境への取り組みや製品に関するアイデアを募集し、優秀なアイデアを表彰する「シャープ・環境アイデア・アワード」を開催(SEID)

SEIDとSSIの環境社会貢献活動



熱帯雨林の保全活動として、NGOの89.2FMグリーン・ラジオと協力し、グマン・ゲデ・パンランゴ国立公園で植林活動を実施(SEID)



世界自然保護基金(WWF)主催の「アース・アワー 2010」にインドネシアでの公式スポンサーとして協賛(SEID)



バリやマナド、プラムカ島の海でサンゴ礁の植え付けを実施(SEID)



地元の小学校で環境授業と清掃活動を実施(SSI)



地元カラワン県のビーチで1,000本のマングローブを植樹(SSI)

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
	クローズアップ
012	「グリーンフロント 堺」がいよいよ稼動!
014	インドネシアにおける環境社会貢献活動
015	
016	生物多様性保全へのハイブリッド型アプローチ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

SEIDの「エコ・グリーナー」の取り組み

SEIDでは、「エコ・グリーナー」をキャッチフレーズに、事業活動と社会貢献活動を通じた環境取り組みを推進しています。太陽光発電システムの利用や紙のリサイクル、工場やオフィスで使用する水をバイオ処理タンクに集めて浄化し、ガーデニング用水として再利用するなど、工場の環境負荷低減を図るとともに、全国各地での環境イベントの開催や省エネ商品の展示紹介、社会貢献活動など、NGOやジャーナリスト、一般の方々とともに幅広い活動を展開しています。



太陽電池で発電した電気を照明に利用するビルボードをジャカルタ市街とパリに設置



アジア地域最大級の国際環境展示会「第6回エコプロダクツ国際展」で太陽電池や省エネ商品を紹介

環境と社会への貢献をめざして

事業の成長に、環境保全は欠かせません。SEIDは、環境と社会への貢献を約束し、工場の環境負荷低減と環境社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。特に環境社会貢献活動については、NGOなどと連携し、熱帯雨林やサンゴ礁の保全、学生を対象にした環境アイデア・アワードなど、創意工夫を凝らして、さまざまな活動を実施しています。



SEIDが社会全体に、より親しみを持って受け入れていただけるように、これからも「エコ・ポジティブ カンパニー」をめざして、環境保全への取り組みを鋭意推進いたします。

SEIDの入江社長(後列左から3人目)、北川取締役(同4人目)、橋本取締役(同2人目)と環境・CSR担当チーム

SSIが2009年度にスーパーグリーンファクトリーを達成

SSIでは、環境マネジメントシステムのもと、工場の環境負荷低減と従業員の環境意識向上に注力しています。工場においては、空調設備の省エネや空調用水のリサイクル、物流におけるトラックのスケジュール管理の徹底などを推進しています。従業員に対しては、定期的な環境教育をはじめ、「エコデー」や「環境週間」の実施、社会貢献活動などを通して、環境意識の向上を図っています。このような取り組みの結果、2009年度にスーパーグリーンファクトリー(SGF)※を達成しました。



クーリングタワー用水のリサイクル設備を設置するなど、工場の環境負荷を低減



「エコデー」を週に一度、「環境週間」を半年に一度実施し、従業員の環境意識づくりを推進

※ シャープ独自の認定制度に基づく。詳細はP.57参照。

「エコ・ポジティブ ピープル」の拡大をめざして

SSIは1996年の操業以来、環境マネジメントに注力してきましたが、このたび、念願叶ってSGFを達成することができました。事業活動における環境負荷低減はもちろんのこと、環境社会貢献活動を通して、特に従業員やその家族、学生や地域住民の皆さまへの環境保全に対する意識付けにも注力してきました。

今後も「エコ・ポジティブ カンパニー」をめざし、一層の研鑽に励むとともに、



インドネシアで「エコ・ポジティブ ピープル」の輪を拡大すべく、全社一丸となり取り組んでいきます。

SSIの黒田社長(後列左から3人目)、村上取締役(同2人目)と環境担当チーム

生物多様性保全へのハイブリッド型アプローチ

「シャープグループ生物多様性の保全と持続可能な利用に関する方針」のもと、事業活動に社会貢献活動を加えたハイブリッド型アプローチで、生物多様性保全に貢献する取り組みをグローバルに推進しています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
	クローズアップ
012	「グリーンフロント 堺」がいよいよ稼動!
014	インドネシアにおける環境社会貢献活動
016	生物多様性保全へのハイブリッド型アプローチ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

事業活動と社会貢献活動を通じて 生物多様性保全に貢献する取り組みを推進

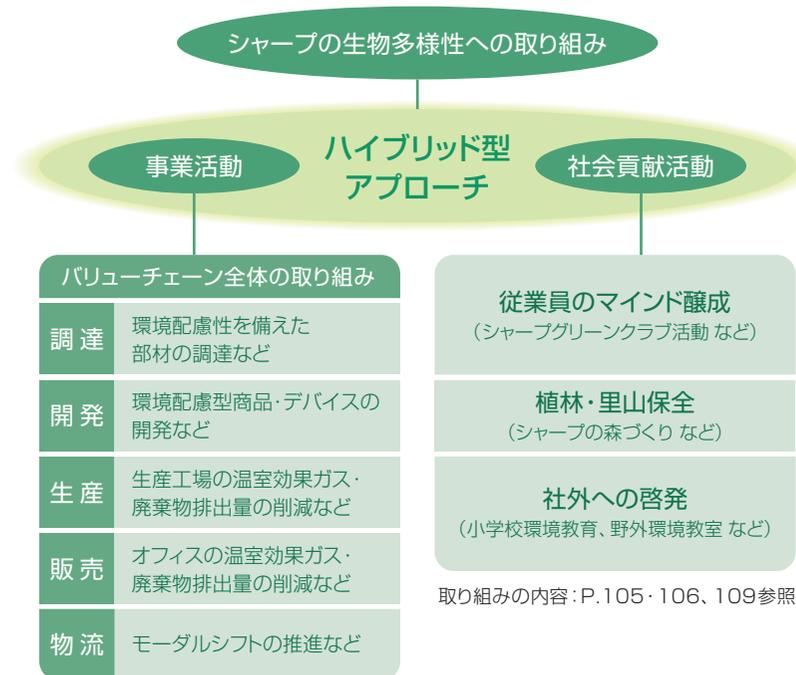
生物多様性とは、地球上にさまざまな生態系、数多くの生物種、多様な遺伝子が存在することを意味します。近年、地球環境の悪化に伴って生物種の絶滅速度が増しており、生態系への影響が懸念されています。企業は、さまざまな場面で生物多様性に影響を与えたり、その恩恵を受けたりしており、企業活動全般を通じて、生物多様性の保全と持続可能な利用に留意する必要があります。

シャープは、「シャープグループ生物多様性の保全と持続可能な利用に関する方針」に基づいて、具体的な推進施策をまとめた「シャープ生物多様性イニシアチブ」を2009年11月に策定し、事業活動と社会貢献活動の両面から、生物多様性の保全と持続可能な利用をグループをあげて推進しています。

事業活動を通じた取り組みでは、バリューチェーンのステージごとに具体的な取り組み内容を明確化し、事業活動に伴う生物多様性への影響の低減に取り組んでいます。また、社会貢献活動での取り組みとしては、地域の暮らしや風土に根ざした適切な活動を継続的に推進しています。

さらに、独自の「生物多様性チェックシート」を作成して国内外のシャープグループ全拠点に配布し、現行の各種環境取り組みと生物多様性保全との関わりを解説するとともに、取り組みの進捗を定期的に確認しています。今後、評価基準に沿って拠点ごとに取り組みの進捗状況を定量化し、評価することで、グループ全体の取り組みを強化していきます。

 シャープグループ生物多様性の保全と持続可能な利用に関する方針



取り組みの内容:P.29~79参照

取り組みの内容:P.105・106、109参照

生物多様性保全の取り組みを世界同時に進めています

これまでほとんどの環境施策は、まず国内で導入し、実績をつくった上で海外に展開するというステップをとっていました。しかし、生物多様性保全への取り組みについては、英国やアジアの生産工場が早くから積極的に取り組んでいたこともあり、国内外の拠点で一斉にスタートしました。今後も国内外の担当者の意見を取り入れながら、グローバルに取り組みを進めます。



環境安全本部 環境企画推進部
主事 三浦 絵美 係長 石田 孝宏

マネジメントの目標と実績

シャープは、人々から、社会から、信頼される企業であり続けるために、事業活動の基盤となるマネジメントにおいて重点取り組みテーマを設定し、それらの活動結果を検証・評価しながら、継続的な改善に取り組んでいます。

2009年度の取り組み実績に関する総括

2009年度は、株主・投資家をはじめとするステークホルダーからのコーポレート・ガバナンス／内部統制の強化に対する要請の高まりを踏まえ、社外取締役の選任や内部統制システムの定着化に取り組めました。

また、シャープのCSR推進における行動の指針である「シャープグループ企業行動憲章」・「シャープ行動規範」の再改定を行うとともに、事業活動を推進する上でCSRの基礎となるコンプライアンスについては、グローバルな

推進体制の構築や施策の展開・推進および競争法遵守の徹底などに継続的に取り組みました。

さらに、大地震や新型インフルエンザ発生時の事業継続対策の整備・拡充、情報セキュリティ、個人情報保護、知的財産権保護など、マネジメント関連個別分野においても、継続的な改善取り組みを推進しました。

自己評価 ◎：目標を上回る成果があった ○：ほぼ目標を達成 △：一定の成果があった

重点取り組みテーマ	2009年度の取り組み	自己評価	2010年度の取り組み(目標)	掲載ページ
コーポレート・ガバナンスの充実	目標 (コーポレート・ガバナンス)経営の透明性、客観性、健全性のさらなる向上 実績 ●社外取締役1名を選任(6月)	○	●(コーポレート・ガバナンス)監督および重要な意思決定を行う機能と、業務執行を行う機能の一層明確な分離	18・19 および Web 掲載情報
内部統制システムの整備・運用・評価	目標 内部統制システムの定着化 実績 ●社内外の環境変化に対応し「内部統制の基本方針」を改定(8月) ●内部統制システム関連各種施策の見直しと継続的な運用を実施 ●内部統制報告書を提出し、内部統制システムの整備・運用状況に関する情報開示を実施(6月)	○	●内部統制システムの深化と継続的な整備・運用・評価 ●内部統制システム関連各種施策の継続的な運用 ●金融商品取引法に基づく内部統制報告制度に従い、内部統制有効性評価の実施と、内部統制システムの整備	19 および Web 掲載情報
CSR推進に関する制度等の見直し	目標 「シャープグループ企業行動憲章」「シャープ行動規範」の見直し 実績 ●「シャープグループ企業行動憲章」「シャープ行動規範」を再改定(2010年4月)	○	●「憲章・規範」改定内容の徹底・浸透	20 および Web 掲載情報
ビジネスリスクマネジメントの強化	目標 BCM(事業継続マネジメント)システムの拡充 実績 ●大地震発生を想定した国内生産拠点BCP(事業継続計画)の見直し・拡充 ●新型インフルエンザ発生を想定した国内生産拠点BCPを整備	○	●BCMシステムの継続的な拡充 ●国内関係会社等における、大地震・新型インフルエンザ発生を想定したBCP見直し・整備 ●海外主要生産拠点のBCP整備・レベルアップ	21
コンプライアンスの実践	目標 コンプライアンス推進施策の拡充 実績 ●国内全従業員に対し、「シャープグループ・コンプライアンス・ガイドブック」に基づく研修、eラーニングによる競争法研修を実施 ●海外4地域へ法務担当者を配置し、各地域のコンプライアンス体制整備、研修等を実施 ●各事業本部等に対し、競争法に関する監査・指導を実施	○	●コンプライアンス推進施策の継続的な実施 ●国内全従業員に対するコンプライアンス研修(階層別研修、eラーニング等)の実施 ●海外各拠点でのコンプライアンス研修の継続実施 ●競争法遵守に関するモニタリング・指導の継続実施 ●外国公務員への贈賄防止ガイドブックの作成と徹底	24 } 26
秘密保持・情報セキュリティ対策の強化	目標 海外拠点における情報セキュリティ推進方法の充実 実績 ●海外各地域で自律的な情報セキュリティマネジメントサイクルを確立	○	●秘密保持・情報セキュリティ対策セルフチェックの内容を見直し、国内外での継続実施	27
個人情報保護体制の強化	目標 個人情報保護推進施策の継続的な実施 実績 ●個人情報保護に関する内部監査を実施 ●従業員などに対する個人情報保護に関する教育・啓発施策を実施	○	●個人情報保護施策の継続的な実施 ●個人情報保護に関する内部監査の実施 ●従業員などに対する個人情報保護に関する教育・啓発施策の継続実施	28

コーポレート・ガバナンス／内部統制

当社は、執行役員制度の導入や社外取締役の選任、監査役会と連携する組織として経営の監視・牽制を行う総合監査室の設置など、監査役設置会社として取締役・監査役制度を強化しながら経営の質を高めています。

また、内部統制システムの継続的な整備により、グループ全体の業務の適正を確保する仕組みの充実を図っています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
	マネジメント
017	マネジメントの目標と実績
018・019	コーポレート・ガバナンス／内部統制
020	CSR推進体制／リスク管理
024	コンプライアンス
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> ●(コーポレート・ガバナンス)経営の透明性、客観性、健全性のさらなる向上 ●内部統制システムの定着化 	<ul style="list-style-type: none"> ●社外取締役1名を選任(6月) ●社内外の環境変化に対応し「内部統制の基本方針」を改定(8月) ●内部統制システム関連各種施策の見直しと継続的な運用を実施 ●内部統制報告書を提出し、内部統制システムの整備・運用状況に関する情報開示を実施(6月) 	<ul style="list-style-type: none"> ●(コーポレート・ガバナンス)経営の透明性、客観性、健全性のさらなる向上 ●監督および重要な意思決定を行う機能と、業務執行を行う機能の一層明確な分離 ●内部統制システムの深化と継続的な整備・運用・評価 ●内部統制システム関連各種施策の継続的な運用 ●金融商品取引法に基づく内部統制報告制度に従い、内部統制有効性評価の実施と、内部統制システムの整備

コーポレート・ガバナンスに関する考え方

多くの製品分野において、開発・生産・販売まで一貫して行うシャープは、それぞれの部門の役割が明確であり、かつ相互の関連も密接という特長があります。したがって、迅速な意思決定や業務執行のためには、各部門を掌握する取締役が、モノづくりの現場と一体となって経営していく体制が必要です。こうした考えから、当社は、監査役設置会社として、取締役・監査役制度を強化しながら、経営の質を高めています。

当社は、意思決定／監督機能の強化と業務執行機能の双方を満たすガバナンス体制の強化を推進しています。

2008年6月には経営の意思決定と業務執行のそれぞれに力を注ぎ、かつ効率的で迅速な企業運営を図っていくために、執行役員制度を導入しました。また、各界の有識者の意見を経営に生かすべく2006年より設置していた「アドバイザリーボード」を発展的に解消し、経営の透明性、客観性、健全性をさらに高めることをめざして、2009年6月に、新たに社外取締役を選任しました。

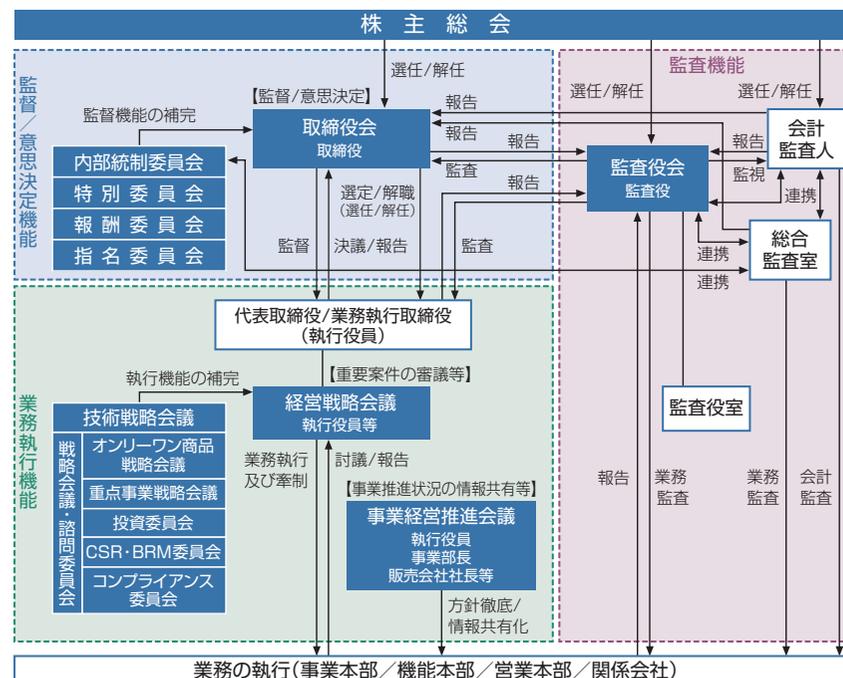
2010年4月には、執行役員制度をより円滑に運営するため、監督および重要な意思決定を行う機能と、業務執行を行う機能をより明確に分離し、それぞれの役割に重点を置いた経営活動を迅速に行う新たなガバナンス体制に刷新しました。

監査役については、現在4名のうち3名を社外監査役としており、また、経営への監視・牽制機能強化のため、監査役会と連携する組織として総合監査室を設置しています。

今後も、取締役・監査役・執行役員制度を一層強化しながらコーポレート・ガバナンスの充実に取り組みます。

 [コーポレートガバナンス報告書](#)

■コーポレート・ガバナンス体制図



001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
	マネジメント
017	マネジメントの目標と実績
018・019	コーポレート・ガバナンス／内部統制
020	CSR推進体制／リスク管理
024	コンプライアンス
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

コーポレート・ガバナンス体制の状況

取締役会は、法令で定められた事項や経営に関する重要項目を決定するとともに、業務執行の状況を監督しており、原則毎月開催しています。また、経営の機動性および柔軟性の向上と、事業年度ごとの経営責任の明確化を図るため、取締役任期を1年にしています。

取締役会のほかに、全社的な経営および業務運営に関する重要な事項について討議・報告する機関として経営戦略会議を設置しており、原則月2回開催し、経営の迅速な意思決定を行っています。また、事業経営推進会議を原則月1回開催し、各事業責任者への会社・経営方針の徹底や情報の共有化を図っています。

監査役会は、監査方針の決定、会計監査人からの報告聴取、取締役などからの職務執行状況の報告聴取を行うとともに、重要会議の審議状況や、監査(往査)結果などについて監査役相互に意見・情報交換を行い、監査の実効性の確保に努めています。

取締役の選任・報酬・評価の仕組み

当社は、株主から経営を託される取締役の選任や報酬決定についての公正さや透明性を高めていくために、取締役会の監督機能を補完する内部統制委員会や特別委員会、指名委員会、報酬委員会を設けています。

取締役候補者の推薦は指名委員会で行います。指名委員会には、社外取締役も参加して候補者を決定します。また、各取締役の月額報酬、賞与については、株主総会の決議で定められた報酬総額の上限の範囲内としており、社外取締役を含む報酬委員会において、業績、貢献度などの評価基準を定め公正に決定します。

内部統制システムの整備

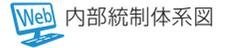
シャープは、「会社法」および「金融商品取引法」を踏まえ、グループ全体の業務の適正を確保するため、内部統制システムを整備しています。

2006年5月に「業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)の整備に関する基本方針」を取締役会で決議するとともに、取締役会の監督機能を補完する諮問機関として「内部統制委員会」を設置し、四半期ごとに内部統制システム関連諸施策の審議、運用状況の確認などを行っています。

「業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)の整備に関する基本方針」は社内外の環境変化に対応し、都度、内容の見直し・改定を行っ

ています。この基本方針に則って、各本部・国内外子会社では業務プロセスを文書化し、それらが適切に整備・運用され内部統制が有効に機能しているか否かを自己点検しています。

また、内部監査部門である総合監査室は、独立的な立場からこれらの業務プロセスや全社的な統制環境の整備・運用状況などを監査しています。



社外取締役からのメッセージ

企業経営の大原則は企業価値を最大化することにあります。しかし、その実現は並大抵ではなく、幾多の戦略的オプションと困難が待ち受けています。今日の経営は従来と比べてはるかに複雑化・高度化しており、「変数」が幾重にも織り込まれています。従って、そうした各変数を経営環境に照らして、最適な事業活動を実施する「執行力」が大事であることは言うまでもありません。と同時に、そうした変数のバランスをとりながら、全体最適な経営を行っていく「経営力」もより一層重要になっています。

これからの経営は、ますます各事業の「部分強化」と「全体最適」を、いかに同時に実現するかで競争力に大きな差がつくことでしょう。

こうした同時実現を達成する骨太の戦略は、幅広いステークホルダーの支持・理解を得て「シャープ・ブランド」をより一層輝かせ、ブランド価値をできる限り高めることだと思います。ブランドを高めることによって、「スパイラルアップ」経営を行うことが可能となり、中長期的な会社の企業価値の向上につながります。

こうした経営を実現するに当たって、社外取締役として微力ながら貢献することができれば幸いです。



社外取締役
伊藤 邦雄

<略歴>

- 1992年 4月 一橋大学商学部教授
- 2002年 8月 同大学大学院商学研究科長
商学部長
- 2004年12月 同大学副学長・理事
- 2006年12月 一橋大学大学院商学研究科教授
(現在に至る)
- 2009年 6月 当社取締役(現在に至る)

CSR推進体制／リスク管理

「CSR・BRM委員会」などの社内体制の整備、「シャープグループ企業行動憲章」「シャープ行動規範」の制定、「国連グローバル・コンパクト」への参加などにより、CSRの取り組みを推進しています。また、大規模災害や新型インフルエンザ対策などのビジネス・リスク・マネジメントについても、継続的な改善取り組みを進めています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
	マネジメント
017	マネジメントの目標と実績
018	コーポレート・ガバナンス／内部統制
020 ▼ 023	CSR推進体制／リスク管理
024	コンプライアンス
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> 「シャープグループ企業行動憲章」「シャープ行動規範」の見直し BCM(事業継続マネジメント)システムの拡充 	<ul style="list-style-type: none"> 「シャープグループ企業行動憲章」「シャープ行動規範」を再改定(2010年4月) 大地震発生を想定した国内生産拠点BCP(事業継続計画)の見直し・拡充 新型インフルエンザ発生を想定した国内生産拠点BCPを整備 	<ul style="list-style-type: none"> 「憲章・規範」改定内容の徹底・浸透 BCMシステムの継続的な拡充 国内関係会社等における大地震・新型インフルエンザ発生を想定したBCP見直し・整備 海外主要生産拠点のBCP整備・レベルアップ

CSR推進体制

CSRに関する全社方針・施策・推進状況などについては、経営管理担当副社長と全事業本部長、全機能本部長等が参加する「CSR・BRM※委員会」を年2回開催して確認・審議しています。当委員会は当社の執行機能を補完する委員会として位置付けられています。

また、全社CSR方針・施策の企画推進主管部門としてCSR推進本部を設置しています。

※ BRM:ビジネス・リスク・マネジメント

「シャープグループ企業行動憲章」「シャープ行動規範」

シャープのCSRの原点である「経営理念」「経営信条」を実現し、企業の社会的責任を果たすために、グループ企業の行動原則として「シャープグループ企業行動憲章」を、また全役員・従業員の行動規準として「シャープ行動規範」を制定しています。

これらは、世界各国のグループ会社に適用する共通の基準です。

また、この憲章・規範は、社会・ステークホルダーが企業に期待する内容の変遷や法令等の改正・新設など経営環境の変化を踏まえて、定期的に見直しを行っており、2010年4月に再改定を行いました。

 シャープグループ企業行動憲章、シャープ行動規範

国連グローバル・コンパクト

シャープでは、2009年6月に参加した「国連グローバル・コンパクト」の10原則の人権、労働基準、環境、腐敗防止の各分野において、具体的な取り組み目標を設定して、グループ全体で推進に取り組んでいます。



グローバル・コンパクト10原則	関連ページ
【人権】 企業は、 原則1： 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、 原則2： 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。	4・81・91・92・96・101～103
【労働基準】 企業は、 原則3： 組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、 原則4： あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、 原則5： 児童労働の実効的な廃止を支持し、 原則6： 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。	4・81・91・92・96～101
【環境】 企業は、 原則7： 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、 原則8： 環境に関する大きな責任を率先して引き受け、 原則9： 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。	4・8～16・29～79
【腐敗防止】 企業は、 原則10： 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。	4・17・25・26

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
	マネジメント
017	マネジメントの目標と実績
018	コーポレート・ガバナンス／内部統制
020 ▼ 023	CSR推進体制／リスク管理
024	コンプライアンス
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

CSRとBRMの活動を一体化して推進

シャープは、事業環境の変化に機敏に対応しながらコンプライアンス違反や損失発生等のリスクをコントロールし、最適化していくBRM(ビジネス・リスク・マネジメント)を、社会的責任を果たすうえでの最重要活動の一つと位置付け、CSRとBRMの活動を一体化して推進しています。

「CSR・BRM委員会」(P.20)において、重要リスクの定期的な見直し、および、全社的な施策などについて審議するとともに、各事業本部・機能本部はそれぞれの事業・ミッションに関わるリスクの未然防止・影響度低減のための対策を計画的に推進しています。

BRMの推進

①「ビジネスリスクマネジメント要綱」に基づいたリスク管理

シャープでは、全社BRM推進の基本方針として「ビジネスリスクマネジメント要綱」を定め、リスク管理活動を推進しています。

要綱では、シャープの事業活動に関して発生が予想されるビジネスリスクを洗い出し、その中から特に経営への影響が大きいと考えられる100項目以上のリスクを、「特定リスク」として分類しています。さらに、各「特定リスク」の最小化・適正化の方法や未然防止を図るための教育訓練などについて体系化した「特定リスク管理マニュアル」を作成・整備しています。

また、万一リスク事案が発生した場合の対応に関するルールとして「緊急時対応要綱」を定め、緊急事態発生時の迅速な行動により、自社のみならず社会に対する損失の最小化と被害の拡大防止を図るとともに、ステークホルダーなど広く社会に対して迅速かつ適切な情報開示を実践するための実施事項を規定しています。

これらの要綱・マニュアルは、新たな「特定リスク」と対策を追加するなど、常に社会の変化に対応したものに適宜見直しています。

②重点リスク管理手法

「特定リスク」の中でも、特に「影響度」と「発生確率」が高いものを「重点管理リスク」として選定し、各本部で徹底管理しています。

各本部では、半年ごとに、「重点管理リスク」の影響度および発生確率を低減するための具体的施策を立案・推進し、実施結果を検証しています。

また、全社会議での社内リスク事案の発生事例報告などを通じて各本部のBRM取り組みについて共有化を図り、次期の「重点管理リスク」の

選定と施策立案に反映しています。

この取り組みをPDCAサイクルで推進し、継続的なマネジメントシステムとして運用するとともに、リスクの最小化・適正化施策のさらなるレベルアップを図っています。

③BCMとBCPの整備・拡充

シャープは、大規模災害発生時に従業員・家族の安全を確保し、重要業務の早期復旧を実現するためのBCM(事業継続マネジメント)を経営上の重要課題と位置付け、大地震などを想定したBCP(事業継続計画)を整備し、継続的に見直し・改善に取り組んでいます。

2009年度は、国内各生産事業所において、大地震発生を想定したBCPの再評価・見直しを実施するとともに、強毒性の新型インフルエンザ発生も想定したBCPの整備に取り組みました。また、サプライチェーンでのBCP整備をめざし、国内主要取引先さま(サプライヤー)へのBCP整備状況調査を実施しました。

2010年度は、国内では、生産事業所でのBCPの継続的な見直しを行うとともに関係会社等のBCP見直し・整備を進めます。また、海外の主要拠点のBCP整備・レベルアップに取り組めます。

TOPICS

新型インフルエンザ対策の推進

2009年4月に発生した豚由来新型インフルエンザA(H1N1)は、「弱毒性」のウィルスながら、世界中で猛威を振るい、多くの感染者が発生する事態となりました。

シャープでは、WHO(世界保健機関)や各国政府による指針などを踏まえて、「強毒性」となることが懸念されている「鳥インフルエンザ(H5N1)」由来の新型インフルエンザ発生を念頭に「新型インフルエンザ対策行動計画」を策定し、国内外で各種の対策・準備を進めてきました。しかし、今回発生した新型インフルエンザウィルスが「弱毒性」であったことを機に、行動計画・各種対策の弾力的な運用が必要と考え、ウィルスの毒性レベルに応じた対策シナリオを設定のうえ、当社の各事業所・拠点がそれぞれの状況に適した、衛生・健康管理や入門管理の強化などの対策を実施しました。また、シャープ独特の施策として、空中除菌機能を搭載したプラスマクラスターイオン発生機の社内設置(国内外で約10,000台)を行いました。

このような取り組みのもと、シャープにおいては、新型インフルエンザの従業員への集団感染や、事業への大きな影響が懸念される事態は発生していません。

今後もインフルエンザA(H1N1)の再流行や強毒性の新型インフルエンザの発生に迅速な対応ができるよう、継続的な新型インフルエンザ対策体制の維持・整備に取り組めます。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
	マネジメント
017	マネジメントの目標と実績
018	コーポレート・ガバナンス／内部統制
020 ▼ 023	CSR推進体制／リスク管理
024	コンプライアンス
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

取り組み事例 国内での取り組み

国内営業におけるCSR推進の取り組み

国内営業本部では、「お客さま第一主義」・「コンプライアンス第一主義」を基本姿勢に、CSRを重視した営業活動を推進しています。

全国の各営業・サービス拠点では、「地域社会における企業の社会的な役割」を果たすため、営業サービス活動や下記活動による全社員のCSR意識のさらなる高揚を通じて「より地域社会に根ざした拠点」をめざし、地域社会に役立つ取り組みの強化を図っています。

お取引先さまに対しても、当社CSR活動へのご理解を深めていただくとともに、「省エネ型製品普及推進優良店」認定の取得を支援させていただく(詳細P.93参照)など、ともにCSRに取り組むパートナーシップの構築をめざしています。

推進組織／CSRの「PDCAサイクル」構築

国内営業本部内にCSR推進室を設置し、営業・サービスの現場におけるコンプライアンスをはじめ、より実践的で幅広い施策・活動を企画・推進しています。当部門では、これまでに各営業・サービス拠点に定着したCSRマインド・活動内容のさらなる強化に向け、継続的な研修・教育、現場の課題解決のサポート、モニタリングの実施により、CSRの「PDCAマネジメントサイクル」の構築に取り組んでいます。

営業・サービス社員のさらなるCSR意識向上のための活動

1. 各拠点単位でのCSR連絡会「朝会」の開催

複数の営業・サービス会社が同一ビルに所在する拠点では、毎週初めに各社合同で「朝会」を開催し、営業・サービス情報の共有はもとより、各拠点が地域社会の一員として実践すべきCSR取り組み事項の共同検討を行う場としています。また、国内営業本部から提供されるCSR関連情報を、朝会のリーダーが説明し、メンバーの知識の向上を図っています。

2. Web自己監査システム

営業・サービス責任者が「Web自己監査システム」を使用し、四半期ごとに業務に係る関連法令、社内規程などの遵守状況やビジネスリスクに対するマネジメント状況を自己評価しています。これらの結果を定量的・定性的に分析し、リスクや不祥事の未然防止のための施策・仕組みづくりに反映しています。

3. 「私の環境チャレンジ宣言」

環境省提唱の取り組みを参考に、「私の環境チャレンジ宣言」を営業・サービス部門の全員が行い、一人ひとりが持続可能な社会構築への貢献を意識して、環境配慮型商品の普及促進や環境社会貢献活動に取り組んでいます。

4. 「環境を自分の言葉で語れる営業・サービス」へ向けて

国内営業部門では、創エネの太陽電池や、省エネの液晶テレビ、白物家電、LED電球などの環境関連商品の販売に携わる部門として、率先して「eco検定」の取得に取り組んでいます。

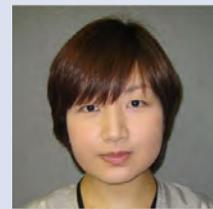
また、すべての営業・サービス社員に対し、環境に関する基本知識の習得を目的としたeラーニングを実施しています。

5. 地域社会に根ざした社会貢献活動の推進(詳細P.105、P.106参照)

「地域に根ざした営業・サービス拠点」として、各拠点社員の地域社会貢献活動などへの参画を主要なCSR活動の一つと位置付けています。2009年度は、「より地域に喜ばれる活動」をテーマに自治体等が主催する活動への参加を進めるなど、全国の拠点で約700回の活動、延べ約17,400名の参加者を数えました。

また、「NPO法人気象キャスターネットワーク」と連携し全国の小学校で実施している「小学校環境教育」では、全国の営業・サービス拠点のメンバー約300名が講師役を務めています。

eco検定取得社員の声



シャープアメニティシステム株式会社
施工サポート推進部
担当 本村 絵里子

近年は環境問題が大きな話題であり、学習を進めるにあたっては、日々目にするテレビや新聞も情報源となり、アンテナを張っていると、インパクトのある情報をキャッチできたように思います。業務に追われると環境のことをつい忘れがちになりますが、社内で常に携帯している緑色のeco検定合格証は、「身近なところから始めるエコ」を意識させてくれます。

「私がやらずに誰がやる」そんな気持ちで水筒を持参したり、裏紙を活用したりしています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
マネジメント	
017	マネジメントの目標と実績
018	コーポレート・ガバナンス／内部統制
020 ▼ 023	CSR推進体制／リスク管理
024	コンプライアンス
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

取り組み事例 海外での取り組み

中国WSECにおけるCSR推進の取り組み

2008年4月、WSEC(江蘇省無錫市)[※]は「シャープグループ企業行動憲章」「シャープ行動規範」に基づき、自社のCSR方針を定め、CSRの7分野について管理規定を制定し、CSR推進体制を構築しました。そして、現在、下記を重点分野としてCSRの取り組みを推進しています。



1. 労働安全衛生

2009年から労働安全衛生マネジメント規格であるOHSAS18001認証取得取り組みを開始し、安全評価に基づき社内の危険因子の認識と改善対応などを経て、12月末に認証を取得しました。今後も、OHSASの管理レベルを一層高め、労働安全衛生面でのさらなる改善に努めます。

2. 労働・人権

基本的人権と個人の尊厳の尊重、中国労働法の遵守、強制労働・児童労働の防止、従業員合意のもとでの残業実施について徹底しています。また、従業員の個性と積極性を十分発揮させるために、毎年階層別／職種別の社員教育を実施しています。加えて、従業員により良い居住環境を提供するため、2009年に最新設備の整った寮施設を導入しました。

今後も引き続き社員のために、働きやすく、個人が成長できる職場づくりに努めます。

3. コンプライアンス

不正取引、横領、賄賂の受け取りなど違法な経済活動の発生を防ぐために、WSECは「シャープグループ・コンプライアンス・ガイドブック」と「独占禁止法」の内容について、研修・徹底するとともに、「違法行為の防止と早期発見」などの関係規定を制定しました。さらに、金品・高額贈答品・リベートなどを受け取る行為は一切禁止とする書面を各お取引先さま、お仕入先さまおよび社内各部門に通達しました。

4. 社会貢献活動

長年にわたり、「シャープ慈善基金(中国)」を通じた経済的に苦しい優秀な学生への奨学金授与や、小学校環境教育の推進などの社会貢献活動を推進しています。

また、従業員は工場周辺や近隣の恵山の清掃活動や「給与一日分寄付」・「四川大地震への寄付」などの寄付活動にも、積極的に参加しています。今後も、継続的に社会へ貢献するとともに、地域における企業イメージの向上をめざしています。

[※] WSEC: Wuxi Sharp Electronic Components Co., Ltd.
1996年より電子部品の製造販売を行っている。

関係部門との連携を強化し、WSECのCSRを推進します。



WSEC CSR推進室
課長 万敏

2008年4月から、WSECのCSR推進を担当しています。この業務は有意義かつ、非常に重要なものと考えています。しかし、CSRの範囲は広く、各部門との連携の強化が重要です。今年3月には、シャープ(株)本社のCSR推進本部に出張し、シャープのCSR推進方針と中国拠点に対する具体的な要請内容について理解を深めました。今後、本社との協力関係をより密接にし、WSECのCSR推進体制の一層の拡充とともに企業イメージ向上に努めます。

コンプライアンス

シャープは、グローバルな事業展開を強化するにあたり、シャープ(株)、国内関係会社および海外関係会社におけるコンプライアンス体制を整備・拡充し、グローバルなコンプライアンス意識の醸成と浸透を推進しています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
	マネジメント
017	マネジメントの目標と実績
018	コーポレート・ガバナンス／内部統制
020	CSR推進体制／リスク管理
024 ▼ 028	コンプライアンス
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> ●コンプライアンス推進体制・施策の継続拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ●国内全従業員に対し、「シャープグループ・コンプライアンス・ガイドブック」に基づく研修、eラーニングによる競争法研修を実施 ●海外4地域へ法務担当者を配置し、各地域のコンプライアンス体制整備、研修等を実施 ●各事業本部等に対し、競争法に関する監査・指導を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●コンプライアンス推進施策の継続的な実施 ●国内全従業員に対するコンプライアンス研修(階層別研修、eラーニング等)の実施 ●海外各拠点でのコンプライアンス研修の継続実施 ●競争法遵守に関するモニタリング・指導の継続実施 ●外国公務員への贈賄防止ガイドブックの作成と徹底
<ul style="list-style-type: none"> ●海外拠点における情報セキュリティ推進方法の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ●海外各地域で自律的な情報セキュリティマネジメントサイクルを確立 	<ul style="list-style-type: none"> ●秘密保持・情報セキュリティ対策セルフチェックの内容を見直し、国内外での継続実施
<ul style="list-style-type: none"> ●個人情報保護推進施策の継続的な実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●個人情報保護に関する内部監査を実施 ●従業員などに対する個人情報保護に関する教育・啓発施策を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●個人情報保護施策の継続的な実施 ●個人情報保護に関する内部監査の実地 ●従業員などに対する個人情報保護に関する教育・啓発施策の継続実施

コンプライアンスに関する基本的な考え方

シャープでは、コンプライアンスを「法令や企業倫理などの社会ルールおよび社内ルールを守ること」と定義し、CSR(企業の社会的責任)を果たしていくうえでの基礎と位置付けています。そして、コンプライアンスを第一とした経営を実践するために、継続的な体制および取り組み施策の整備・強化をグローバルに推進します。

コンプライアンス推進体制の強化

シャープでは、法令や社会規範に則って適切に事業を展開していくために、コンプライアンス推進体制を継続的に見直し・強化しています。

2009年度は、「コンプライアンス委員会」を3か月に一度開催し、グローバルな観点からグループ全社のコンプライアンス施策の立案と実施状況等の確認を行いました。

また、従来からシャープ(株)の各事業本部と国内関係会社に法務責任者を配置していますが、グローバルなコンプライアンス体制強化の一環として、海外4地域(米国/欧州/中国/アジア・アフリカ)における法務担当の配置を完了しました。

コンプライアンス意識の醸成と浸透に向けて

シャープ(株)および国内関係会社では取締役、経営幹部、管理職、中堅社員、新入社員を対象とした階層別研修、海外渡航者研修、専門分野別研修などを継続して実施し、コンプライアンス意識の醸成と浸透を図っています。

2009年度は、国内全従業員に対し「シャープグループ・コンプライアンス・ガイドブック」に基づく研修を実施するとともに、海外各拠点でも順次コンプライアンス研修を実施し、グローバルなコンプライアンス意識の醸成と浸透に取り組みました。また、シャープ(株)の各事業本部等に対し、本社法務部門によるコンプライアンス監査を実施しました。

2010年度は、国内全従業員に対するコンプライアンス研修(階層別研修、eラーニング等)および海外各拠点におけるコンプライアンス研修の継続的な実施等に取り組む予定です。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
	マネジメント
017	マネジメントの目標と実績
018	コーポレート・ガバナンス／内部統制
020	CSR推進体制／リスク管理
024 ▼ 028	コンプライアンス
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

競争法遵守の取り組み

シャープでは、競争法遵守をコンプライアンスの重点分野として、継続的に取り組んでいます。これまでの国内全従業員対象研修、関係マニュアルの改定、専用の通報・相談窓口である「競争法ホットライン(社内・社外)」の新設などに加え、2009年度は、eラーニング(国内)、海外各拠点での研修、内部統制自己点検システムへの競争法遵守(カルテル防止)に特化したチェック項目の導入(国内)、シャープ(株)の各事業本部等に対する本社法務部門による競争法の監査などを実施しました。

2010年度は、国内関係会社に対する競争法遵守に関するモニタリング・指導、内部統制自己点検システムへの競争法遵守チェック項目導入の海外拠点への展開などを計画しています。

コンプライアンスに関する通報・相談窓口

シャープ(株)および国内関係会社では、コンプライアンス関連問題についての専用の通報・相談窓口である「クリスタル・ホットライン(社内・社外)」を設置し、公益通報者保護法の趣旨に沿って従業員や派遣社員、お取引先さまの社員も利用できるようにしています。

「シャープ行動規範」では、各窓口への通報・相談者のプライバシーを厳守すること、通報・相談した事実を理由に不利益な取り扱いを受けるおそれが一切ないことを明確に規定しています。

あらゆる形態の腐敗防止、寄付金などの適正処理

「シャープグループ企業行動憲章」「シャープ行動規範」では、賄賂や金品の強要などのあらゆる形態の腐敗の防止と、寄付金などの適正処理のための行動規準を明記しています。

シャープ(株)および国内関係会社の寄付金・賛助金などの支出については、「CSR等に関わる拠出金等審査委員会」での審査を義務付け、利益供与や不正支出を発生させない仕組みを構築しています。

また、2010年度には、外国公務員への贈賄防止ガイドブックを作成し、これをグローバルに周知・徹底する計画です。

インサイダー取引防止への取り組み

シャープでは、「インサイダー取引規制に関する規程」を制定し、重要事実(インサイダー情報)の管理や株式などの売買規制について定めるとともに、インサイダー取引に関する社内研修や社内ホームページなどを通じた従業員への啓蒙活動を実施し、シャープの役員・従業員によるインサイダー取引の未然防止を図っています。

また、ディスクロージャーの重要性から、「金融商品取引法上の重要事実」や「証券取引所の定める適時開示すべき重要な会社情報」が発生した場合は、速やかに公表することを徹底しています。さらに、社外からの取材対応については、ディスクロージャーの趣旨を十分尊重し、インサイダー取引規制に抵触することのないよう配慮しながら、前向きに対処しています。

2009年度は、インサイダー取引問題の発生が増加している社会状況を踏まえ、重要事実の管理をより厳格化するとともに、国内全社員を対象としたeラーニングの実施など、未然防止に向けた一層の取り組み強化と徹底を行いました。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
	マネジメント
017	マネジメントの目標と実績
018	コーポレート・ガバナンス／内部統制
020	CSR推進体制／リスク管理
024 ▼ 028	コンプライアンス
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

情報セキュリティの基本方針

シャープ(株)では、情報および情報システムの安全かつ的確な利用を促進するため、下記の「情報セキュリティ基本方針」を定めています。

1. 情報の漏洩、改ざん、消失などのトラブルを起ささない仕組みを構築し、情報の重要性に応じた情報資産管理を実施する。特に、お客様の個人情報やお取引先さまなどから開示を受けた重要な情報については、厳重な管理を実施する。
2. 役員・従業員が一体となって情報セキュリティの確保に取り組むために、全役員・従業員を対象とした情報セキュリティに関する教育や訓練を、定期的に行う。
3. 情報セキュリティに関する法令、契約等を遵守する。
4. 情報資産の安全かつ的確な利用を確保するための仕組みの構築と、継続的な管理を推進する。また、この仕組みを定期的に見直し、改善を図ることにより、情報セキュリティの先進企業となることをめざす。

情報セキュリティレベル向上に向けた推進体制の強化とセルフチェック／評価制度の拡充

シャープでは、上記「情報セキュリティ基本方針」に沿い関連社内規程を制定のうえ、お客さまをはじめステークホルダーの個人情報や企業機密を守るための各種取り組みを推進しています。

国内では「ITインフラ／情報セキュリティ委員会」に国内グループの各担当者が参画し、半期ごとの取り組み基本方針の徹底および各施策の推進状況を確認しています。また、毎年1回、グループの全従業員を対象にeラーニングを用いた研修も実施しています。

海外では米州・欧州・中国・アジアの世界4極に「地域情報セキュリティ委員会」を設置し、推進体制の強化とセキュリティレベルの向上に関する取り組みを推進しています。

2005年からは、組織ごとの対策を効果的に推進し、グループ全体のレベルアップを図るために、国内外で順次、セルフチェック／評価制度を導入・拡充しています。

2009年度には、各地域で自律的な情報セキュリティマネジメントサイクルが実施できる仕組みを確立しました。

2010年度は、国内外で、セルフチェックの項目や対策レベルをさらに見直し・設定のうえ実施する予定です。

個人情報保護の取り組み

シャープ(株)および国内関係会社は、個人情報保護に関して基本方針などを定めるとともに、社内の管理体制を構築し、個人情報保護に関する施策を推進しています。

具体的には、毎年「内部監査実施により発見された課題の是正」、「全従業員を対象としたeラーニング研修」などの施策を実施し、体制の整備と従業員の意識の啓発に取り組んでいます。

これらの施策推進の成果として、シャープ(株)および国内関係会社では、下記のとおりプライバシーマークの付与認定を受けています。今後も認定企業にふさわしい個人情報保護の体制の維持・強化に継続的に取り組めます。

■ プライバシーマークの付与認定状況

- シャープ株式会社
- シャープドキュメントシステム株式会社
- シャープシステムプロダクト株式会社
- シャープファイナンス株式会社
- シャープエンジニアリング株式会社
- シャープアメニティシステム株式会社
- シャープエレクトロニクスマーケティング株式会社



シャープ(株)のプライバシーマーク

■ eラーニング画面



001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
	マネジメント
017	マネジメントの目標と実績
018	コーポレート・ガバナンス／内部統制
020	CSR推進体制／リスク管理
024 ▼ 028	コンプライアンス
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

知的財産戦略

シャープでは、知的財産戦略を重要な経営施策の一つと位置付け、事業戦略や研究開発戦略と一体で推進しています。積極的な特許取得を推進することで、オンリーワン商品・オンリーワンデバイスの優位性を確保し、経営基盤の強化に努めています。

特許取得に関しては、事業ごとに中核となる事業分野を明確化し、特許関連に精通した技術者をこれらの中核事業分野に配置することで、現場に密着した戦略的な特許出願を行っています。また、他社との協業、あるいは産学連携などのアライアンス活動により生み出される有用特許の取得を行っています。

2010年3月末現在、シャープが保有する特許は、国内で17,501件、海外では22,568件となっています。これらの保有する特許を戦略事業の強化に用いるとともに、さらなる活用に向け、他社製品の分析も積極的に行っています。また、意匠・商標については、ブランド戦略に基づいて、グローバルな出願・権利化を行っています。

時期	2008年3月末	2009年3月末	2010年3月末
国内特許保有件数	17,957件	18,449件	17,501件
海外特許保有件数	22,649件	22,052件	22,568件

知的財産管理体制

シャープでは、一貫した知的財産戦略を展開するにあたり、本社組織である知的財産権本部が戦略全般をマネジメントし、研究開発・生産事業の各本部／拠点に置かれた特許関連部門と連携するとともに、相互に協力して知的財産に関する各種活動を行っています。

知的財産の保護

シャープでは、知的財産を事業戦略・研究開発戦略と連動させながら最大限に活用するとともに、自社の知的財産権を保護し、第三者の知的財産権を尊重する姿勢を堅持しています。不当な侵害に対しては話し合いで解決することを基本としながらも、当社の知的財産権を尊重していただけない場合は、裁判所など第三者の判断を仰ぐことを方針としています。

また、社内規程を強化し、営業秘密の保護強化と特に重要な当社固有の生産技術・ノウハウ等の漏洩防止に努めています。

さらに、近年、海外でのシャープブランド模倣品による影響が増大しており、取締当局、業界団体との連携などにより、その対策を推進しています。

第三者の知的財産権尊重については、全社特許関係者による会議の開催や技術者等の研修などにより対応しています。

職務発明の報償制度

シャープ(株)では、職務発明に関する特許法第35条の主旨に対応すべく、従業員と協議を経て、社内規程の「従業員の発明考案規程」を定め、従業員が職務発明をなした場合、会社へ届出を行い、その権利を会社へ譲渡する際の発明者への報償の詳細を取り決めていきます。

国内の子会社および関係会社の報償制度についても、特許法の求めに十分に対応し、発明者に対するインセンティブを高める内容に見直し、職務発明の貢献度を勘案して、公正かつ相応に報償する制度を構築して推進しています。

サムスン電子との液晶特許侵害訴訟の和解について

シャープ(株)とサムスン電子(株)は、液晶パネルと液晶モジュールに関する特許の侵害訴訟を継続していましたが、2010年2月5日にその和解契約を締結しました。

両社は、それぞれが保有する液晶パネルと液晶モジュールに関連する特許が侵害されているとして、2007年より、米国、日本、韓国、欧州でお互いに訴訟していましたが、和解により全ての訴訟を取り下げ、両社間の特許侵害訴訟は収束しました。

また、この和解により、これまで争ってきた全世界の液晶パネルや液晶モジュールに関する特許について、両社は相互に利用することが可能になりました。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
環境とシャープ	
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
054	■ オペレーション
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

環境への貢献をめざして

シャープは、「環境基本理念」のもと、「シャープグループ企業行動憲章」および「シャープ行動規範」に定めた地球環境保全への取り組み方針に沿って、すべての企業活動を環境に配慮して推進しています。2010年度からは、企業ビジョン「エコ・ポジティブ カンパニー」のもと、環境に貢献する取り組みをさらに強化しています。

環境基本理念

誠意と創意をもって
「人と地球にやさしい企業」に徹する

シャープグループ企業行動憲章

地球環境保全への貢献

地球環境保全のための独自技術の開発を強化するとともに、環境に配慮した企業活動を行い、地球環境保全への一層の貢献に努めます

シャープ行動規範

地球環境保全への貢献

1. 環境保全のために
2. 環境に配慮した、商品・サービスの開発および事業活動のために

企業ビジョン

エコ・ポジティブ カンパニー

企業ビジョンの実現をめざして環境経営を強化

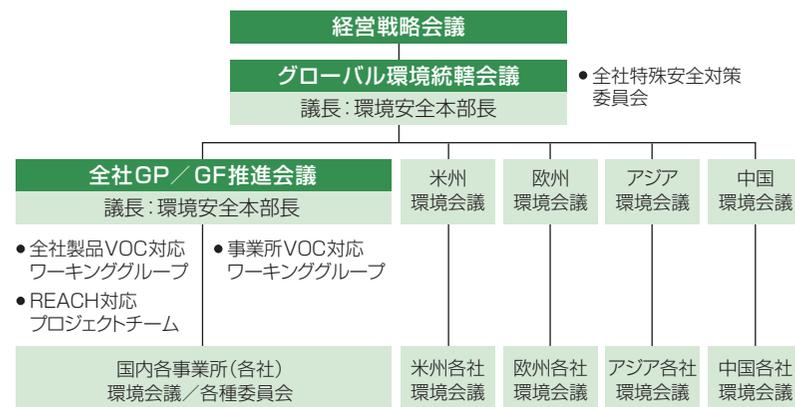
シャープは、地球環境保全に関わる全社戦略を企画・立案し、推進する組織として環境安全本部を設置し、同本部を核とした推進体制で環境経営をグローバルに展開しています。

具体的には、環境安全本部長が議長となり、「グローバル環境統轄会議」を半期ごとに開催し、全社ならびに各本部の環境方針・戦略・目標などの重要案件を審議・決定しています。また、「全社GP(グリーンプロダクト)／GF(グリーンファクトリー)推進会議」において、商品や工場における環境施策を審議するとともに、海外の各地域環境会議においては、各地域ならびに各拠点の環境方針や施策について審議しています。さらに、各種委員会、プロジェクト活動などを通じて、国内外各拠点の環境部門メンバーと緊密に連携しながら、全社横断的に各種環境施策を推進しています。

2010年度からは、企業ビジョン「エコ・ポジティブ カンパニー」の実現に向けて、環境経営をより一層強化するべく、当社独自の戦略的経営管理システム(eS-SEM[※])による部門業績評価制度の重点成果目標として、「エコ・ポジティブ戦略指標」を設定しました。シャープ(株)の全部門がこの指標を導入し、達成をめざして取り組みを進めています。今後、この指標を国内外の子会社・関連会社にも導入し、企業ビジョンの実現をめざして、シャープグループ全体で環境に貢献する取り組みを展開する計画です。

※ 「バランス・スコアカード」の考えに基づいた、当社独自の戦略的経営管理システム。

■ 環境経営推進体制



環境面の目標と実績

シャープは、企業ビジョン「エコ・ポジティブ カンパニー」の実現をめざし、すべての企業活動において環境に配慮するだけでなく、環境に対してプラスの効果を創出するべく推進しています。全部門が環境面の目標を設定していますが、ここでは、全社環境戦略を担う環境安全本部が主管する目標とその実績についてご報告します。

2009年度の取り組み実績に関する総括

2009年度は、環境戦略「エコ・ポジティブ戦略」の初年度として、次のステージへの飛躍を期して、難易度の高い目標に取り組みました。これまでの「スーパーグリーン戦略」で定着した成果に加えて、新たな成果が続々と生まれつつあります。

特に温室効果ガスと廃棄物については、スーパーグリーンファクトリーを2007年度までに達成したシャープ(株)10工場において、「排出量を2007年度の実績以下に抑える」という目標に挑戦しました。結果として、

2007年度比で温室効果ガスは22%、廃棄物は44%削減することができました。

その成果はシャープグループ全体に影響し、「グリーンフロント 堺」の液晶パネル工場の稼動(2009年10月)による増加があったにもかかわらず、グループトータルの温室効果ガス排出量は前年度比1%の微増にとどまり、廃棄物等排出量は同14%の削減を達成しました。

主な目標と実績は、下表および下表右端に記載の掲載ページをご覧ください。

自己評価 ◎：目標以上に達成 ○：目標通り達成 △：達成率80%以上 ×：達成率80%未満

活動区分	取り組みテーマ	重点取り組み項目	2009年度の目標	2009年度の実績	自己評価	2010年度の目標	2012年度の目標	掲載ページ
テクノロジー	3R技術の開発	プラスチックの自己循環型 マテリアルリサイクルの拡大	再生プラスチックの新製品 への投入量1,200t	投入量1,200t	○	投入量1,300t	投入量1,500t	35
		液晶テレビ リサイクル技術の確立	液晶テレビ リサイクルラインの最適化	液晶テレビ リサイクルラインの導入	○	—	—	51
		液晶パネルの リサイクル技術の開発	—	—	—	生産工程から排出される 液晶パネルガラス端材 のリサイクル技術開発	廃液晶パネルの リサイクル技術開発	36
プロダクト	商品とデバイスの 環境性能強化	スーパーグリーンプロダクト (国内)の売上高構成比拡大	60%以上	63%	◎	60%以上	60%以上	41 42
		グリーンシール商品の 売上高構成比拡大	90%以上	87%	△	90%以上	90%以上	45 49
		スーパーグリーンデバイスの 売上高構成比拡大	20%以上	24%	◎	20%以上	20%以上	44 45
		グリーンデバイスの 売上高構成比拡大	85%以上	90%	◎	90%以上	95%以上	47
	使用済み商品の リサイクル推進	リサイクルシステムの拡充	薄型テレビリサイクルの 高効率化	薄型テレビリサイクル 処理時間半減	○	ブラウン管テレビ引き 取り台数増加に対応し た処理の高効率化	液晶テレビパネルガラ スの高付加価値リサイ クルの実現	51 52

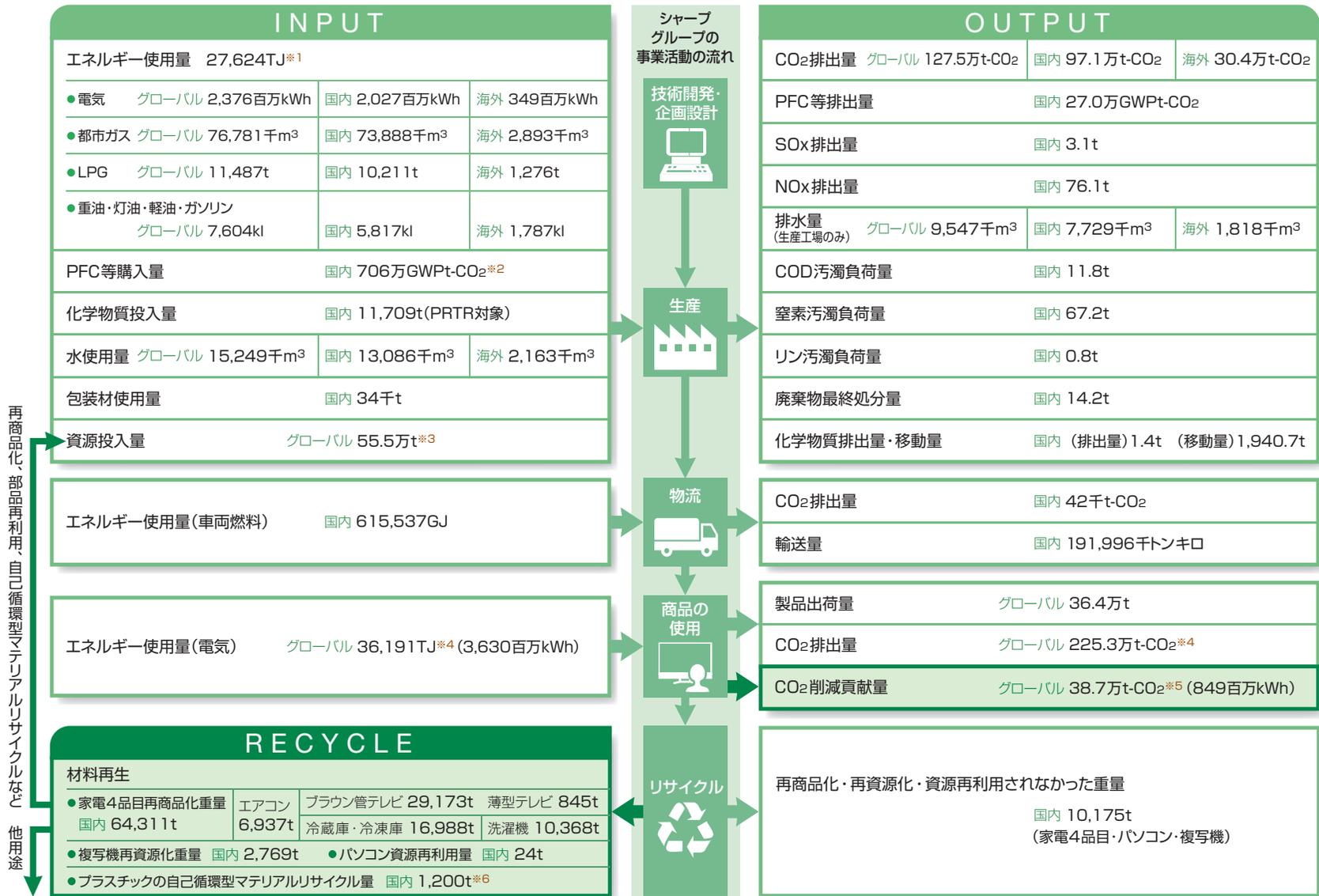
001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030・031	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■テクノロジー
041	■プロダクト
054	■オペレーション
075	■リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

活動区分	取り組みテーマ	重点取り組み項目	2009年度の目標	2009年度の実績	自己評価	2010年度の目標	2012年度の目標	掲載ページ
001	環境マネジメントシステム拡充	統合マネジメントシステムの構築	海外生産工場:累計5	海外生産工場:累計5	○	—	—	54 56
		シャープ独自の環境マネジメントシステム(S-EMS)の再構築	—	—	—	S-EMSの再評価と改定案まとめ	改定S-EMSの構築	
		国内オフィスの環境マネジメントシステム推進体制の再構築	—	—	—	地域ごとに統轄サイトを設置	会社単位での管理への移行準備(会社単位地域統轄サイト設置)	
		環境e-ラーニングの推進	国内オフィス、海外生産工場オフィス基礎編(Step1)の実施	基礎編(Step1)を実施	○	応用編(Step2)の実施	応用編(Step3)の実施	
017	工場とオフィスの環境配慮性強化	グリーンファクトリー(GF)およびスーパーグリーンファクトリー(SGF)の認定拡大	シャープ(株)生産工場:10 SGFIIランクA相当以上:2	自己評価に基づくSGFIIランクA相当以上:10	○	新評価基準に基づくSGFIIランクA以上:2	すべての生産工場SGFIIランクA以上	57 60
		グリーンオフィスの認定拡大	国内生産工場(子会社・関連会社):7 SGF2工場にSGFIIを導入 SGF:累計3	SGF2工場にSGFIIを導入 SGF:累計3	○	SGF3工場にSGFIIを導入 SGF:累計5	すべての生産工場SGFIIランクB以上	
			海外生産工場(子会社・関連会社):21 SGF9工場にSGFIIを導入 SGF:累計11	SGF9工場にSGFIIを導入 SGF:累計11	○	SGF11工場にSGFIIを導入 SGF:累計16	すべての生産工場SGFIIランクB以上	
		エコ・ベスト・プラクティス・フォーラムの開催	欧州・米州・中国で開催	欧州・米州・中国・アジアで開催	◎	各地域で年1回以上開催	各地域で年2回以上開催	58
		グリーンオフィスの認定拡大	グリーンオフィス認定数 国内:43 / 全54 海外:4(欧州・米州・中国・アジアで各1) / 全20	国内:全54 海外:13(欧州3・米州3・中国1・アジア6) / 全20	◎	国内・海外の認定基準を強化 国内:全54 海外:8(欧州・米州・中国・アジアで各2)	国内:全54オフィスの認定継続 海外:全20オフィス	61 62
		077	温室効果ガスの排出抑制	CO ₂ 排出量の削減	シャープ(株)10工場 2007年度の実績以下に抑制	2007年度比 22%削減	◎	2007年度の実績以下に抑制(毎年度目標) BAU比 3%削減(毎年度目標)
CO ₂ 排出量(実質生産高原単位)の削減	シャープ(株)10工場 1990年度比 35%削減			1990年度比 43%削減	◎	シャープ(株)10工場 1990年度比 35%削減	1990年度比35%削減(2008~2012年度平均)	
CO ₂ 排出量(生産高原単位)の削減	海外工場(子会社・関連会社) 前年度比 2%削減			前年度比 35%増加	×	前年度比 2%削減(毎年度目標)		
077	廃棄物の排出抑制と再資源化	廃棄物排出量の削減	シャープ(株)10工場 2007年度の実績以下に抑制	2007年度比 44%削減	◎	2007年度の実績以下に抑制(毎年度目標) BAU比 6%削減(毎年度目標)		67 69
		廃棄物等排出量(生産高原単位)の削減	海外工場(子会社・関連会社) 前年度比 2%削減	前年度比 19%増加	×	前年度比 2%削減(毎年度目標)		
077	有害化学物質のリスク低減	化学物質管理の強化	新化学物質管理指針の制定・国内工場での定着	新化学物質管理指針を見直し(排出管理指標の概念の導入)	△	新化学物質管理指針(排出管理指標)の制定と定着	新化学物質管理指針(排出管理指標)に基づく排出量管理	71 72
		物流に伴うCO ₂ 削減	輸送重量あたりCO ₂ 排出量の削減	国内シャープグループ 前年度比 1%削減	前年度比 ±0%	×	2006年度を基準として、2007~2010年度に年平均1%削減	前年度比 1%削減(毎年度目標)

マスバランス

シャープでは、事業活動と環境とのかかわりを数値で的確に把握した上で環境経営を進めています。事業活動のそれぞれの段階における現状の数値を、施策の立案や成果の分析・評価に活用することで、環境負荷の効果的な低減をめざしています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスバランス
033	環境会計
034	■テクノロジー
041	■プロダクト
054	■オペレーション
075	■リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書



*1 TJ=10¹²J

*2 地球温暖化係数。地球温暖化に対する影響の大きさをCO2重量に換算した値。

*3 2009年度に販売した主要12品目の製品質量(推計)と廃棄物等排出量との合計。

*4 2009年度に販売した主要11品目の1年間のエネルギー使用量およびCO2排出量を推計。各製品の年間消費電力量に基づいて算出。算定方法を一部見直ししました。

*5 2009年度に出荷した太陽電池の1年間の発電量およびCO2削減貢献量。

*6 P.35参照。

環境会計

シャープでは、環境保全にかかわるコストと効果を定量的に把握し、環境経営の実践に役立てるため、1999年度から環境会計を導入しています。2005年度以降、環境省の環境会計ガイドラインに沿って集計しています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスパランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
054	■ オペレーション
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

環境保全コストの推移

環境保全投資は、シャープディスプレイプロダクト(株)が10月より稼働し、既存工場での設備投資が伸び悩む中、前年度比21%増加し、全体では約43億円となりました。環境保全費用は、約245億円で前年度比21%の増加となりました。

経済効果の推移

実質効果は、省エネ効果や使用済みトナーカートリッジの再生利用の拡大などにより、約64億円となりました。推定効果は、シャープディスプレイプロダクト(株)でのPF6等^{※1}除害設備設置による効果や太陽光発電事業の拡大による発電量の順調な伸びなどにより、約1,282億円となりました。

※1 温室効果ガスであるパーフルオロカーボン系ガスの総称。

用語説明

〈環境保全コスト〉

環境保全活動にかかわる諸経費、人件費、投資とこれに伴う減価償却費。

〈経済効果〉

環境保全活動の結果として生じる社会や企業への貢献を貨幣単位で表したものの。

実質効果：省エネ対策、水のリサイクルなどで節約された費用や、有価物の売却益など、直接的に金額で把握できる経済効果。

推定効果：当社では、温室効果ガスの削減効果と、太陽光発電、省エネ商品の使用による節電効果を下記条件にて金額換算しています。

- (1) 温室効果ガス排出削減量の金額換算：
CO₂1tあたりの金額1,450円
- (2) 太陽光発電や省エネ製品による節電量の金額換算：
電力単価21円/kWh

集計対象範囲

シャープ(株)の生産工場(栃木、八尾、広島、奈良、葛城、福山、三重、天理、三原、亀山、富山)、オフィス(田辺、本社)、研究所(柏)およびシャープマニファクチャリングシステム(株)、シャープ新潟電子工業(株)、シャープ米子(株)、シャープディスプレイプロダクト(株)、シャープ三重(株)。

集計対象期間

2009年4月1日～
2010年3月31日

参考にしたガイドライン

環境省「環境会計ガイドライン2005年版」

環境保全活動分類 ()内：環境省の「環境会計ガイドライン」に基づく分類	環境保全コスト (百万円)		経済効果 (百万円)		環境保全効果		参考頁
	投資額	費用額	実質効果	推定効果	物理的效果		
環境経営 (管理活動)	59 (60)	1,641 (2,014)	-	-	環境経営の推進		55
環境教育 受講者人数	マスター		260名		-		
	エキスパート		1,007名		-		
	一般		5,770名		-		
企画・設計 (研究開発)	709 (124)	4,722 (2,281)	-	123,846 (54,136)	環境配慮型商品の提供 (百万円)		7 11 34 50
グリーンシール商品売上高構成比		87%		-			
スーパーグリーンプロダクト売上高構成比		63%		-			
太陽光発電による総発電量		2,755GWh		57,855			
(同上)によるCO ₂ 削減貢献量		123万t-CO ₂		1,784			
省エネ商品による省電力量 ^{※2}		2,976GWh		62,496			
(同上)によるCO ₂ 削減貢献量 ^{※2}		118万t-CO ₂		1,711			
温室効果ガスの排出抑制 (地球環境保全)	2,800 (910)	2,481 (2,494)	2,049 (1,706)	4,305 (1,736)	電力・燃料の使用削減による温室効果ガスの排出削減 (百万円)		57 72
CO ₂ 排出削減量		52千t-CO ₂		75			
PF6等排出削減量		2,917千GWPT-CO ₂ ^{※3}		4,230			
廃棄物の排出削減と 再資源化 (資源循環)	8 (15)	10,341 (7,725)	1,831 (2,139)	-	廃棄物の再資源化・適正処理		57 72
廃棄物再資源化量		156千t		-			
水の循環利用量		16,436Km ³		-			
公害防止 (公害防止)	697 (2,346)	5,144 (5,688)	-	-	環境関連法規制遵守 大気汚染・水質汚濁・騒音・振動の防止 リスクマネジメントの推進 化学物質の適正管理と排出削減 土壌汚染リスクの低減		51 53 73 74
使用済みパソコン資源再利用量		24t		-			
使用済み複写機再資源化重量		2,769t		-			
使用済家電4品目再商品化重量		64,311t		-			
物流時の環境負荷低減		鉄道・船舶貨物輸送(コンテナ輸送)		25,027本		-	
低公害車導入率		97.6%		-		-	
社会性	-	132 (53)	-	-	環境社会貢献活動		104 109
SGC活動参加従業員数 延べ		30,345名		-			
環境教育実施校 延べ		600校		-			
合計	4,273 (3,546)	24,485 (20,276)	6,368 (5,460)	128,151 (55,872)			

下段()内は前年度実績数値

※2 従来は、前年度に発売した型式と当年度に発売した型式の年間消費電力の差分を計上していましたが、2009年度実績からは企業ビジョン(P.7)の省エネ商品による削減貢献量を計上しています。

※3 地球温暖化係数。地球温暖化に対する影響の大きさをCO₂重量に換算した値。

オンリーワン環境技術の開発

シャープは、商品やデバイスの環境性能を高め、工場環境負荷を削減するために、オンリーワン環境技術の開発に取り組んでいます。「省エネ・創エネ」、「資源有効利用」、「安全・安心」、「健康・快適」という4つの分野にわたり、独自の切り口から人と地球にやさしい環境技術の研究開発を進めています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
	■ テクノロジー
034 ▼ 040	オンリーワン環境技術の開発
041	■ プロダクト
054	■ オペレーション
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度の目標	2012年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> プラスチックの自己循環型マテリアルリサイクルの拡大 再生プラスチックの新製品への投入量1,200t 	<ul style="list-style-type: none"> 投入量1,200t 	<ul style="list-style-type: none"> 投入量1,300t 	<ul style="list-style-type: none"> 投入量1,500t
<ul style="list-style-type: none"> 液晶テレビリサイクル技術の確立 液晶テレビリサイクルラインの最適化 	<ul style="list-style-type: none"> 液晶テレビリサイクルラインの導入 	—	—
—	—	<ul style="list-style-type: none"> 液晶パネルのリサイクル技術の開発 生産工程から排出される液晶パネルガラス端材のリサイクル技術開発 	<ul style="list-style-type: none"> 廃液晶パネルのリサイクル技術開発

オンリーワン環境技術を研究開発

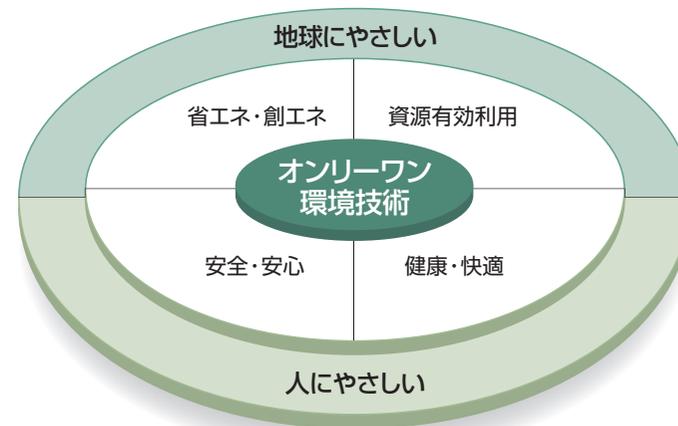
2009年度は、資源の有効利用に貢献する代表的なオンリーワン環境技術である「プラスチックの自己循環型マテリアルリサイクル技術」による再生プラスチックの新製品への投入量を1,200tにまで拡大するとともに、「液晶テレビのリサイクル技術」や「バイオマス系材料の利用技術」の開発に取り組みました。

また、液晶テレビの消費電力を大幅に削減した液晶パネルの光配向技術「UV²A技術」やエアコンの省エネを実現した流体力学応用による独自の気流制御技術の開発・実用化、世界最高の変換効率を達成した化合物太陽電池の開発、独自の空気浄化技術「プラズマクラスター」の新たな効能の実証などを進めました。

さらに、次世代に向けた取り組みとして、大阪府立大学と共同で「グリーンフロント 堺」(大阪府堺市)を拠点に、「植物栽培」と「廃棄物の再資源化」の研究を開始しました。

シャープは、今後も「オンリーワン環境技術」の開発に取り組み、商品やデバイスの環境性能の向上と工場環境配慮性の強化を進めます。

■ オンリーワン環境技術体系図



001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
	テクノロジー
034	オンリーワン環境技術の開発
040	

041	プロダクト
054	オペレーション
075	リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

事例 1

プラスチックを何度も繰り返し再生利用する
自己循環型マテリアルサイクル技術を開発・実用化

使用済み家電製品から回収したプラスチックを新たな家電製品の部材として何度も繰り返し再生利用する「自己循環型マテリアルリサイクル技術」を関西リサイクルシステムズ株式会社※1と共同で開発し、2001年度より実用化しています。

「高純度PP分離回収技術※2」や「プラスチック着色技術※3」などの新技術を宇部興産株式会社と共同で開発・実用化し、再生可能なプラスチックの回収量と再生後のプラスチックの用途を拡げることで、2009年度の再生プラスチック使用量は1,200tに拡大しました。

家電製品の高付加価値化により、これまでとは素材構成の異なるプラスチックが使用されるようになってきていることから、シャープは新たなプラスチック素材についても自己循環型マテリアルリサイクルが可能となるように、技術開発を進めています。

また、2010年1月、シャープが技術開発の中で見出した特許(第3731009号)の実施権を宇部興産株式会社に許諾しました。これにより、プラスチックのリサイクル技術の他業界への波及が期待されます。

※1 当社と三菱マテリアルなど7社が共同で出資している家電リサイクル会社。
 ※2 金属や種類の異なる樹脂が混ざった廃プラスチックから、ポリプロピレン(PP)を高純度に分離回収する、シャープ独自の技術。
 ※3 混在する異物を見えにくくする、宇部興産株式会社の着色技術。

■プラスチックの自己循環型マテリアルリサイクルフロー



TOPICS

再生プラスチック累計使用量5,050tを達成!

2001年度からの自己循環型マテリアルリサイクルによる再生プラスチックの累計使用量が、2009年度に5,050tに達しました。これは、約9,000キロリットルの原油削減に相当します。



プラスチックリサイクル化学研究会
技術功績賞を受賞

独自性の高い技術開発と事業としての確立が評価され、2010年6月に受賞しました。



■これまでの受賞実績

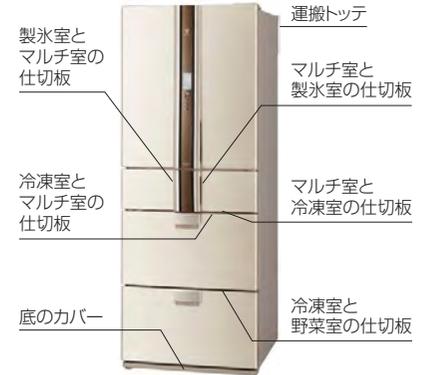
年度	賞の名称と主催者
2004	第13回 地球環境大賞 文部科学大臣賞 日本工業新聞社
2005	第15回「青木固」技術賞 (社)プラスチック成形加工学会
2008	平成20年度 資源循環技術・システム表彰 経済産業省産業技術環境局長賞 (財)クリーン・ジャパン・センター

■採用事例

《全自動洗濯機》



《冷凍冷蔵庫》



001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マシバランス
033	環境会計
	テクノロジー
034	オンリーワン環境技術の開発
040	
041	■ プロダクト
054	■ オペレーション
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

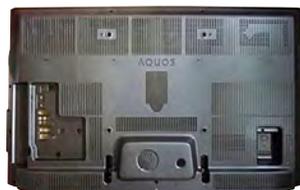
事例 2

液晶テレビのリサイクル技術を開発・実用化

普及が進む液晶テレビAQUOSの背面キャビネットについては、将来使用済みとなり、リサイクルされる際に、繰り返し再生利用できるように、自己循環型マテリアルリサイクル※1を可能とするキャビネット用材料を2006年度に開発・実用化し、以後採用機種を拡大を進めています※2。その一方、従来の材料を用いた薄型テレビのキャビネットについても、自己循環型マテリアルリサイクルができるように、研究開発を進めています。

さらに液晶パネルからのインジウムをはじめとする希少金属の回収や液晶パネルガラスの再資源化など、新たな取り組みをスタートしています。

シャープは今後も液晶テレビのリーディングカンパニーとして、リサイクル技術の開発と実用化を推進します。



自己循環型マテリアルリサイクルが可能な背面キャビネット <LC-40LX1>

※1 P.35参照。

※2 2009年度の採用機種: LC-52AE6/46AE6、LC-60DS6/52DS6/46DS6/42DS6、LC-52DX2/46DX2、LC-60LX1/52LX1/46LX1/40LX1、LC-52SE1/46SE1/40SE1

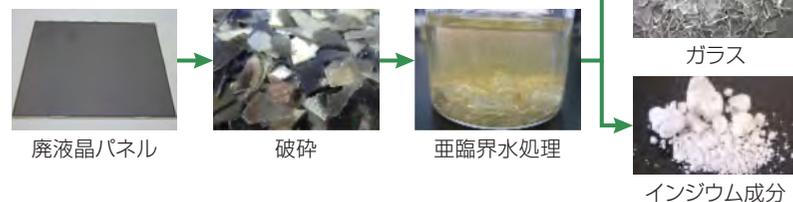
廃液晶パネルからのインジウム回収技術を開発

シャープは、2009年度に大阪府立大学と共同で、亜臨界水※3を利用した廃液晶パネルの再資源化技術を開発しました。

この技術は、亜臨界水が有機物を強力に溶解する作用を利用して、液晶パネルのガラス基板から有機層を剥離し、ガラスと希少金属であるインジウム成分を分離回収するものです。ガラスとインジウム成分をとともに効率良く回収することができます。2010年度は、実用化技術の開発を進めます。

※3 水を374℃・218気圧まで上げると液体でも気体でもない状態となる。この温度・圧力を臨界点と呼び、臨界点よりもやや低い温度領域の水を亜臨界水という。

■ 廃液晶パネルからのインジウム回収フロー(概要図)



液晶パネルの廃棄ガラスを活用した高機能性塗料を開発

液晶パネルの生産工程で排出されるガラス端材※4を活用し、高強度で耐摩耗性、耐食性に優れた高機能性塗料を2009年度に開発しました。

液晶パネル用ガラスには、高強度や低膨張性、耐熱性などの優れた特性がありますが、軟化温度が高いため、既存の設備では、再び溶解し、ガラス原料として再生することが困難でした。そこで、廃棄ガラスを溶解せずに細かく破碎し、その粉末を顔料と調合することにより、液晶パネル用ガラスの特性を活かした、高機能性塗料の開発を実現しました。

この塗料は、日光や雨風、砂塵などにさらされる屋外設置製品の長期耐久性を飛躍的に高めることができます。現在、LED防犯灯の外装部品への採用を予定しており、今後家電製品への採用を推進するとともに、建材・道路付帯設備など、新たな市場も含めて用途開発を進めます。

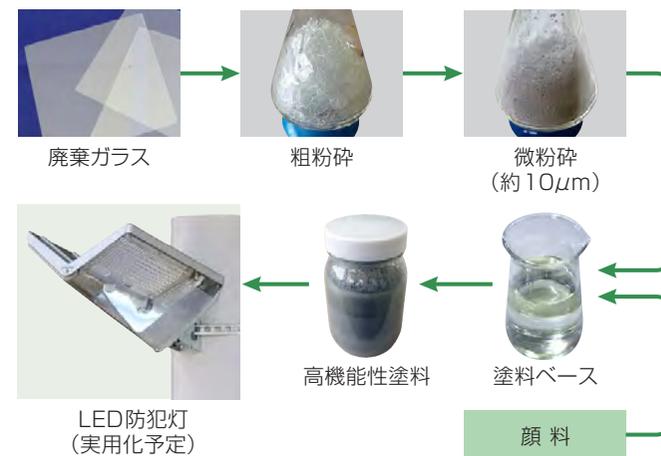


灯部カバーに高機能性塗料を採用する予定

高機能性塗料の採用を予定しているLED防犯灯

※4 液晶パネル用マザーガラスを画面サイズに切り出す際に発生するガラス端材。

■ 高機能性塗料の調製フロー



001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
	テクノロジー
034	オンリーワン環境技術の開発
040	
041	■ プロダクト
054	■ オペレーション
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

事例 3

バイオマス系材料の利用技術を開発・実用化

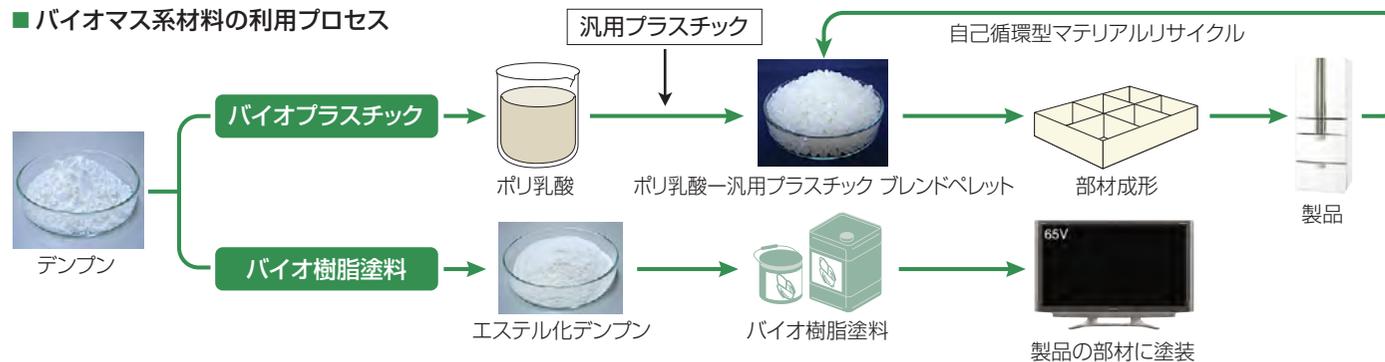
シャープは、化石資源の消費を抑制する取り組みとして、バイオマス系材料の利用技術の開発を進めています。

2006年度には、デンプンを原料とするバイオプラスチック(ポリ乳酸)と汎用プラスチック(ポリプロピレンやポリスチレン系など)のブレンド技術を開発し、さらに耐久性を高める技術を開発することにより、自己循環型マテリアルリサイクル*が可能なバイオプラスチックを開発・実用化しました。このプラスチックは2007年から携帯電話の卓上ホルダーに採用し、その後も成形性や発色性など特性の改良を重ね、採用機種を拡大を進めています。

また、デンプンを原料とするバイオ樹脂塗料を関西ペイント株式会社と共同で開発し、2006年に液晶テレビAQUOSのスタンドで実用化しました。今後、さらに性能向上を図り、白物家電などへの展開をめざします。

* P.35参照。

■ バイオマス系材料の利用プロセス



■ バイオプラスチック採用事例



株式会社NTTドコモ向け
「docomo STYLE series SH-02B」用
卓上ホルダー



ソフトバンクモバイル株式会社向け
「SoftBank 941SH」用 卓上ホルダー

■ バイオ樹脂塗料採用事例



LC-65GX5

バイオ樹脂塗料を
採用したスタンド

■ これまでの受賞実績

年度	賞の名称と主催者
2007	第2回 ものづくり日本大賞 優秀賞 経済産業省など
	平成19年度 色材協会賞 技術賞 (社)色材協会
2008	第40回 日化協技術賞 環境技術賞 (社)日本化学工業協会

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
	テクノロジー
034	オンリーワン環境技術の開発
040	
041	プロダクト
054	オペレーション
075	リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

事例 4

液晶テレビのさらなる省エネを実現する
世界初の光配向技術「UV²A技術」を開発・実用化

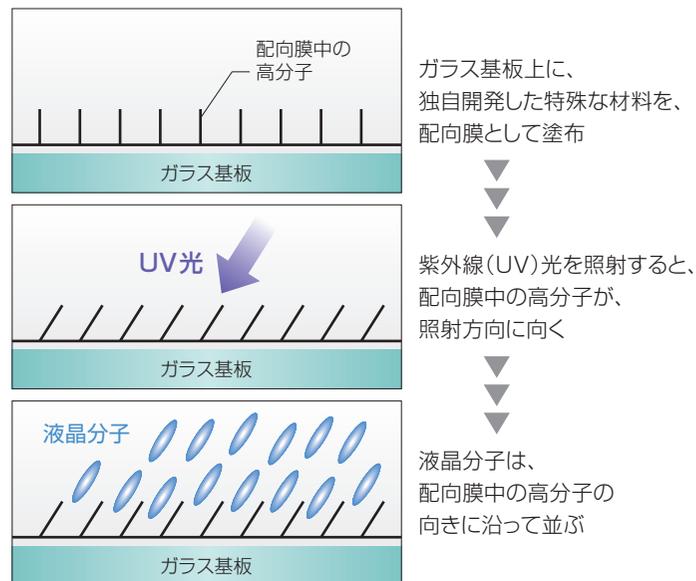
液晶テレビを大きく進化させる、まったく新しい液晶パネルの中核技術として、シンプルなパネル構造で、液晶分子の向きを精密に制御できる光配向※1技術「UV²A※2技術」を2009年度に開発し、世界で初めて※3本格的に生産導入しました。当技術は、紫外線によって反応する特殊な材料を配向膜として採用し、照射方向によって、大きさがわずか2ナノ※4程度の液晶分子を、ピコ※5スケールで高精度に制御する光配向技術です。

従来技術では、液晶を仕切るセルの一つひとつに、液晶分子の並び(配向)を安定的に制御するための「リブ」や「スリット」といった構造物を設けることで、液晶分子を一方向に傾けて光を操っていました。しかしセルを通る光の漏れや妨げを起こし、黒浮きや光の透過率(開口率)を下げる要因になっていました。「UV²A技術」は、リブ・スリットレスの工法により、微細なすき間をなくして、スタティックコントラスト5,000:1(従来比1.6倍)という締まった黒の表示を実現すると同時に、開口率を従来比20%以上向上し、輝く白の再現力を高めました。明るさが向上することで、高効率にバックライト光を活用できるので、バックライトの消費電力の大幅な削減を実現しました。

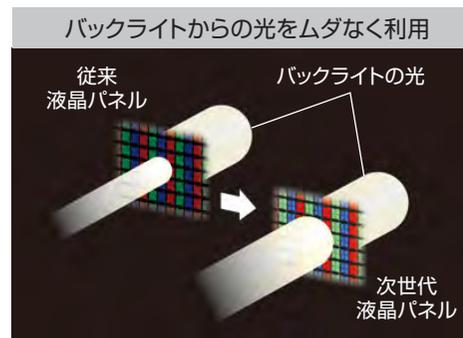
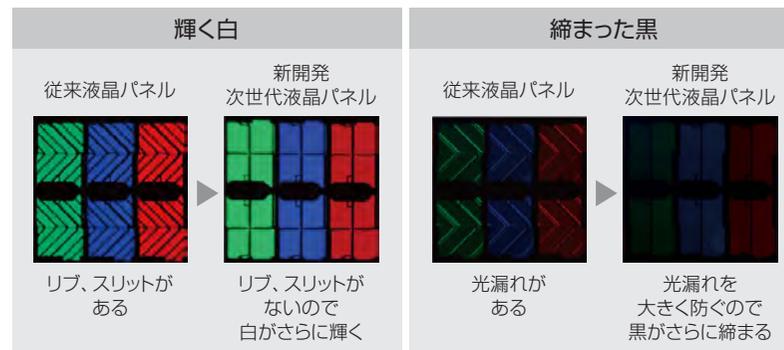
「UV²A技術」は、液晶テレビLED AQUOS※6に採用しています。また、次世代テレビとして期待されている、高精細4K2Kディスプレイや立体(3D)テレビの性能を高めるのにも最適な技術です。

※1 液晶分子の向きを一定方向に揃えるもの。
 ※2 Ultraviolet induced multi-domain Vertical Alignmentの略。
 ※3 第6世代マザーガラス以上の大型ガラス基板を用いた量産ベースにおいて、当社調べ。
 ※4 1ナノ(n)=10億分の1(10⁻⁹)メートル。
 ※5 1ピコ(p)=1兆分の1(10⁻¹²)メートル。
 ※6 採用機種: LC-60LX1/52LX1/46LX1/40LX1、LC-52SE1/46SE1/40SE1/32SC1。

■ 光配向技術「UV²A技術」の仕組み



■ 「UV²A技術」採用の次世代液晶パネルの特長



001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
	テクノロジー
034	オンリーワン環境技術の開発
040	

041	プロダクト
054	オペレーション
075	リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

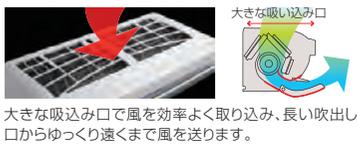
事例 5

エアコンの高性能・高効率を実現する 先進の省エネ技術を開発・実用化

【室内機】流体力学を応用した独自の気流制御技術

風の流れを効率的に活かす、流体力学に基づいた気流制御技術を開発し、エアコンの室内機に採用しています。飛行機や高速列車のように風の抵抗を極限まで抑えるので、余分なエネルギーを使わず効率よく冷暖房を行います。

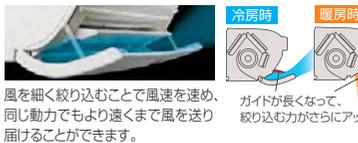
1 独自の形状で、風を効率よく取り込む



2 ロングパネルが、風をしっかり制御



3 新パワー集中ガイドで、風を絞り込む



4 左右なめらかガイドで、壁面方向に風を送る



■ 受賞実績

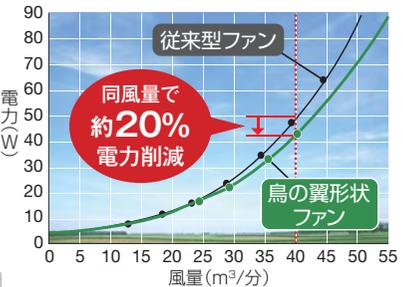
2008年度	流体力学技術賞	主催：(社)日本流体学会
2009年度	技術賞	主催：(社)日本冷凍空調学会
	市村産業賞 貢献賞	主催：(財)新技術開発財団

【室外機】風の抵抗を抑える鳥の翼形状の室外機ファン

室外機のファンには、海風を翼全体で利用し、効率よく滑空するアホウドリや乱気流の多い森の中でも失速せずに飛ぶイヌワシの翼を模倣した翼形状を採用し、風の流れを上手に活かすことで電力の削減を実現しました。



■ 風量と電力の比較

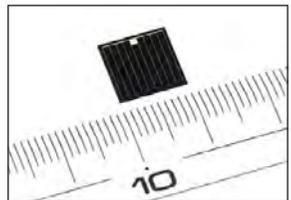


事例 6

化合物3接合型太陽電池で 太陽電池セルの世界最高変換効率35.8%を達成

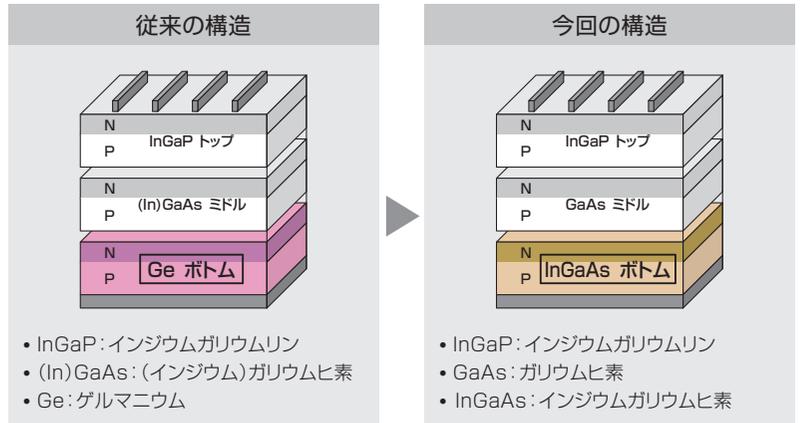
光吸収層を3層に積み重ねて高効率化を実現する「化合物3接合型太陽電池」※1の研究開発を2000年から開始し、2009年度には太陽電池セルの世界最高変換効率※2 35.8%※3を達成しました。

化合物3接合型太陽電池の高効率化には、トップ層、ミドル層、ボトム層の各光吸収層の結晶性(原子の規則正しい配列性)の向上と太陽光エネルギーを最大限利用できる材料構成が重要です。従来、ボトム層に用いていたGe(ゲルマニウム)は、その性質上、発生する電流量は多いものの、電流の大半が電気エネルギーとして利用できず無駄になっていました。そこで、シャープは独自の層形成技術によって、従来難しいとされていた、結晶性を高めたInGaAs(インジウムガリウムヒ素)の層形成を実現し、ボトム層の利用効率を高めることにより、無駄となる電流を最小限に抑え、変換効率の向上に成功しました。今後も太陽電池のさらなる高効率化を進めます。



世界最高変換効率35.8%を達成した化合物3接合型太陽電池

- ※1 化合物太陽電池は、インジウムやガリウムなど、2種類以上の元素からなる化合物を材料とした光吸収層を持つ変換効率の高い太陽電池で、主に人工衛星に使用。
- ※2 2009年10月22日現在、研究レベルにおける非集光太陽電池において(シャープ調べ)。
- ※3 2009年9月、産業技術総合研究所(世界の太陽電池の公的測定機関の一つ)により確認された数値(セル面積：約1cm²)。



001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マシバランス
033	環境会計
	■テクノロジー
034	オンリーワン環境技術の開発
040	

041	■プロダクト
054	■オペレーション
075	■リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

事例 7

空気浄化技術「プラズマクラスター」の開発・実用化

健康的な環境づくりに向けて、「プラズマクラスター」技術を2000年に開発し、浮遊カビ菌の分解・除去や浮遊ウイルスの作用を抑制(1m³の密閉容器での試験による10分後の効果であり、実使用空間での実証結果ではありません)することを世界で初めて検証するとともに、実用化を進めてきました。

プラズマクラスター技術とは、自然界にあるのと同じプラスとマイナスのイオンをプラズマ放電により作り出して放出し、浮遊ウイルスの作用を抑えたり、浮遊カビ菌等を分解・除去したりする空気浄化技術です。

世界の学術研究機関と連携して、2009年度末までに28種類の有害物質の活動を抑制する効果があることを実証しています。また、2009年度には高濃度プラズマクラスターイオン(25,000個/cm³)による肌の保湿効果を、さらに2010年度には美肌効果も実証しました。今後もプラズマクラスター技術のさらなる進化と実証を進めます。



国内・海外の機関で、効果が実証されています。^{※1}

浮遊ウイルス	(財)北里環境科学センター	浮遊菌	(財)石川県予防医学協会
	韓国 ソウル大学		中国 上海市予防医学研究院
	中国 上海市予防医学研究院		(財)北里環境科学センター
付着ウイルス	(学)北里研究所 北里大学北里研究所メディカルセンター病院	付着菌	(学)北里研究所 北里大学北里研究所メディカルセンター病院
	イギリス レトロスクリーン・バイロロジー社		ドイツ アーヘン応用科学大学 アートマン教授
浮遊アレル物質	イギリス レトロスクリーン・バイロロジー社	付着カビ菌	米国 ハーバード大学公衆衛生大学院 名誉教授 メルビン・ファースト博士
	広島大学大学院 先端物質科学研究科		(学)北里研究所 北里大学北里研究所メディカルセンター病院
浮遊カビ菌	大阪市立大学大学院 医学研究科 分子病態学教室	肌保湿	(財)日本紡績検査協会
	(財)石川県予防医学協会		ドイツ リューベック大学
	ドイツ アーヘン応用科学大学 アートマン教授		(財)日本食品分析センター
			(株)総合医科学研究所

※1 2000年10月~2010年3月末生産のプラズマクラスターイオン発生デバイスの実証データです。同一実証機関、同一時期における別の対象有害物質による実証実験結果は割愛。

■「プラズマクラスター」による空気浄化のメカニズム(イメージ図)

1 イオンを放出

自然界にあるのと同じ、プラスとマイナスのイオンをプラズマ放電により、作り出し空気中に放出。

2 カビ菌やウイルスに作用

カビ菌やウイルスの表面に付着し、非常に酸化力の強いOHラジカルに変化し、表面のタンパク質から瞬時に水素(H)を抜き取り、タンパク質を分解。

3 水になって空気に戻る

OHラジカルと水素(H)が結合し、水(H₂O)になって空気に戻る。

自然界に存在するのと同じイオンで、安全性も確認済みです。

1	イオン種の同定	プラズマクラスターイオンは、自然界に存在するイオンと同じ種類であることを確認しています。
2	作用メカニズムの解明 (ドイツ アーヘン応用科学大学 アートマン教授)	プラズマクラスターイオンは、浮遊菌やウイルスの表面のタンパク質と反応し、内部の細胞質などに影響を及ぼさないことを確認しています。
3	安全性の確認	GLP ^{※2} (優良試験所基準)に適合した試験施設で、信頼性の高い安全性データを取得しています。

目的	試験名称(略称)	イオン濃度試験
皮膚刺激性一般状態	急性皮膚刺激性/腐食性試験	約1,000,000個/cm ³
眼刺激性一般状態	急性眼刺激性/腐食性試験	約13,000,000個/cm ³
遺伝子毒性一般状態	吸入毒性試験 (肺組織の遺伝子影響評価)	約7,000,000個/cm ³

試験機関:三菱化学メディアエンス(株)

※2 GLP(優良試験所基準)とは、化学物質等の安全性評価試験の信頼性を確保するため、試験施設及び、試験操作の手順書などについて定められた基準です。

環境性能の高い商品・デバイスの開発

シャープは、商品・デバイスの環境配慮設計の指針となるガイドラインを策定・運用するとともに、環境性能の優れた商品・デバイスの認定基準を定め、開発目標を設定しています。これらを毎年より厳しく改定することで、商品・デバイスの環境性能を継続的に高めています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
	■ プロダクト
041 ▼ 050	環境性能の高い商品・デバイスの開発
051	使用済み商品のリサイクルの推進
054	■ オペレーション
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度の目標	2012年度の目標
● スーパーグリーンプロダクト(国内)売上高構成比60%以上	● 63%	● 60%以上	● 60%以上
● グリーンシール商品売上高構成比90%以上	● 87%	● 90%以上	● 90%以上
● スーパーグリーンデバイス売上高構成比20%以上	● 24%	● 20%以上	● 20%以上
● グリーンデバイス売上高構成比85%以上	● 90%	● 90%以上	● 95%以上

すべての商品をグリーンプロダクトに

環境配慮型商品を「グリーンプロダクト(以下GP)」と呼び、1998年度から7つのコンセプトに基づいて開発・設計指針をまとめた「GPガイドライン」を国内外すべての商品設計部門で運用しています。

商品の開発にあたっては、GPガイドラインをもとに策定した「GP基準書」に沿って、企画段階で具体的な目標を設定、試作・量産段階でその達成度を評価し、基準を満たしたものをGPとしています。1998年度以降、すべての新商品がGPの基準を満たしています。新たなコンセプトのもと改訂したGPガイドラインに基づいて、今後もさらなる環境配慮型商品の開発を進めます。

■ グリーンプロダクトのコンセプト(2010年度改訂)

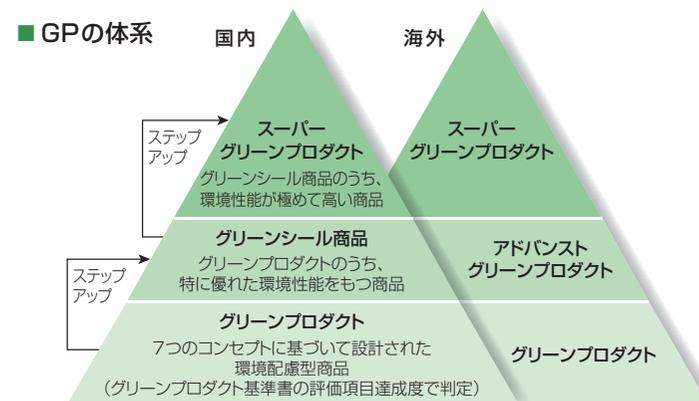
- 省エネ・創エネ** 省エネ・創エネ性能の優れた商品
エネルギー効率の向上、エネルギー使用の削減など
- 省資源** 省資源化を考慮した商品
使用材料の削減、使用時の資源削減、商品の長寿命化など
- リサイクル配慮** リサイクルに配慮した商品
分離・分解しやすい構造設計、再資源化しやすい材料の採用など
- 安全使用・処理** 安全に使用・処理できる商品
人体や地球環境に悪影響を与える物質の不使用など
- グリーンマテリアル・デバイスの使用** グリーンマテリアル・デバイスを使用した商品
再生材料、植物由来プラスチックの採用など
- 電池等の環境配慮** 電池・取扱説明書・包装等の環境配慮性を高めた商品
包装材の削減、電池の取り外ししやすい構造など
- 見える化** 環境配慮性能・環境情報を見える化した商品
環境ラベルの取得、LCAの実施など

スーパーグリーンプロダクトの開発をグローバルに

国内向け商品においては、1998年度からGPの中でも特に優れた環境性能を持つものを「グリーンシール商品(以下GS商品)」、さらに2004年度からは、GS商品の中でも環境性能を極限まで高めたものを「スーパーグリーンプロダクト(以下SGP)」として、それぞれ基準を設けて認定しています。

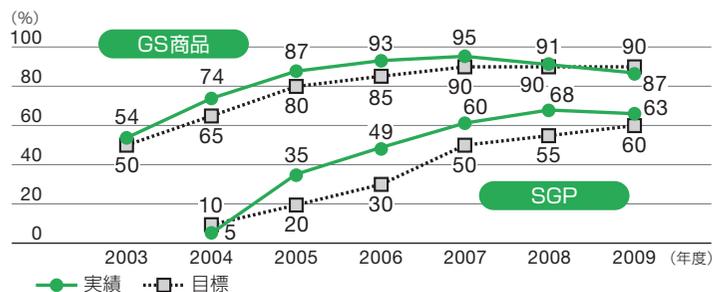
2009年度は、SGPの売上高構成比目標は達成しましたが、GS商品はわずかに及びませんでした。今後さらに環境性能を強化し、目標の達成をめざします。

また、2009年度には、海外向け商品においてもこの取り組みを開始しました。お客さまのニーズや各地域で導入されている制度を踏まえ、地域毎の特性を取り入れた認定基準を設定し、SGPおよびアドバンスグリーンプロダクト(以下AGP)の開発を進めています。



001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー ■ プロダクト
041 ▼ 050	環境性能の高い商品・デバイスの開発
051	使用済み商品のリサイクルの推進
054	■ オペレーション
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

■ 国内のSGPとGS商品の売上高構成比の推移



■ 国内のSGPとGS商品の評価・認定基準(2009年度)

	環境性能評価基準		環境対外訴求基準
	必須項目	必須項目を含む73評価項目の達成度	
SGP (国内)	右の①～⑨を満たしていること 地球温暖化防止 ①消費電力または待機時消費電力などが前モデル以下 ②省エネ基準達成率100%以上	90点以上 地球温暖化防止 低消費電力、高エネルギー効率など 配点 20点	他社商品に比べて、圧倒的に優れた環境配慮がされていること 以下のうち、1つ以上を満たしていること 消費電力 ……各カテゴリー区分における業界トップ 待機電力 ……各カテゴリー区分における業界トップ • 0.1W以下(リモコン待受/タイマー機能を有する商品) • 1.0W以下(電話機、FAX、パソコン) 創エネ ……変換効率業界トップ 運転時省資源 ……各カテゴリー区分における業界トップ(節水・節洗剤など)(電力以外) 小型/軽量化 ……各カテゴリー区分における業界トップ • 従来機種比30%以上の削減 リサイクル材料 ……自己循環型マテリアルリサイクルによってリサイクルされた材料の使用 グリーン材料 ……ハロゲン系難燃剤の廃止、塩ビの代替化 • 地球温暖化係数の低い冷媒の使用 エコマーク取得 ……(財)日本環境協会認定のエコマークの取得 独自技術 ……業界初、または当社独自技術の採用
GS 商品	右の①～⑨を満たしていること 資源有効利用 ③分離分解が容易にできる、またはアップグレードが可能 有害化学物質代替 ④RoHS 対応が完了している ⑤シャープ禁止物質を含んでいない ⑥Ni-Cd 電池を使用していない その他 ⑦包装材の使用総量が前モデル以下 ⑧LCAを実施している ⑨エコラベル取得	70点以上 資源有効利用 リサイクル配慮設計、省資源など 配点 20点 有害化学物質代替 RoHS対応完了など 配点 35点 その他 エコラベル取得、包装材の削減など 配点 25点	

■ 海外のSGPとAGPの認定基準例(テレビ、2009年度)

	省エネ性能基準	環境ラベルの取得
SGP (海外)	• 他社商品に比べて、圧倒的に優れた省エネ性能を有すること (評価項目の基準は、お客さまのニーズや諸制度を考慮して設定)	• 第三者環境ラベルを取得している、申請している、または申請見込みである • 第三者環境ラベル認証制度がなくても、多段階評価制度がある国/地域については、多段階評価制度で業界トップであること
AGP	• 優れた省エネ性能を有すること (評価項目の基準は、お客さまのニーズや諸制度を考慮して設定)	

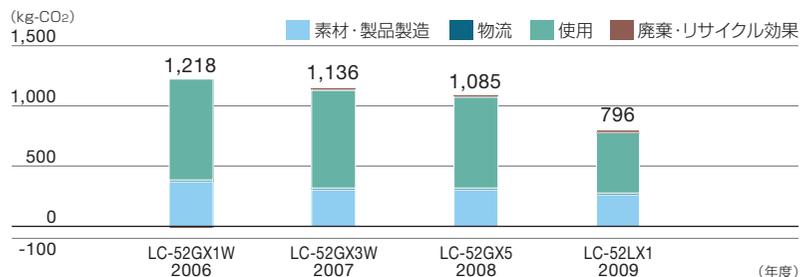
001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マ斯巴ランス
033	環境会計
034	テクノロジー
	プロダクト
041	環境性能の高い商品・デバイスの開発
050	
051	使用済み商品のリサイクルの推進
054	オペレーション
075	リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

商品のライフサイクルを通じた環境負荷の把握と低減

商品のライフサイクルアセスメント(LCA)を実施し、ライフサイクルを通じた環境負荷をCO₂排出量に換算して定量的に把握することにより、特に負荷の大きい部分に注力して削減するよう取り組んでいます。

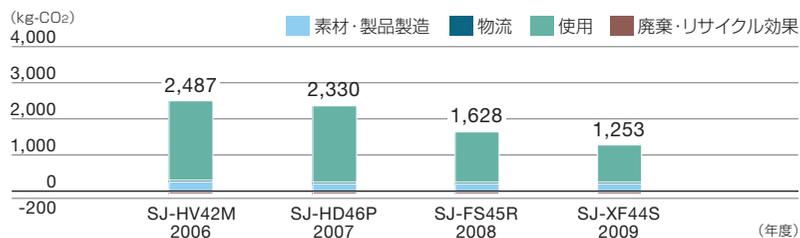
今後も、より環境負荷の小さい商品を創出できるよう、取り組みを推進します。

■ 液晶テレビのLCAデータ経年推移※1

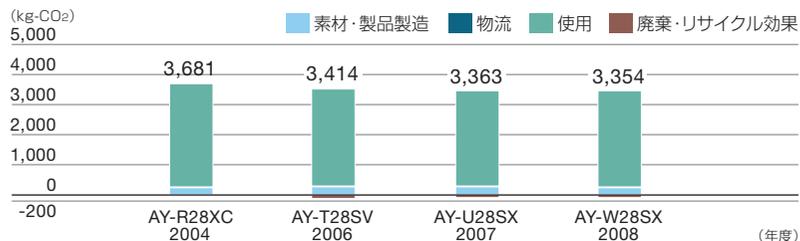


※1 使用時のCO₂排出量は、「エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)」に基づくトップランナー基準の目標年度のうち、2008年度基準の測定法に基づいた年間消費電力量から算定しています。

■ 冷蔵庫のLCAデータ経年推移



■ エアコンのLCAデータ経年推移※2



※2 2009年度はAY-W28SXの後継となる「冷房能力2.8kW寸法フリー」の新製品がないため、2008年度までの経年推移としています。

● 使用時のCO₂排出量は、電力のCO₂排出係数0.373kg-CO₂/kWh(電気事業連合会公表の2008年度実績の排出係数のうち、京都メカニズムクレジット反映後)を使用して、算出しています。

製品のVOC低減

家電製品を快適にご利用いただく取り組みとして、製品のVOC※3低減に取り組んでいます。

2009年度は、リビングで常時使用される家電製品とモバイル製品を中心に、17製品、41機種種のVOC測定を実施するとともに、各事業本部の技術者31名を対象に、低VOC製品開発研修を実施しました。

より安心・安全なモノづくりをめざして、今後も製品のVOCを低減する取り組みを推進します。



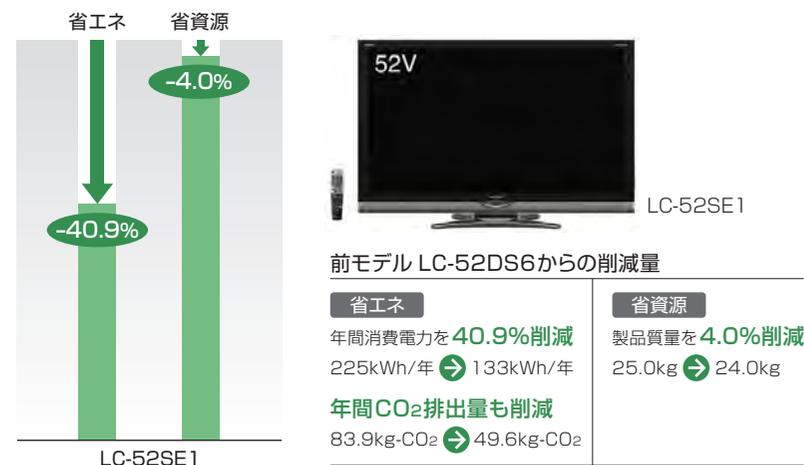
低VOC製品開発研修

※3 VOC:揮発性有機化合物の総称。化学物質過敏症やシックハウス症候群の原因とされている。

環境性能評価指標を試行導入

商品の環境性能を消費者の皆さまにわかりやすくお伝えするとともに、社内における環境配慮型商品創出の指針とするため、2009年度から「環境性能評価指標」の試行導入を開始しました。これは、「省エネ」と「省資源」の「従来モデルからの改善率」を示すものです。今後は、よりわかりやすい指標の検討を進めるとともに、開示する機種種の拡大を図ります。

■ 環境性能評価指標の例(液晶テレビAQUOS LC-52SE1)



001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■テクノロジー
	■プロダクト
041 ▼ 050	環境性能の高い商品・デバイスの開発
051	使用済み商品のリサイクルの推進
054	■オペレーション
075	■リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

グリーンデバイスとスーパーグリーンデバイスの開発

環境に配慮したデバイスを「グリーンデバイス(以下GD)」と呼び、2004年度から、7つのコンセプトに基づいて開発・設計指針をまとめた「GDガイドライン」をすべてのデバイス設計部門で運用しています。

デバイスの開発にあたっては、GDガイドラインをもとに策定した「GD基準書」に沿って、企画段階で具体的な目標を設定、試作・量産段階でその達成度を評価し、基準を満たしたものをGDとしています。

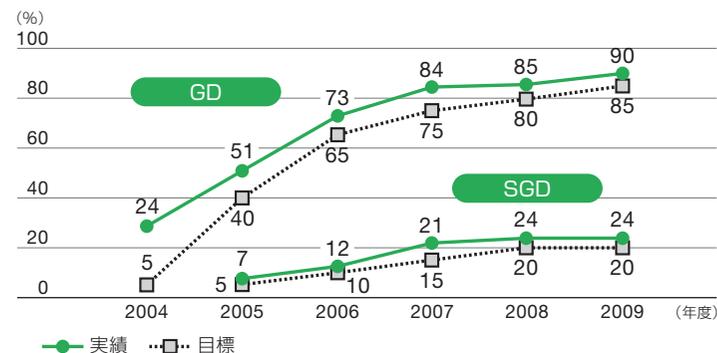
さらに2005年度からは、GDの中でも環境性能を極限まで高めたものを「スーパーグリーンデバイス(以下SGD)」として認定しています。

2009年度は、GDおよびSGDともに売上高構成比目標を達成しました。今後もさらに売上高構成比を高める計画です。

■グリーンデバイスのコンセプト

- 省エネ** エネルギー効率が良く、エネルギー使用の少ないデバイス
消費電力(量)、待機時消費電力の削減など
- 省資源** 省資源化を考慮したデバイス
質量、容積の削減など
- リサイクル配慮** リサイクルに配慮したデバイス
標準化されたプラスチックの使用、分離・分解しやすい構造設計など
- 安全使用・処理** 安全に使用・処理できるデバイス
部品・材料含有化学物質管理の実施など
- 長寿命化** 製品の長寿命化に配慮したデバイス
部品・消耗品を交換することにより寿命の延長が可能など(対象:液晶デバイス)
- 包装** 包装の環境配慮性を高めたデバイス
包装材料の削減など
- 情報開示** 環境情報の開示が可能なデバイス
含有化学物質の情報開示が可能など

■SGDとGDの売上高構成比の推移



■SGDとGDの認定基準(2009年度)

	環境性能評価基準		対外訴求基準
	必須項目	必須項目を含む34評価項目の達成度	
SGD	右の①~⑬を満たしていること	95%以上	業界トップの環境性能を有すること
GD	右の①~⑩を満たしていること	90%以上	-

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■テクノロジー
	■プロダクト
041	▼
050	環境性能の高い商品・デバイスの開発
051	使用済み商品のリサイクルの推進
054	■オペレーション
075	■リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度のSGPとSGD認定製品事例

SGP 液晶テレビLED AQUOS

日本

■省エネNo.1※1

※1 LC-52SE1/46SE1/40SE1: 2010年1月28日現在。年間消費電力量での比較。AVポジションを「標準」として測定。

- 新開発「UV²A技術」採用の次世代液晶パネルと、高精度で効率良く発光するLEDバックライトの組み合わせで、高画質と一層の省エネを実現
- 人の動きを感知し、自動的に節電モードに切り換える「ムーブセンサー」搭載
- 年間消費電力量※2
LC-52SE1: 151kWh/年、LC-46SE1: 136kWh/年、LC-40SE1: 118kWh/年



LC-52SE1

■グリーン材料の使用

- ノンハロゲンキャビネット、ハロゲンフリーの電源コードと機内配線、基板に無鉛はんだ、再生材を混合した樹脂を使用したスタンドを採用

■リサイクル設計

- 自己循環型マテリアルリサイクル可能なバックキャビネットを採用

※2 2010年4月に改定された新基準に基づいて算出。

SGD 新開発の次世代液晶パネルとLEDバックライト採用の次世代液晶モジュール

■省エネ

- 液晶パネル: 世界初※3の光配向技術「UV²A※4技術」を採用し、少ない光量でも明るく、高い光透過率を実現した新開発液晶パネルを採用
- バックライト: 高精度で効率の良い発光が可能なLEDを採用
- 新開発液晶パネルとLEDバックライトの組み合わせで、際立つ省エネを実現

■高コントラスト

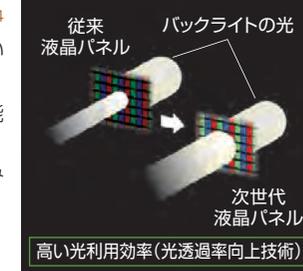
- テレビコントラスト200万:1※5を実現

※3 第6世代マザーガラス以上の大型ガラス基板を用いた量産ベースにおいて。当社調べ。

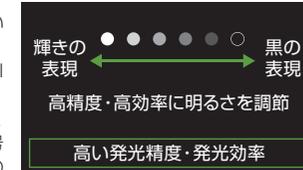
※4 Ultraviolet induced multi-domain Vertical Alignmentの略。

※5 画面を正面から見た場合。テレビコントラストとは、テレビセットとして表現できるコントラスト(全白信号での画面最大輝度と全黒信号での画面最小輝度の比)。200万:1はAVポジション「ダイナミック」時。

新開発液晶パネル



LEDバックライト



SGP ソーラーパネル搭載ケータイ

日本

■創エネ

- シャープ製ソーラーパネルを搭載し、10分間のソーラー充電で、約1分間の通話あるいは約2時間の待受が可能※6

■防水

- 防水対応(IPX5/IPX7相当)

KDDI株式会社向け
「SOLAR PHONE SH002」



※6 次の条件の下、人工光源で測定した目安値です。お買い上げ時の設定より、省エネモードONに設定/快晴時の屋の直射日光で充電/太陽に垂直に向ける/電波状態良好(アンテナカバー 3本)/通話中に電源が切れた後、すぐにソーラー充電を開始/電源起動後、すぐに発信した場合。

■創エネ

- シャープ製ソーラーパネルを搭載し、10分間のソーラー充電で、約1分間の通話あるいは約2時間の待受が可能※7

■防水

- 防水対応(IPX5/IPX7相当)

ソフトバンクモバイル株式会社向け
「SOLAR HYBRID SoftBank 936SH」



※7 次の条件下で、ソーラー充電ランプが「緑色点灯」で充電した計測値です。国内で利用/通話中に電源が切れた直後に充電を開始/気温25℃/太陽に雲がかからない日の屋の直射日光で充電/太陽にソーラーパネルを垂直に向けて充電(ソーラーパネルが影になっていない状態)/バックライトの明るさ設定が「2」/電波状態が良好/電源を入れた直後に117(時報)へ発信した場合。

■創エネ

- シャープ製ソーラーパネルを搭載し、10分間のソーラー充電で、約1分間の通話あるいは約3時間の待受が可能※8

■防水

- 防水対応(IPX5/IPX7相当)

株式会社NTTドコモ向け
「docomo STYLE series SH-08A」



※8 次の条件下で、ソーラー充電ランプが「緑色点灯」で充電した計測値です。国内で利用/通話中に電源が切れた直後、快晴(太陽に雲がかかっていない日)の正午の屋外(気温25℃)で、ソーラーパネル上にシールや汚れが付着していない、影になっていない状態で、太陽に対してソーラーパネル面を90度にして充電を開始/電波状態が良好/電源を入れた直後に117(時報)へ発信した場合。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
	■ プロダクト
041	環境性能の高い商品・デバイスの開発
050	
051	使用済み商品のリサイクルの推進
054	■ オペレーション
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度のSGP認定製品事例

SGP プラズマクラスター冷蔵庫 日本

■ 省エネNo.1※1

※1 2010年4月20日現在。定格内容積501L以上の国内家庭用ノンフロン冷凍冷蔵庫において。

- 省エネ効率に優れた高性能コンプレッサーとその性能を引き出すワイドリニアインバーター制御を採用
- 省エネと省スペース大容量を両立する高性能真空断熱材を採用
- 年間消費電力量：260kWh/年

■ グリーン材料の使用

- 「自己循環型マテリアルリサイクル」技術によって再生したプラスチックを使用
- ノンフロン冷媒R-600a採用、オゾン破壊係数ゼロ、地球温暖化係数は従来の代替フロン約1/400



SJ-ZF52S



SGP プラズマクラスターエアコン 日本

■ 省エネNo.1※2

※2 2010年3月1日現在。家庭用ルームエアコン (AY-Z50SX) 5.0kWクラスにおいて。

- 流体力学を応用した気流制御技術「上下両開きロングパネル方式」と「つつみ込む気流」を室内機に採用し、風の抵抗を極限まで抑え、余分なエネルギーを抑制しながら健康的な冷暖房を実現
- 生体模倣学を応用した新開発の「鳥の翼形状ファン」を室外機に採用し、風の流れを上手に活用して高効率に運転
- 省エネ効果を持続させる「フィルター自動掃除機能」を搭載
- エネルギー効率を高め、さらなる省エネを実現する「エネワザ運転」搭載
- 期間消費電力量：1,670kWh



AY-Z50SX



2009年「癒し快適エビデンス推奨マーク」
第1号(冷房)・第2号(暖房)
主催：大阪健康サービス産業創造協議会

SGP プラズマクラスター洗濯機 日本

■ 節水No.1※3

※3 洗濯10kg洗濯乾燥機において。洗濯10kg使用水量67L、所要時間約35分。2010年2月現在。

- 微細な蒸気を噴射して、衣類の汚れを浮かし出す、新開発「ホットスチーム」技術を採用し、節水と時間短縮を実現
- 循環ポンプで洗剤液やすすぎの水を効率良く振りかける循環シャワー洗浄と循環シャワーすすぎ方式を採用

■ 省エネ

- 消費電力：2,050Wh(洗濯～乾燥)



ES-V510



SGP LED電球 日本

■ 長寿命

- 設計寿命は40,000時間※4で、一般的な白熱電球の約40倍。(E17口金小形電球タイプは25,000時間※4)

■ 省エネ

- 消費電力が少なく、1カ月間(1日10時間×30日間)の電気料金は、DL-L401N、DL-L401L(消費電力4.1W)が約28円、DL-L601N、DL-L601L(消費電力7.5W)は約50円※5

■ グリーン材料の使用

- 水銀を不使用

■ 調色・調光機能搭載

- DL-L60AVは付属のリモコンで電球色から昼白色に変えることができ、明るさのコントロールも可能

※4 器具光束が初期の70%まで低下するまでの時間。設計寿命であり、製品の寿命を保証するものではありません。

※5 電力料金目安単価22円/kWh(税込)で計算。



DL-L60AV



平成21年度
省エネ大賞
(調色・調光部門)
省エネルギーセンター会長賞
賞状
DL-L60AV/DL-L60AN/DL-L60AVL/DL-L401N/DL-L401L/DL-L401N/DL-L401L



「プラズマクラスター」技術

自然界に存在するのと同一+・-のイオンをプラズマ放電により作り出して放出し、浮遊ウイルスの作用を抑え(1m³の密閉容器での試験による10分後の効果であり、実使用空間での実証結果ではありません)、浮遊カビ菌等を分解・除去するシャープ独自の空気浄化技術。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
環境とシャープ	
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■テクノロジー
	■プロダクト
041	環境性能の高い商品・デバイスの開発
050	
051	使用済み商品のリサイクルの推進
054	■オペレーション
075	■リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度のSGPとSGD認定製品事例

SGP 住宅用多結晶太陽電池モジュール 日本

■ 高効率に創エネ

- 無尽蔵の太陽光を利用して、高効率に創エネ
- モジュール変換効率 13.9%

■ 設置容量の拡大

- 太陽電池モジュールおよび架台(太陽電池モジュールを屋根に固定する金具)の耐風圧性能を強化。屋根の設置有効スペースを拡大し、従来よりもモジュール設置枚数が増加

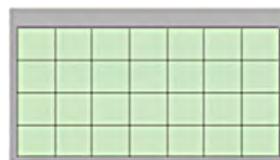


ND-160AV

<ND-153AU>
3.67kWシステム
モジュール設置枚数 24枚



<ND-160AV>
4.48kWシステム
モジュール設置枚数 28枚



設置容量
22.0%
アップ

SGP デジタルモノクロ複合機 日本

■ 省エネ

- 予熱モードとオートパワーシャットオフモードを搭載した省エネ設計

■ グリーン材料の使用

- 欧州RoHS規制に対応
- 塩ビ樹脂を使用しないACコードを採用

■ 省スペース

- 「コピー」「プリンタ」「ファクス」「スキャナ」の4つの機能を、コンパクトなボディに集約
- 排出部を本体に収めたウィングレス設計を採用



MX-M310FP



SGD 1/4型500万画素AF機能付き CMOSカメラモジュール

■ 業界最小・最薄サイズ※1

- ※1 2009年11月10日現在。
1/4型500万画素AF機能付きCMOSカメラモジュールとして(シャープ調べ)。

- 容積0.36ml、厚さ5.0mm
- 業界最小クラスの1.4μm画素セルを採用した1/4型500万画素CMOSイメージセンサを搭載
- 携帯電話に搭載するカメラの高画素・高画質・高機能化と小型・薄型化のニーズに対応



RJ64SC100

SGD 「表面実装タイプ※2」照明用LEDデバイス

■ 高演色

- 色を忠実に再現する高演色を実現
- 演色評価数(Ra)※3: 85

- ※2 面発光照明(シーリングライトなど広い空間を照らす照明)に適す。
- ※3 試験光源と比較して色のズレを数値化したもので、数値が100に近いほど色ズレが少ない。

■ 業界最高水準※4の高発光効率

- ※4 投入電力0.5W、演色評価数(Ra)85の照明用LEDデバイスにおいて。
- 二重封止構造のパッケージで光の取出効率を向上し、光束38ルーメンを実現



GM2BB50BMOC

TOPICS

青色LEDチップの量産をスタート

液晶テレビのLEDバックライトやLED照明向けに需要が拡大する青色LEDチップの生産を2010年1月から三原工場(広島県三原市)でスタート。2010年内には福山工場(同県福山市)でも量産を開始し、シャープの青色LEDチップの生産能力は両工場あわせて2011年度に年間約50億個となります。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
	■ プロダクト
041	▼
050	環境性能の高い商品・デバイスの開発
051	使用済み商品のリサイクルの推進
054	■ オペレーション
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度のSGPとAGP認定製品事例

SGP 液晶テレビ LED AQUOS

オーストラリア



LC-52LE700X

■ 省エネNo.1※1

※1 MEPSの各社公表値による比較。2010年1月現在。

- オーストラリア最小エネルギー消費効率基準 (MEPS) 業界最高ランク7-star取得
- 少ない光量でも明るい、新開発「UV²A技術」採用の次世代液晶パネルと、高精度で効率良く発光するLEDバックライトの組み合わせで、高画質と一層の省エネを実現
- 年間消費電力量：363kWh/年

SGP デジタルモノクロ複合機

欧州



MX-M260

■ 省エネ

- TEC値※2 1.78kWh、前モデル (AR-M256) 比23%削減

■ 第三者環境ラベルの取得

- ブルーエンジェル
- ノルディックスワン



※2 国際エネルギースタープログラムが定めた、1週間当たりの標準消費電力量。稼働とスリープ/オフが繰り返される5日間とスリープ/オフ状態の2日間の合計値。

AGP 薄膜太陽電池モジュール

欧州



NA-F128G5

■ 高効率に創エネ

- 無尽蔵の太陽光を利用して、高効率に創エネ
- モジュール変換効率9.0%、前モデル (NA-F121G5) 比5.9%向上
- 薄膜シリコン太陽電池セルは200℃以下の低温プロセスで製造でき、生産プロセスも短いため、従来タイプの結晶シリコン太陽電池より少ないエネルギーで製造可能

TOPICS

グローバルに環境配慮型製品の普及を促進

米国

シャープの販売会社SECは、環境保護庁(EPA)およびエネルギー省(DOE)主催の「エネルギースター賞2010」において、当プログラムに参加している1万7千を超える企業や団体の中から、優秀賞を受賞しました。

9つの商品カテゴリーでのエネルギースター※3取得をはじめ、消費電力を大幅に削減したLED AQUOSの市場導入や当プログラムの基準策定への積極的な参画など、省エネ機器の普及促進に注力したことが評価されました。

※3 電気機器の省電力化を促進するために実施されている環境ラベリング制度。



「エネルギースター賞2010」優秀賞の盾

タイ

シャープの複合機4機種(MX-2600N、MX-3100N、AR-5516、AR-5520)がタイ環境省からグリーンラベル認証※4を取得しました。これらの機種は、予熱モードとオートパワーシャットオフモードを搭載するなど、高い環境性能を実現しています。

※4 多種多様な環境配慮型商品やサービスを認証する制度で、1994年にタイ持続可能な発展ビジネス協議会(TBCSD)のプロジェクトとして施行され、タイ環境研究所(TEI)およびタイ工業省によって運営されている。



10月8日に開催された認証式

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
	■ プロダクト
041 ▼ 050	環境性能の高い商品・デバイスの開発
051	使用済み商品のリサイクルの推進
054	■ オペレーション
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

■ 2009年度のSGP・AGP認定機種一覧

		品種名	機種名	
SGP	日本	液晶カラーテレビ	LC-60LX1/52LX1/46LX1/40LX1 LC-52SE1/46SE1/40SE1 LC-52DX2/46DX2/40DX2 LC-60DS6/52DS6 LC-52AE6/46AE6/40AE6 LC-26DE7/20DE7 / LC-20NE7	
			冷蔵庫	SJ-ZF52S / SJ-XF52S/XF47S/XF44S / SJ-XW47S/XW44S
			エアコン	AY-Z63SX/Z50SX
			洗濯機	ES-V510 / ES-TG830 / ES-GE60K/GE55K
			空気清浄機	KC-Y80/Y65/Y45
			プラズマクラスター イオン発生機	IG-B200/B100/B20 / IG-BK100 / IG-BC15/BA15
			携帯電話	SH006 / SH005 / SH004 / SH003 / SH002 / SHY01 SoftBank943SH/942SH/941SH/940SH/ 832SHs/832SH/936SH/935SH/934SH/933SH DM005SH SH-06B/05B/03B/02B/01B/08A/06A/05A
		ファクシミリ	UX-D82CL/D82CW	
		電子辞書	PW-AC910/AC900	
		LED 電球	DL-L60AV DL-L60AN/L60AL/L40AN/L40AL DL-L601N/L601L/L401N/L401L DL-L81AN/L81AL DL-J40AN/J40AL	
		デジタル複合機	MX-C381 / MX-M310FP/M260FP	
		インフォメーション ディスプレイ	PN-E601/E521/E471	
		太陽電池モジュール	ND-160AV/160AVL/114CV/160AV1/160AL	

■ 2009年度の環境ラベル取得機種数

国際エネルギー スタープログラム※1	液晶テレビ	ブルーレイディスクレコーダー	オーディオ	複合機
	44	3	9	72
エコマーク※2	プリンタ	インフォメーションディスプレイ	ファクシミリ	エアコン
	3	20	16	9
PCグリーンラベル※2	複合機	電卓	太陽光発電用パワーコンディショナ	
	20	4	8	
ノルディックスワン※4	パソコン	EUエコラベル※3	液晶テレビ	
	8		20	
ブルーエンジェル※5	複合機	プリンタ	複合機	
	19	2	13	

〈対象国〉 ※1 日本、米国、EU加盟国など ※2 日本 ※3 EU加盟国 ※4 ノルウェー、デンマーク、フィンランド、アイスランド、スウェーデン ※5 ドイツ ※6 中国

		品種名	機種名
SGP	欧州	液晶カラーテレビ	LC-46LE600E / 40LE600E/S / 32LE600E LC-52LE700E/S / 46LE700E/S / 40LE700E/S / 32LE700E/S / 46LU700E/S / 40LU700E/S / 32LU700E/S / 46LX700E / 40LX700E / 32LX700E
		デジタル複合機	MX-M260
	北米	液晶カラーテレビ	LC-52LE700UN / 46LE700UN / 40LE700UN / 32LE700UN
		デジタル複合機	MX-M260 / M310
	豪州	液晶カラーテレビ	LC-52LE700X / 46LE700X
	AGP	欧州	デジタル複合機
薄膜太陽電池 モジュール			NA-F128G5
北米		デジタル複合機	MX-M283N / M363N / M453N / M503N / M363U / M453U / M503U
豪州		液晶カラーテレビ	LC-46LB700X / 40LB700X / LC-40LE700X
台湾		液晶カラーテレビ	LC-52AE6T / 46AE6T

香港省エネラベル	複合機	エアコン	
	5	8	
タイグリーンラベル	複合機	エアコン	
	4	10	
中国環境ラベル	複合機	台湾省エネルギー ラベル	エアコン
	23		4
節能ラベル※6	液晶テレビ	プロジェクター	複合機
	8	8	38
	インフォメーションディスプレイ		エアコン
	4		14

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
	■ プロダクト
041 ▼ 050	環境性能の高い商品・デバイスの開発
051	使用済み商品のリサイクルの推進
054	■ オペレーション
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

グリーン調達を推進

2000年に「グリーン調達ガイドライン」を策定し、調達先企業とともに、部品・材料レベルから環境配慮性を高める取り組みを進めています。

2003年からはグリーン調達調査共通化協議会(JGPSSI)^{※1}で定めた調査対象物質の含有状況を調査するとともに、RoHS指令^{※2}への対応を開始し、2005年度末までに欧州向け全商品について、対応を完了しました。また、2006年度からは、「グリーン調達ガイドライン」と「部品・材料含有化学物質調査マニュアル」に基づき、Webによる調査を国内外の調達先で導入しています。

さらに2008年度には、REACH規則^{※3}の登録義務に対応するシステムを構築し、2008年11月末までに予備登録^{※4}を完了しました。2009年度は、日本をはじめ、欧州、アジア、中国の調達先企業を対象にREACH規則への対応方針説明会を実施し、高懸念物質調査をグローバルに推進するとともに、届出義務に対応するシステムを構築しました。2011年6月1日までにREACH規則の届出義務への対応を完了する予定です。



調達先企業を対象に実施したREACH規則対応方針説明会

- ※1 部品や材料に含有される化学物質調査の共通化を図る協議会。当社を含む電気・電子機器メーカーを中心とする有志企業59社および2団体で構成。
- ※2 「電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限」に関するEU指令。2006年7月1日以降、EUの市場に投入される電気・電子機器について、鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、ポリ臭化ジフェニル(PBB)、ポリ臭化ジフェニルエーテル(PBDE)の使用を制限している。
- ※3 EU域内で製造もしくは輸入する化学物質の登録・評価・認可を義務付ける欧州新化学物質規制。
- ※4 REACH規則を既存の化学物質へ適用するための移行規定で、2008年6月1日から12月1日までの6カ月間に予備登録を行うと、正式登録まで猶予期間が与えられる制度。

 グリーン調達ガイドライン

使用済み商品のリサイクルの推進

シャープは、「最終処分率ゼロをめざしたリサイクル率の向上」、「リサイクルコスト低減につながるリサイクルシステムの高効率化」、「リサイクル技術の開発と商品設計への反映」という3つの方針のもとに、使用済み商品のリサイクルを進めています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
	■ プロダクト
041	環境性能の高い商品・デバイスの開発
051 ▼ 053	使用済み商品のリサイクルの推進
054	■ オペレーション
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度の目標	2012年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> リサイクルシステムの拡充 薄型テレビリサイクルの高効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 薄型テレビリサイクル処理時間半減 	<ul style="list-style-type: none"> ブラウン管テレビ引き取り台数増加に対応した処理の高効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 液晶テレビパネルガラスの高付加価値リサイクルの実現

家電4品目(エアコン・テレビ・冷蔵庫・洗濯機)のリサイクルを推進

当社は、家電リサイクルBグループ※1の一員として、全国18カ所のプラントで高効率のリサイクルシステムを構築・運用しています。

2009年4月には、家電リサイクル法の改正により対象機器に追加された薄型テレビ(液晶式、プラズマ式)と衣類乾燥機のリサイクルを開始しました。また、10月からはすべての指定引取場所について、Aグループ※2との共同利用を開始しました。

2009年5月のエコポイント制度の導入により、ブラウン管テレビの引き取り台数が年間約128万台(前年比205%)に急増しましたが、Bグループ全体で迅速に対応し、適正に再商品化処理を行いました。

2009年度の当社家電4品目の引き取り台数は約228万台(前年度比153%)、再商品化等処理台数は約210万台(同143%)。再商品化率は4品目とも法定基準を上回りました。

薄型テレビのリサイクルラインを構築

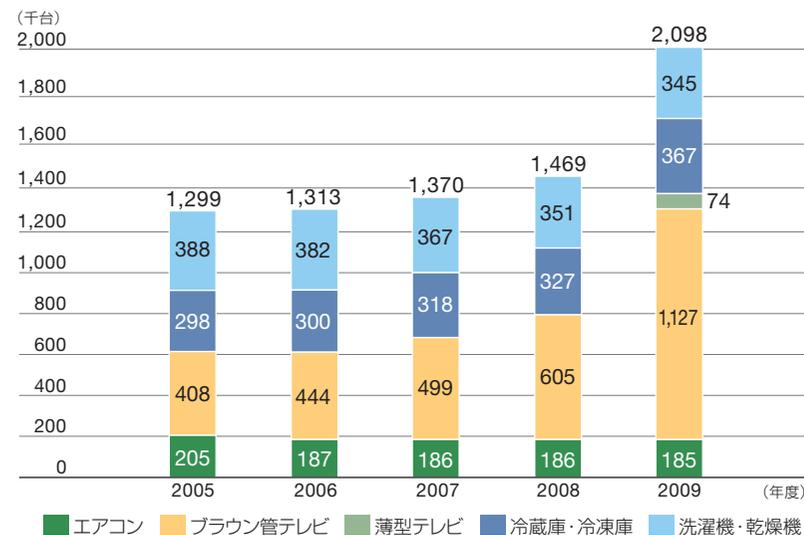
当社は、関西リサイクルシステムズ株式会社※3と共同で、同社第2工場に薄型テレビ専用のリサイクルラインを構築し、2009年4月に稼働させました。将来予測される薄型テレビ引き取り台数の増加に備えて、稼働当初から効率向上に取り組み、2009年度には小型専用処理ラインの設置や省力化機器の導入などによって、1台当たりの解体作業時間を約半分に短縮することができました。今後も解体ラインの検討・改良を進めます。

※1 当社、三洋電機、ソニー、日立アプライアンス、富士通ゼネラル、三菱電機などで構成。

※2 東芝、パナソニックなどで構成。

※3 当社と三菱マテリアルおよび電機5社(三洋電機、ソニー、日立アプライアンス、富士通ゼネラル、三菱電機)が共同出資している家電リサイクル会社。

■ 当社の家電4品目の再商品化等処理台数の推移



■ 当社の家電4品目の再商品化等実施状況(2009年度)

	単位	エアコン	ブラウン管テレビ	薄型テレビ	冷蔵庫・冷凍庫	洗濯機・乾燥機
再商品化率	%	90	90	80	77	89
法定再商品化率	%	70	55	50	60	65
指定引取場所での引取台数	千台	189	1,286	90	371	349
再商品化等処理台数	千台	185	1,127	74	367	345
再商品化等処理重量	t	7,655	32,106	1,048	21,992	11,648
再商品化重量	t	6,937	29,173	845	16,988	10,368

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■テクノロジー
	■プロダクト
041	環境性能の高い商品・デバイスの開発
051	使用済み商品のリサイクルの推進
053	
054	■オペレーション
075	■リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

TOPICS

ブラウン管テレビの引き取り台数急増に対応

関西リサイクルシステムズ株式会社は、2011年7月に予定されている地上アナログ放送の終了に伴うブラウン管テレビの引き取り台数増加を見越して、いち早く2006年12月に第2工場として、最新鋭のテレビ専用リサイクル工場を稼働させ、ブラウン管テレビの分解からガラスカレットの精製※1まで一貫したリサイクルを進めてきました。

2009年度には、5月からスタートしたエコポイント制度により、ブラウン管テレビの回収量が急増しましたが、全自動防爆バンド※2除去システムの開発・導入や回収部品搬送コンベアの設置など、解体ラインの改善を実施し、処理効率を大幅に高めることで対応しました。特に、防爆バンドの除去については、これまで手解体で引き剥がす際の作業負荷が大きく、全自動システムの導入により、大幅な効率向上と同時に、作業者の負荷低減と安全確保も実現しました。

同社は、今後もリサイクル技術の開発により、効率の向上と作業環境の改善に取り組むとともに、工場への見学受け入れなどを通してリサイクルへの理解促進を図り、資源の有効利用に貢献する考えです。

※1 使用済みブラウン管のガラスから異物を除去し、細かく精製すること。
※2 「爆縮」と呼ばれる現象でブラウン管のガラス片が飛び散るのを防ぐための部品。



全自動防爆バンド除去システム

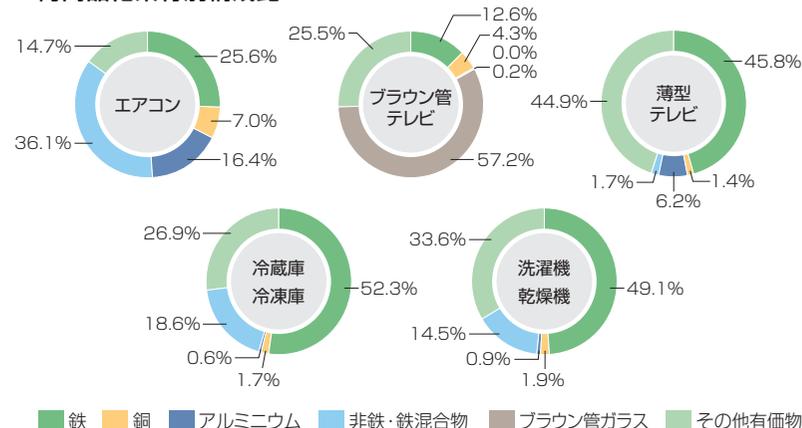
ロボットでコンベアからブラウン管を持ち上げて防爆バンド除去装置に移動・設置し、除去装置でブラウン管を回転させながら防爆バンドを取り外します。



■製品の部品または材料として利用する者に有償または無償で譲渡し得る状態にした場合の当該部品および材料の総重量(2009年度)

品目	単位	エアコン	ブラウン管テレビ	薄型テレビ	冷蔵庫 冷凍庫	洗濯機 乾燥機
鉄	t	1,779	3,677	387	8,882	5,092
銅	t	489	1,268	12	281	194
アルミニウム	t	1,141	8	52	97	96
非鉄・鉄等混合物	t	2,507	60	14	3,156	1,502
ブラウン管ガラス	t	-	16,706	-	-	-
その他有価物(プラスチック等)	t	1,019	7,452	379	4,569	3,482
総重量	t	6,937	29,173	845	16,988	10,368

■再商品化素材別構成比



■冷媒として使用されていたフロン類の回収重量、出荷重量、破壊重量(2009年度)

	単位	エアコン	冷蔵庫・冷凍庫
冷媒として使用されていたフロン類の回収重量	kg	116,090	40,363
冷媒として使用されていたフロン類の破壊委託先に出荷した重量	kg	116,154	40,105
冷媒として使用されていたフロン類の破壊重量	kg	115,565	40,099

■断熱材に含まれる液化回収したフロン類の回収重量、出荷重量、破壊重量(2009年度)

	単位	エアコン	冷蔵庫・冷凍庫
断熱材に含まれる液化回収したフロン類の回収重量	kg	-	60,769
断熱材に含まれる液化回収したフロン類の破壊委託先に出荷した重量	kg	-	60,117
断熱材に含まれる液化回収したフロン類の破壊重量	kg	-	57,854

●回収・出荷・(委託先での)破壊の時期が年度をまたぐことがあるため、数値に差異があります。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
	■ プロダクト
041	環境性能の高い商品・デバイスの開発
051 ▼ 053	使用済み商品のリサイクルの推進
054	■ オペレーション
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

リサイクル設計研修を継続的に開催

リサイクルしやすい商品設計を促進するため、関西リサイクルシステムズ株式会社のご協力の下、主に商品の企画・設計担当者を対象に「リサイクル設計研修」を2001年度から実施しています。

本研修では、講義や家電リサイクルラインの見学に加えて、実際に使用済み家電製品の解体を体験するプログラムを組んでおり、ここで体感した設計上の課題を商品の企画・設計に反映することを狙っています。

2009年度は、計3回、累計45名を対象に実施しました。今後も継続的に研修を実施し、リサイクル配慮設計の浸透を図ります。



使用済み家電製品の解体実習

全米でテレビを中心に製品のリサイクルを推進

米国では、現地販売会社SEC※1が、パナソニック・ノース・アメリカ、東芝アメリカ家電社と共同で家電リサイクル管理会社MRM※2を2007年9月に設立し、テレビを中心にAV機器のリサイクルを開始しました。2008年11月にはこのプログラムを全米に拡大して、約600カ所に使用済み家電の回収拠点を設置し、回収イベントの開催など、様々な施策を自主的に展開するとともに、各州で定められた法規制への適切な対応を図っています。

これらの活動が評価され、MRMに対して、2009年10月に米国環境庁(EPA)から「全米TVリサイクル・チャレンジ賞」※3が授与されました。

- ※1 Sharp Electronics Corporation
- ※2 Electronic Manufacturers Recycling Management Company, LLC
- ※3 EPAが2002年より実施している家電リサイクルプログラム「Plug-In To eCycling」の一環として2009年に創設。



「全米TVリサイクル・チャレンジ賞」の楯

複写機のリユース・リサイクルを推進

自社流通ルートおよび業界共同ルートで回収した使用済み複写機の再生・再資源化を進めています。回収した使用済み複写機約3万4千台(前年度比89%)は、すべて手作業で素材ごとに分解・分類して再資源化するとともに、一部の部品および装置類を再利用しました。

また、使用済みトナーカートリッジは、自社で構築した回収ルートにより、約97万個(前年度比111%)を回収し、合計12種類、約43万個(同178%)を新品同等の品質保証で再生し、出荷しました。今年も対象機種と再生量の拡大をめざします。

パソコンのリサイクルを推進

「資源有効利用促進法」に基づき、家庭系および事業系の使用済みパソコンをリサイクルしています。

家庭系パソコンでは、業界共通の回収・再資源化システムを運用しており、郵便事業株式会社と連携して、全国の郵便局で回収しています。

また、事業系パソコンは、2009年2月から一般社団法人 パソコン3R推進協会に委託し、業界共通の枠組みの中で、効率的な回収・再資源化を進めています。

2009年度は、家庭系・事業系パソコン(ノート、デスクトップ)約6,200台(前年度比109%)とディスプレイ約2,000台(同100%)を回収し、リサイクルしました。

■ 使用済みパソコンの回収・再資源化実績(2009年度)

製品区分	事業系 家庭系	回収重量 (kg)	回収台数 (台)	再資源化 処理量 (kg)	資源 再利用率 (kg)	資源 再利用率 (%)※4	法定 目標値 (%)※5
デスクトップ パソコン本体	事業系	124	15	3,564	2,807	78.8	50.0
	家庭系	3,440	418				
	合計	3,564	433				
ノートブック パソコン	事業系	835	284	16,978	11,748	69.2	20.0
	家庭系	16,143	5,489				
	合計	16,978	5,773				
CRT ディスプレイ	事業系	244	20	4,786	3,261	68.1	55.0
	家庭系	4,542	372				
	合計	4,786	392				
液晶 ディスプレイ	事業系	907	213	6,782	5,684	83.8	55.0
	家庭系	5,875	1,379				
	合計	6,782	1,592				

※4 使用済み製品の再資源化処理量に対する再生部品・再生資源の量。

※5 「資源の有効な利用の促進に関する法律」で定められている2003年度末までの資源再利用率の達成目標。

小形二次電池の回収実績

当社は、一般社団法人 JBRCに加盟し、同法人が運営する「使用済み小形二次電池の回収システム」に参画しています。2009年度はJBRCとして1,355tの廃電池を回収しました。

環境マネジメントシステムの推進

シャープ独自の戦略的経営管理システムをベースに、環境と品質のマネジメントシステムを一体化した「統合マネジメントシステム」の構築や環境教育の推進などを通して、環境経営の強化と従業員の環境意識の向上に継続的に取り組んでいます。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054 ▼ 056	環境マネジメントシステムの推進
057	工場の環境配慮性を高める取り組み
061	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063	温室効果ガスの排出抑制
067	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用する化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度の目標	2012年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> 統合マネジメントシステムの構築 海外生産工場: 累計5 	<ul style="list-style-type: none"> 海外生産工場: 累計5 	—	—
—	—	<ul style="list-style-type: none"> S-EMSの再構築 S-EMSの再評価と改定案まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 改定S-EMSの構築
—	—	<ul style="list-style-type: none"> 国内オフィスの環境マネジメントシステム推進体制の再構築 地域ごとに統轄サイトを設置 	<ul style="list-style-type: none"> 会社単位での管理への移行準備(会社単位地域統轄サイト設置)
<ul style="list-style-type: none"> 環境e-ラーニングの推進(国内オフィス、海外生産工場・オフィス) 基礎編(Step1)の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎編(Step1)を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 応用編(Step2)の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 応用編(Step3)の実施

環境マネジメントシステムの展開

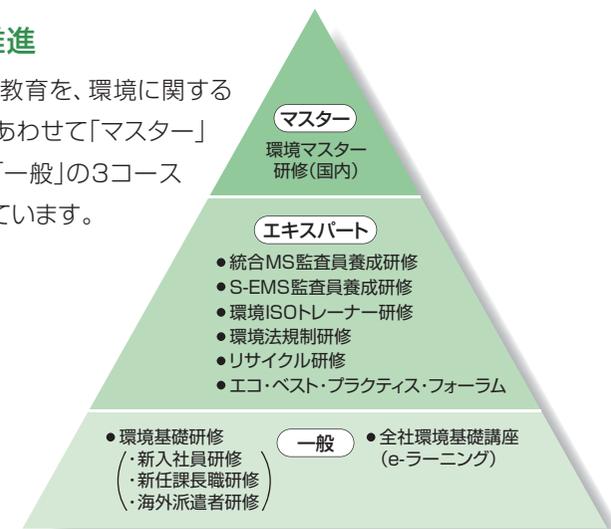
1995年度からISO14001認証の取得を推進し、2004年度からは環境コンプライアンスの徹底と環境取り組みのさらなる充実をめざして、独自の環境マネジメントシステム(S-EMS)を国内外の工場とオフィスに導入してきました。これは、ISO14001を基本にシャープ独自の管理項目(49項目)を加えた環境マネジメントシステムです。

2006年度には、シャープ独自の戦略的経営管理システム(eS-SEM)をベースに、それまで別々に運用していたS-EMSと品質マネジメントシステム(QMS)を統合したマネジメントシステム(統合MS)を国内外で構築しました。これにより、全体最適での課題解決が容易となり、経営の効率と精度を一段と高めることができました。2009年度には中国の2工場で新たに統合MSを構築しました。

2010年度からは、国内オフィスの環境マネジメントシステム推進体制を見直して、地域ごとに各オフィスを管理する統轄サイトを新たに設置し、環境取り組みのさらなる強化を図ります。また、S-EMSの再構築および環境自己監査と内部監査の充実を図ります。

環境教育の推進

従業員の環境教育を、環境に関する知識のレベルにあわせて「マスター」「エキスパート」「一般」の3コースに分けて実施しています。



法令違反、事故等の有無

2009年度、環境関連の法令違反による訴訟問題・罰金・科料はありませんでした。また、環境に関する重大な事故の発生もありませんでした。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054 056	環境マネジメントシステムの推進
057	工場の環境配慮性を高める取り組み
061	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063	温室効果ガスの排出抑制
067	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用する化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

環境教育の各コースの取り組み事例

■ マスターコース

環境経営の要となるリーダーの育成を目的としています。

2009年度は延べ260名を対象に、環境マスター研修を計6回開催し、省エネ取り組み事例の研究や環境安全診断、リサイクル工場の視察などを実施しました。この研修で学習した内容は全社で水平展開を図っています。



環境マスター研修

■ エキスパートコース

環境部門の業務にかかわる環境法規制についての知識や専門能力の修得を目的としています。

2009年度は、123名を対象に環境内部監査員養成研修を開催しました。また、国内の販売拠点および亀山工場(三重県亀山市)、葛城工場(奈良県葛城市)で合わせて227名を対象に環境法規制研修を実施しました。

海外においては、生産工場の環境推進リーダーを対象にエコ・ベスト・プラクティス・フォーラムを計10回開催しました。



環境法規制研修

■ 一般コース

環境基礎知識の修得とマインドの向上を目的としています。

国内営業本部では、国内の全営業社員約5,700名を対象に、環境e-ラーニングを実施し、営業現場に役立つ環境知識の習得を図りました。



環境e-ラーニング

累計5,671名の従業員がeco検定に合格

2007年度から、東京商工会議所主催の環境社会検定試験(以下eco検定)を取得奨励資格^{※1}に認定し、同検定の取得を社員に働きかけてきました。特に、国内営業部門においては、創エネの太陽電池や省エネの液晶テレビなどの環境関連商品の販売に携わる部門として、「環境を自分の言葉で語る営業・サービス」の実現をめざし、率先してeco検定の取得に取り組んできました。また、従業員の合格体験記を当社の社会環境活動ホームページに掲載し、これから受験する従業員への動機付けを図っています。

2009年度には新たに2,783名が取得し、シャープ従業員の合格者数は累計5,671名^{※2}に達しました。これは、国内グループ社員32,300名^{※3}の18%、eco検定合格者総数95,245名^{※2}の6%にあたります。

※1 社員の自立的な能力開発を推進するために、取得者に対して奨励金を支払う対象となる資格。

※2 2010年3月末日現在。

※3 2010年4月1日現在。

環境リフレッシュ講演会を開催

三重工場では、従業員を対象に、「環境リフレッシュ講演会」を定期的で開催しています。企業や自治体から講師をお招きし、環境取り組みをご紹介いただくことで、従業員の環境知識や意識を高めることを目的としています。2009年度には計3回開催し、延べ212名の社員が受講しました。



社外から講師をお招きして開催する環境リフレッシュ講演会

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054 ▼ 056	環境マネジメントシステムの推進
057	工場の環境配慮性を高める取り組み
061	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063	温室効果ガスの排出抑制
067	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用する化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

■ ISO14001 認証取得工場・オフィス一覧

日本

生産工場	シャープ(株)	栃木工場
		八尾工場
		広島工場
		奈良工場
		葛城工場(富山工場を含む)
		福山工場
		三重工場
		天理工場
		三原工場
		亀山工場
オフィス	シャープ(株)	本社 田辺オフィス
		幕張オフィス(東京支社)
		東京 市ヶ谷オフィス
		シャープマニファクチャリングシステム(株)
		シャープ新潟電子工業(株)
		シャープ米子(株)
		シャープ三重(株)
		シャープ特選工業(株)
		カンタツ(株)
		シャープタカヤ電子工業(株)
生産工場	シャープ(株)	シャープエレクトロニクスマーケティング(株)
		シャープシステムプロダクト(株)
		シャープエンジニアリング(株)
		シャープドキュメントシステム(株)
		シャープアメニティシステム(株)
		シャープトレーディング(株)
		シャープビジネスコンピュータソフトウェア(株)
		(株)ワンストップサポート
		シャープオフィスレンタル(株)
		沖縄シャープ電機(株)
リサイクル工場	関西リサイクルシステムズ(株)	

米州

生産工場	Sharp Manufacturing Company of America (SMCA)※1	米国
	Sharp Electronica Mexico S.A. de C.V. (SEMEX)	メキシコ
オフィス	Sharp Electronics Corporation (SEC)	米国
	Sharp Laboratories of America, Inc. (SLA)	
	Sharp Electronics of Canada Ltd. (SECL)	カナダ

※1 SECの生産事業本部

欧州

生産工場	Sharp Manufacturing Company of U.K. (SUKM)※2	英国
	Sharp Electronica España S.A. (SEES)	スペイン
	Sharp Manufacturing France S.A. (SMF)	フランス
オフィス	Sharp Manufacturing Poland Sp.zo.o. (SMPL)	ポーランド
	Sharp Electronics (Europe) GmbH (SEEG)	ドイツ
	Sharp Electronics (U.K.) Ltd. (SUK)	英国
	Sharp Laboratories of Europe, Ltd. (SLE)	
	Sharp Electronics France S.A. (SEF)	フランス
	Sharp Electronics (Italia) S.p.A. (SEIS)	イタリア
	Sharp Electronics (Schweiz) AG (SEZ)	スイス
	Sharp Electronics (Nordic) AB (SEN)	スウェーデン
	Sharp Electronics Benelux B.V. (SEB)	オランダ

※2 SUKの生産事業本部

アジア・中近東・オセアニア

生産工場	Shanghai Sharp Electronics Co., Ltd. (SSEC)	中国
	Sharp Office Equipments (Changshu) Co., Ltd. (SOCC)	
	Wuxi Sharp Electronic Components Co., Ltd. (WSEC)	
	Nanjing Sharp Electronics Co., Ltd. (NSEC)	
	Sharp Technical companies (Wuxi) Co., Ltd (STW)	
	Sharp Appliances (Thailand) Ltd. (SATL)	タイ
	Sharp Manufacturing (Thailand) Co., Ltd. (SMTL)	マレーシア
	Sharp Manufacturing Corporation (M) Sdn. Bhd. (SMM)	
	Sharp (Phils.) Corporation (SPC)	
	PT. Sharp Semiconductor Indonesia (SSI)	
PT. Sharp Electronics Indonesia (SEID)		
Shanghai Sharp Mold and Manufacturing Systems Co., Ltd. (SSMC)	中国	
Sharp India Ltd. (SIL)	インド	
Sharp Korea Corporation (SKC)	韓国	
S&O Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd. (SOEM)	マレーシア	
オフィス	Sharp Electronics (Shanghai) Co., Ltd. (SES)	中国
	Sharp Electronics Sales (China) Co., Ltd. (SESC)	
	Sharp Electronic Components (Taiwan) Corporation (SECT)	台湾
	Sharp Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd. (SEM)	マレーシア
	Sharp-Roxy Sales (Singapore) Pte., Ltd. (SRS)	シンガポール
	Sharp Electronics (Singapore) Pte., Ltd. (SESL)	
	Sharp Software Development India Pvt. Ltd. (SSDI)	インド
	Sharp Middle East Free Zone Establishment (SMEF)	アラブ首長国連邦
	Sharp Corporation of Australia Pty. Ltd. (SCA)	オーストラリア
	Sharp Corporation of New Zealand Ltd. (SCNZ)	ニュージーランド
Sharp-Roxy Sales & Service Company (Malaysia) Sdn. Bhd. (SRSSC)	マレーシア	
Sharp-Roxy (Hong Kong) Ltd. (SRH)	中国・香港	

工場の環境配慮性を高める取り組み

シャープは生産工場の環境配慮性を評価する独自の基準と認定制度を運用しており、これまでにすべての生産工場の環境配慮性をグリーンファクトリーの水準以上に高めています。さらに、極めて環境配慮性の高いスーパーグリーンファクトリーのレベルまで、すべての工場の水準を引き上げる取り組みを進めています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054	環境マネジメントシステムの推進
057	▼ 工場の環境配慮性を高める取り組み
060	
061	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063	温室効果ガスの排出抑制
067	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用する化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度の目標	2012年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> シャープ(株)生産工場: 10 SGFIIランクA相当以上: 2 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価に基づくSGFIIランクA相当以上: 10 	<ul style="list-style-type: none"> 新・評価基準に基づくSGFIIランクA以上: 2 	<ul style="list-style-type: none"> すべての生産工場をSGFIIランクA以上
<ul style="list-style-type: none"> 国内生産工場(子会社・関連会社): 7 SGF2工場にSGFIIを導入 SGF: 累計3 	<ul style="list-style-type: none"> SGF2工場にSGFIIを導入 SGF: 累計3 	<ul style="list-style-type: none"> SGF3工場でSGFIIを運用 SGF: 累計5 	<ul style="list-style-type: none"> すべての生産工場をSGFIIランクB以上
<ul style="list-style-type: none"> 海外生産工場(子会社・関連会社): 21 SGF9工場にSGFIIを導入 SGF: 累計11 	<ul style="list-style-type: none"> SGF9工場にSGFIIを導入 SGF: 累計11 	<ul style="list-style-type: none"> SGF11工場でSGFIIを運用 SGF: 累計16 	<ul style="list-style-type: none"> すべての生産工場をSGFIIランクB以上
<ul style="list-style-type: none"> エコ・ベスト・プラクティス・フォーラム 欧州・米州・中国で開催 	<ul style="list-style-type: none"> 欧州・米州・中国・アジアで開催 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域で年1回以上開催 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域で年2回以上開催

スーパーグリーンファクトリーを拡大

一定水準の環境配慮性を備えた生産工場を「グリーンファクトリー(以下GF)」と定義し、10のコンセプトをもとに基本方針とノウハウを示した「GFガイドライン」を国内は1999年度から、海外は2001年度からすべての生産工場に導入しています。

国内では、亀山工場の建設を機に、極めて環境配慮性の高い生産工場をスーパーグリーンファクトリー(以下SGF)として、独自の評価基準のもとに社内認定する取り組みを2003年度から開始しました。亀山工場はその第1号です。2004年度からはGFの認定基準を加えるとともに、海外にも展開、2007年度には国内外すべての生産工場をGFにし、シャープ(株)10工場すべてをSGFにするという中期目標を達成しました。

評価基準は、5つの分野にわたる21の環境性能評価項目について細かく点数化するように設定しており、GFは100点満点中70点以上、SGFは90点以上をそれぞれ認定の条件としています。

2009年度には、新たに国内1工場と海外2工場がSGFの基準をクリアし、国内外合わせて38の生産工場のうち、24工場がSGFを達成しました。

■ グリーンファクトリーのコンセプト

温室効果ガス	温室効果ガスの排出がミニマムである
エネルギー	エネルギーの消費がミニマムである
廃棄物	廃棄物の排出がミニマムである
資源	資源の消費がミニマムである
化学物質	化学物質による環境汚染や事故のリスクがミニマムである
大気・水・土壌	大気・水系・土壌への環境負荷がミニマムである
自然共生	事業所内外の自然の維持・回復に努めている
地域共生	地域との共生を図っている
環境意識	従業員の環境への意識が高い
情報開示	環境に関する情報を開示している

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054	環境マネジメントシステムの推進
057 ▼ 060	工場の環境配慮性を高める取り組み
061	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063	温室効果ガスの排出抑制
067	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用する化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

SGFをさらに強化するSGFIIを展開

SGFを達成した国内の生産工場では、2008年度からSGFの取り組みをステップアップさせたSGFIIを展開しています。高効率機器や除害設備の導入など、環境設備の整備を中心にした従来の施策に加えて、SGFIIでは、これらの環境設備の性能をフルに発揮するための維持管理ノウハウなど、ソフト面の取り組みを評価ポイントに盛り込んでいます。また、温室効果ガスおよび廃棄物の排出量については、絶対量で削減することをめざしています。

2009年度からは、海外のSGF認定工場にもSGFIIを展開しており、2012年度に向けて、国内外のすべての生産工場をSGFIIランクB以上にするという目標の達成をめざしています。

国内の事例

生産設備の環境負荷削減を推進

国内の生産工場では、これまでユーティリティ設備※を中心に環境負荷の削減を進めてきましたが、負荷の大きな割合を占める生産設備についても、環境管理部門が生産技術部門および生産部門と連携し、製品品質や生産性を損なうことなく、環境負荷を削減する取り組みを進めています。

(取り組み事例はP65、66、69、70参照) ※ 動力源や空調など、付帯設備。

海外の事例

エコ・ベスト・プラクティス・フォーラムで相互レベルアップ

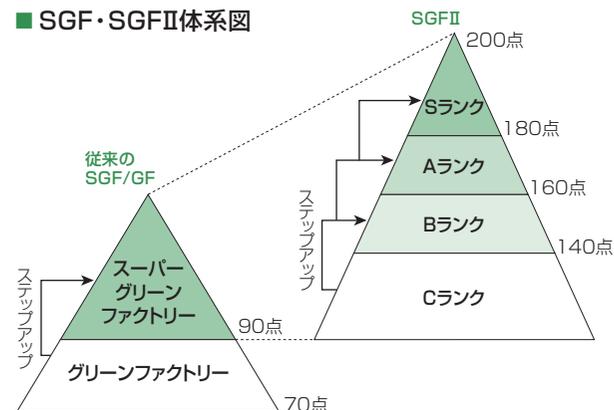
SGFIIで重点を置く、ソフト面の向上を図る取り組みとして、2009年度から工場間で環境取り組みのノウハウを交換し、相互にレベルアップをめざす環境取り組み相互発表会「エコ・ベスト・プラクティス・フォーラム」を海外の地域毎に開催しています。これは、TV会議システムを活用して、各工場における環境保全への取り組みを紹介し合い、課題や解決策を協議することで、アイデアの開発やノウハウの共有を図り、相互にレベルアップすることを目的として実施しているものです。

2009年度は、欧州、アジア、中国、米州の各地域で計10回開催しました。今後も先進的な取り組みを水平展開し、工場の環境配慮性強化を進めます。



アジア地域で実施した同フォーラム

SGF・SGFII体系図



SGFIIの評価項目と評価ウェイト(国内)

環境性能評価項目		評価ウェイト	小計	合計
温室効果ガスの原単位排出削減	<ul style="list-style-type: none"> ● PFC等ガスの削減 ● 可変供給制御推進 ● 排熱の回収再利用 ● 高効率機器導入 ● 新エネルギー導入 ● 判断管理基準履行 	25点	100点	200点
化学物質の排出削減	<ul style="list-style-type: none"> ● PRTR大気排出 ● PRTR水域排出 ● 燃焼硫黄酸化物 ● 各種臭気の対策 	27点		
産業廃棄物の適正処理	<ul style="list-style-type: none"> ● ゼロエミッション ● 適正処理確認 ● 有価物化の推進 	18点		
用水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ● 雨水凝縮水の利用 ● 生産洗浄水の回収 	10点		
監視・安全	<ul style="list-style-type: none"> ● 危険物防消火 ● 特殊安全対策 ● 中央監視の採用 	20点		
環境負荷低減・経営への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス排出量削減 <ul style="list-style-type: none"> ● 排出量削減率 廃棄物排出量削減 <ul style="list-style-type: none"> ● 排出量削減率 	40点 30点	100点	
安全対策	<ul style="list-style-type: none"> 環境設備 <ul style="list-style-type: none"> ● 設備の更新計画 ● 維持管理 環境設備以外の設備 <ul style="list-style-type: none"> ● 設備の更新計画 ● 維持管理 	10点 10点		
情報開示	<ul style="list-style-type: none"> ● 実施内容ごとにポイント化 	10点		

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054	環境マネジメントシステムの推進
057	工場の環境配慮性を高める取り組み
060	
061	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063	温室効果ガスの排出抑制
067	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用する化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

SGF・GF認定工場一覧

	国	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度		
シャープ(株)	日本	栃木工場		GF	GF	GF	SGF	SGFIIの定着		
		八尾工場		GF	GF	SGF	SGF			
		広島工場		GF	GF	SGF	SGF			
		奈良工場		GF	GF	SGF	SGF			
		葛城工場		GF	GF	GF	SGF			
		福山工場		GF	GF	GF	SGF			
		三重工場		SGF	SGF	SGF	SGF			
		天理工場		GF	GF	GF	SGF			
		三原工場		GF	GF	GF	SGF			
		亀山工場		SGF	SGF	SGF	SGF			
シャープマニファクチャリングシステム(株)				GF	GF	GF	SGF	SGFIIの展開		
シャープ米子(株)					GF	GF	SGF			
シャープ新潟電子工業(株)						GF	GF		GF	
シャープ三重(株)				GF	GF	GF	GF		GF	
シャープ特選工業(株)				GF	GF	GF	GF		GF	
カンタツ(株)						GF	GF		SGF	
シャープタカヤ電子工業(株)				GF	GF	GF	GF		GF	
SEMEX	メキシコ			GF	GF	GF	SGF		SGFIIの展開	
SUKM※1	英国			GF	GF	GF	SGF			
SEES	スペイン					GF	GF			SGF
SMF	フランス			SGF	SGF	SGF	SGF			
SOCC	中国			GF	SGF	SGF	SGF			
NSEC				GF	GF	SGF	SGF			
SOEM	マレーシア					SGF	SGF	SGF		
SMM				GF	GF	GF	SGF			
SMTL	タイ					GF	SGF	SGF		
SMCA※2	米国						GF	GF		GF
SSEC	中国			GF	GF	GF	GF	SGF		
WSEC						GF	GF	GF	GF	
STW								GF	GF	GF
SSMC								GF	GF	GF
SKC	韓国					GF	GF	GF	GF	
SATL	タイ						GF	GF	GF	
SPC	フィリピン						GF	GF	GF	
SSI	インドネシア							GF	GF	SGF
SEID								GF	GF	GF
SIL	インド						GF	GF	GF	
SMPL	ポーランド								GF	

※1 SUKの生産事業本部 ※2 SECの生産事業本部

国内・海外のSGF認定工場

シャープ(株)

- ① 広島工場 ② 三原工場 ③ 福山工場 ④ 八尾工場 ⑤ 葛城工場
⑥ 奈良工場 ⑦ 天理工場 ⑧ 亀山工場 ⑨ 三重工場 ⑩ 栃木工場

国内子会社・関連会社

- ⑪ シャープ米子(株)
⑫ シャープマニファクチャリングシステム(株)
⑬ カンタツ(株)

● 国内SGF: 13



海外子会社・関連会社

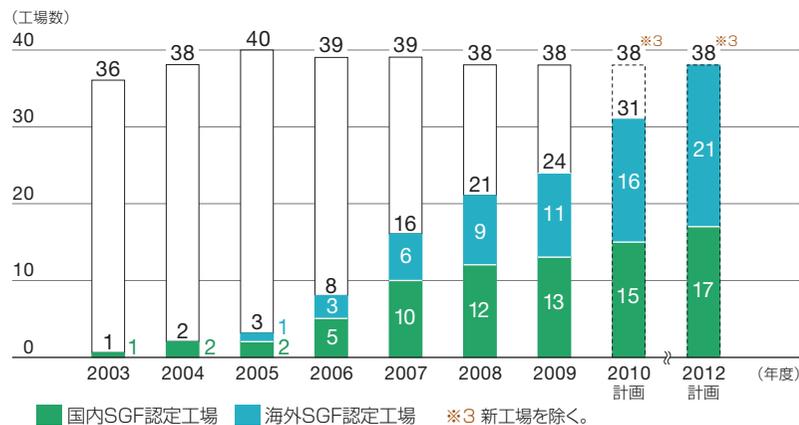
- ① SUKM(英国) ② SMF(フランス) ③ SEES(スペイン)
④ NSEC(中国) ⑤ SOCC(中国) ⑥ SSEC(中国)
⑦ SMTL(タイ) ⑧ SOEM(マレーシア) ⑨ SMM(マレーシア)
⑩ SSI(インドネシア) ⑪ SEMEX(メキシコ)

■ 海外SGF: 11



※下線は2009年度にSGFを達成した工場

SGF認定工場数の推移

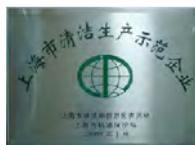


001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054	環境マネジメントシステムの推進
057	工場の環境配慮性を高める取り組み
060	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063	温室効果ガスの排出抑制
067	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用する化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

中国の生産工場SSECがSGFを達成

中国の生産工場SSEC(上海市)^{※1}は、1998年にISO14001を取得し、省エネ設備の導入などによるCO₂の削減や製品運送用梱包材の再使用などによる廃棄物の削減、化学物質の適正管理など、環境負荷の削減に継続的に取り組んでいます。特に、水問題が深刻な上海市にある当工場は、エアコン用熱交換器の検査後の水をリサイクルする設備を導入するなど、水使用量の削減にも注力しています。2009年度には、CO₂排出量および受水量ともに前年度に比べて削減することができました。また、廃棄物等排出量についても抑制することができました。このような活動の結果、2009年度にSGFを達成しました。上海市からも下表のとおり、高い評価をいただいています。

年度	認定の名称
2005	上海市清潔生産模範企業
2007	上海市浦東新区綠色誠信企業
2008	上海市浦東新区綠色誠信企業 上海市清潔生産模範企業
2009	上海市節水型企業 上海市清潔生産模範企業

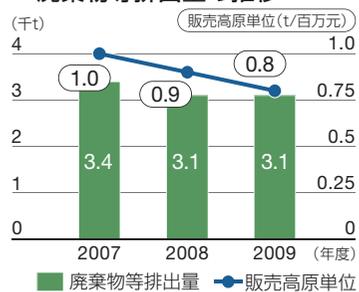


※1 Shanghai Sharp Electronics Co., Ltd
空調機、冷蔵庫、洗濯機および空気清浄機の生産会社。

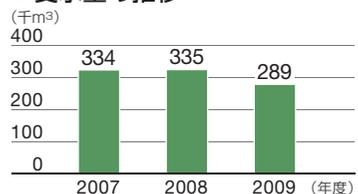
CO₂排出量の推移



廃棄物等排出量の推移



受水量の推移



レポーター
SSEC
環境品質管理部
池小云



TOPICS

亀山工場が「新エネ百選」に

SGF亀山工場は、株式会社シーエナジーと共同で、工場の屋根と壁面に5,210kWの太陽光発電システムを導入するとともに、隣接する調整池にも200kWのフロート型太陽光発電システムを設置し、「創エネ」を実践しています。この取り組みが評価され、2009年度に独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)と経済産業省が主催する「新エネ百選」^{※2}に選ばれました。

※2 全国の新エネルギー利用などの優れた取り組みを選定し、広く情報発信することで、新エネルギーの導入促進をめざすもの。



工場の屋根と壁面に5,210kWの太陽光発電システムを導入



亀山市と連携して工場に隣接する調整池に200kWのフロート型太陽光発電システムを設置し、実証実験を実施

亀山工場の受賞実績

年度	賞の名称(主催者)
2004	第3回日本環境経営大賞 環境経営パール大賞 (日本環境経営大賞表彰委員会・三重県)
2005	第4回優良コージェネレーションシステム表彰 省エネルギー奨励賞 (日本コージェネレーションセンター)
2006	第8回日本水大賞 経済産業大臣賞 (日本水大賞委員会)
2007	平成19年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰 (環境省)

オフィスの環境配慮性を高める取り組み

シャープはオフィスの環境配慮性を高める取り組みとして、工場環境配慮性強化で成果を上げたグリーンファクトリー認定制度のノウハウを応用して、グリーンオフィス認定制度を策定し、国内は2007年度から、海外は2009年度から導入しています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054	環境マネジメントシステムの推進
057	工場の環境配慮性を高める取り組み
061 062	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063	温室効果ガスの排出抑制
067	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用する化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> グリーンオフィスの認定拡大 国内: 43 / 全54オフィス 海外: 4(欧州・米州・中国・アジアで各1) / 全20オフィス

2009年度の実績
<ul style="list-style-type: none"> 国内: 全54オフィス 海外: 13(欧州3・米州3・中国1・アジア6) / 全20オフィス

2010年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> 国内・海外の認定基準を強化 国内: 全54オフィス 海外: 8(欧州・米州・中国・アジアで各2) / 全20オフィス

2012年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> 国内: 全54オフィスの認定継続 海外: 全20オフィス

国内におけるグリーンオフィスの認定と拡大

オフィスの環境配慮性強化をめざして、グリーンオフィス認定制度を策定し、2007年度から国内の主要販売会社の54オフィスに導入しています。

この制度では、ISO 14001を基本に当社独自の評価指標を加えた8分野全27項目にわたる評価基準を設定し、8分野すべてにおいて一定基準を満たしたオフィスをグリーンオフィスとして認定しています。事業活動で発生する環境負荷の低減や環境法規制順守はもちろんのこと、販売会社の本来業務である省エネ商品や太陽光発電システムの販売を通じた環境への貢献や環境社会貢献活動なども加えて総合的に評価しています。

2009年度は、全54オフィスがグリーンオフィスを達成しました。今後、認定基準の強化を図る計画です。

グリーンオフィスのグローバル展開

2009年度からは、海外においても主要販売会社の20オフィスを対象にグリーンオフィス認定制度の導入を開始しました。海外では国や地域によって環境法規制が異なるなど、状況が多様であるため、すべてのオフィスが取り組む「共通項目」と、各オフィスの特性にあわせて取り組む「選択項目」を組み合わせて評価し、共通項目、選択項目ともに一定基準を満たしたオフィスをグリーンオフィスとして認定しています。

2009年度は、欧州、米州、中国、アジアの計13オフィス*がグリーンオフィスを達成しました。

今後も優秀な取り組み事例の水平展開を通して、全世界のオフィスの環境配慮性向上に取り組めます。

■ グリーンオフィス認定基準(国内、2009年度)

分野	主な評価項目(項目数)
環境法令順守	監査時の指摘状況、法令順守など(3)
本来業務による環境負荷低減	環境配慮型商品の販売、担当者のスキル向上など(2)
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量の削減など(4)
廃棄物対策	ゼロエミッションの推進など(4)
グリーン購入等	グリーン購入の推進など(4)
職場環境整備	施設・設備の運用管理など(4)
環境教育の実施	教育計画達成率など(2)
環境社会貢献活動	地域と連携した活動の実施など(4)

■ グリーンオフィス認定基準(海外、2009年度)

分野	主な評価項目(項目数)
省エネ・創エネ商品の拡充	環境配慮型商品の販売など(共通: 1 / 選択: 2)
事業活動による環境負荷の低減	電気使用量の削減、3Rの推進など(共通: 8 / 選択: 9)
環境ガバナンス	環境行動計画の策定など(共通: 1 / 選択: 3)
環境法令順守	監査時の指摘状況、法令順守など(共通: 3)
環境コミュニケーション等	従業員への環境教育、環境社会貢献活動など(共通: 3 / 選択: 3)

* SUK(英国)、SEIS(イタリア)、SEB(オランダ)、SEC(米国)、SMA(米国)、SECL(カナダ)、SES(中国)、SECT(台湾)、SEM(マレーシア)、SMEF(U.A.E)、SESL(シンガポール)、SCA(オーストラリア)、SCNZ(ニュージーランド)

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054	環境マネジメントシステムの推進
057	工場の環境配慮性を高める取り組み
061	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
062	
063	温室効果ガスの排出抑制
067	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用する化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

グリーンフロント 堺などがエコ通勤優良事業所に

「グリーンフロント 堺(進出企業を含む)」(大阪府堺市)、八尾工場(大阪府八尾市)、平野オフィス(大阪府大阪市)、加美オフィス(大阪府大阪市)が公共交通利用推進等マネジメント協議会の「エコ通勤優良事業所認証」※1を受けました。CO₂削減と従業員の健康増進を目的に、公共交通機関などによる通勤を奨励し、実績をあげたことが評価されたものです。

※1 エコ通勤の取り組みを自主的かつ積極的に取り組む事業所を認証・登録し、その事例を広く周知することにより、エコ通勤の普及促進を図るもの。



幕張オフィスが第4回3R推進全国大会で「循環型社会形成推進功労者等大臣表彰」を受賞

幕張オフィス(千葉県千葉市)は環境省などが主催する第4回3R推進全国大会※2において、3R活動優良企業として「循環型社会形成推進功労者等大臣表彰」を受賞しました。用紙リサイクルの徹底や、生ゴミ処理機導入による減容化、産業廃棄物のリサイクルなどの活動が評価されたものです。

※2 国民・事業者・行政が一堂に会し、それぞれの知識や経験と交換するとともに、参加者一人ひとりが自らのライフスタイルを見直す機会を提供することで、3Rに関する理解を深め、ごみゼロ社会の実現や循環型社会の形成に向けた取り組みの推進をめざすもの。



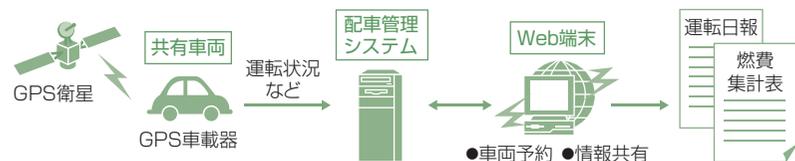
10月16日に開催された表彰式

SEMCがカーシェアリングを推進

国内販売会社のSEMC※3では、2009年より、首都圏地区などの3拠点(東京:市ヶ谷、上野、大阪:恵美須)でカーシェアリング(車両の共有)を導入しています。共有するすべての車両にGPS車載器を取り付け、車両情報や運行状況を管理する「配車管理システム」と連携して、急発進・急加速や燃費の自動集計などのエコドライブ管理をし、業務効率の向上と環境意識の高揚を図っています。

※3 シャープエレクトロニクスマーケティング(株)

■カーシェアリングのイメージ



英国の販売会社SUKがグリーンオフィスを達成

英国の販売会社SUK※4は、経営幹部のリーダーシップのもと、従業員が一丸となって、環境取り組みを推進しています。

省エネ機器やセンサーライトの導入をはじめ、再生紙の使用や建屋への太陽電池パネルの設置など、環境負荷の低減を図っています。2009年7月には、トナーカートリッジのリサイクルスキームを導入しました。従業員に対しては、一人ひとりの環境意識を高め、環境保全への具体的な行動を促すため、オフィスのいたる所での環境ポスターの掲示や政府が推進する自転車通勤奨励プログラムへの参画などの取り組みを実施しています。2009年11月には、23日から27日を「環境週間」として、従業員を対象に、外部からも講師をお招きし、地球温暖化など4つのテーマで毎日プログラムを変えて、大々的に環境イベントを開催しました。ステークホルダーの方々には、販促物やホームページ、宣伝広告、展示会などを通して、シャープの環境取り組みをご紹介するとともに、太陽電池や省エネ商品の販売強化を図っています。

このような取り組みにより、SUKは2009年度にグリーンオフィスを達成しました。また、SUKを含めた英国の生産工場とオフィスは、カーボン・トラスト・スタンダード社の厳しい審査の結果、CO₂排出削減の実績が認められ、同社から認証を取得しました。

SUKは今後も全社をあげて、環境取り組みを推進します。

※4 Sharp Electronics (U.K.) Ltd.



建屋に太陽電池を設置し、受付で太陽光発電の仕組みを紹介



従業員の目につきやすい場所に掲示している環境ポスター



カーボン・トラスト・スタンダード認証を取得



レポーター
SUK
安全企画部
ジロール・キッター

温室効果ガスの排出抑制

シャープは、事業活動に伴う温室効果ガスの排出抑制に取り組んでいます。コ・ジェネレーションシステムや各種省エネ設備の導入、太陽光発電システムの設置や工場・オフィスでのきめ細かい省エネ活動によって、CO₂の排出を抑制する一方、PFC等※1などの温室効果ガスについては、温暖化係数の低いガスへの代替や除害設備の導入などで排出量削減を進めています。

2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度の目標	2012年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> シャープ(株)10工場のCO₂排出量を ・2007年度の実績以下に抑制 	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年度比 22%削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年度の実績以下に抑制 ・BAU※2比 3%削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・<毎年度>2007年度の実績以下に抑制 ・<毎年度>BAU比 3%削減
<ul style="list-style-type: none"> シャープ(株)10工場のCO₂排出量の 実質生産高原単位※3を ・1990年度比 35%削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・1990年度比 43%削減 	<ul style="list-style-type: none"> シャープ(株)工場※4のCO₂排出量の実質 生産高原単位を ・1990年度比 35%削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・1990年度比 35%削減(2008~2012年度平均)
<ul style="list-style-type: none"> 海外工場(子外社・関連会社)のCO₂ 排出量の生産高原単位※5を ・前年度比 2%削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度比 35%増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度比 2%削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・<毎年度>前年度比 2%削減

※1 温室効果ガスであるパーフルオロカーボン系ガスの総称。CF₄(四フッ化炭素)、C₂F₆(六フッ化二炭素)など。
 ※2 Business As Usualの略。CO₂排出削減施策を実施しなければ、排出されたと想定されるCO₂排出量(工場ごとのCO₂排出量原単位の加重平均を用いて推計)。
 ※3 実質生産高原単位(t-CO₂/億円)=CO₂排出量(t-CO₂)÷(生産高(億円)÷日銀による国内企業物価指数：2006年度までは「電気・電子機器」、2007年度以降は「電気機器」「情報通信機器」「電子部品・デバイス」の加重平均)
 ※4 シャープ(株)10工場+グリーンフロント堺の太陽電池工場 ※5 生産高原単位(t-CO₂/億円)=CO₂排出量(t-CO₂)÷生産高(億円)

シャープグループの温室効果ガス排出量を抑制

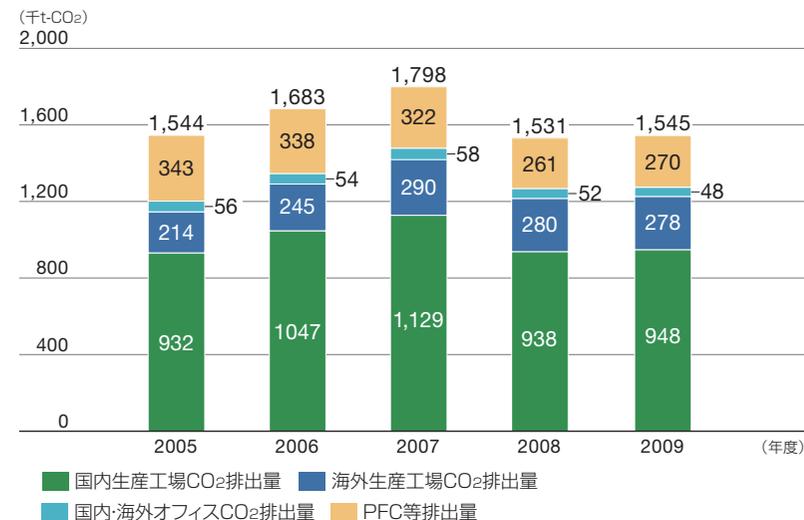
2009年度のシャープグループの全温室効果ガス排出量は、シャープディスプレイプロダクト(株)が操業を開始し、生産量が拡大する中、各種の施策により前年度比1%の増加にとどめることができました(右図参照)。

また、シャープ(株)10工場では、2007年度をピークとしてCO₂排出量を減少させる計画のもと、BAU比3%のCO₂排出量削減を2010年度以降の目標に設定しています。ユーティリティ設備のほか、生産設備にまで踏み込んで取り組みを強化したことにより、CO₂排出量を前年度比6%削減、2007年度比22%削減することができました(次頁左上図参照)。

一方、海外工場におけるCO₂排出量は、各拠点の削減努力により、前年度実績をわずかに下回ることができたものの、経営環境の急激な悪化を受け、生産高原単位は前年度比35%の増加となりました(次頁左中図参照)。

2010年度以降、生産の拡大を計画していますが、省エネ施策の継続的推進に加え、新規に展開する工場のPFC等の排出源すべてに除害装置を設置して適正に運用管理することで、温室効果ガスの排出抑制を徹底します。また、海外におけるCO₂排出量の削減についても、継続して積極的に取り組む計画です。

シャープグループの全温室効果ガス排出量の推移

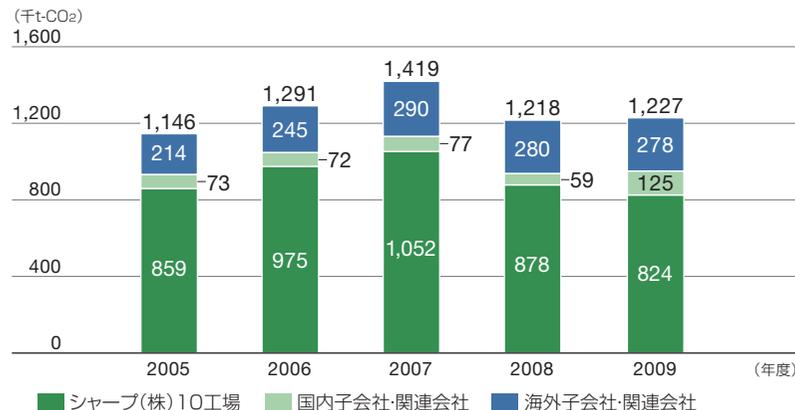


● PFC等排出量の算定には、2005年度以前はIPCC第二次報告書の温暖化係数、2006年度以降は第三次報告書の温暖化係数をそれぞれ採用。
 ● 2006年度より富山工場(富山県富山市)を含む。
 ● 2009年度より首都圏研究所(千葉県柏市)およびシャープディスプレイプロダクト(株)を含む。
 ● 使用したCO₂排出係数はP.79参照。

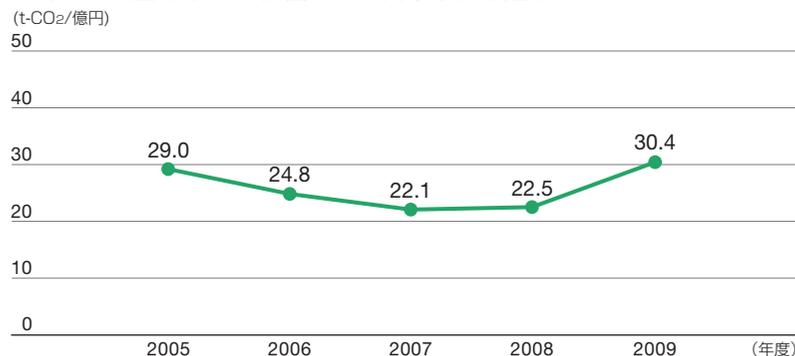
001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054	環境マネジメントシステムの推進
057	工場の環境配慮性を高める取り組み
061	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063	温室効果ガスの排出抑制
066	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用する化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマランス
033	環境会計
034	■テクノロジー
041	■プロダクト
	■オペレーション
054	環境マネジメントシステムの推進
057	工場の環境配慮性を高める取り組み
061	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063 ▼ 066	温室効果ガスの排出抑制
067	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用する化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
075	■リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

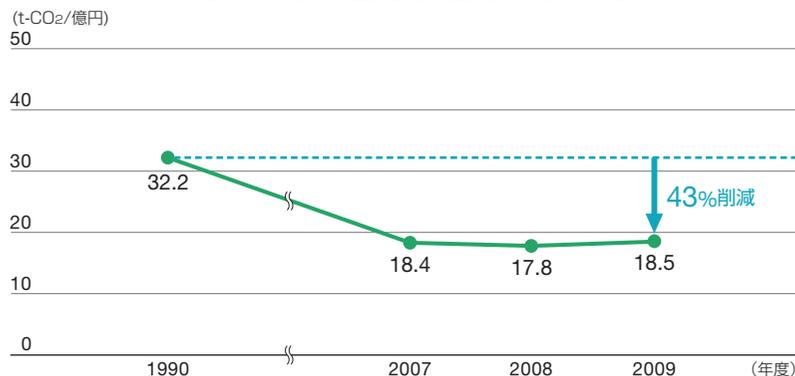
■ シャープグループ生産工場のCO₂排出量の推移



■ 海外生産工場のCO₂排出量生産高原単位の推移



■ シャープ(株)工場のCO₂排出量実質生産高原単位の推移



● 実質生産高原単位 (t-CO₂/億円) = CO₂排出量 (t-CO₂) ÷ (生産高 (億円) ÷ 日銀による国内企業物価指数: 2006年度までは「電気・電子機器」、2007年度以降は「電気機器」「情報通信機器」「電子部品・デバイス」の加重平均)

自家発電を推進

太陽光発電システムをはじめ、コ・ジェネレーションシステムや燃料電池システムを導入し、自家発電することで、電力の安定供給とCO₂排出量の削減を図っています。

■ シャープ(株)工場の自家発電量*

年度	2006	2007	2008	2009
自家発電量(百万kWh)	246	287	261	285

* コ・ジェネレーションシステム、太陽光発電システム、燃料電池システム

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マシバランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054	環境マネジメントシステムの推進
057	工場の環境配慮性を高める取り組み
061	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063	温室効果ガスの排出抑制
066	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用される化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

省エネ事例 1

生産工程の環境負荷低減

クリーンルーム循環風量を削減

亀山工場(三重県亀山市)では、液晶パネルの生産工程におけるクリーンルームの省エネに取り組んでいます。

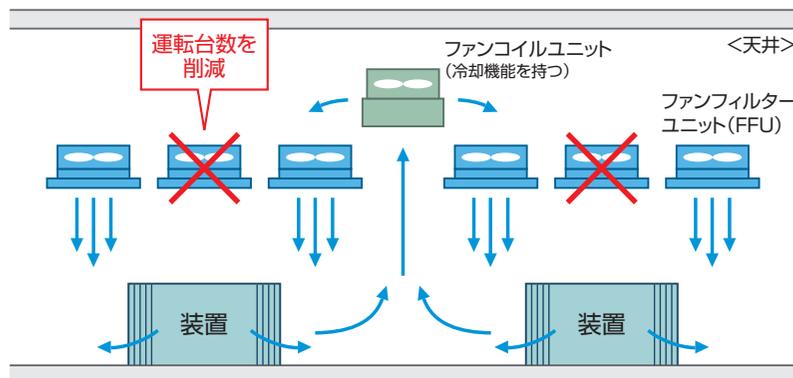
クリーンルームでは、高い清浄度、一定温湿度の製造環境を維持するため、空気を大量循環させる必要があり、空調に多くの電力を使用しています。空調条件を変更すると、製品品質に大きな影響を及ぼす可能性があるため、これまで省エネ対策が困難でした。しかし、生産部門とエネルギー供給部門が連携して、清浄度および温湿度の製品品質への影響についての調査と分析を何度も実施することにより、製造環境の維持と省エネの両立を実現しました。

具体的には、製品の一時保管スペース(バッファ)と搬送装置スペース(ローダー)で使用しているファンフィルターユニット(FFU)^{※1}の風量を15%低減しました。また、TFT工程におけるスパッタリング・ドライエッチング・CVD工程では、製品品質に直接影響がない場所のFFUの運転台数を75%削減しました。自動搬送車走行路・歩行エリアでは、清浄度の要求スペックに対し、実績値に大きな余裕があったため、FFU運転台数を27%削減しました。

これにより、CO₂排出量を年間約4,700t-CO₂削減することができます。

※1 室内の天井に設置し、清浄空気を吹き出してクリーンな環境を作る装置。

■ スパッタリング・ドライエッチング・CVD工程



製品品質を損なわないレベルで装置周囲の風量を調節し、FFUの運転台数を75%削減しました。

省エネ事例 2

生産工程の環境負荷低減

蒸気使用量を削減

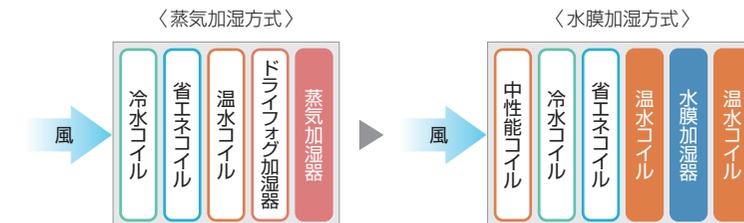
福山工場(広島県福山市)では、クリーンルームの空調加湿や純水加温に使用する蒸気の削減に取り組んでいます。

クリーンルームは、一定の温湿度を維持するため、加湿処理等を行う必要があります。福山工場では、これまで蒸気方式の外気処理空調機^{※2}を利用していましたが、2008年度から水膜加湿方式の導入を進めています。また、蒸気の代わりに、製造装置から回収した廃熱を暖房や純水加温に利用するとともに、工場間の蒸気配管熱のロスを低減するなど、各種施策により蒸気使用量の削減を図っています。

この結果、2009年度に実施した施策の結果として、ボイラ燃料となる都市ガスの使用量を約320km³N削減し、CO₂排出量を約730t-CO₂削減することができました。

※2 クリーンルームの温湿度を一定に保つために、外気の温湿度を調整する設備。

■ 外気処理空調機



水膜加湿方式では、水を含ませた加湿材に空気を通過させ、気化蒸発により加湿します。

省エネ事例 3

生産工程の環境負荷低減

装置の温度調整による省エネを推進

三重工場(三重県多気郡)では、「CO₂削減会議」を開催し、エネルギー使用量の大きな割合を占める生産工程の省エネに工場をあげて取り組んでいます。その一環として、液晶パネルガラス基板を加工する装置の省エネを推進しています。装置内部は、製品品質を保持するために約80℃の高温に保っていました。しかし、温度が製品品質に与える影響を調査・分析し、品質を損なうことなく、約60℃まで下げることができました。これにより電力を約10%、CO₂排出量を年間約70t-CO₂削減することができました。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054	環境マネジメントシステムの推進
057	工場の環境配慮性を高める取り組み
061	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063	温室効果ガスの排出抑制
066	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用する化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

省エネ事例 4

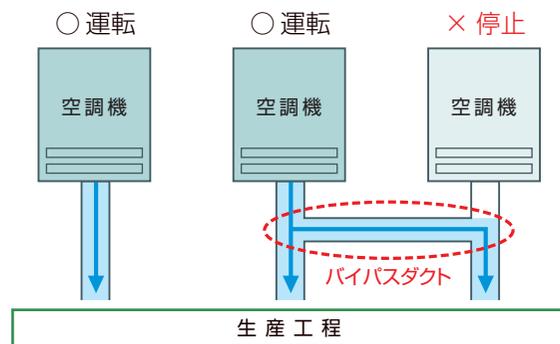
生産工程の環境負荷低減

バイパスダクト設置により、空調機の運転台数を削減

奈良工場(奈良県大和郡山市)では、空調機の運用見直しによる省エネを図りました。

第6工場のクリーンルームでは、温湿度を維持するため、空調機3台を使用していました。しかし、生産装置などの熱負荷の減少および工程からの排気量の調整により、空調に対する負荷が減少したため空調機の運用の見直しを図り、空調機2台の給気ダクトをバイパスすることで、1台の空調機を停止することができました。これにより、CO₂排出量を年間約120t-CO₂削減することができます。

■ 空調機のバイパスダクト



省エネ事例 5

水銀灯に替えて、LED防犯灯を設置

八尾工場(大阪府八尾市)では、400W型の水銀灯12台を40W型のLED防犯灯に取り替えました。これにより、CO₂排出量を年間約6t-CO₂削減することができます。

省エネ事例 6

ユーティリティ設備の環境負荷低減

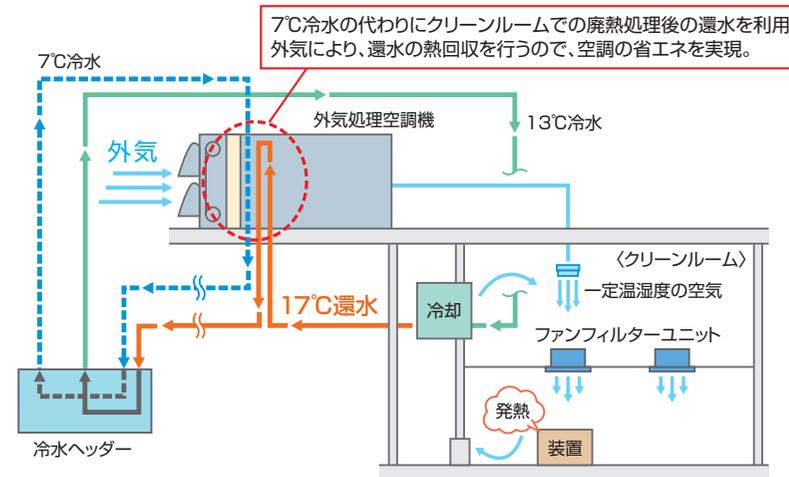
外気冷却の利用による空調の省エネを推進

亀山工場では、外気冷却による空調の省エネを推進しています。

外気処理空調機には、外気の冷却・除湿用の冷水コイル(7℃)と加温用の温水コイル(34℃)が通っています。冬季には、冷水コイルは使用しませんが、凍結による破損防止のため、凍結防止回路に強制的に冷水を流す必要があります。これまでは、7℃冷水を使用していましたが、クリーンルームで熱負荷処理に使用した冷水(13℃)の還水(17℃)を使用するよう、回路の変更を実施しました。

これにより、7℃冷水の使用量を削減できるだけでなく、冷たい外気で還水の熱回収ができるので、空調の省エネを実現しました。さらに、外気温に応じて凍結防止回路への流量を自動調整できる仕組みを採用することで、冬季だけでなく、外気温が17℃よりも低くなる春や秋にも、17℃還水の熱回収を行うことができ、外気冷却を利用できる期間が長くなりました。これにより、年間約540t-CO₂のCO₂排出量を削減することができます。

■ 外気冷却利用の仕組み



廃棄物の排出抑制と再資源化

シャープは、廃棄物の排出抑制と再資源化に取り組んでいます。
2009年度には現像廃液をはじめとする廃棄物の削減施策を強化した結果、シャープグループの廃棄物等排出量を大幅に削減することができました。

2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度目標	2012年度目標
<ul style="list-style-type: none"> シャープ(株)10工場の廃棄物排出量※1を ・2007年度の実績以下に抑制 	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年度比 44%削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年度の実績以下に抑制 ・BAU※3比 6%削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・<毎年度>2007年度の実績以下に抑制 ・<毎年度>BAU比 6%削減
<ul style="list-style-type: none"> 海外工場(子外社・関連会社)の廃棄物等排出量※2の生産高原単位を ・前年度比 2%削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度比 19%増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度比 2%削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・<毎年度>前年度比 2%削減

※1 廃棄物排出量=産業廃棄物排出量+事業系一般廃棄物排出量

※2 廃棄物等排出量=廃棄物排出量+有価物量

※3 Business As Usualの略。廃棄物削減施策を実施しなければ、発生していたと想定される廃棄物排出量(工場ごとの廃棄物排出量原単位の加重平均を用いて推計)。

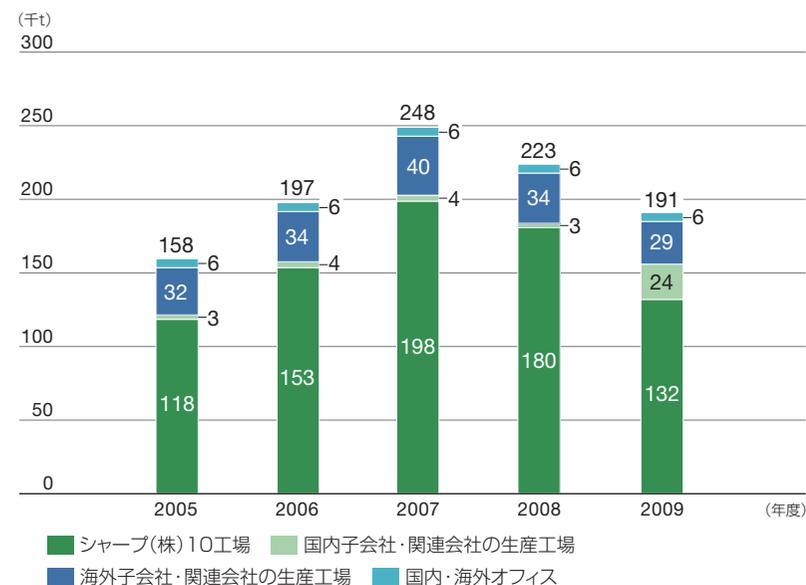
シャープグループの廃棄物等排出量を削減

2009年度のシャープグループの廃棄物等排出量は、国内、海外ともに前年度実績を下回り、14%削減することができました(右図参照)。「グリーンフロント 堺」(大阪府堺市)のシャープディスプレイプロダクト(株)が2009年10月から稼動しましたが、現像廃液を「グリーンフロント 堺」の中で再利用する新たなシステムの構築などにより、廃棄物等排出量を抑制しました。

シャープ(株)10工場では、有価物率が前年度比7.4ポイント増加し、廃棄物排出量は前年度比で33%削減、2007年度比では44%削減と、大幅な削減を達成しました(次頁左上図参照)。これは、廃棄物排出量を2007年度をピークとして減少させる計画のもと、取り組みを強化したことによるものです。特に、亀山工場(三重県亀山市)と三重工場(同県多気郡)で廃液関連の削減施策に注力したことが大きく寄与しました。2010年度からは、廃棄物排出量をBAU比6%削減する目標を掲げ、取り組みをさらに強化します。また、子会社・関連会社を含む国内生産工場では、2009年度もゼロエミッション※4を達成しました。これで、9年連続の達成となります(次頁左中図参照)。

海外工場では、2009年度もSGFの達成をめざして取り組みを進めた結果、廃棄物等排出量は前年度比15%削減できましたが、生産高の減少が影響し、生産高原単位は前年度比19%の増加となりました(次頁下図参照)。

シャープグループの廃棄物等排出量(有価物を含む)の推移



- ・2006年度より富山工場(富山県富山市)を含む。
- ・2009年度より首都圏研究所(千葉県柏市)およびシャープディスプレイプロダクト(株)を含む。

※4 シャープでは、廃棄物最終処分率=0.5%未満をゼロエミッションとしています。

$$\text{廃棄物最終処分率}(\%) = \frac{\text{最終処分量}}{\text{廃棄物等排出量}(\text{廃棄物排出量} + \text{有価物量})} \times 100$$
 2005年度より、分母を廃棄物総発生量から、より数字の小さい廃棄物等排出量(廃棄物排出量+有価物量)に変更し、ゼロエミッションの定義をより厳格にしました。

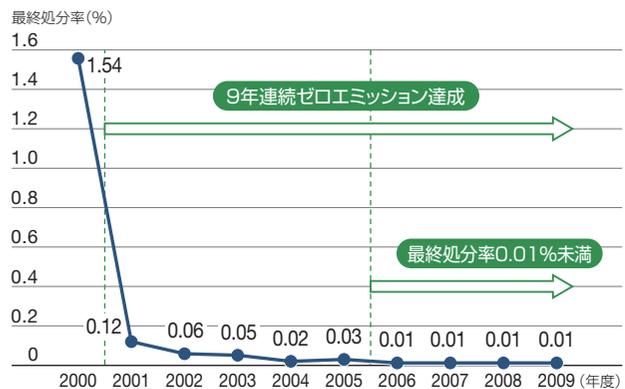
- 001 目次
- 002 編集にあたって
- 003 トップメッセージ
- 005 CSR(企業の社会的責任)についての考え方
- 007 企業ビジョン
- 008 特集
- 012 クローズアップ
- 017 マネジメント
- 環境とシャープ
- 029 環境への貢献をめざして
- 030 環境面の目標と実績
- 031 マスバランス
- 033 環境会計
- 034 ■ テクノロジー
- 041 ■ プロダクト
- オペレーション
- 054 環境マネジメントシステムの推進
- 057 工場の環境配慮性を高める取り組み
- 061 オフィスの環境配慮性を高める取り組み
- 063 温室効果ガスの排出抑制
- 067 ▼ 069 廃棄物の排出抑制と再資源化
- 070 水の有効利用
- 071 生産工場で使用する化学物質の適正管理
- 073 物流・包装における環境負荷低減
- 075 ■ リレーションシップ
- 077 環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
- 080 社会とシャープ
- 110 社外からの評価
- 112 シャープグループの概要
- 114 独立保証報告書

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054	環境マネジメントシステムの推進
057	工場の環境配慮性を高める取り組み
061	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063	温室効果ガスの排出抑制
067	▼
069	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用する化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

■ シャープ(株)10工場の廃棄物排出量および有価物量と有価物率の推移

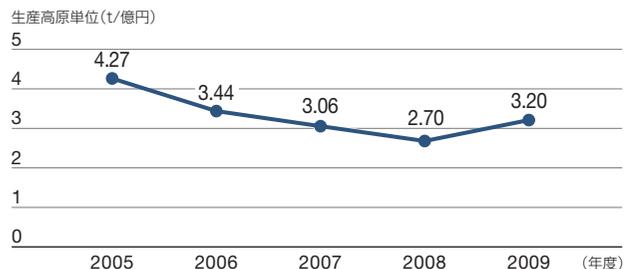


■ 国内生産工場の最終処分率の推移



●2004年度から子会社・関連会社を含む。

■ 海外生産工場の廃棄物等排出量(有価物を含む)の生産高原単位の推移



■ シャープ(株)工場の廃棄物種類別排出量

(単位:t)

	廃棄物等排出量※1			廃棄物排出量※2			有価物量		
	2007年度	2008年度	2009年度	2007年度	2008年度	2009年度	2007年度	2008年度	2009年度
廃アルカリ	96,073	83,396	50,757	95,342	81,583	46,186	731	1,813	4,571
廃油	37,722	38,066	34,963	19,572	12,874	13,554	18,149	25,193	21,410
汚泥	22,041	18,509	11,695	21,771	18,382	11,592	270	127	103
廃液(廃酸)	23,890	23,055	17,464	20,572	19,678	14,371	3,318	3,377	3,094
紙くず	6,907	6,596	7,076	1,739	1,053	766	5,168	5,543	6,310
ガラスくず	6,481	5,977	4,875	6,481	5,789	4,764	0	188	112
鉄くず	531	409	442	117	14	32	414	395	410
廃プラスチック	2,819	2,486	2,725	1,795	1,536	1,730	1,024	950	995
その他	2,027	1,825	2,241	1,820	1,590	1,651	207	235	590
合計	198,491	180,319	132,238	169,209	142,499	94,646	29,281	37,821	37,595

(単位:t)

	再資源化量(有価物を除く)			社外中間処理量			最終処分量		
	2007年度	2008年度	2009年度	2007年度	2008年度	2009年度	2007年度	2008年度	2009年度
廃アルカリ	95,342	81,583	46,186	0	0	0	0	0	0
廃油	19,572	12,874	13,554	0	0	0	0	0	0
汚泥	21,759	18,374	11,580	11	7	12	1	0	0
廃液(廃酸)	20,552	19,677	14,370	20	0	0	0	1	0
紙くず	1,683	1,003	722	53	48	42	3	2	2
ガラスくず	6,478	5,775	4,761	1	11	0	2	2	2
鉄くず	117	14	30	0	0	2	0	0	0
廃プラスチック	1,719	1,464	1,638	71	68	90	4	4	2
その他	1,799	1,589	1,652	21	0	0	0	1	0
合計	169,021	142,353	94,493	177	134	146	10	10	6

※1 廃棄物等排出量=廃棄物排出量+有価物量

※2 廃棄物排出量=再資源化量+社外中間処理量+最終処分量

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマナシ
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054	環境マネジメントシステムの推進
057	工場の環境配慮性を高める取り組み
061	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063	温室効果ガスの排出抑制
067 ▼ 069	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用する化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

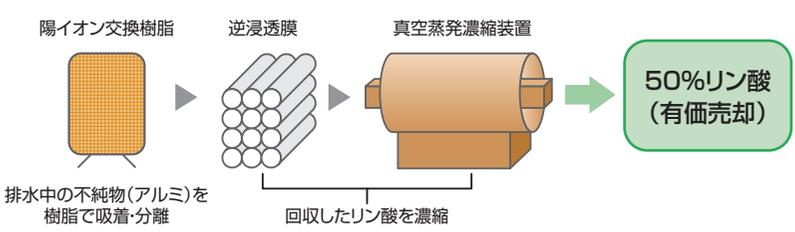
廃棄物削減事例 1

生産工程の環境負荷低減

リン酸回収システムの導入により、有価物化を推進

亀山工場(三重県亀山市)では、液晶パネル生産工程からの排水に含まれる「リン酸」を資源として回収する「リン酸回収システム」を導入しました。従来はリン酸を不純物として取り除き、産業廃棄物として処理していましたが、このシステムにより、回収したリン酸を50%程度に濃縮し、有価物として売却することができます。また、導入前と比較して、産業廃棄物を約35%削減することができました。

■ リン酸回収システム



廃棄物削減事例 2

生産工程の環境負荷低減

濃縮塩を削減

三重工場(三重県多気郡)では、「廃棄物削減会議」を開催し、工場をあげて廃棄物の削減に取り組んでいます。その一環として、生産工程からの排水を処理する際に発生する「濃縮塩」というアルカリ性の廃棄物の削減を進めています。

三重工場では、生産工程からの排水はすべて回収して再利用していますが、排水には薬品成分が含まれているため、化学薬品を使用して除去します。従来、除去を行う過程で、薬品成分と化学薬品とが反応して、濃縮塩が多量に発生していましたが、化学薬品の使用量見直しに取り組んだ結果、発生量を前年度比約3%削減することができました。

廃棄物削減事例 3

木製パレットの再利用により、廃棄物を削減

栃木工場(栃木県矢板市)では、亀山工場(三重県亀山市)から供給される液晶パネルを利用して液晶テレビを生産していますが、従来、液晶パネル運搬用木製パレットは廃棄物として処理していました。

2009年度には、廃棄物の排出量削減を図るため、37、40、42、46型液晶パネル用の木製パレットを亀山工場へ返却して再利用することで廃棄物を約100t削減することができました。



亀山工場に返却して再利用する木製パレット

廃棄物削減事例 4

廃家電部品の有価物化を推進

八尾工場(大阪府八尾市)は従来、基板など、プラスチックと金属が混合した使用済み部品を廃棄処分していましたが、有価物として売却可能な業者と契約することで、年間約3tの廃棄物を削減することができました。

水の有効利用

シャープは、受水量の削減と水の循環利用の推進により、貴重な水資源の保全と有効利用を図っています。

- 001 目次
- 002 編集にあたって
- 003 トップメッセージ
- 005 CSR(企業の社会的責任)についての考え方
- 007 企業ビジョン
- 008 特集
- 012 クローズアップ
- 017 マネジメント
- 環境とシャープ
- 029 環境への貢献をめざして
- 030 環境面の目標と実績
- 031 マスバランス
- 033 環境会計
- 034 ■ テクノロジー
- 041 ■ プロダクト
- オペレーション
- 054 環境マネジメントシステムの推進
- 057 工場の環境配慮性を高める取り組み
- 061 オフィスの環境配慮性を高める取り組み
- 063 温室効果ガスの排出抑制
- 067 廃棄物の排出抑制と再資源化
- 070 水の有効利用
- 071 生産工場で使用される化学物質の適正管理
- 073 物流・包装における環境負荷低減
- 075 ■ リレーションシップ
- 077 環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
- 080 社会とシャープ
- 110 社外からの評価
- 112 シャープグループの概要
- 114 独立保証報告書

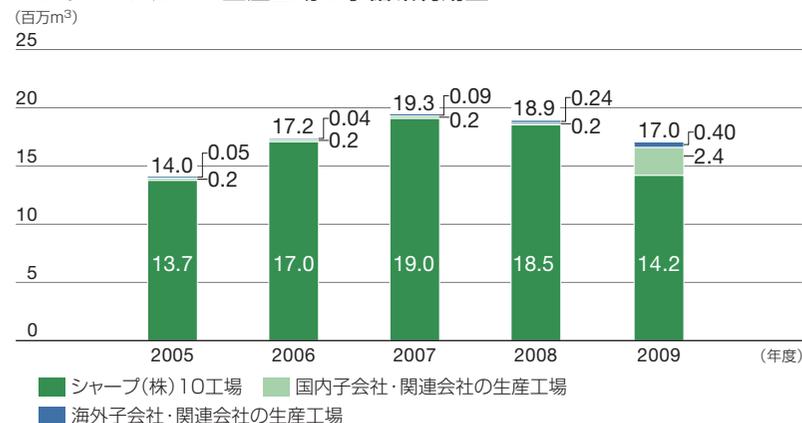
水資源の保全と有効利用を推進

2009年度のシャープグループの受水量は、シャープディスプレイプロダクト(株)の稼動による増加を受けて、前年度比6%増加しましたが、シャープ(株)10工場の受水量は、循環利用を徹底した結果、生産量減少の影響もあり、12%削減することができました。今後も継続して受水量の削減と水の循環利用を推進し、水資源の保全と有効利用を図ります。

■ シャープグループの受水量の推移



■ シャープグループ生産工場の水循環利用量



純水使用量削減事例 1

生産工程の環境負荷低減

ガラス基板加工装置における純水使用量を削減

三重工場(三重県多気郡)では、環境管理部門や生産技術部門など、各関係部門が連携し、生産工程における純水使用量の削減に取り組んでいます。

液晶パネルガラス基板の加工装置では、基板を洗浄するために多量の純水を使用します。純水の流量は、装置内で一定になるよう設定していますが、ある程度の変動幅があったため、純水が無駄なく効率良く使用できるように、流量の変動幅をさらに縮小し、純水の使用量を削減することができました。

また、ガラス基板は、加工工程ごとに純水で洗浄していますが、洗浄度を低下させることなく洗浄時間を短縮する取り組みを推進し、ガラス基板一枚あたりの加工処理時間の短縮と純水使用量の削減を図りました。

純水使用量削減事例 2

ユーティリティ設備の環境負荷低減

外気処理空調機の節水対策を実施

三重工場では、クリーンルームの湿度を一定に維持するため、外気処理空調機に水膜加湿方式を導入しています。これまで加湿膜に常時散水していましたが、散水量を制御する装置を設置しました。これにより、純水の使用量を年間約26万t削減することができます。

生産工場で使用使用する化学物質の適正管理

シャープは、生産工場で使用使用する化学物質の適正管理を徹底するとともに、危険物や有害化学物質については、「特殊安全対策委員会」での活動を通して、安全管理を徹底しています。

- 001 目次
- 002 編集にあたって
- 003 トップメッセージ
- 005 CSR(企業の社会的責任)についての考え方
- 007 企業ビジョン
- 008 特集
- 012 クローズアップ
- 017 マネジメント
- 環境とシャープ
- 029 環境への貢献をめざして
- 030 環境面の目標と実績
- 031 マスバランス
- 033 環境会計
- 034 ■ テクノロジー
- 041 ■ プロダクト
- オペレーション
- 054 環境マネジメントシステムの推進
- 057 工場の環境配慮性を高める取り組み
- 061 オフィスの環境配慮性を高める取り組み
- 063 温室効果ガスの排出抑制
- 067 廃棄物の排出抑制と再資源化
- 070 水の有効利用
- 071・072 生産工場で使用使用する化学物質の適正管理
- 073 物流・包装における環境負荷低減
- 075 ■ リレーションシップ
- 077 環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
- 080 社会とシャープ
- 110 社外からの評価
- 112 シャープグループの概要
- 114 独立保証報告書

2009年度の目標

- 化学物質管理の強化
- 新化学物質管理指針の制定・国内工場での定着

2009年度の実績

- 新化学物質管理指針を見直し(排出管理指標の概念の導入)

2010年度目標

- 新化学物質管理指針(排出管理指標)の制定と定着

2012年度目標

- 新化学物質管理指針(排出管理指標)に基づく排出量管理

化学物質の適正管理

新たな化学物質の導入時や取扱設備の増設・改造時には、プロセスアセスメント制度^{※1}により、厳密な事前審査を実施することで、環境負荷の低減と安全の確保、健康への配慮を行っています。

現在取り扱っている化学物質については、取扱従業員を対象に教育・訓練を定期的実施し、事故防止に努めるとともに、特殊安全対策委員会活動および環境安全監査制度^{※2}により、適正管理を徹底しています。

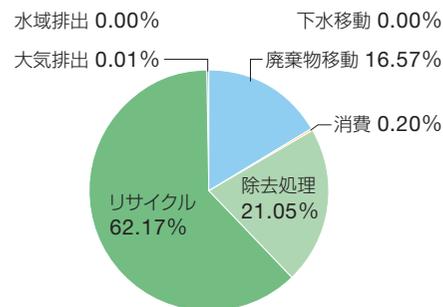
PRTR^{※3}制度対象物質のうち、2009年度の取扱量が生産工場ごとに500kg以上の物質は、国内全工場合計で14物質、総取扱量は約11,709tで、前年度比11%削減することができました。また、キシレン

をはじめとするVOC^{※4}排出の抑制と算定方法の見直し^{※5}により、総排出量は約1.4t、前年度比19%となりました。

2009年度に制定する計画であった化学物質管理指針については、新たに「排出管理指標」の考え方を導入し、2010年度に制定、試行することで、化学物質管理の強化を図ります。

※1 新たな化学物質の導入時や取扱設備の増設・改造時の事前審査制度。 ※2 工場環境管理部門を対象に、環境・安全、コンプライアンス等の取り組みを評価する制度。 ※3 化学物質の排出・移動登録。有害性のある化学物質の排出量や移動量などのデータを集計・公表する仕組み。 ※4 揮発性有機化合物の総称。 ※5 電機・電子4団体発行のガイドラインに基づき、排水中のふっ素化合物は非水溶性であるため、水域排出量の集計対象から除外。

■ PRTR対象物質の行き先内訳

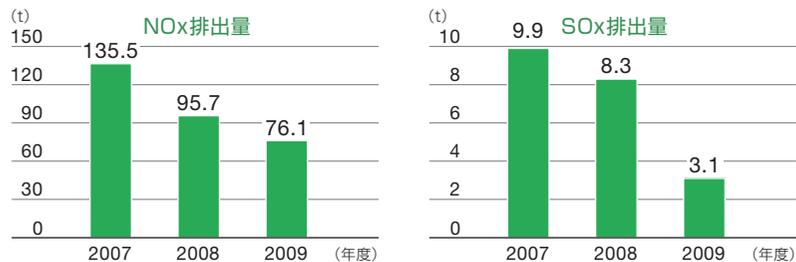


■ 2009年度のPRTRデータ(国内)

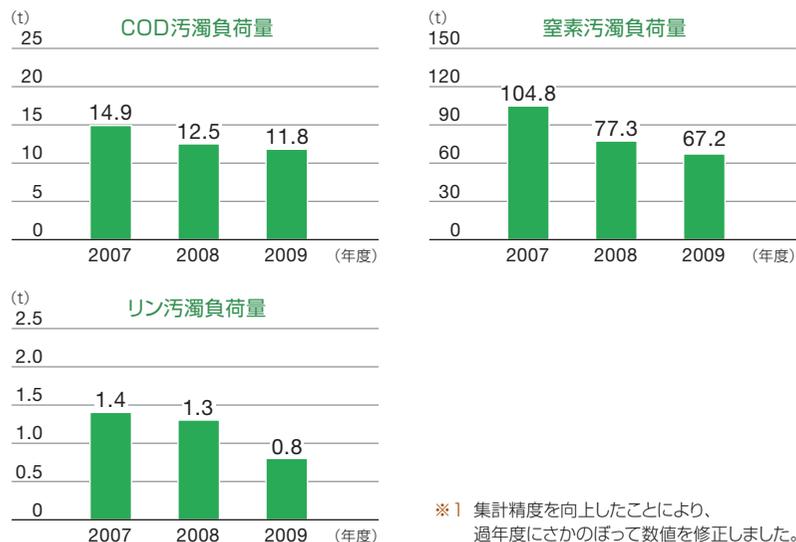
化学物質名	取扱量	排出量		移動量		消費量		除去処理量
		大気	水域	下水	その他	製品含有等	リサイクル量	
2-アミノエタノール	10,532,256	703	44	0	1,057,798	0	7,274,285	2,199,426
エチレングリコール	792	0	24	0	0	0	0	768
キシレン	1,295	35	0	0	518	0	0	742
銀及びその水溶性化合物	20,187	0	0	0	0	19,212	975	0
N,N-ジメチルホルムアミド(DMF)	35,328	14	0	0	5,920	0	0	29,394
1,3,5-トリメチルベンゼン	1,213	10	0	0	1,116	0	0	87
鉛及びその化合物	4,000	0	0	0	231	3,760	9	0
砒素及びその無機化合物	675	0	0	0	603	61	11	0
ピロカテコール(別名カテコール)	4,226	0	0	0	4,226	0	0	0
フェノール	2,040	20	0	0	1,836	0	0	184
ふっ素水素及びその水溶性塩	1,096,439	535	0	0	862,223	0	0	233,641
ほう素及びその化合物	4,341	8	0	0	4,333	0	0	0
ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル	1,753	0	2	0	1,696	0	0	55
モリブデン及びその化合物	4,280	0	34	0	152	509	3,585	0
合計	11,708,825	1,325	104	0	1,940,652	23,542	7,278,865	2,464,297

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054	環境マネジメントシステムの推進
057	工場の環境配慮性を高める取り組み
061	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063	温室効果ガスの排出抑制
067	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071・072	生産工場で使用される化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

■ 大気への排出量の推移(国内)



■ 公共水域への汚濁負荷量の推移(国内)※1



※1 集計精度を向上したことにより、過年度にさかのぼって数値を修正しました。

危険物や有害化学物質の「特殊安全管理」の徹底

使用する化学物質のうち、危険物や有害化学物質などの安全管理を「特殊安全管理」と呼び、研究開発から生産ラインに至るまで管理の徹底を図っています。

各生産工場には生産部門、技術部門、環境管理部門の技術者による「特殊安全対策委員会」を設置し、プロセスアセスメント制度の運用を推進するとともに、万一の事故を想定した緊急時対応訓練や教育、複数の部門で相互に取り扱い状況を監査するクロス監査などを実施し、安全レベルの向上を図っています。

リスクコミュニケーションと情報開示

ホームページ「社会環境活動」や各生産工場が発行するサイトレポートなどを通して、事業活動に伴う環境リスク情報を公開しています。また、各生産工場で定期的に開催している環境フェスタや懇談会を通して、地域および行政の方々との良好なコミュニケーションに努めています。

1998年に国内の全工場で行った土壌・地下水調査で、塩素系溶剤による汚染が確認された4工場(奈良・八尾・天理・葛城)については、奈良工場(奈良県大和郡山市)を除く3工場が、揚水処理※2やバイオ処理※3などの対策により、環境基準値以下のレベルまで浄化が進みました。奈良工場では、環境基準値以下をめざして、継続的に浄化を進めるとともに、地域および行政の方々に対して、定期的に進捗状況をご報告しています。2009年度も報告会を開催し、敷地外に地下水の汚染が拡散していないことと浄化が着実に進んでいることを確認いただきました。

福山工場(広島県福山市)では、年に2回、地域および行政(福山市)の方々と三者で工場排水の採水分析を行っています。採取した排水を三者がそれぞれ分析し、その結果を持ち寄りて数値を確認することを通して、関係者の円滑なコミュニケーションの醸成に役立っています。



福山工場における工場排水の三者採水分析

※2 汚染地下水をくみ上げ、水処理施設で浄化する方法。
 ※3 微生物の働きにより、有害物質を分解・無害化する方法。

国内におけるPCBの適切な保管と処理

高圧トランスの一部を除いて、ポリ塩化ビフェニル(PCB)の使用はありません。PCB廃棄物については、適正に管理し、行政への報告を徹底しています。国が定めた期限(2016年)までにPCBを処理できるよう、日本環境安全事業株式会社(JESCO)への早期登録を完了し、計画通り処理を進めています。今後も、同社の処理スケジュールに基づき、着実に処理を進めます。

■ PCBの保管状況

高圧トランス (使用中のものも含む)	高圧コンデンサ	廃家電から回収される コンデンサや蛍光灯安定器
38台	144台	約12,500個

2009年3月31日現在

物流・包装における環境負荷低減

業務委託先の運送会社と協力して、輸送方法や積載方法の最適化を推進するなど、物流における環境負荷の低減に取り組んでいます。また、包装材においても、包装材料の削減など、環境負荷低減を進めています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054	環境マネジメントシステムの推進
057	工場の環境配慮性を高める取り組み
061	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063	温室効果ガスの排出抑制
067	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用する化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
074	
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度目標	2012年度目標
<ul style="list-style-type: none"> 国内シャープグループの輸送重量あたりCO₂排出量*1を 前年度比 1%削減 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度比 ±0% 	<ul style="list-style-type: none"> 2006年度を基準として、2007~2010年度に年平均 1%削減 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度比 1%削減(毎年度目標)

*1 CO₂排出量原単位(t-CO₂/千トンキロ)=CO₂排出量(t-CO₂)÷貨物輸送量(千トンキロ)
2009年度より、原単位の分母をより実体を反映する貨物輸送量(千トンキロ)に変更しました。

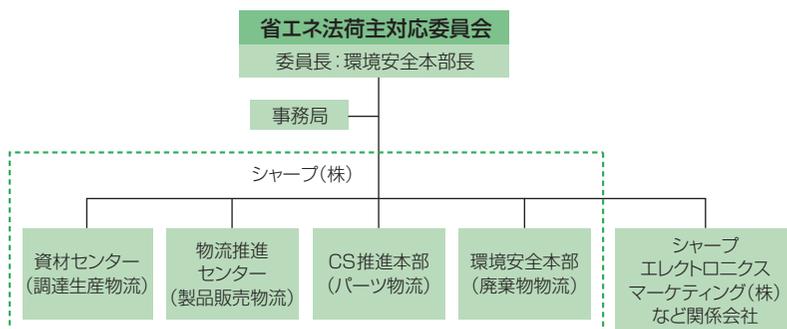
物流分野ごとに環境負荷低減施策を推進

2006年度より「省エネ法荷主対応委員会」を発足し、製品販売物流、調達生産物流、廃棄物物流、パーツ物流*2の分野ごとに環境負荷を把握するとともに、グループをあげて物流における省エネ対策を強化しています。特定荷主の責務である「CO₂排出量原単位の年平均1%以上削減」を国内シャープグループ全体の目標に掲げ、輸送効率の改善やモーダルシフトの推進など、省エネに向けた取り組みを推進しています。

貨物輸送による2009年度の国内シャープグループ全体のCO₂排出量は、42千t-CO₂となり、前年度比11%増加しましたが、基準年度の2006年度比では15%の削減となりました。また、輸送重量あたりCO₂排出量は0.22t-CO₂/千トンキロで、前年度比±0%、2006年度比では8%の削減となりました。

*2 パーツ物流:商品の修理・メンテナンスなど、アフターサービスに使用する部品の物流。

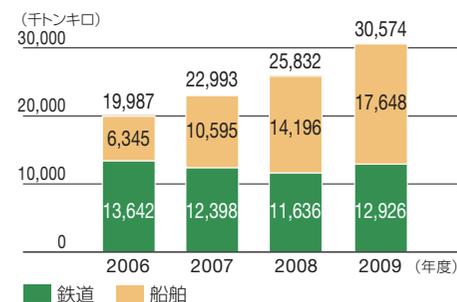
■ 物流の省エネ推進体制



モーダルシフトの推進

国内では、商品の輸送を従来のトラック輸送から鉄道や船舶など、より環境負荷の低い輸送手段に切り替えるモーダルシフトを推進しています。2009年度は、船舶による輸送量を大幅に拡大し、鉄道と船舶による輸送量を前年度比18%増やすことができました。今後もモーダルシフトの拡大に取り組めます。

■ 鉄道と船舶による輸送量の推移



■ モーダルシフト推進事例

携帯電話の輸送でエコレールマークを取得

シャープは、携帯電話の輸送で、2008年度に国土交通省ならびに社団法人 鉄道貨物協会が制定する「エコレールマーク」*3を取得しました。これは、500km以上の陸上輸送のうち、約63%(2007年度)を鉄道利用したことが評価されたものです。2008年度は71.1%、2009年度は73.6%と、鉄道利用率を年々高めています。



*3 500km以上の陸上輸送のうち、30%以上を鉄道利用する商品を認定。

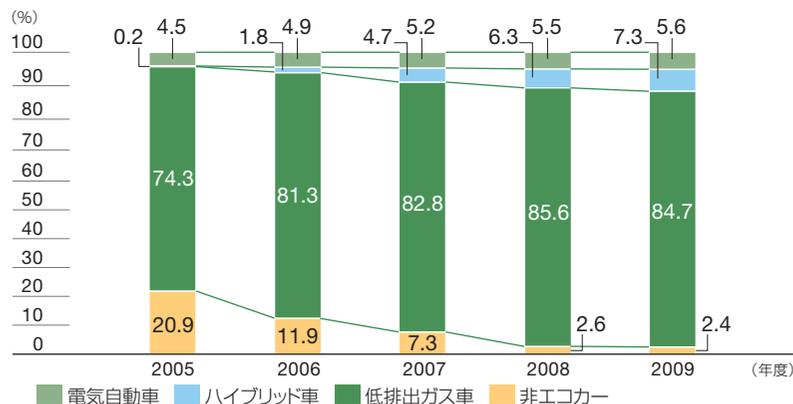
当社製携帯電話のパッケージにエコレールマークを表示(左:ソフトバンクモバイル株式会社、右:株式会社NTTドコモ)

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
031	マスマランス
033	環境会計
034	■ テクノロジー
041	■ プロダクト
	■ オペレーション
054	環境マネジメントシステムの推進
057	工場の環境配慮性を高める取り組み
061	オフィスの環境配慮性を高める取り組み
063	温室効果ガスの排出抑制
067	廃棄物の排出抑制と再資源化
070	水の有効利用
071	生産工場で使用される化学物質の適正管理
073	物流・包装における環境負荷低減
074	
075	■ リレーションシップ
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

低公害車導入の推進

営業活動などに使用する業務用車両や、物流拠点の構内で使用するフォークリフトなどの低公害車への切り替えを推進しています。業務用車両については、低排出ガス車やハイブリッド車、電気自動車などの導入を進めています。フォークリフトについてはすべて電気式への切り替えが完了しています。

■ 低公害車導入比率



低公害車導入事例

ハイブリッドトラックを利用

主に携帯電話関連の物流を担う西日本ロジスティクスセンター広島駐在では、2009年度にトナミ運輸株式会社にご協力いただいて、ハイブリッドトラック(4t車)を近郊エリアの配送に利用しています。従来のディーゼルトラックに比べて、CO₂排出量を約10%削減することができます。



近郊エリアの配送にハイブリッドトラックを利用

TOPICS

SECが環境配慮型輸送で4年連続受賞

米国の販売会社SEC※1は、「スマートウェイプログラム※2」に参画し、環境配慮型輸送を推進しています。同社の全物流量のうち、当プログラムに準拠した輸送重量は99%に達しています。2008年度からは、複数の輸送手段を組み合わせる複合一貫輸送を増やし、燃料効率を改善するとともに、サプライチェーン全体における輸送計画の最適化を図るため、新しい管理システムを導入しました。

これらの活動が評価され、米国環境保護庁による第4回表彰では、荷主企業として唯一、4年連続で優秀賞を受賞しました。



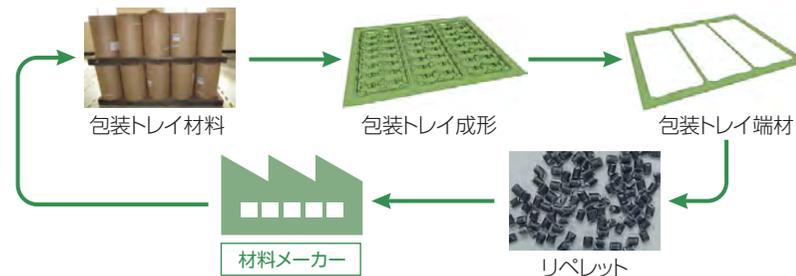
- ※1 Sharp Electronics Corporation
- ※2 米国環境保護庁や物流、荷主などの産業界が合同で取り組む環境配慮型輸送。

包装材削減事例

プラスチック包装トレイ材料のリサイクルを推進

包装における省資源化に向けた取り組みとして、プラスチック包装トレイ材料のリサイクルを推進しています。中小型液晶モジュール用プラスチック包装トレイを成形した後に発生する端材をリペレット(再生樹脂)に加工し、プラスチック包装トレイ材料を製造する際に混合しています。再生材料の混合率は約15~20%で、2009年度は約240tを利用しました。これは、プラスチック包装トレイ総発注量の約10%に相当します。

■ プラスチック包装トレイ材料リサイクルのイメージ



環境コミュニケーションの推進

環境・社会報告書やサイトレポート、ホームページなどで環境情報をわかりやすく開示するとともに、環境展への出展や環境フォーラムの開催、新聞やテレビなどのメディアを通じて、幅広いステークホルダーの皆さまに環境への取り組みをご紹介します、コミュニケーションを図っています。

環境・社会報告書やサイトレポート、ホームページによる環境情報の開示

環境・CSR取り組みの年次報告書として、環境・社会報告書を発行し、環境・CSRにかかわる方針、目標、実績、課題、今後の計画などをわかりやすく開示しています。また、社会環境活動ホームページでは、環境・社会報告書の内容に加えて、具体的な活動事例や詳細なデータを掲載しています。

また、国内外の工場では、環境情報の積極的な開示による信頼性確保を目的に、2004年度からサイトレポートを発行しています。近隣住民の皆さまや工場をご見学いただいた方々にお渡ししており、社会環境活動ホームページにも掲載しています。

2010年版の環境・社会報告書は、専門家向け詳細版(PDF)と一般向け簡易版(冊子とPDF)の2種類を編集し、ステークホルダーによって大きく異なるニーズへの適合を図る考えです。また、ホームページもよりスムーズに閲覧いただけるようにリニューアルし、これらの改善によって、環境・CSRへの取り組みを幅広いステークホルダーに、よりわかりやすく開示する考えです。



環境・社会報告書2009
(日本語版、英語版、中国語版)
「第13回環境報告書賞」優良賞受賞



社会環境活動ホームページ
<http://www.sharp.co.jp/corporate/eco/>



三重工場のサイトレポート
環境・社会貢献活動情報誌2009
「第13回環境コミュニケーション大賞」奨励賞受賞

新聞広告・TV CMで環境情報を発信

環境への取り組みをより多くの皆さまに知っていただくため、新聞広告やTV CMを通じて、ソーラー発電への取り組みや、液晶テレビLED AQUOS、LED電球、エアコンなどの環境配慮型商品の環境性能を紹介しています。



新聞広告

TOPICS

環境・社会報告書、サイトレポート、新聞広告が相次いで受賞

「環境・社会報告書2009」が、東洋経済新報社とグリーンリポーティングフォーラム主催の「第13回環境報告書賞」において、優良賞を受賞しました。また、三重工場の「環境・社会貢献活動情報誌2009」は、(財)地球・人間環境フォーラムと環境省共催の「第13回環境コミュニケーション大賞」で奨励賞を受賞しました。昨年も「第12回環境報告書賞」でサイトレポート賞を受賞しています。

さらに、「救うのは、太陽だと思う。シャープは、世界のソーラー・カンパニーへ」をキャッチコピーとして2008年度から展開している新聞広告「太陽とシャープ」シリーズは、下表のとおり高い評価をいただいています。

■ 新聞広告「太陽とシャープ」シリーズの受賞実績

2008年度	第57回 日経広告賞 コーポレートブランド広告賞
	第38回 フジサンケイグループ広告大賞 メディア部門(新聞) 最優秀賞
	第25回 読売広告大賞 読者が選ぶ広告の部 読者大賞
2009年度	第25回 読売広告大賞 ザ・デイリーヨミウリ広告賞 最優秀賞
	第29回 新聞広告賞 広告主企画部門入選
	第39回 フジサンケイグループ広告大賞 メディア部門(新聞)最優秀賞
	第77回 毎日広告デザイン賞 広告主参加作品の部 準部門賞

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■テクノロジー
041	■プロダクト
054	■オペレーション
	■リレーションシップ
075・076	環境コミュニケーションの推進
077	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

国内外の展示会に出展

国内外の展示会に出展し、環境への取り組みをご紹介しています。

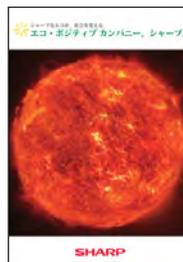
国内最大級の環境総合展「エコプロダクツ2009」では、「シャープなエコが、社会を変える。エコ・ポジティブカンパニー、シャープ」をテーマに、太陽光発電への取り組みや液晶テレビLED AQUOSやLED照明、白物家電などの省エネ商品、「グリーンフロント 堺」における異業種企業と連携した環境負荷削減の取り組みなど、グリーン社会の実現に貢献する特長的な取り組みを紹介しました。

また、ドイツで開催された世界最大級の民生用電子機器展示会「IFA2009」では、「グリーンな企業、シャープ」をテーマに、LED AQUOSをはじめ、LED照明、ソーラーパネル、ソーラー・LED照明灯など環境配慮型商品を展示しました。

また、インドネシアで開催されたアジア地域最大級の国際環境展示会「第6回エコプロダクツ国際展」では、最新の環境配慮型商品に加えて、「ソーラーハウス」「ソーラータウン」「ソーラービルディング」の模型を展示し、シャープが実現をめざす近未来のグリーン社会を提示しました。ブースには、インドネシア政府の閣僚をはじめ、大勢のお客さまにご来場いただきました。



エコプロダクツ2009 (東京)



「シャープなエコ」を紹介したパンフレット
(エコプロダクツ2009)



IFA2009 (ドイツ・ベルリン)



第6回エコプロダクツ国際展
(インドネシア・ジャカルタ)

国内外で環境フォーラムを開催

環境への取り組みをより広くお伝えするため、国内外で政府関係者やジャーナリスト、一般の皆さまを対象に環境フォーラムを開催しています。2009年度は、日本、中国、インドネシアで合わせて4回開催しました。

2007年度から継続的に開催している中国では、2009年度には瀋陽市と杭州市で開催し、累計9回を数えました。杭州市での環境フォーラムでは、市政府関係者やメディアの幹部26名にお集まりいただき、企業ビジョン「エコ・ポジティブカンパニー」と環境戦略「エコ・ポジティブ戦略」について、目標や具体的な取り組み施策などをわかりやすくご紹介しました。中国側の出席者を代表して杭州市の張建庭副市長から市政府の環境方針のご紹介とシャープへのアドバイスをいただき、双方の理解を深める有意義な場となりました。



中国での第9回環境フォーラム(杭州)

見学会や各種交流会を実施

工場見学会や各種交流会、イベントなどを通して、幅広いステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションに努めています。

シャープ(株)の各工場で開催しているフェスタでは、「環境取り組み情報の公開」と「自然とのふれあいの場や環境学習の場の提供などによる地域社会への貢献」という観点から、環境コーナーを設けて展示やイベントを実施し、従業員とその家族や地域住民の皆さまに好評をいただいています。

また、総合開発センター(奈良県天理市)では、年に一度、地元自治会役員の皆さまをお迎えし、シャープの環境への取り組み状況をご報告するとともに、地域での社会貢献活動における連携などについて意見交換を実施しています。

2009年度には、三重大学の皆さまとお互いの環境報告書および三重工場のサイトレポートに関する意見交換会を実施し、貴重なご意見をたくさんいただきました。



福山工場「ファミリーデー in シャープ」の環境コーナー



三重大学との意見交換会

環境とシャープ

環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■テクノロジー
041	■プロダクト
054	■オペレーション
075	■リレーションシップ
077 ▼ 079	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

■ 環境パフォーマンスデータ集計範囲

シャープ(株)および連結対象子会社。ただし、生産工場については、非連結子会社および関連会社も含まれます。
 生産工場 30社40工場(国内9社18工場、海外21社22工場)
 オフィス 30社77オフィス(国内8社54オフィス、海外22社23オフィス) 2010年3月31日現在

日本

生産工場	シャープ(株)	栃木工場
		八尾工場
		広島工場
		奈良工場
		葛城工場(富山工場実績を含む)
		福山工場
		三重工場
		天理工場(柏の首都圏研究所実績を含む)
		三原工場
		亀山工場
	連結子会社	シャープマニファクチャリングシステム(株)
		シャープ新潟電子工業(株)
		シャープ三重(株)
		シャープ米子(株)
		シャープディスプレイプロダクト(株)
非連結子会社	シャープ特選工業(株)	
関連会社	カンタツ(株)	
シャープタカヤ電子工業(株)		
オフィス	シャープ(株)	本社・田辺オフィス
		幕張オフィス(東京支社)
		東京 市ヶ谷オフィス
	連結子会社	シャープエレクトロニクスマーケティング(株)
		シャープシステムプロダクト(株)
		シャープエンジニアリング(株)
		シャープドキュメントシステム(株)
		シャープアメニティシステム(株)
		シャープトレーディング(株)
		シャープビジネスコンピュータソフトウェア(株)

米州

生産工場	連結子会社	Sharp Manufacturing Company of America (SMCA)*1	米国
		Sharp Electronica Mexico S.A. de C.V. (SEMEX)	メキシコ
オフィス	連結子会社	Sharp Electronics Corporation (SEC)	米国
		Sharp Laboratories of America, Inc. (SLA)	
		Sharp Electronics of Canada Ltd. (SECL)	カナダ

*1 SECの生産事業本部

欧州

生産工場	連結子会社	Sharp Manufacturing Company of U.K. (SUKM)*2	英国
		Sharp Electronica España S.A. (SEES)	スペイン
		Sharp Manufacturing France S.A. (SMF)	フランス
		Sharp Manufacturing Poland Sp.zo.o. (SMPL)	ポーランド
オフィス	連結子会社	Sharp Electronics (Europe) GmbH (SEEG)	ドイツ
		Sharp Electronics (U.K.) Ltd. (SUK)	英国
		Sharp Laboratories of Europe, Ltd. (SLE)	
		Sharp Electronics France S.A. (SEF)	フランス
		Sharp Electronics (Italia) S.p.A. (SEIS)	イタリア
		Sharp Electronics (Schweiz) AG (SEZ)	スイス
		Sharp Electronics (Nordic) AB (SEN)	スウェーデン
		Sharp Electronics Benelux B.V. (SEB)	オランダ
		Sharp Electronics Russia LLC. (SER)	ロシア

*2 SUKの生産事業本部

アジア・中近東・オセアニア

生産工場	連結子会社	Shanghai Sharp Electronics Co., Ltd. (SSEC)	中国	
		Sharp Office Equipments (Changshu) Co., Ltd. (SOCC)		
		Wuxi Sharp Electronic Components Co., Ltd. (WSEC)		
		Nanjing Sharp Electronics Co., Ltd. (NSEC)		
		Sharp Technical companies (Wuxi) Co.,Ltd (STW)		
		Sharp Appliances (Thailand) Ltd. (SATL)	タイ	
		Sharp Manufacturing (Thailand) Co., Ltd. (SMTL)		
		Sharp Manufacturing Corporation (M) Sdn. Bhd. (SMM)	マレーシア	
		Sharp (Phils.) Corporation (SPC)	フィリピン	
		PT. Sharp Semiconductor Indonesia (SSI)	インドネシア	
	PT. Sharp Electronics Indonesia (SEID)			
	非連結子会社	Shanghai Sharp Mold and Manufacturing Systems Co., Ltd. (SSMC)	中国	
		Sharp India Ltd. (SIL)	インド	
		関連会社	Sharp Korea Corporation (SKC)	韓国
			S&O Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd. (SOEM)	マレーシア
オフィス		連結子会社	Sharp Electronics (Shanghai) Co., Ltd. (SES)	中国
	Sharp Electronics Sales (China) Co.,Ltd. (SESC)			
	Sharp Electronic Components (Taiwan) Corporation (SECT)		台湾	
	Sharp Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd. (SEM)		マレーシア	
	Sharp-Roxy Sales (Singapore) Pte., Ltd. (SRS)		シンガポール	
	Sharp Electronics (Singapore) Pte., Ltd. (SESL)			
	Sharp Software Development India Pvt. Ltd. (SSDI)		インド	
	Sharp Middle East Free Zone Establishment (SMEF)		アラブ首長国連邦	
	Sharp Corporation of Australia Pty. Ltd. (SCA)		オーストラリア	
	Sharp Corporation of New Zealand Ltd. (SCNZ)		ニュージーランド	

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■テクノロジー
041	■プロダクト
054	■オペレーション
075	■リレーションシップ
077 ▼ 079	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

■ 環境パフォーマンス指標算定基準

[1]対象期間

2009年4月1日～2010年3月31日

[2]対象組織

シャープ(株)および連結対象子会社。ただし、生産工場については、非連結子会社および関連会社も含む。

生産工場: 30社40工場(国内9社18工場、海外21社22工場) オフィス: 30社77オフィス(国内8社54オフィス、海外22社23オフィス)

[3]環境パフォーマンス指標算定方法

環境省の「環境報告ガイドライン(2007年版)」を参考とした。

環境パフォーマンス指標		単位	算定方法				
I N P U T	生産	エネルギー使用量	年間購入電力量(kWh)×単位投入熱量 ^{※1} +Σ[各燃料年間使用量×各単位発熱量 ^{※2}] ^{※1} エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則(平成18年4月1日施行)より、 ・昼間電力9.97MJ/kWh ・夜間電力9.28MJ/kWh ^{※2} 資源エネルギー庁のエネルギー源別単位発熱量表(平成14年2月)より、 ・都市ガス <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>国内</td> <td>購入先のガス事業者に対し、個別に確認した数値を使用 ・東京ガス/大阪ガス:45.0GJ/Km³ ・福山ガス:46.0GJ/Km³ ・東邦ガス/広島ガス:46.04655GJ/Km³ ・北海道ガス:46.05GJ/Km³</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td>把握している日本国内の数値のうち、最も高いものを使用 ・46.05GJ/Km³</td> </tr> </table> ・LPG:50.8GJ/t ・A重油:39.1GJ/kl ・灯油:36.7GJ/kl ・軽油:37.7GJ/kl ・ガソリン:34.6GJ/kl ・蒸気:(SSEC):2.817GJ/t.(WSEC):3.771GJ/t.(NSEC):3.782GJ/t ・冷温熱:購入先のガス事業者に対し、個別に確認した数値を使用(現状、幕張の0.799GJ/GJのみ該当)	国内	購入先のガス事業者に対し、個別に確認した数値を使用 ・東京ガス/大阪ガス:45.0GJ/Km ³ ・福山ガス:46.0GJ/Km ³ ・東邦ガス/広島ガス:46.04655GJ/Km ³ ・北海道ガス:46.05GJ/Km ³	海外	把握している日本国内の数値のうち、最も高いものを使用 ・46.05GJ/Km ³
		国内	購入先のガス事業者に対し、個別に確認した数値を使用 ・東京ガス/大阪ガス:45.0GJ/Km ³ ・福山ガス:46.0GJ/Km ³ ・東邦ガス/広島ガス:46.04655GJ/Km ³ ・北海道ガス:46.05GJ/Km ³				
		海外	把握している日本国内の数値のうち、最も高いものを使用 ・46.05GJ/Km ³				
		電気	百万kWh	電力年間購入量			
		都市ガス	千m ³	都市ガス年間購入量			
		LPG	t	LPG年間購入量			
		重油・灯油・軽油・ガソリン	kl	燃料油年間購入量			
		PFC等購入量	万GWP t-CO ₂	PFC等年間購入量			
		化学物質投入量	t	PRTR法 ^{※3} 対象物質のうち、生産工場ごとの年間取扱量が500kg以上の物質の取扱量合計値			
		水使用量	千m ³	上水・井水・工業用水年間使用量			
包装材使用量	千t	包装資材の年間投入量					
資源投入量	万t	2009年度に販売した主要12品目の製品質量(推計)と廃棄物等排出量との合計					
物流	エネルギー使用量	GJ	改良トンキロ法				
商品の使用	エネルギー使用量	TJ (百万kWh)	2009年度に販売した主要11品目が1年間に消費するエネルギー使用量を、各製品の年間消費電力量に基づいて算出 単位発熱量は、9.97MJ/kWhを使用				
リサイクル	家電4品目	t	家電4品目の再商品化重量				
	複写機		複写機の再資源化重量				
	パソコン		パソコンの資源再利用量				
	プラスチックの 自己循環型マテリアルリサイクル量		プラスチックの自己循環型マテリアルリサイクル量				

※3 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
	環境とシャープ
029	環境への貢献をめざして
030	環境面の目標と実績
032	マスマランス
033	環境会計
034	■テクノロジー
041	■プロダクト
054	■オペレーション
075	■リレーションシップ
077 ▼ 079	環境パフォーマンスデータ集計範囲・算定基準
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

環境パフォーマンス指標		単位	算定方法																				
O U T P U T	CO ₂ 排出量	万t-CO ₂	Σ [年間電力購入量×CO ₂ 排出係数+各燃料年間使用量×各CO ₂ 排出係数] <CO ₂ 排出係数> ・電力 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>年度</td> <td>2004</td> <td>2005</td> <td>2006</td> <td>2007</td> <td>2008</td> <td>2009</td> </tr> <tr> <td>国内</td> <td>CO₂排出係数(t-CO₂/MWh)</td> <td>0.421</td> <td>0.425</td> <td>0.410</td> <td>0.453</td> <td>0.373*1</td> <td>0.373*1</td> </tr> </table> (社)日本電機工業会編「各国における発電部門CO ₂ 排出原単位の推計調査報告書」(2006年6月)より、各国の係数(2003年度)を使用 ※1 電気事業連合会公表の排出係数(京都メカニズムクレジット反映後)を使用。 ・都市ガス <table border="1"> <tr> <td>国内</td> <td>購入先のガス事業者に対し、個別に確認した標準発熱量(GJ/km³)×炭素換算係数(0.0136t-C)/44/12(t-CO₂/t-C)で算出 ・東京ガス/大阪ガス:2.244t-CO₂/km³ ・福山ガス:2.294t-CO₂/km³ ・東邦ガス/広島ガス/北海道ガス:2.296t-CO₂/km³ </td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td>把握している日本国内の数値のうち、最も高いものを使用 ・2.296t-CO₂/km³ </td> </tr> </table>		年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	国内	CO ₂ 排出係数(t-CO ₂ /MWh)	0.421	0.425	0.410	0.453	0.373*1	0.373*1	国内	購入先のガス事業者に対し、個別に確認した標準発熱量(GJ/km ³)×炭素換算係数(0.0136t-C)/44/12(t-CO ₂ /t-C)で算出 ・東京ガス/大阪ガス:2.244t-CO ₂ /km ³ ・福山ガス:2.294t-CO ₂ /km ³ ・東邦ガス/広島ガス/北海道ガス:2.296t-CO ₂ /km ³	海外	把握している日本国内の数値のうち、最も高いものを使用 ・2.296t-CO ₂ /km ³
		年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009															
	国内	CO ₂ 排出係数(t-CO ₂ /MWh)	0.421	0.425	0.410	0.453	0.373*1	0.373*1															
	国内	購入先のガス事業者に対し、個別に確認した標準発熱量(GJ/km ³)×炭素換算係数(0.0136t-C)/44/12(t-CO ₂ /t-C)で算出 ・東京ガス/大阪ガス:2.244t-CO ₂ /km ³ ・福山ガス:2.294t-CO ₂ /km ³ ・東邦ガス/広島ガス/北海道ガス:2.296t-CO ₂ /km ³																					
	海外	把握している日本国内の数値のうち、最も高いものを使用 ・2.296t-CO ₂ /km ³																					
	PFC等排出量	GWP t-CO ₂	Σ [各PFC類ガス年間排出量(t)×各PFC等ガスの温暖化係数*2] ※2 「IPCC第三次報告書」より、 ・六ふっ化硫黄:22.200 ・HFC・PFC:細分化されたガスごとに対応した係数																				
	SO _x 排出量	t	(1)気体燃料を燃焼した場合 硫黄分を含まないとされているため、排出のないものとして取り扱う (2)液体燃料を燃焼した場合 燃料含有硫黄量(kg/年)/32(kg-S)×(32+16×2)(kg-SO ₂)/1,000																				
	NO _x 排出量	t	(1)気体燃料を燃焼した場合 燃料使用量(Nm ³ /年)×乾き燃焼ガス×NO _x 排出濃度(ppm)×10 ⁻⁶ ×(14+16×2)(kg-NO ₂)/22.4(Nm ³)/1,000 (2)液体燃料を燃焼した場合 燃料使用量(l/年)×燃料比重(kg/l)×乾き燃焼ガス×NO _x 排出濃度(ppm)×10 ⁻⁶ ×(14+16×2)(kg-NO ₂)/22.4(Nm ³)/1,000																				
	排水量	千m ³	公共用水域及び下水道への年間排水量																				
	COD汚濁負荷量	t	COD濃度(mg/l)×公共用水域への排水量(m ³)×10 ⁻⁶																				
窒素汚濁負荷量	t	窒素濃度(mg/l)×公共用水域への排水量(m ³)×10 ⁻⁶																					
リン汚濁負荷量	t	リン濃度(mg/l)×公共用水域への排水量(m ³)×10 ⁻⁶																					
廃棄物最終処分量	t	産業廃棄物最終処分量+事業系一般廃棄物最終処分量																					
化学物質排出量・移動量	t	PRTR法対象物質のうち生産工場ごとの年間取扱量が500kg以上の物質の排出量及び移動量合計値																					
物流	CO ₂ 排出量	千t-CO ₂	改良トンキロ法																				
	輸送量	千トンキロ	改良トンキロ法																				
商品の使用	製品出荷量	万t	2009年度に販売した主要11品目の製品重量(推計)																				
	CO ₂ 排出量	万t-CO ₂	2009年度に販売した主要11品目の1年間のエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量を推計。各製品の年間消費電力量に基づいて算出。算定方法を一部見直しました。																				
	CO ₂ 削減貢献量	万t-CO ₂	2009年度に出荷した太陽電池の1年間の発電量およびCO ₂ 削減貢献量																				
リサイクル	再商品化・再資源化・資源再利用されなかった重量	t	[家電4品目、パソコン、複写機の総回収量]-[再商品化・再資源化・資源再利用された重量]																				

社会面の目標と実績

人々から、社会から、信頼される企業であり続けるために、「シャープグループ企業行動憲章」「シャープ行動規範」を踏まえ、CSRの社会面における重点取り組みテーマを各ステークホルダー別に設定し、継続的に活動を推進しています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
082	
083	■ お客さまとともに
090	■ お取引先さまとともに
094	■ 株主・投資家とともに
096	■ 従業員とともに
104	■ 地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

社会面におけるCSR取り組みの推進

社会面における取り組みの推進にあたっては、分野(ステークホルダー)別に重点取り組みテーマを設定し、年度目標を立てて各種の施策を推進しています。

また、経営理念の中の「株主、取引先をはじめ、全ての協力者との相互繁栄を期す」を実現していくために、シャープの事業活動に関係するさまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを図り、CSR活動を推進しています。

各取り組みの目標、施策については、今後も定期的に進捗状況を確認し、課題の洗い出しと改善に取り組むマネジメントシステムを運用して、業務プロセスへのさらなる定着を図ります。

CSRの視点で取り組む小集団活動「R-CATS※」

シャープにおける小集団活動「R-CATS活動」は、お客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまに安心と満足いただける製品やサービスを提供するため、全従業員が小集団を結成し、ステークホルダーの視点を持って自分たちの仕事の“質”の向上や、新たな“しくみ”づくりに挑戦する改善活動です。

この活動では、国内の全従業員に加え、海外の全生産拠点がCSRの視点でそれぞれの職場の問題解決や課題達成に取り組んでおり、活動の成果は、年2回開催している全社大会において国内外から選抜された優秀チームが発表し、改善事例の全社共有化を図っています。

2009年度は、シャープグループ全体で約3万7千名の従業員が参加し、CSRの視点で、それぞれの職場の問題解決や課題達成に取り組みました。

※ Revolution-Creative Action Teams

2009年度の取り組み実績に関する総括

2009年度は、アフターサービスに関する高評価、CSR調達調査のグローバル展開、ワーク・ライフ・バランス実現に向けた取り組み、国内外での小学校環境教育の取り組みやシャープの森活動をはじめとする生物多様性に関する取り組みなど、所定の成果をあげることができました。

また、2009年度の特長的な取り組み事例は、分野(ステークホルダー)別のページに、「ミニクローズアップ」、「TOPICS」として紹介しています。



お客さまの満足を追求しています
(P.83「お客さまとともに」)



OHSAS18001 認証取得に取り組んでいます
(P.96「従業員とともに」)



グローバルに小学校環境教育を推進しています
(P.104「地域社会とともに」)

社会とシャープ

社会面の目標と実績

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
082	

083	■ お客さまとともに
090	■ お取引先さまとともに
094	■ 株主・投資家とともに
096	■ 従業員とともに
104	■ 地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

自己評価 ◎：目標を上回る成果があった ○：ほぼ目標を達成 △：一定の成果があった

分野 (ステークホルダー)	重点取り組み テーマ	2009年度の取り組み		自己 評価	2010年度の取り組み(目標)	掲載 ページ
お客さまと ともに	品質・安全性の 確保	目標	●グローバルに「品質力」の一層の向上	○	●グローバル品質保証・CS向上活動の強化 ●海外での品質評価機能の強化 ●海外コールセンターの拡充 ●海外拠点の技術者への技術教育実施	83・84 および Web 掲載情報
		実績	●国内・海外の品質・CS情報を集約し、一元管理できる「グローバル市場対応情報システム」の構築 ●海外設計拠点別安全技術基準の制定および新興国向け危機管理マニュアルの整備			
	より使いやすい 製品の創出	目標	●お客さま目線での製品改善活動	○	●使いやすさの追求 ●使い方分析手法の確立と お客さま目線での製品改善活動実施 ●北米に続き、VOC活動を順次、 海外に展開	85・86 および Web 掲載情報
		実績	●国内に加え、海外(北米)においてもVOC活動を積極的に展開し、 製品改善を実施			
	お客さま満足の 向上	目標	●基本サービスのさらなる充実と「オンリーワンサービス」の展開	○	●サービス品質の向上 ●サービス訪問時のお客さまご意見の 積極活用 ●CSスキルアップ研修の実施 ●サービス技術力の向上	87~89 および Web 掲載情報
		実績	●国内修理相談電話受付窓口のフリーダイヤル化により、 お客さまの利便性を向上 ●国内の365日訪問サービスの拡大とサービス員のシフト勤務体制導入により、 お客さまのご希望時間に応じた訪問修理を実現			
お取引先さまと ともに	サプライチェーン 全体でのCSR推進	目標	●サプライチェーンCSR取り組み施策の海外継続展開	○	●お取引先さまにおけるCSR取り組み 状況の現場確認・監査を行う体制の 構築	90~93 および Web 掲載情報
		実績	●欧米・アジアの現地お取引先さまを対象とした CSR調達調査の導入			
株主・投資家と ともに	株主・投資家との コミュニケーション 拡充	目標	●株主・投資家に対する継続的な情報開示拡充と情報発信力強化	○	●株主・投資家向け情報開示の拡充と 多様化する投資家ニーズへの対応	94・95 および Web 掲載情報
		実績	●ホームページの掲載内容を拡充 ●各種IR説明会を実施			
従業員と ともに	人権に関する 取り組みの拡充	目標	●人権教育活動の継続強化	○	●人権啓発活動の継続強化 ●国内事業所・関係会社での人権研修 の実施 ●海外赴任をする幹部への人権研修 の実施	96
		実績	●国内各事業所・関係会社で延べ約40回の人権研修を実施			
	人材開発の強化	目標	●グローバルな事業展開を支える人材の継続育成	△	●グローバルな事業展開を支える人材 の継続育成 ●グローバル幹部人材の育成 ●GATE/G-BANK研修、SHINE プログラムの推進	97
		実績	●海外派遣者登録(GATE)研修を約60名が受講 ●グローバル人材母集団登録(G-BANK)研修を140名が受講			
	全社ダイバーシティ・ マネジメント(多様な 人材を活かす戦略) の展開	目標	●「ダイバーシティプログラム」の導入・展開	○	●「ダイバーシティ・プログラム」の確立 ●ワーク・ライフ・バランス施策の拡充 ●ダイバーシティ・インクルージョン (多様性の受容)に向けた環境整備	98~101 および Web 掲載情報
		実績	●女性、外国人(国内勤務)、障がい者、高齢者の4つの属性別具体策、 目標を策定、推進 ●ワーク・ライフ・バランスとダイバーシティの 情報発信サイト「Win-Winネットワーク」を開設			

社会とシャープ

社会面の目標と実績

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
082	
083	■ お客さまとともに
090	■ お取引先さまとともに
094	■ 株主・投資家とともに
096	■ 従業員とともに
104	■ 地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

自己評価 ◎：目標を上回る成果があった ○：ほぼ目標を達成 △：一定の成果があった

分野 (ステークホルダー)	重点取り組み テーマ	2009年度の取り組み		自己 評価	2010年度の取り組み(目標)	掲載 ページ
従業員と ともに	労働安全衛生の 推進	目標	●労働災害リスク低減活動の継続強化	○	●労働災害リスク除去・低減活動の 継続強化 ●労働安全衛生マネジメントシステム 導入に向けたリスクアセスメント、 リスク除去・低減対策の実施 ●国内6事業所でOHSAS18001 の認証を取得 ●グローバルな安全衛生取り組みの 強化	102
		実績	●国内主要11工場の安全衛生検査を実施 ●労働安全衛生マネジメントシステム導入に向けたリスクアセスメント、 研修などの取り組みを実施 ●国内2事業所、海外2拠点でOHSAS18001の認証を取得			
		目標	●メンタルヘルスケアの取り組みの継続強化	○	●メンタルヘルス一次予防(発症予防と 健康増進)施策の強化 ●メンタルヘルス グループワーク研修 の実施 ●社外検定の取得推奨によるメンタル ヘルス関連知識の向上	103
		実績	●メンタルヘルス休職者・復職者支援制度の運用状況調査の実施、 適正運用の徹底 ●メンタルヘルス推進会議を年2回開催し、各事業所担当者の情報共有と 連携を強化			
		目標	●生活習慣病対策の継続強化	○	●生活習慣病対策の継続強化 ●生活習慣病健診(定期健診)と有所見 者フォローの継続強化 ●保健指導活動の活性化 ●従業員全員を対象とした全社スポー ツ大会開催を通じた運動習慣づくり の活性化	103
		実績	●健康診断実施率99.99%。有所見者についても99%をフォローし、 特定保健指導(積極的支援・動機付け支援)を積極的に実施 ●「全社チームウォーキング」(年間延べ約15,200名参加)など ウォーキングイベントを推進			
地域社会と ともに	社会貢献活動の 拡充	目標	〈国内〉 ●「シャープの森づくり」の積極的な推進(全国10カ所) ●小学生を対象にした環境教育を延べ500校で、「ものづくり教育」を 延べ100校で実施 ●営業・サービス全拠点での地域社会貢献活動の実施を継続 ●従業員のボランティア活動の定着化(全社で延べ3万名参加)	○	●「シャープの森づくり」の積極的な推進 と拡大 ●小学生を対象にした環境教育を延べ 500校で、「ものづくり教育」を延べ 100校で実施 ●工場や技術ホールの見学と環境/もの づくり教育を組み合わせた新規活動 の展開 ●障がい者(特別支援学校)に向けた 教育支援活動の展開 ●営業・サービス全拠点での地域社会 貢献活動の実施を継続 ●従業員のボランティア活動の定着化 (全社で延べ3万名参加)	104 } 109
		実績	●「シャープの森づくり」活動として、37回実施し、延べ約1,500名の従業員 が参加 ●小学生を対象にした環境教育を延べ500校、約28,700名 ものづくり教育を延べ100校、約3,800名に実施 ●営業・サービス全拠点で地域社会貢献活動の一環としてボランティア活動を 約700回実施し、延べ約17,400名の従業員が参加 ●全事業所・拠点では延べ約3万名の従業員がボランティア活動に参加			
		目標	〈海外〉 ●「シャープ慈善基金」を中心とした中国での活動を強化 ●海外各地域で環境教育を強化			
		実績	●中国で奨学金を授与(11大学179名)、自社製の液晶テレビを寄贈 (33の病院へ38台)、事業拠点を置く地域での環境美化活動、植樹活動、 小学校や図書館の建設等を実施 ●米州、中国をはじめとする海外各地域で環境教育を実施 (延べ74校で受講者約6,000名に実施)			

安心と満足をお届けする製品・サービスの提供

シャープでは、常にお客さまの目線で考え、お客さまの立場で製品・サービスを開発・提供することを基本にしています。

また、シャープ製品を長年安心してご愛用いただけるよう「お客さまの声」を製品の改善と販売・アフターサービスの改善に活かしています。

そして「次もシャープ、ずっとシャープ」と、継続してシャープ製品・サービスを選んでいただけるよう、これからもお客さま満足（CS）を追求していきます。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
	■お客さまとともに
083	▼
089	安心と満足をお届けする製品・サービスの提供
090	■お取引先さまとともに
094	■株主・投資家とともに
096	■従業員とともに
104	■地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> グローバルに「品質力」の一層の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 国内・海外の品質・CS情報を集約し、一元管理できる「グローバル市場対応情報システム」の構築 海外設計拠点別安全技術基準の制定および新興国向け危機管理マニュアルの整備 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル品質保証・CS向上活動の強化 <ul style="list-style-type: none"> 海外での品質評価機能の強化 海外コールセンターの拡充 海外拠点の技術者への技術教育実施
<ul style="list-style-type: none"> お客さま目線での製品改善活動 	<ul style="list-style-type: none"> 国内に加え、海外(北米)においてもVOC活動を積極的に展開し、製品改善を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 使いやすさの追求 <ul style="list-style-type: none"> 使い方分析手法の確立とお客さま目線での製品改善活動実施 北米に続き、VOC活動を順次、海外に展開
<ul style="list-style-type: none"> 基本サービスのさらなる充実と「オンリーワンサービス」の展開 	<ul style="list-style-type: none"> 国内修理相談電話受付窓口のフリーダイヤル化により、お客さまの利便性を向上 国内の365日訪問サービスの拡大とサービス員のシフト勤務体制導入により、お客さまのご希望時間に応じた訪問修理を実現 	<ul style="list-style-type: none"> サービス品質の向上 <ul style="list-style-type: none"> サービス訪問時のお客さまご意見の積極活用 CSスキルアップ研修の実施 サービス技術力の向上

品質・CSに対する基本姿勢

シャープグループは、お客さまの信頼獲得と満足向上のために、お客さまのニーズと要望に応え、かつ、安全性、品質、信頼性、環境に配慮したより良い商品、サービスを提供します。

品質理念

私たちは、社会の要請に応え、お客さまのご満足が得られる製品づくりに向けて、常に、「品質第一」を心し、行動します。

品質第一 私たちの心です
Quality First in Heart and Mind

品質スローガン

品質とサービスでお客さまとの信頼関係を築く
「次もシャープ、ずっとシャープ」

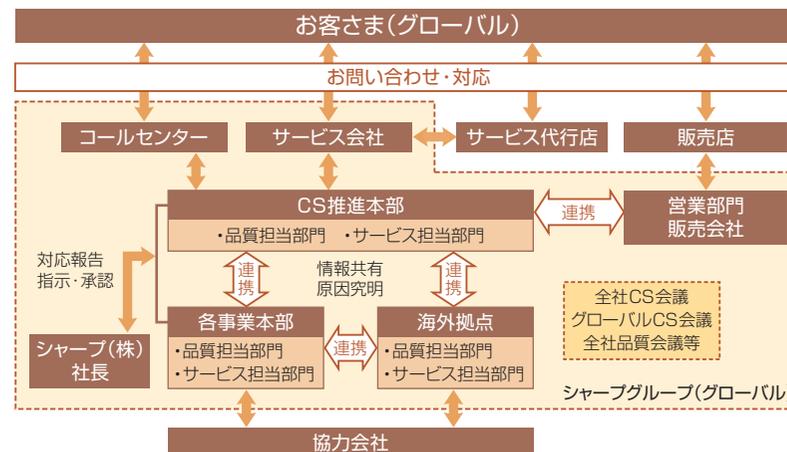
CSスローガン

品質・CS推進体制

シャープは、お客さまの目線に立った経営を基本に、製品開発から営業・サービスにわたるすべての事業活動に取り組んでおり、製品の品質・安全性とお客さま満足をより一層高めるため、全社推進組織としてCS推進本部を設置しています。

各事業本部には、製品に応じたサービスや品質管理を行う「CS推進センター」「品質保証部」を設置し、海外拠点・協力会社を含めたシャープグループが連携し、高品質で安全な製品とサービスを提供できる体制を築いています。2009年度は、国内・海外の品質・CS情報を集約し一元管理できる「グローバル市場対応情報システム」を構築し、今後、さらなる品質・CSの向上に取り組んでいきます。

■体制図

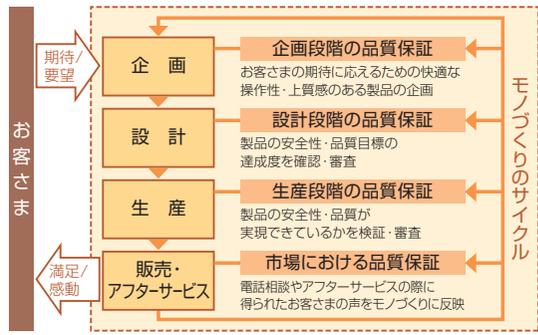


001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
	■ お客さまとともに
083 089	安心と満足をお届けする 製品・サービスの提供
090	■ お取引先さまとともに
094	■ 株主・投資家とともに
096	■ 従業員とともに
104	■ 地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

品質保証体制

シャープは、製品の企画/設計/生産/販売・アフターサービスに関わる全従業員に対して「お客さまに保証すべき品質」を明らかにし、全員参加で品質の継続的改善に取り組んでいます。国内外の事業拠点(事業本部、生産会社等)において品質マネジメントシステムの国際規格である ISO9001 を認証取得しているほか、シャープグループ独自の品質保証規格「SHARP Corporation Standards」も運用し、商品企画、設計、生産、評価・試験、市場など、モノづくりのサイクルの各段階において、様々な品質保証活動を行っています。

 品質保証体制



シャープ製品安全自主行動指針

シャープグループは、製品の安全確保が最も重要な経営課題および企業の社会的責任の一つであるとの認識に立ち、お客さまに安全・安心をお届けするため、当社が製造・販売する製品の安全確保を最優先に取り組むとともに情報公開を進めます。その実践のために、製品安全に関する自主行動指針を定め、社会から一層高い信頼をいただけるように努めています。

 シャープ製品安全自主行動指針

製品の安全性確保への取り組み

シャープでは、製品の安全性確保のため、各国の法規制や規格の遵守にとどまらず、独自の安全基準を制定しすべての製品に適用しています。この基準では、想定外の不具合が生じた場合にも絶対安全を確保するために、特に難燃構造や異常動作試験等に関して定めており、より高い安全レベルをめざし、都度改定しています。

また、海外拠点でも不具合発生時に迅速かつ適切に緊急対応が取れるよう、安全確保推進体制の整備を進めています。今後も製品安全に関する法改正や、社会情勢の変化に迅速に対応するとともに、お客さまにシャープ製品を安心してお使いいただけるよう、取り組みを強化していきます。

ISO9001 認証取得事業所一覧

国内認証取得事業本部(会社)名称	所在地
AVシステム事業本部	栃木県矢板市、三重県亀山市
健康・環境システム事業本部	大阪府八尾市
通信システム事業本部	広島県東広島市
パーソナルソリューション事業推進本部	奈良県大和郡山市
ビジネスソリューション事業本部	奈良県大和郡山市
ソーラーシステム事業本部	奈良県葛城市、大阪府八尾市
電子デバイス事業本部	大阪府大阪市、奈良県葛城市、奈良県天理市、広島県三原市、広島県福山市
液晶事業本部	三重県亀山市、三重県多気郡多気町、奈良県天理市、奈良県大和郡山市、東京都港区
シャープシステムプロダクト(株)	千葉県千葉市、東京都新宿区、大阪府大阪市
シャープマニファクチャリングシステム(株)	大阪府八尾市
シャープ新潟電子工業(株)	新潟県新潟市
シャープビジネスコンピュータソフトウェア(株)	東京都墨田区、大阪府大阪市
シャープ米子(株)	鳥取県米子市

海外認証取得拠点(会社)名称	所在国
Sharp Manufacturing Company of America(SMCA)	米国
Sharp Electronica Mexico S.A. de C.V.(SEMEX)	メキシコ
Sharp Manufacturing Company of U.K.(SUKM)	英国
Sharp Manufacturing France S.A.(SMF)	フランス
Sharp Electronica España S.A.(SEES)	スペイン
Sharp Manufacturing Poland Sp. zo. o.(SMPL)	ポーランド
Shanghai Sharp Electronics Co., Ltd.(SSEC)	中国
Nanjing Sharp Electronics Co., Ltd.(NSEC)	中国
Sharp Office Equipments (Changshu) Co., Ltd.(SOCC)	中国
Wuxi Sharp Electronic Components Co., Ltd.(WSEC)	中国
Sharp Technical Components(Wuxi) Co., Ltd.(STW)	中国
Sharp Manufacturing Corporation (M) Sdn. Bhd.(SMM)	マレーシア
Sharp Appliances (Thailand) Ltd.(SATL)	タイ
Sharp Manufacturing (Thailand) Co.,Ltd.(SMTL)	タイ
Sharp (Phils.) Corporation(SPC)	フィリピン
PT. Sharp Electronics Indonesia(SEID)	インドネシア
PT. Sharp Semiconductor Indonesia(SSII)	インドネシア

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
	■お客さまとともに
083	安心と満足をお届けする
089	製品・サービスの提供
090	■お取引先さまとともに
094	■株主・投資家とともに
096	■従業員とともに
104	■地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

「お客さまの声」を活かしたモノづくり

シャープでは、より使いやすい製品をお客さまにお届けするために、製品に対する評価やご意見などの「お客さまの声」をモノづくりに活かすVOC (Voice of Customer) 活動を進めています。

この活動では、お客様相談センターに寄せられる声を匿名の形でイントラネット「お客様の声ポータル」に公開し、製品の企画・開発・設計担当者等が閲覧できるようにしています。

また、国際規格(ISO13407)で規定されている「ユーザー中心設計 (UCD:user centered design)」の考え方に基づいて、製品開発のプロセスの中で、実際のお客さまはどこで困っているのか、何を求めているのかなどを調査しながら、製品の仕様決定や設計に反映させています。

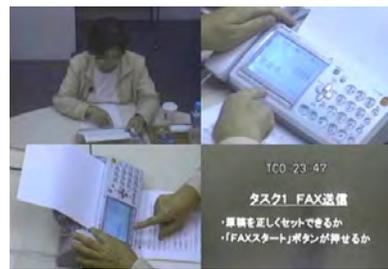
お客様相談センターに寄せられる声以外にも、訪問調査・アンケート調査などを通じて、お客さまと製品の関わり方などの情報を収集・分析し、その結果に基づいて設計案を作成します。また、お客さまに実際に製品を操作いただいている様子を観察するテスト(ユーザビリティテスト)やインタビューなどを通じて、お客さま自身もあまり意識していなかったご不満やご要望も把握し、その結果に基づいて製品を改善しています。

このような活動を通じて、シャープ製品の魅力向上を図っています。

■「ユーザー中心設計」の基本プロセス



■ユーザビリティテストの様子



お客さまに製品を操作いただいている様子



開発関係者が別室で観察する様子

取り組み事例

多様なお客さまのニーズを把握し、製品づくりに反映

シャープでは、より多くのお客さまに気持ちよく製品を使っていただけるように、「ユニバーサルデザイン」に配慮した製品づくりも推進しています。

高齢者や障がいのある方にも、「見やすい」、「わかりやすい」、「操作しやすい」ということに配慮するために、製品開発の上流段階から、お客さまの使い方を知るためのテストや訪問調査などの取り組みを進め、実際に製品を使用している現場で生の声を聞いたり、使用する状況を観察することなどから、製品改善に取り組んでいます。

■現場の声を聞く



車イス使用時の操作性検証

また、開発者自身が、高齢者疑似体験ツール(白内障ゴーグル、おもり、手袋など)を着用して製品を評価し、不自由さなどをあらかじめ体験することで、ユニバーサルデザインに対するマインドも高めています。

■不自由さを体験する



高齢者疑似体験ツールを用いた評価

こうした取り組みにより、「ユニバーサルデザイン配慮家電製品」(財団法人家電製品協会)として、2010年4月現在、19品種、107機種が選ばれています。

 ユニバーサルデザイン配慮製品一覧

「グローバルVOCシステム」を構築しました

シャープでは、国内のお客さまからコールセンターに寄せられた生の情報を、使いやすい製品づくりや品質向上に活かすため、積極的にVOC活動を展開しています。



「グローバルVOCシステム」

この取り組みをもとに、海外のコールセンターにおいても、お客さまから寄せられたお問い合わせ内容を簡単に検索できる「グローバルVOCシステム」を構築。これにより、日本に加え、北米の現地販売会社のお客さまのお問い合わせ情報を日本へ集約し、日本語・英語での検索が可能になりました。

今後、欧州や中国のコールセンターの情報についても順次集約し、グローバルに展開していきます。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
	■お客さまとともに
083	安心と満足をお届けする
089	製品・サービスの提供
090	■お取引先さまとともに
094	■株主・投資家とともに
096	■従業員とともに
104	■地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

事例 国内における製品改善

液晶テレビ AQUOS (LC-LX1/DSシリーズ)

■大きなボタンのリモコンを採用

- よく使うボタンの表面積を従来比2倍以上に拡大
- デジタル放送の機能でよく使うカラーキーには見やすい配色を採用し、カラーユニバーサルデザイン(CUD)マーク※を取得

※ NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構の認定。



LC-60LX1



事例 海外における製品改善

液晶テレビ AQUOS (LC-LE810UN/820UNシリーズ)

■周辺機器への操作性を改善したリモコンの採用(北米向け)

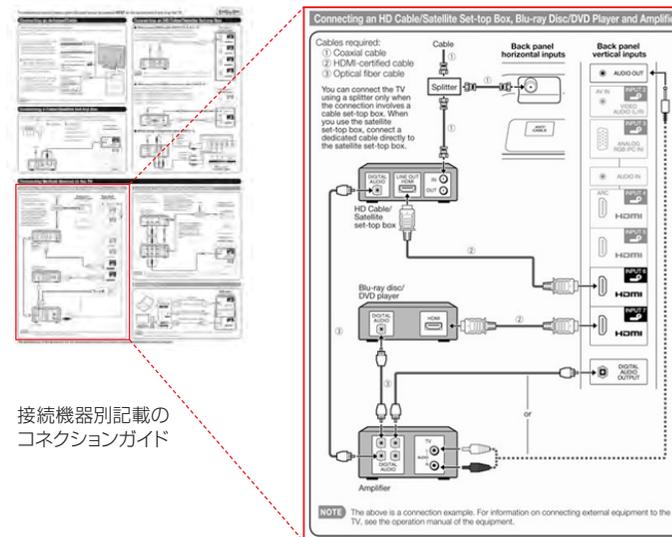
- 操作対象の周辺機器別に選択ボタンを採用
- 発光ボタンを採用し、リモコン操作時に選択中の周辺機器がボタンの点滅で分かるように改善



LC-60LE810UN

■接続ガイドの同梱(北米向け)

- 周辺機器別に接続方法を記載し、説明にイラストを用いることで視覚的に接続できるように改善



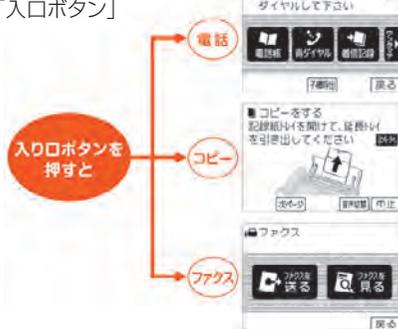
デジタルコードレスファクシミリ (UX-D82CL/CW)

■タッチパネル方式で選んでタッチの簡単操作

- 最初に使いたい機能を選ぶ3つの「入口ボタン」
- 液晶ガイドとタッチボタンが操作を教えてくれる「タッチ de ガイド」



UX-D82CL



使いたい機能を選ぶ3つの「入口ボタン」

■迷わず選べるシンプルな画面



どちらかを選んでタッチ

画面を見ながら、原稿をセット

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
	■お客さまとともに
083	安心と満足をお届けする
089	製品・サービスの提供
090	■お取引先さまとともに
094	■株主・投資家とともに
096	■従業員とともに
104	■地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

「期待される以上」のお客さま対応をめざして

お買い上げ前からご使用開始後まで、製品に関するあらゆるご相談にお応えしている「お客様相談センター」(国内)では、常に「期待される以上の対応」をめざしています。

お客様相談センターの全エージェント(相談員)の対応は、定期的に対応品質管理者がモニタリング。その結果をもとに、お客さまのご相談内容にフィットしたご説明をしているか、さらに聞き方・話し方に至るまで、改善点を指導する対応レベルアップ研修を実施することで、CSマインドのさらなる醸成と高いレベルの対応品質をめざしています。

2009年度は、当社事業の伸長に伴い、増加傾向にあるご相談やお問い合わせに際し、お客さまの利便性をより一層高めるため、修理相談電話受付窓口を「ナビダイヤル」(通話料一部お客さま負担)から、「フリーダイヤル」(通話料無料)に変更しました。

また、お客さまにお電話いただかなくても、お客さまご自身で故障と思われる症状を診断し、画面上に表示された操作案内をしていただくことで不具合を解決する「故障診断ナビ」をホームページに公開するなど、お客さまにご満足いただくための新しいサービスを提供しています。

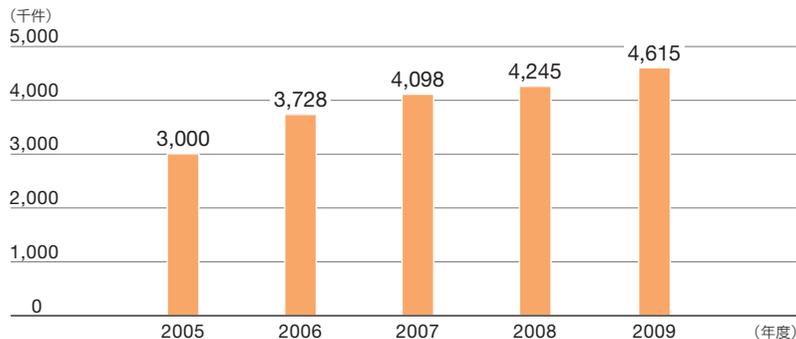


対応レベルアップ研修の様子



シャープホームページに公開中の「故障診断ナビ」

■お客様相談センター受付件数推移(日本国内)



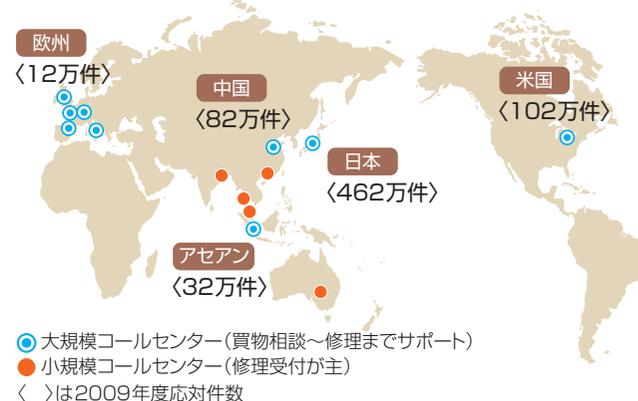
グローバルなお客さまサポート体制

国内をはじめ、海外主要拠点にコールセンターを設置し、お客さまからのお問い合わせに適切にお応えしています。

国内外主要拠点の大規模コールセンターは、司令塔の役割を担い、例えば、修理のご相談の場合は、コールセンターで故障か否かの問診を実施し、不具合の現象、原因を認識したうえで、サービス代行店に連絡しています。その際、コールセンターとサービス代行店間をネットワークで結び、修理の依頼や完了結果まで進捗管理できるシステムを構築し運用中です。

また、その他地域の小規模コールセンターでは、営業部門と一体となり、地域に密着した展開を図り、CS向上と販売拡大に貢献しています。

■コールセンターとお客さま対応件数



中国で「薄型テレビ顧客サービス満足ブランド」に選ばれました

2009年4月、中国・商務部に属している中国家庭用電器修理協会が'09年度の顧客サービス満足度評価結果を発表。液晶テレビ“AQUOS”が「薄型テレビ顧客サービス満足ブランド」に選ばれました。

同評価は中国の7地区14主要省・市で薄型テレビ15ブランドなどを対象に調査されたもので、中国販売会社SESC※の取付・修理の訪問サービスが特に高く評価されています。



※ SESC: Sharp Electronics Sales(China)Co.,Ltd.

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
	■ お客さまとともに
083	安心と満足をお届けする
089	製品・サービスの提供
090	■ お取引先さまとともに
094	■ 株主・投資家とともに
096	■ 従業員とともに
104	■ 地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

アフターサービスNo.1 継続のために

シャープでは、より早く、より確実に、お客さまが安心できるアフターサービスを実現するための「CS革新活動」を推進しています。

2009年度は、お客さまのご期待を超える“早いサービス”を提供するため、国内で「365日訪問サービス体制」とサービス員の「時差勤務制度」を大都市圏中心に導入し、お客さまのご希望日時に応じた訪問修理を実施しています。

また、製品の不具合箇所を的確に発見する故障診断ツールの活用により、1回の訪問で修理を完了する“確実なサービス”を実現しました。

さらに、対応レベルの向上により、お客さまに安心してサービスを受けていただくため、卓越した接客能力と幅広いサービス知識を持ち、個々のサービス員の特性を最大限に活かす指導ができる“CSマイスター”の増員を図り、CSマインドの伝承を推進しています。

TOPICS

アフターサービスランキングで第1位を獲得

シャープは国内において、日経ビジネス誌「2009年版アフターサービス満足度ランキング」において、薄型テレビ・ブルーレイ/DVD/HDDレコーダー・エアコン・洗濯乾燥機の4品目で第1位を獲得しました。

2009年度順位	2008年度順位	調査品目
1	2	薄型テレビ
1	3	BD-DVD-HDDレコーダー
1	5	エアコン
1	1	洗濯乾燥機

シャープは、今後もお客さまの目線でより高い水準のサービスが提供できるようさまざまな取り組みを推進していきます。

サービス担当者(CSマイスター)の声

修理で訪問させていただくとほとんどの方が“故障”というマイナスイメージを持ったお客さまです。

そのお客さまを“感動サービス”でプラスイメージに変え、「またシャープ製品を買ってみたい」と思っていただくため、私たちCSマイスターをはじめとするすべてのサービス員は、一人ひとりのお客さまのご要望に合わせたきめ細かいサービスが提供できるよう、不断の努力を続けています。



CSマイスター
シャープエンジニアリング(株)
西千葉サービスステーション
主事 高橋 政男

安全なご使用のための啓発活動

シャープでは、お客さまに安全に製品をご使用いただくために、ホームページやパンフレットなどを通じて、お客さまの安全なご使用に関する啓発活動にも注力しています。

2009年度は、エアコンに関する安全情報をホームページに追加しました。また、電子レンジの使い方パンフレットを取扱説明書と一緒に製品に同梱するなどの取り組みを実施しています。



品質問題発生時の情報開示と対応

シャープ製品が原因となってお客さまが被害を受けたり、お客さまの財産に損害を与える恐れがあることが判明した場合は、新聞やホームページなどを通じて、速やかに情報を開示するとともに、相談窓口を設置するなどの対応を実施し、お客さまの不利益を最小限に食い止めるよう努めています。

2009年度は、下記の製品について、注意喚起ならびに無償での点検・修理のお知らせをホームページに「製品に関する大切なお知らせ」として掲載しました。

また、「シャープ製品安全自主行動指針」に基づき、消費者庁・経済産業省へ報告した事故で製品起因もしくは製品起因が疑われると判断された「重大製品事故」について、ホームページで公表しています。

製品に関する大切なお知らせ

無償での点検・修理

- 冷凍冷蔵庫(2010年1月)
冷蔵室とドアの間に物をはさみ込んだ場合に、ドアの開閉が重い、開かない、あるいは閉まらないといった症状が発生し、その状態で無理に開閉するとまれにドアが外れる恐れがあるとして、安全にご使用いただくためのお願いと無償点検・部品交換を実施。
- AVセンターパソコンのモニター／液晶ITテレビ(2009年6月)
電源部のフィルムコンデンサの部品不良により、内部から発煙し異臭が発生する可能性があるとして、無償点検・部品交換を実施。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
	■ お客さまとともに
083	安心と満足をお届けする
089	製品・サービスの提供
090	■ お取引先さまとともに
094	■ 株主・投資家とともに
096	■ 従業員とともに
104	■ 地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

ミニ
クローズ
アップ

インドネシアにおける地域密着型サービスの展開

インドネシアの生産販売会社(SEID※)では、1万7千以上の島々からなる広大な国土のどこにおいても、お客さまに安心して製品をご利用いただけるよう、地域密着型サービスを展開しています。

本来、修理はお客さまにとっては不満足の原因となる場面ですが、訪問修理を通じてお客さまと直接対応することができる絶好の機会と位置付け、お客さまの隠れたご要望を汲み取り、よりお客さまの立場に立ったサービスを提供するよう取り組んでいます。

こうした取り組みから、液晶テレビ“AQUOS”とウォーターオープン“ヘルシオ”をご購入いただいたお客さまに、より安心して製品をご利用いただけるよう、「プラチナサービス」を展開しています。このサービスは、「ご購入後30日以内に初期故障のあった場合は新品に交換する」「故障の際は3時間以内に訪問し、修理完了できない場合は代替製品をお貸しする」などの付加価値の高いサービスを提供するもので、ご好評をいただいています。

また、2009年9月に発生した、ジャワ島西部地震(M7.6)とスマトラ島沖地震(M7.9)の2つの巨大地震の際には、復興支援の一環として、「修理工賃無料」「部品代半額」の修理キャンペーンを実施しました。特に、9月30日にパダンで発生した地震では、シャープの修理拠点も被害を受けましたが、地震発生1週間後には仮設テントを設置して修理を再開。1カ月間で計500件以上の修理を行い、これらのキャンペーンを通じお客さまから多くの感謝のお言葉をいただきました。

これからも、お客さまの立場に立ち、地域社会に貢献できる付加価値の高いサービスを展開できるよう、取り組みを強化していきます。

※ PT. Sharp Electronics Indonesia

■ 各地震における当社支援内容

新聞などに修理キャンペーンを行っている旨を掲載のうえ、以下の支援を行いました。

- ジャワ島西部地震の支援について《9月2日：地震発生》
10月5日より18日間の修理キャンペーン(計125件修理)
- スマトラ島沖地震の支援について《9月30日：地震発生》
10月6日より1カ月の修理キャンペーン(計559件修理)

■ 巨大地震発生による復興支援状況



スマトラ島沖地震により被害を受けたパダン支店



修理を行った仮設テントと修理待ちのお客さま



新聞に復興支援キャンペーンのお知らせを掲載



仮設テント内でテレビを修理中

サービス責任者の声

インドネシアにおけるシャープの歴史は、今年で40年を迎えようとしています。この長い歴史の中で、当地の皆さまとともに歩んできた当社において、サービス部門は、常にお客さまと接する機会があることから、

- ① サービスマンによる全員営業(カタログ配布や新製品情報提供)
- ② コールセンターによる販売キャンペーン/イベント情報提供
- ③ AQUOSご購入のお客さまには1週間以内に「サンキューコール」
- ④ 修理完了後のお客さまへは「フォローアップコール」
- ⑤ 修理完了の半年後には、製品状態をお聞きする「いかがコール」

など、お客さまに対する地域密着型サービスの提供に日々、努めています。

また、昨年は、日本からも国際救援部隊が到着するほどの巨大地震が2カ所で発生し、社会的影響が大きく、かつ震災被害が甚大であったため、復興支援の一環として、救援物資の提供や義援金を寄付するとともに、サービス部門においては、修理キャンペーンを行い、大勢のお客さまから感謝のお言葉を頂戴しました。

今後も各種情報をお客さまに提供する情報発信基地を兼ね備えた地域密着型のサービスをさらに強化すべく、邁進していきます。



SEIDサービス責任者
部長 糸井 克己

仕入先さま、販売店さまとの共存共栄

シャープは、調達活動において、すべての企業に公平な機会を設け、公正に評価しています。
また、お取引先さまとの共存共栄をめざし、お取引先さまとの対話・コミュニケーションを通じて相互理解を深め、相互協力、信頼関係を築くとともに、サプライチェーン全体でCSRの取り組みを推進しています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■ お客さまとともに
	■ お取引先さまとともに
090 ▼ 093	仕入先さま、販売店さまとの共存共栄
094	■ 株主・投資家とともに
096	■ 従業員とともに
104	■ 地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> ● サプライチェーンCSR取り組み施策の海外継続展開 	<ul style="list-style-type: none"> ● 欧米・アジアの現地お取引先さまを対象としたCSR調達調査の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ● お取引先さまにおけるCSR取り組み状況の現場確認・監査を行う体制の構築

「機会の平等」と「公正な評価」に基づいた調達先の決定

世界中で生産活動を展開しているシャープは、材料・部品・設備などの調達先決定にあたって、国内外すべての企業に対して平等に機会を提供し、求めている品質・規格・性能などを満たしているかどうかを公正に評価しています。

また、調達活動全般において公正性・公平性を保つこと、お取引先さまとの相互協力関係・信頼関係を構築していくことを明記した「基本購買方針」を定めて、これを遵守し、お取引先さまと共存共栄することをめざしています。

基本購買方針

資材の購買活動・製造委託等においては、あらゆる法令、社会規範を遵守し、お取引先さまとの相互協力、信頼関係を築くよう努めるとともに、地球環境保全などの社会的責任を果たす取り組みについても、お取引先さまのご協力を得ながら積極的に推進していきます。

■ お取引先さまへのお願い事項

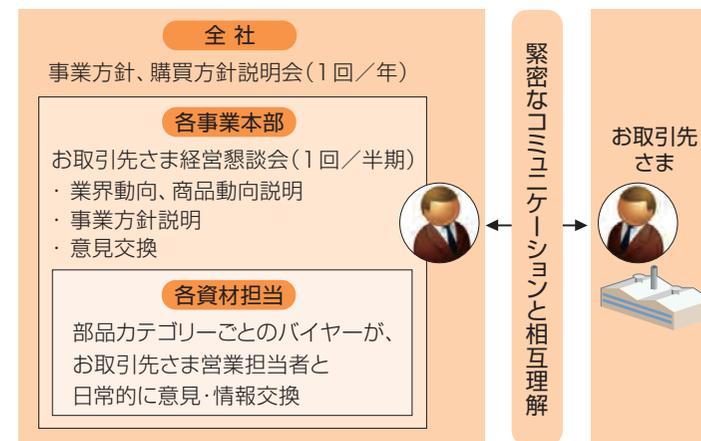
- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> ① 法令と社会規範の遵守 ② 健全な事業経営の推進 ③ 環境への配慮 ④ 最適な品質とコストの確保 ⑤ 資材の安定供給 ⑥ 先行技術力 ⑦ 秘密情報の保持 | <ul style="list-style-type: none"> ・資材の製造・販売等に関する法令の遵守 ・労働関連法令の遵守 ・安全衛生に関する法令の遵守と労働環境の整備 ・児童労働、強制労働の禁止 ・人種、性別などによる差別の禁止、社員個人の尊厳の尊重 ・環境法令の遵守 ・贈収賄、不正な行為の禁止 |
|---|--|

緊密なコミュニケーションと相互理解

シャープが事業活動を通じて「製品安全」「環境負荷低減」「人権・労働」「安全衛生」などのさまざまな分野にわたる社会的責任を果たしていくためには、自らの行動だけでは十分とは言えません。

こうした取り組みおよび方針は「基本購買方針」を通じて、お取引先さまにご理解いただくとともに、お取引先さまとシャープが相互理解を深めるために、各事業本部や海外生産拠点では「お取引先さま経営懇談会」や「サプライヤーミーティング」を定期的で開催しています。

また、日頃の商談活動の中でも積極的に意見・情報交換をしています。



001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■ お客さまとともに
	■ お取引先さまとともに
090	仕入先さま、販売店さまとの共存共栄
093	
094	■ 株主・投資家とともに
096	■ 従業員とともに
104	■ 地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

サプライチェーンでのCSR取り組みを促進するために

シャープは、お取引先さまに当社のCSRに対する考え方をご理解いただき、お取引先さまにも具体的なCSRへの取り組みを推進していただくために、「シャープサプライチェーンCSR推進ガイドブック」を作成し、国内の主要なお取引先さまに配布するとともに、日本語版・英語版・中国語版をホームページ上で公開しています。

これにより、広く世界中のお取引先さまに対し、CSRへの取り組みを要請し、サプライチェーン全体でのCSR取り組みを進めています。

このガイドブックは、社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)が作成・公表している「サプライチェーンCSR推進ガイドブック」に準拠しており、CSRに関する主要な国際基準の各分野について、世界各地のお取引先さまに具体的な取り組みの指針としていただく内容になっています。

シャープサプライチェーンCSR推進ガイドブックの項目

I. 人権・労働

- ・強制的な労働の禁止・非人道的な扱いの禁止・児童労働の禁止・差別の禁止
- ・適切な賃金・労働時間・従業員の団結権

II. 安全衛生

- ・機械装置の安全対策・職場の安全・職場の衛生・労働災害・労働疾病・緊急時の対応
- ・身体的負荷のかかる作業への配慮・施設の安全衛生・従業員の健康管理

III. 環境

- ・環境マネジメントシステム・製品に含有する化学物質の管理
- ・製造工程で用いる化学物質の管理・環境への影響の最小化(排水・汚泥・排気など)
- ・環境許可証/行政認可・資源・エネルギーの有効活用(3R)
- ・温室効果ガスの排出量削減・廃棄物削減・環境保全への取り組み状況の開示

IV. 公正取引・倫理

- ・汚職・賄賂などの禁止・優越的地位の濫用の禁止・不適切な利益供与および受領の禁止
- ・競争制限的行為の禁止・正確な製品・サービス情報の提供・知的財産の尊重
- ・適切な輸出管理・情報公開・不正行為の予防・早期発見

V. 品質・安全性

- ・品質マネジメントシステム・製品安全性の確保

VI. 情報セキュリティ

- ・コンピュータ・ネットワーク脅威に対する防御
- ・個人情報の漏洩防止
- ・顧客・第三者の機密情報の漏洩防止

VII. 社会貢献

- ・社会・地域への貢献



シャープサプライチェーンCSR推進ガイドブック(日・英・中国語版)

CSR調達調査の状況

シャープは、「シャープサプライチェーンCSR推進ガイドブック」により、2007年度から、順次、お取引先さまのCSR取り組み状況を自己チェックし、Web上よりオンラインで回答いただく「CSR調達調査」を開始しました。

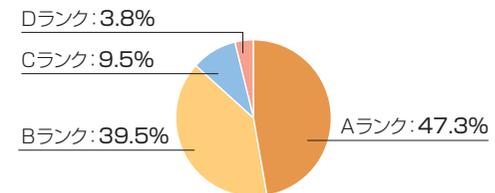
自己チェックの結果、低評価となった分野については、「改善計画書」をご提出いただき、必要な改善対応を要請しています。

2009年度は、国内の主要なお取引先さまを対象とした第2回目の調査を実施するとともに、欧米・アジアの現地お取引先さまへの調査を開始しました。これにより、全世界の主要なお取引先さまへのCSR調達調査の導入が完了しました。

今後も、原則として年1回の調査を継続し、低評価となっている分野・項目について、必要な改善支援策を行うとともに、お取引先さまの生産現場を訪問して確認を行うCSR監査の体制を構築し、順次、実施していく計画です。

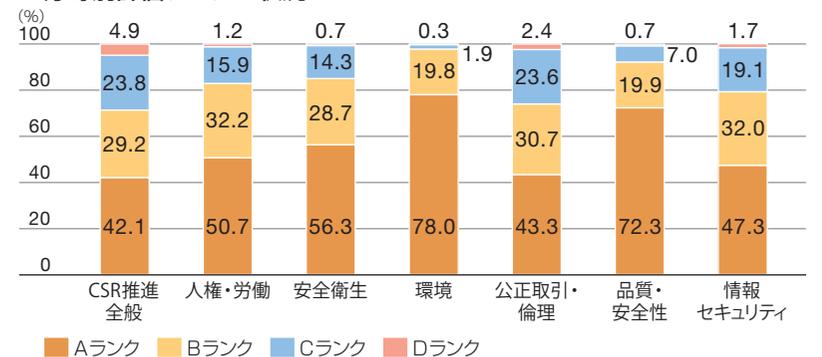
CSR調達調査におけるお取引先さま自己評価の状況※

■ 総合評価ランクの状況



ランク定義
A: 大変良好
B: 良好
C: 普通
D: 不十分

■ 分野別評価ランクの状況



※ 2009年度に調査を完了した日本・中国・マレーシア生産拠点のお取引先さまの状況

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■ お客さまとともに
	■ お取引先さまとともに
090 ▼ 093	仕入先さま、販売店さまとの共存共栄
094	■ 株主・投資家とともに
096	■ 従業員とともに
104	■ 地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

現地調達を進めています

シャープは設計から開発、調達、生産、販売など一連のバリューチェーンを消費地内で完結させる「地産地消」戦略に沿い、国内外で現地調達の取り組みも進めています。

日本国内では、生産事業所が所在する地域のお取引先さまとビジネスマッチング商談会を開催するなど、技術力のある中小企業のお取引先さまとの積極的な情報交換を行っています。また、海外でも、マレーシア・香港・シンガポール・韓国に国際調達拠点を設置するとともに、各国の生産拠点においても積極的に現地のお取引先さまからの調達を進めています。

今後も、世界各地の生産拠点において、現地調達の取り組みを進め、現地のお取引先さまとの共存共栄とシャープが事業展開する地域社会への一層の貢献を図ります。

「下請法」遵守を徹底するための監査と教育

シャープ(株)および国内関係会社では、「下請法(下請代金支払遅延等防止法)」の遵守を徹底するため、コンプライアンスチェックと社内教育を継続的に実施しています。

コンプライアンスチェックについては、2002年度から、毎年1回、本社資材センターが国内全事業本部を定期監査していますが、2009年度から、各事業本部が自ら本部内の下請法遵守状況をチェックする「下請法自己監査」を実施しています。また、シャープグループとしての下請法遵守のさらなる徹底のために、事業本部以外の機能本部や関係会社を対象に、同様に「下請法自己監査」をスタートしました。

2010年度は、所属員の意識と知識向上を図るため、機能本部および関係会社を対象に、「下請法Web学習システム」の実施を検討しています。

ミニクローズアップ サプライチェーンCSRの取り組みをグローバルに展開しています

シャープでは事業活動のグローバル化に伴い、設計から開発、調達、生産、販売、サービスに至るバリューチェーン全体が世界中に展開しており、お取引先さまと協働して企業の社会的責任を果たしていく、サプライチェーンCSRの取り組みについてもグローバルな施策展開を図っています。

シャープでは、2007年度より日本、中国の生産・調達拠点のお取引先さまに、順次、CSR調達調査を実施してきましたが、2009年度は、これに加えて、欧米およびアジア地域の生産・調達拠点の現地お取引先さまに同調査を導入しました。これにより、シャープグループの全世界の生産・調達拠点への展開が完了しました。

各海外拠点では、現地社員が主体となって、お取引先さま説明会を開催するなど、現地のお取引先さまとのスムーズなコミュニケーションを通じて、CSRについての共通認識の醸成を図り、調査を実施しています。

今後も、定例調査や生産現場での取り組み状況の訪問確認などを通じて、お取引先さまとともにCSRの継続的なレベルアップを図り、サプライチェーン全体で持続可能な社会の発展に向けて取り組みます。

■ 2009年度にCSR調達調査を導入した生産・調達拠点

- 〈米州〉 1 SMCA(米国) 2 SEMEX(メキシコ)
- 〈欧州〉 3 SUKM(英国) 4 SMF(フランス)
5 SEES(スペイン) 6 SMPL(ポーランド)
- 〈アジア〉 7 SIL(インド) 8 SATL(タイ) 9 SMTL(タイ)
10 SEM(マレーシア) 11 SOEM(マレーシア)
12 SMM(マレーシア) 13 SEID(インドネシア)
14 SSI(インドネシア) 15 SPC(フィリピン)
16 SKC(韓国) 17 SEM韓国支店(韓国)



海外拠点資料担当者の声

韓国では、CSRは顧客満足や地域社会への貢献を拡大するために継続して実行可能なマネジメント手法として評価され、財閥系企業や公営企業の間で積極的に取り組まれています。

しかし一方では、短期的な利益だけを重視しているような、CSRの取り組みが初期の段階の企業も多いのではないかと感じています。

お取引先さまとともにCSRを推進することは、シャープが最終的に何を追求しようとしているのかについて、より理解を深めるための良い機会となりました。特に、さまざまな規範の中でも、「競争相手を認め、相手の評価を貶めるような行為をしない」ということは、私にとってとても印象的でした。

私は、CSRへの取り組みは、お客さまの「シャープは企業の社会的責任を果たしている」という良い企業イメージ高めていくために、とても重要なものであると考えています。

また、社内においても、社内の団結や、チームワークの喚起、そして最終的にはシャープの一員としての誇りにつながっていると思っています。

※ Sharp Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.



SEM*韓国支店 徐誠焄

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■ お客さまとともに
	■ お取引先さまとともに
090	仕入先さま、販売店さまとの共存共栄
093	
094	■ 株主・投資家とともに
096	■ 従業員とともに
104	■ 地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

販売店さまと一体となった環境取り組み

シャープでは、調達・仕入先のお取引先さまだけでなく、販売店・代理店さまと相互協力したCSRの取り組みも進めています。

シャープの国内販売会社では、日頃の営業活動を通じ、製品の省エネ効果をわかりやすくお伝えする店内演出の提案や、環境配慮型製品の勉強会の実施など、販売店さまと一緒に環境への取り組みを行っています。その一環として、(財)省エネルギーセンター主催の「省エネ型製品普及推進

優良店」制度での認定へ向けた販売店さまの取り組みを支援しています。

2009年度は、シャープとともに取り組まれた販売店さまの中から新たに98店の販売店さまが優良店の認定を受けられ、和歌山県の有限会社ナルデンさまが経済産業大臣賞を、山口県のライフページ・フジデンさまが環境大臣賞を受賞されました。

【関連情報】:P.22「国内営業におけるCSR推進の取り組み」

経済産業大臣賞を受賞された販売店さまの声 (有限会社ナルデンさま)



有限会社ナルデン
店長 成瀬 裕之さま

“おかげさんで”を 噛み締めています。

シャープさんが紹介してくれたことがきっかけで、この制度を知りました。

省エネ型製品推進の理念は当社の創業当初からの【商い】に対する理念と一致していたので、挑戦するなら一番の賞を!!という想いで取り組み始めました。

シャープさんの手取り足取りのご指導のお陰で初年度から入賞することができ、その後当社の社員の省エネ意識も年々高まり、各々が独自の省エネ推進方法を身につけ社員一丸となって取り組んだ結果、3年連続入賞、しかも今年度は経済産業大臣賞という大きな賞をいただくことができました。

経済産業大臣賞受賞を一番喜んでくれたのはお客さまでした。創業以来「お客さまの笑顔が店の宝です」をモットーにお客さまの立場に立って提案し情報発信しながら絆を大切に【商い】をしてきたこと、家電販売だけではなくオール電化・太陽光発電など環境問題にも取り組んでいること、育てていただいている地域に少しでも貢献できるよう県や市と連携を取りながら介護や福祉の分野でも活動していること、その一つひとつコツコツ積み重ねてきたことが評価され受賞につながりました。これもひとえにお客さまの温かいご支援、地域の皆さまの励まし、そして惜しまず協力・応援してくれるシャープさん、お取引先さま“皆さまの支えあってこそこの受賞”と感謝、感謝の一念です。

これからも省エネ型製品の推進に取り組んでいきたいと思えます。

環境大臣賞を受賞された販売店さまの声 (ライフページ・フジデンさま)



ライフページ・フジデン
店主 藤原 利昭さま

今回、大変名誉ある「環境大臣賞」受賞には私自身・スタッフ一同、心から喜んでおります。また今回の受賞にあたりご支援いただいた皆さまには心から感謝しております。

今回の受賞ですお客さまの反応が思っていた以上に大きく、たくさんのお祝いのメッセージやお言葉をいただき、またお祝いということで多くのお客さまから省エネ製品や太陽光発電システムのご注文をいただきました。地元のメディアや新聞社からも多くの取材がありました。また、家族、仲間、友人、私が運営している福祉・環境支援のNPOのメンバーからも祝福を受け、本当に喜びを感じています。

当制度には今回で3度目の申請でしたが、前回までとは「省エネ意識」が大きく変わったことが評価されました。自店の取り組みとして店内照明をLEDに替え、地域に対しては、自ら作詞作曲した省エネソングを通じ環境イベントや学校行事で省エネ啓発に取り組みました。また、お客さまに対しては、お客さまの省エネ意識に応じた省エネ普及に取り組み、省エネアドバイザーとしての役割を果たせたことが評価されたのだと思います。もちろん、申請開始から3年、シャープさんや同業者の仲間のお力添えがあったからこそこの受賞だと思います。

今後も、今以上に環境貢献に邁進していきたいです。太陽光発電システムにも力を入れ、セットで「DCエコハウス※」を提案できる地域店を確立し、また、地元の同業者の皆さまとも協力し、「省エネ製品は地域家電店」というステイタスを作り上げていきたいです。もちろん、省エネソングは未来のある子供たちのために、これからもずっと歌い続けていきます。

※ ITを活用したホームエネルギー・マネジメントシステムをベースに、太陽光発電システムによって発電した電力を直流(DC)のまま蓄電したり、家電機器に給電したりすることで、エネルギー効率を高めることができる次世代住宅。

適切な利益還元と情報開示

当社は、株主の皆さまへの利益還元を経営上の最重要課題の一つと考えています。
また、株主総会や多様化する投資家ニーズに対応したIR(インベスター・リレーションズ)活動を通じて、株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションを図るとともに、いただいたご意見を経営に活かすよう努めています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■お客さまとともに
090	■お取引先さまとともに
	■株主・投資家とともに
094	適切な利益還元と情報開示
095	
096	■従業員とともに
104	■地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> 株主・投資家に対する継続的な情報開示拡充と情報発信力強化 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの掲載内容を拡充 各種IR説明会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 株主・投資家向け情報開示の拡充と多様化する投資家ニーズへの対応

利益配分に関する基本方針

当社は、株主の皆さまへの利益還元を経営上の最重要課題の一つと考え、安定配当の維持を基本としながら、連結業績と財務状況、今後の事業展開などを総合的に勘案し、株主還元を実施しています。

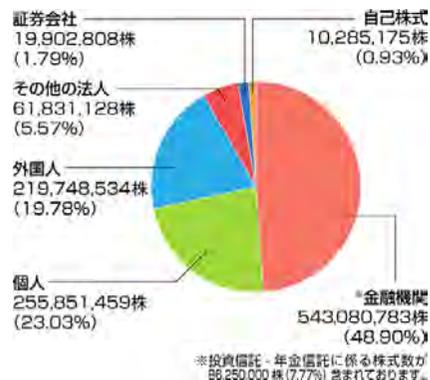
2009年度の期末配当金は、連結業績が回復したことを勘案し、中間配当金7円に比べ1株につき3円増額の10円となりました。これにより当期の年間配当金は、1株当たり17円となりました。

また、内部留保資金については、主に成長分野への投資や特長商品・独自デバイスの開発、さらには海外事業展開や環境対策などに活用していきます。

■ 1株当たり当期純利益(連結)と1株当たり配当金の推移

年度	2005	2006	2007	2008	2009
当期純利益(円)	80.85	93.25	93.17	▲114.33	4.00
配当金(円)	22	26	28	21	17

■ 株式所有者別分布状況 (2010年3月31日現在)



IR情報開示の基本的な考え方

シャープでは、株主・投資家の皆さまに、公平かつ適時適切な開示をすることで、IR活動に対する信頼性を高め、当社の企業価値を資本市場の評価に適正に反映させていくことをIR情報開示の基本的な考え方としています。

また、法令などで定められた開示項目のほか、当社の事業内容、および経営方針や戦略に関する情報についても、積極的な開示を行っています。

■ 会社情報の適時開示に係る流れ



001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■ お客さまとともに
090	■ お取引先さまとともに
	■ 株主・投資家とともに
094・095	適切な利益還元と情報開示
096	■ 従業員とともに
104	■ 地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

開かれた株主総会の実践

定時株主総会においては、総会集中日を回避した早期開催や招集通知の早期発送、パソコン・携帯電話による議決権行使の採用、機関投資家を対象とした議決権電子行使プラットフォームへの参加、英文招集通知のホームページへの掲載など、議決権を行使しやすい環境の整備を進めています。総会の模様は、開催翌日から一定期間ホームページに映像などで公開し、情報開示の充実に努めています。

多様化する投資家ニーズに対応したIR活動

当社は、迅速かつ正確で、幅広い情報の開示に努めるとともに、国内外でのIR活動を通じて、株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション活動を積極的に行っています。IR関連資料については、決算短信のみならずプレゼンテーション資料を作成するなど、決算情報のわかりやすい開示に取り組んでいます。

投資家情報ホームページでは、掲載内容の充実化を図るとともに、決算資料や説明会で述べた情報などの適時適切な開示に努めているほか、個人投資家向けのサイトを設け、わかりやすくアクセスしやすい環境を整えています。

また、アニュアルレポートの訴求性を追求することで、事業内容や戦略に関して投資家の理解促進を図っています。

今後も、各種法令などで定められた情報だけでなく、当社の事業内容や経営方針、戦略に関する情報についても、積極的な情報開示を行っていきます。



投資家情報ホームページ



アニュアルレポート2009



株主・投資家とのコミュニケーション

2009年度の主な活動としては、機関投資家・アナリストからの個別取材に大阪・東京両オフィスで随時対応したほか、決算説明会、事業戦略説明会、工場見学会などを実施しました。

海外のIRミーティングについては、米国・欧州・アジア地域の有力機関投資家を訪問するなど、既存株主の安定化と新規株主の開拓を図りました。

また、投資家情報ホームページの掲載内容の充実化を図りつつ、検索性や見やすさについて改善しました。

さらに、個人投資家担当の証券会社営業員の方々を対象に会社説明会を開催したほか、証券会社主催のカンファレンスなどに参加し、業績や事業戦略の説明・質疑応答を行いました。

今後も、IR活動を通じて幅広い層の投資家の方々に当社の経営状況を正しくご理解いただけるように努めていきます。

SRI※(社会的責任投資)の状況

2010年6月現在、シャープは下記のSRI評価機関からSRI構成銘柄への選定、CSR格付認定などの評価を得ています。

- FTSE4Goodグローバル・インデックス(英国)
- FTSE KLDグローバル・クライメット100インデックス(米国)
- ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・アジアパシフィック・インデックス(米国・スイス)
- エティベル・サステナビリティ・インデックス(ベルギー)
- モーニングスター社会的責任投資株価指数(日本)
- oekom research社 社会的責任格付「Prime」(ドイツ)



※ Socially Responsible Investmentの略。収益性や成長性だけでなく、環境や社会に対する取り組みも考慮して社会的責任を果たしている企業に投資を行う、投資行動のこと。

公平で働きやすく、成長できる職場づくり

シャープは、基本的な人権および個人の尊厳を重視し、意欲あるものに成長の機会を提供して、一人ひとりの多彩な能力を伸ばすとともに、多様な人材を活かす職場づくりを進めています。また、仕事と家庭の両立を支援する制度や心身ともに健康で安全に働ける職場環境の充実に努めています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■お客さまとともに
090	■お取引先さまとともに
094	■株主・投資家とともに
	■従業員とともに
096 ▼ 103	公平で働きやすく、成長できる職場づくり
104	■地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> 人権教育活動の継続強化 	<ul style="list-style-type: none"> 国内各事業所・関係会社で延べ約40回の人権研修を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 人権啓蒙活動の継続強化 <ul style="list-style-type: none"> 国内事業所・関係会社での人権研修の実施 海外赴任をする幹部への人権研修の実施
<ul style="list-style-type: none"> グローバルな事業展開を支える人材の継続育成 	<ul style="list-style-type: none"> 海外派遣者登録(GATE)研修を約60名が受講 グローバル人材母集団登録(G-BANK)研修を約140名が受講 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな事業展開を支える人材の継続育成 <ul style="list-style-type: none"> グローバル幹部人材の育成 GATE/G-BANK研修、SHINEプログラムの推進
<ul style="list-style-type: none"> 「ダイバーシティプログラム」の導入・展開 	<ul style="list-style-type: none"> 女性、外国人(国内勤務)、障がい者、高齢者の4つの属性別具体策、目標を策定、推進 ワーク・ライフ・バランスとダイバーシティの情報発信サイト「Win-Winネットワーク」を開設 	<ul style="list-style-type: none"> 「ダイバーシティ・プログラム」の確立 <ul style="list-style-type: none"> ワーク・ライフ・バランス施策の拡充 ダイバーシティ・インクルージョン(多様性の受容)に向けた環境整備
<ul style="list-style-type: none"> 労働災害リスク低減活動の継続強化 	<ul style="list-style-type: none"> 国内主要11工場の安全衛生検査を実施 労働安全衛生マネジメントシステム導入に向けたリスクアセスメント、研修などの取り組みを実施 国内2事業所、海外2拠点でOHSAS18001の認証を取得 	<ul style="list-style-type: none"> 労働災害リスク除去・低減活動の継続強化 <ul style="list-style-type: none"> 労働安全衛生マネジメントシステム導入に向けたリスクアセスメント、リスク除去・低減対策の実施 国内6事業所でOHSAS18001の認証を取得 グローバルな安全衛生取り組みの強化
<ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルスケアの取り組みの継続強化 	<ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルス休職者・復職者支援制度の運用状況調査の実施、適正運用の徹底 メンタルヘルス推進会議を年2回開催し、各事業所担当者の情報共有と連携を強化 	<ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルス一次予防(発症予防と健康増進)施策の強化 <ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルスグループワーク研修の実施 社外検定の取得推奨によるメンタルヘルス関連知識の向上
<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病対策の継続強化 	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断実施率99.99%。有所見者についても99%をフォローし、特定保健指導(積極的支援・動機付け支援)を積極的に実施 「全社チームウォーキング」(年間延べ約15,200名参加)などウォーキングイベントを推進 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病対策の継続強化 <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病健診(定期健診)と有所見者フォローの継続強化 保健指導活動の活性化 従業員全員を対象とした全社スポーツ大会開催を通じた運動習慣づくりの活性化

基本的人権と個人の尊厳の尊重

シャープは、人権に関する基本方針として、基本的人権と個人の尊厳を尊重することや、児童労働・強制労働をさせないことを「シャープグループ企業行動憲章」「シャープ行動規範」に定め、すべての役員・従業員に徹底しています。

国内では、各事業所での「人権研修」を毎年実施(2009年度実績延べ約40回)するなど人権尊重の徹底を図り、海外では、現地の法令などに基づいて人権問題の防止に努めていましたが、今後、2009年6月に参加した「国連グローバル・コンパクト」の人権・労働基準に関する原則に沿って、一層の取り組みを国内外で推進します。

対話を重視した良好な労使関係

シャープは、各国・各地域の法令に基づいて、従業員の団結権と団体交渉権を尊重しながら労使の信頼関係の一層の強化を図っています。

国内では、労使のトップ同士が対話する「中央労使協議会」や、事業所ごとの「支部労使協議会」など、労使協議の場を毎月設定して経営環境や職場環境についての労使間の課題について意見や情報を交換しています。

欧州では、汎欧州の経営課題を確認するために「欧州労使協議会」を毎年開催しています。また、中国の各拠点では、2008年の労働契約法施行を機に、待遇などの決定に従業員が民主的にかかわる「従業員代表大会」を開催しています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■ お客さまとともに
090	■ お取引先さまとともに
094	■ 株主・投資家とともに
	■ 従業員とともに
096 ▼ 103	公平で働きやすく、成長できる職場づくり
104	■ 地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

従業員の自主性と多様性を尊重する人事・教育研修制度

シャープでは、グローバル競争力を高めるべく、計画的な人材育成を進めています。そして従業員一人ひとりの個性や意欲、創造性が発揮されるように、仕事に必要な知識やノウハウを深めるための職能別・職種別研修だけでなく、下記のような自主性と多様性を尊重した多彩な人事制度、教育研修制度を導入しています。

次世代人材の育成制度

■ リーダーシップ・プログラム／チャレンジコース

経営幹部の計画的育成を目的に、若手準管理職から部門責任者までを対象とする教育制度「シャープ・リーダーシップ・プログラム」を導入しています。

このプログラムでは、MBAのカリキュラムに準拠した教育と、海外勤務や重要プロジェクトへの参画等の実践的プログラムによって、グローバルに通用するマネジメント能力とリーダーシップを育成しています。また、若手準管理職層対象「チャレンジコース」では、年功的要素を除いた成果主義賃金制度(月俸制)と教育支援策を2本柱にして若手人材の早期登用を推進しています。

■ 海外派遣者登録研修／グローバル人材母集団登録研修

直近の海外派遣予定者を対象に、海外勤務に必要な知識・スキルを計画的に修得させる「海外派遣者登録研修(GATE)」や、海外勤務・海外関連業務を希望する若手中堅社員を対象に、英語力や基礎知識を修得し、将来の海外派遣候補者としての育成を図る「グローバル人材母集団登録研修(G-BANK)」を2008年より導入・推進しています。2009年度は、GATE研修を約60名、G-BANK研修を約140名が受講しました。



■ SHINEプログラム(若手グローバル人材育成制度)

将来のグローバルビジネスの中核を担うべき若手従業員の育成ならびにグローバルビジネス要員の増強を目的とした研修制度「SHINEプログラム」を実施しています。

これは、意欲の高い若手従業員を海外に1.5年～2年間派遣し、海外拠点での実務研修や現地の語学学校での研修を行う制度です。2004年の導入以降、13カ国へ50名の研修生を派遣しています。

■ モノづくり匠(たくみ)制度

この制度は、オンリーワン技能の創造・開発と熟練技能の伝承、熟練技能者の育成を図り、技能者の発掘や育成を通して組織を活性化しています。現在、7技能を対象技能として認定しています。

能力開発・意欲向上制度

■ 公募エントリー制度

事業のスピードに対応するため四半期ごとに年4回、新興国への事業拡大、新規事業の立ち上げや新技術・商品の開発など重要度の高いテーマについて広く全社から人材を公募しています。

2009年度は約70テーマについて募集し、約150名の配置を決定しました。

■ 人事申告・キャリア開発制度／キャリア開発ローテーション

個人の能力開発やキャリア開発を積極的に行うため、各種ローテーション制度を実施しています。

「人事申告・キャリア開発制度」は、年1回、全従業員が自己のキャリア開発計画や仕事の適性などを申告する制度で、個人の能力開発やジョブローテーションに活用しており、「キャリア開発ローテーション」は、複数の職種を経験する機会を設け、「高度な専門性」と「幅広い視野」をバランスよく兼ね備えた「T字型人材」※を計画的に育成しています。

※ 土台となる確かな経験領域をもとに、幅広い知識/スキルを身に付けた人材のこと。

教育研修・自己啓発支援制度

■ 職能別研修、専門分野研修

技術・企画・調達・生産・品質・営業・サービス、および経理・知的財産など、それぞれの職種に必要な専門知識・スキルの習得を狙いとする研修を幅広く実施しています。

■ 通信教育講座／エッセンシャルコース

自己啓発支援として、ビジネス基礎知識や語学、専門知識に至るまで業務に必要な知識や技能、資格を取得できる通信教育講座を実施しています。

エッセンシャルコースは時流に即したテーマを設定し、最新の動向や理論について、大学教授やその分野の第一人者を講師に迎え、全国の社員がテレビ会議システムを利用して一斉に受講します。



■ ステップアップ・セルフアップ運動(資格取得奨励施策)

従業員の成長支援の一環として、2004年9月から、公認会計士など6資格の新規取得者に奨励金を支給する「資格取得奨励策」を導入しました。

2009年には、技術分野・技能分野などの専門分野から、語学・ITなどの日常業務に直結した必須資格まで、全200資格を対象を広げ、その資格取得の難易度に応じた奨励金を支給しました(2009年度支給件数:約5,500件)

■ 表彰制度

毎年、シャープグループにおいて顕著な業績をあげた国内外の従業員・部門に対して表彰を行っています。

2009年度は、約110件、約1,400名を表彰しました。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■お客さまとともに
090	■お取引先さまとともに
094	■株主・投資家とともに
	■従業員とともに
096	公平で働きやすく、成長できる職場づくり
103	
104	■地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

ダイバーシティに関する取り組み

シャープは、著しいビジネス環境の変化に迅速、柔軟に対応するためにはダイバーシティ・マネジメント※が重要であると考え、2005年6月よりダイバーシティ・マネジメントの第一ステップとして女性社員の戦力化に取り組んできました。

2004年10月にスタートした専任部門「ポジティブ・アクション推進プロジェクトチーム」を2009年3月から「ダイバーシティ推進チーム」に改称し、これまでの女性社員の戦力化に加え、外国人(国内勤務)の活用、障がい者雇用、定年退職者再雇用などトータルでダイバーシティを推進しています。

その推進方法として、ダイバーシティの各属性の推進責任者による「ダイバーシティ推進会議」を定期的で開催し、各属性の推進状況および課題の共有や、諸施策についての意見交換などを行い、互いに連携しながら、シャープ全体としての一貫性のあるダイバーシティ推進をめざしています。

当社のダイバーシティの考え方は、「会社に働く人々の能力開発と生活福祉の向上に努め、会社の発展と一人一人の幸せとの一致をはかる」という「経営理念」の上に成り立っています。取り組みのコンセプトを「多様な人材をオンリーワン経営の戦力に」と定め、社員一人ひとりが互いの個性を尊重し合うことで、新しい価値を生み出し、オンリーワン商品の開発、サービスの提案、CS向上につなげることをめざしています。

■ダイバーシティプログラムの考え方

- ①ダイバーシティの一貫性のある推進をめざす。
- ②女性、外国人(国内勤務)、障がい者、高齢者の活躍推進に向けた、各属性別のプログラムを策定・推進する。
- ③ダイバーシティ推進の基盤として「ワーク・ライフ・バランス支援制度」の浸透・定着を図る。
- ④ダイバーシティを受容する(できる)社内環境づくりに取り組む。



※ 従来の企業内や社会におけるスタンダードにとらわれず、多様な属性(性別、年齢、国籍など)や価値・発想を取り入れることで、ビジネス環境の変化に迅速かつ柔軟に対応し、企業の成長と個人の幸せにつなげようとする戦略。
(「日経連ダイバーシティ・ワーク・ルール研究会」報告書より)

ダイバーシティ・インクルージョン(多様性に向けた環境整備)

ビジネス戦略としてのダイバーシティの有効性・重要性について情報発信。多様性を受容できる職場環境づくりに向けた取り組みを行っています。

取り組み事例

Win-Winネットワーク

多様な人材がいきいきと力を発揮できる環境づくりをめざし、ワーク・ライフ・バランスとダイバーシティの情報発信サイト「Win-Winネットワーク」を社内イントラに掲載しています。

サイトでは、社内意識調査の結果や、多様なロールモデルの紹介、外国籍社員向けの情報提供などを行っています。



社内情報発信サイト「Win-Winネットワーク」

WNF(ウーマンズ・ネットワーキング・フォーラム)に参画

女性が活躍できる企業をめざし、各企業で働く女性のモチベーションアップを目的に2005年スタートした「ウーマンズ・ネットワーキング・フォーラム(60企業・団体、550名参加)」に参加し、現在は幹事企業として、東京と大阪で年に一回ずつ開催するフォーラムに参画しています。



フォーラム全体会に参加する女性社員

このように企業の枠組みを超えたネットワーキング、多様性を受容できる職場環境づくりも行っています。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■お客さまとともに
090	■お取引先さまとともに
094	■株主・投資家とともに
	■従業員とともに
096	公平で働きやすく、成長できる職場づくり
104	■地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

ダイバーシティ・プログラムの確立

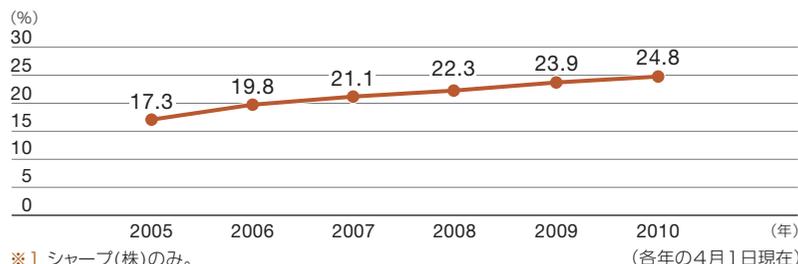
女性社員の活躍推進(女性社員の戦力化プログラム)

女性のための「単なる優遇策」ではなく、各人の能力を最大限に引き出すことをめざした「ビジネス戦略」として「女性社員の戦力化」に向けて継続推進しています。

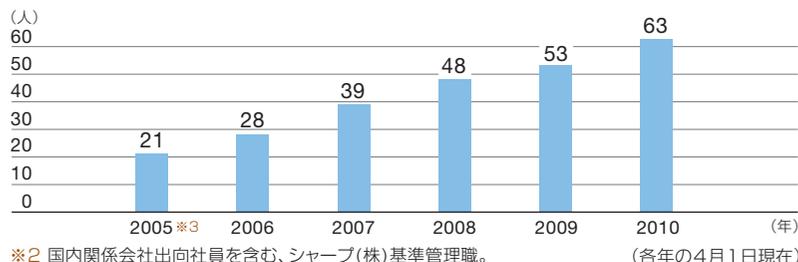
女性社員の戦力化プログラム目標

- ①女性リーダーへの登用プログラム：
女性管理職数の拡大
(2012年度 100名以上)
- ②女性主事の育成戦力化：
女性社員の主事比率の向上
(2012年度 30%)

■全女性社員に占める主事(準管理職)の割合※1



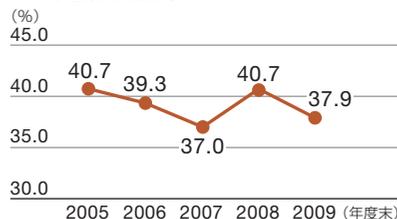
■女性管理職員数※2の推移



外国人の活用

ビジネスのグローバル化に伴い、より現場ニーズに即したグローバル人材の確保と計画的な育成策の策定に取り組んでいます。将来、海外マーケットにおいて核となる現地人材を一層戦略的に育成することをめざします。

■海外販売会社代表者に占める現地社員比率



■シャープ(株)人員構成

(2009年度末)

		男性(人)	女性(人)	合計(人)
取締役・監査役		15	0	15
従業員	管理職(主査含)	3,035	48	3,083
	準管理職(主事)	7,233	498	7,731
	一般	9,957	1,560	11,517
	小計	20,225	2,106	22,331
合計		20,240	2,106	22,346
構成比(%)		90.6	9.4	100.0

■海外主要拠点における男女構成比

(2009年度末)

拠点	役員・管理職		非管理職(正社員)		全体	
	男性(%)	女性(%)	男性(%)	女性(%)	男性(%)	女性(%)
SEC(米国) [販売拠点]	81.0	19.0	65.6	34.4	68.8	31.2
SMCA(米国) [生産拠点]	81.8	18.2	42.4	57.6	46.0	54.0
SEMEX(メキシコ) [生産拠点]	100.0	0.0	53.8	46.2	53.8	46.2
SEEG(ドイツ) [販売拠点]	90.4	9.6	61.1	38.9	66.6	33.4
SUK(英国) [販売拠点]	85.7	14.3	67.4	32.6	71.9	28.1
SUKM(英国) [生産拠点]	95.5	4.5	66.5	33.5	68.1	31.9
SEES(スペイン) [生産・販売拠点]	96.8	3.2	54.0	46.0	57.0	43.0
SMPL(ポーランド) [生産拠点]	90.0	10.0	29.8	70.2	31.0	69.0
SATL(タイ) [生産拠点]	83.0	17.0	25.8	74.2	28.0	72.0
SMM(マレーシア) [生産拠点]	74.0	26.0	34.7	65.3	40.4	59.6
SEID(インドネシア) [生産・販売拠点]	84.3	15.7	63.1	36.9	64.5	35.5
SESC(中国) [販売拠点]	84.9	15.1	60.8	39.2	63.3	36.7
SOCC(中国) [生産拠点]	91.8	8.2	27.9	72.1	29.6	70.4
NSEC(中国) [生産拠点]	63.8	36.2	60.0	40.0	60.6	39.4
WSEC(中国) [生産拠点]	68.9	31.1	45.4	54.6	47.8	52.2

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■お客さまとともに
090	■お取引先さまとともに
094	■株主・投資家とともに
	■従業員とともに
096	▼
103	公平で働きやすく、成長できる職場づくり
104	■地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

障がい者の雇用促進

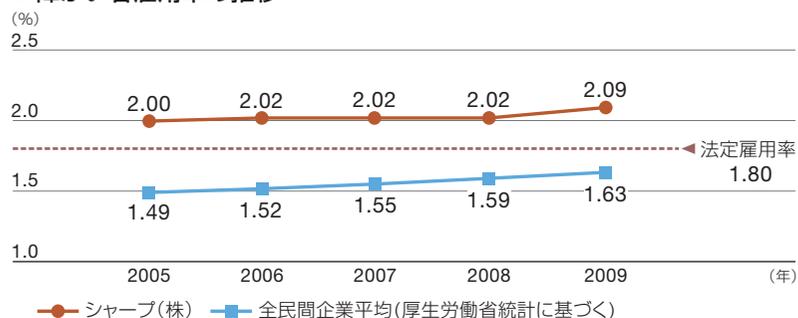
当社は社会への奉仕と福祉については、創業以来深い関心を持っており、障がい者雇用促進に努め、グループ各社で、障がい者の積極的な雇用と障がいを持つ従業員の働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

当社の障がい者雇用率は、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づく法定雇用率(1.80%)を上回る「2.09%※」となっています。

2010年4月には関係会社を含めたグループ全体で雇用率を算定する関係会社特例の認可を受けており、今後グループとしてさらなる雇用率のアップに取り組めます。

※ 2009年6月現在：シャープ(株)実績(特例子会社のシャープ特選工業(株)を含む)。

障がい者雇用率の推移



高齢者の再雇用

公的年金の支給年齢の引き上げに伴い、65歳まで年金が支給されないことに対応し、法的な要請に応えるだけでなく、会社として「高い勤労意欲を持った高年齢社員の活用を図る」、従業員として「長年培ったスキルノウハウを社会に還元する」との観点より、60歳定年退職を迎えた従業員で再雇用を希望する方を(公的年金支給開始年まで)原則的に再雇用しています。

取り組み事例

シャープ特選工業(株)における取り組み

シャープの特例子会社の「シャープ特選工業(株)」は、創業者である早川徳次の「障がいの方に人生の道を開いて頂いた。その恩返しを」との強い思いから、太平洋戦争中に失明された軍人のために設けられたプレス加工工場「早川分工場」、その後1950年に設立した「合資会社特選金属工場」が前身です。1977年日本で初めて障がい者雇用の特例子会社に認定されており、エレクトロニクス事業の発展に合わせて業容を変化・拡大し、現在は最先端の装置を駆使し業務を行っています。

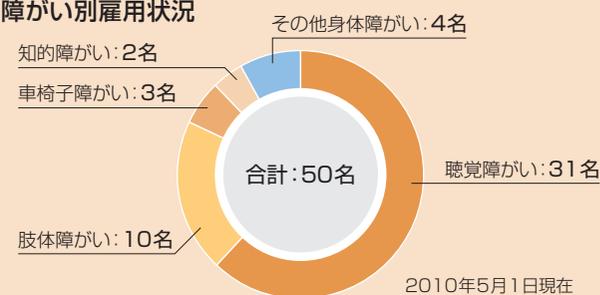
シャープ特選工業の主な事業内容は、レーザーチップの加工・検査、冷蔵庫部品の加工、携帯電話の機能評価、液晶パネルの修理、文書の印刷、電子化、翻訳等ですが、自立経営を達成することこそが、従業員の最大の喜びとなっています。

今後も、企業の社会的責任の一つとして、業務領域の開発を含め雇用拡大に積極的に取り組みます。



現在の社屋および職場風景

障がい別雇用状況



関連情報 : P.107「国内での社会福祉活動の実施」

Web シャープ特選工業株式会社

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■お客さまとともに
090	■お取引先さまとともに
094	■株主・投資家とともに
	■従業員とともに
096 ▼ 103	公平で働きやすく、成長できる職場づくり
104	■地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

当社では、ダイバーシティ推進の基盤として、「働きがいを生む職場」、「安全で安心して健康に働ける職場」づくりに向け、社員自ら各々のライフステージに応じた働き方を選択可能にし、ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭生活の両方を充実させること)を実現できるよう支援しています。

そのため、育児や介護を中心に、休職や短時間勤務などの制度拡充を計画的に推進するとともに、その周知や利用促進に向けた情報提供として、ワーク・ライフ・バランスを実現している社員の声を、個々が抱えるテーマ別に社内ホームページで紹介したり、利用しやすい職場環境づくりのため、例えば男性の育児休職取得を推進するなど、さまざまな取り組みを行っています。

こうした取り組みは、「次世代育成支援対策推進法」に基づく厚生労働省の認定を受けるとともに、日本経済新聞社主催の「2009年につけい子育て支援大賞」を受賞するなど、社外からも高く評価されています。

2010年4月からは、介護をしながら働き続けることができる仕組みをより強化するため、介護休職や介護短時間制度の適用期間延長など、介護の状況に合わせ柔軟に働くことのできる制度を拡充・整備しました。



「次世代認定マーク(愛称:くるみん)」
厚生労働省の認定を受けた企業であることを示します。

各種支援ガイドブックの公開・配布

ワーク・ライフ・バランス支援のため、出産・育児については、妊娠中や休職中などの事象別に利用できる各種制度の内容や申請方法をはじめ、役所への手続きや豆知識などを見やすくまとめた「両立支援ガイドブック」を社内ホームページで公開しています。

また、少子高齢化が進む中、介護をしながら働く社員を支援するため、2010年春には、介護に関する社内制度の紹介や社内外の相談窓口の案内、介護保険等の情報を提供する「介護支援ガイドブック」を新たに掲載し、介護をしながら働き続けられる環境づくりに向けて取り組んでいます。



両立支援/
介護支援ガイドブック

■ワーク・ライフ・バランス支援のための主な制度と取得実績(シャープ(株))

制度名称	内 容	取得実績(年度・人)		
		2007	2008	2009
育児休職制度(うち、男性)	子が満1才到達後の3月末日まで、または1才6カ月目に達するまでの間、取得が可能 <育児支援金> ①育児休職開始時より10日間を有給とする ②育児休職期間中(①の有給期間を除く)月6万円の支援金を支給する	68 (1)	170 (78)	109 (54)
出産育児短時間勤務制度	妊娠中、および子が小学校6年生の3月末日までの間、1日最長3時間、30分単位で就業時間を短縮できる制度。制度適用者は時間単位の有給休暇(年5日分)の利用が可能	70	80	72
育児支援勤務制度	子が小学校6年生の3月末日までの間、始終業時刻を柔軟に変更できる制度。制度適用者は1日平均3時間、1時間単位での就業時間の短縮や、コアタイム内の午前または午後を単位とした有給休暇(年5日分、32回まで)の利用が可能	302	344	389
介護休職制度	要介護状態にある対象家族1人につき、通算2年以内(分割可)の間、取得が可能	9	11	11
介護支援勤務制度	介護のため、1回の申請につき6カ月間(必要に応じて更新可)、始終業時間を柔軟に変更できる制度。制度適用者は、1日平均3時間、1時間単位での就業時間の短縮や、コアタイム内の午前または午後を単位とした有給休暇(年5日分、32回まで)の利用が可能	6	9	9

その他の各種制度

出産育児再雇用保証制度/配偶者出産時休暇/ならし保育休暇/介護短時間勤務制度/介護のための週勤務日数短縮制度/ホームヘルパー費用助成/ボランティア休職制度/多目的休暇/不妊治療に関する休職/有給休暇制度/不妊治療融資制度

育児休職を取得した社員の声



共働き家庭ということもあり、今しかできない乳児期の子育てを経験し、夫婦で共感する機会を持ちたいと思い、2週間余り育児休職を取得しました。育児は想像以上に忙しくて休む暇がありませんでしたが、その大変さを理解できたことが、自身と家族にとって、とてもよかったと思います。

また、誕生後すぐに育児支援勤務制度を利用し、日頃より仕事と育児、共に取り組んできた結果、同僚から子育てのアドバイスをもらうなど、周囲の理解も得ることができたと思います。これからも会社の制度を活用し、仕事と育児の両立に取り組んでいきたいと思っています。

AV開発本部要素技術開発センター
第二開発部

係長 川口 将頼

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■お客さまとともに
090	■お取引先さまとともに
094	■株主・投資家とともに
	■従業員とともに
096 ▼ 103	公平で働きやすく、成長できる職場づくり
104	■地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

安全衛生「基本理念」・「安全衛生方針」

当社は、労働災害ゼロをめざして、安全衛生の「基本理念」と「安全衛生方針」を定めて、毎年、具体的な目標と推進計画を策定しています。

基本理念

シャープで働く全ての人が安全で健康に働ける職場環境を実現するため、安全衛生を最優先し、災害ゼロに向けて誠意と創意をもって取り組む。

安全衛生方針

1. ゼロ災害をめざす。
2. 一人ひとり自らが安全衛生に取り組む。
3. ルールを守り、地域社会との共生に努める。

安心・安全・健康に働ける職場をめざして

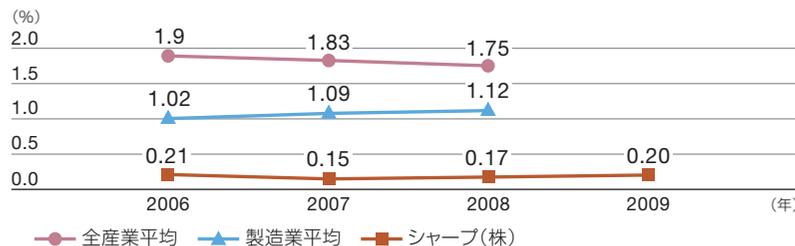
当社は、全社レベルでの安全衛生活動の推進状況の確認と、有効な取り組み事例の全社展開を目的に、「中央安全衛生委員会」を労働組合と共同で年4回開催するとともに、委員会のメンバーがチームを編成して、各工場の安全衛生検査を実施しています。

さらに、各事業所では、労使の代表者が参加する「安全衛生委員会」を毎月開催して、事業所の安全衛生活動についての報告・審議、改善施策の決定を行っているほか、構内に常駐しているお取引先さま従業員の安全衛生向上を図る「安全衛生協議会」も開催しています。

こうした取り組みを継続した結果、2009年の当社の労働災害についての度数率※1は0.20となり、継続して全国製造業平均値を大きく下回っています。

※1 労働時間100万時間あたりの労働災害発生率(休業1日以上)を表す指標。

■シャープ(株) 労働災害発生率(度数率)の推移



※ 全産業平均・製造業平均については、厚生労働省統計に基づく。

労働安全衛生マネジメントシステムの導入を推進

シャープは、職場の災害発生の潜在リスクを事前に洗い出して除去・低減する「先取り安全」の一層の推進に向けて、「労働安全衛生マネジメントシステム」の導入を推進しており、当社の全生産事業所でOHSAS18001※2の認証を取得することをめざしています。

既に4事業所で認証を取得しており、さらに2010年度中を目処に6事業所での取得に向けて取り組んでいきます。

2009年度は、リスクアセスメントの実施や内部監査員養成等の推進体制づくり、マニュアル等の文書類の整備などを実施しました。

2010年度は、これまでの取り組みをベースにして、認証審査レベルまで水準を引き上げた取り組みを推進していきます。

また、海外生産拠点でもOHSAS18001あるいは所在各国のマネジメントシステム規格※3の認証取得に取り組んでおり、今後は、グローバルに労働安全衛生管理を強化する予定です。

■OHSAS18001認証取得事業所・海外拠点(2010年3月末現在)

	事業所・海外拠点名		認証取得年月
	国内	三重事業所	第2工場
第1工場・第3工場			2009年 4月
亀山事業所		2007年 6月	
三原事業所		2010年 1月	
富山事業所		2010年 2月	
海外	PT. Sharp Semiconductor Indonesia (インドネシア)		2009年 2月
	Sharp Manufacturing Poland Sp. z o.o. (ポーランド)		2009年 9月
	Wuxi Sharp Electronics Components Co., Ltd. (中国)		2009年12月

※2 労働安全衛生マネジメントシステムの認証規格の一つであり、現在最も国際的に採用されている規格。

※3 Sharp Appliances Thailand Limited(タイ)でのタイ国労働安全衛生規格のTIS18001の認証取得(2007年8月)など。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■お客さまとともに
090	■お取引先さまとともに
094	■株主・投資家とともに
	■従業員とともに
096 ▼ 103	公平で働きやすく、成長できる職場づくり
104	■地域社会とともに
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

メンタルヘルスケアの強化と休職者・復職者支援制度の拡充

当社は、従業員のメンタル疾患の予防・早期ケアや、休職者の円滑な職場復帰を支援するために、主要事業所に専門医や産業カウンセラーを配置するなどのカウンセリング体制を整備しています。

また、従業員にメンタルヘルスに対する認識を深めてもらうよう、各種研修・啓発活動にも取り組んでいます。

定期健康診断の際には、心の健康を診断するためにストレス度の自己診断を行っており(2009年度実施率99.8%)、ストレス度の高い従業員には産業医やカウンセラーによる面談を実施しています。

2010年度は、①メンタルヘルス グループワーク研修の実施、②社外検定の取得推奨によるメンタルヘルス関連知識の向上、③社内外のカウンセリングリソースの積極的な活用の奨励などの取り組みを推進していきます。

健康づくり「シャープ健康get運動」を推進

シャープ(国内)は、従業員のメタボリックシンドローム・生活習慣病を予防・改善するために、各事業所で「シャープ健康get運動」を展開しています。これは、運動、食生活、禁煙、体重などの目標を記録するシートを活用し、従業員が自主的に生活習慣を改善できるよう支援する仕組みです。

運動を習慣化するイベント「全社チームウォーキング」は2005年度から参加者延べ3,000名強でスタートしましたが、2009年度には15,000名を超える大イベントに成長しています。イベントに参加したメタボリックシンドローム該当者の多くがメタボ該当から外れる等の成果が表れており、2009年度の健康診断では参加者の約42%がメタボを脱出しています。

また、禁煙支援についても、内科と歯科のスタッフがコラボレーションし、教育会や個別指導を通じ、喫煙者にタバコの害を理解させるとともに、「禁煙マラソン」や「歯ぴかぴかスッキリ大作戦」などのイベント参加を促し、禁煙運動を推進しています。

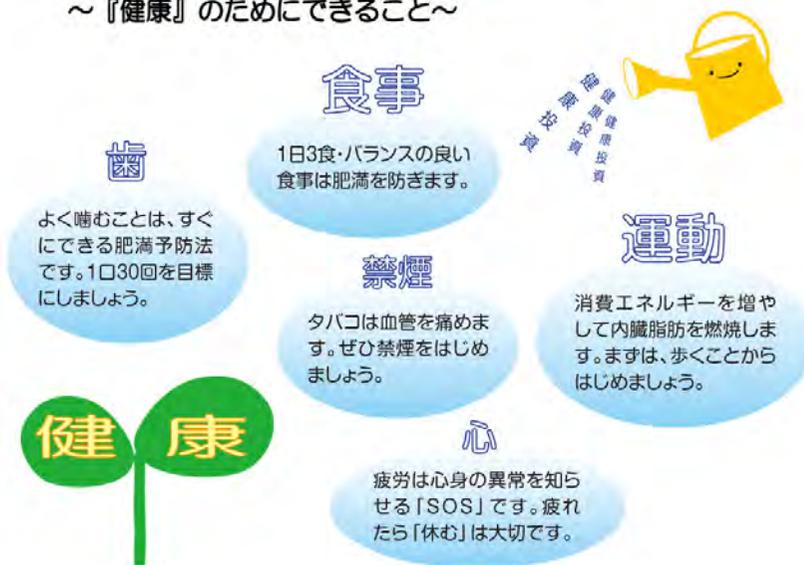
“あなたも出来る健康投資、「食」「禁煙」「動く」「噛む」「心のケア」をテーマに、今後も従業員への積極的なアプローチを進めます。

メンタルヘルスケアの具体的な取り組み内容

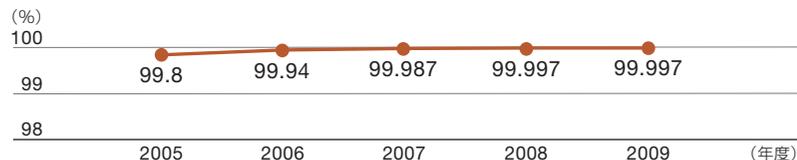
- 全従業員を対象とした階層別のメンタルヘルス研修実施による啓蒙活動
- 定期健康診断と連動した全従業員へのストレス度チェック
- 主要事業所での専門医・産業カウンセラー等による面接カウンセリング
- 外部専門機関によるメール・電話での相談、面接カウンセリング
- 転勤、単身赴任、昇格など、環境変化のあった従業員全員を対象とした面談
- 休職中も継続的にコミュニケーションをとることによる休職者等支援
- 産業医・所属部門・総務部門が連携した職場復帰時の支援プログラム
- 職場復帰に向けて行う入社訓練・作業訓練の場を提供する試し入社制度
- 事業所／関係会社毎に選任したメンタルヘルス担当者および産業保健スタッフが参加する推進会議を定期的に開催

からだが『資本』、健康は『財産』。今日から始める『健康投資』

～『健康』のためにできること～



健康診断受診率(国内)の推移



企業市民としての社会貢献活動

「広く世界の文化と福祉の向上に貢献する」という経営理念のもと、企業市民として、さまざまな社会的課題に対し、社会との調和と共存をめざし、グローバルな視点で、地域に根ざした社会貢献活動を展開しています。特に「環境」「教育」「社会福祉」を社会貢献活動の重点分野と定め、活動のための仕組みや制度を構築して自発的かつ継続的に取り組んでいます。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■お客さまとともに
090	■お取引先さまとともに
094	■株主・投資家とともに
096	■従業員とともに
	■地域社会とともに
104	企業市民としての社会貢献活動
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度の目標
<p><国内></p> <ul style="list-style-type: none"> 「シャープの森づくり」の積極的な推進(全国10カ所) 小学生を対象にした環境教育を延べ500校で、「ものづくり教育」を延べ100校で実施 営業・サービス全拠点での地域社会貢献活動の実施を継続 従業員のボランティア活動の定着化(全社で延べ3万名参加) <p><海外></p> <ul style="list-style-type: none"> 「シャープ慈善基金」を中心とした中国での活動を強化 海外各地域で環境教育を強化 	<ul style="list-style-type: none"> 「シャープの森づくり」活動として、37回実施し、延べ約1,500名の従業員が参加 小学生を対象にした環境教育を延べ500校、約28,700名ものづくり教育を延べ100校、約3,800名に実施 営業・サービス全拠点で地域社会貢献活動の一環としてボランティア活動を約700回実施し、延べ約17,400名の従業員が参加 全事業所・拠点では延べ約3万名の従業員がボランティア活動に参加 <ul style="list-style-type: none"> 中国で奨学金を授与(11大学179名)、自社製の液晶テレビを寄贈(33の病院へ38台)、事業拠点を置く地域での環境美化活動、植樹活動、小学校や図書館の建設等を実施 米州、中国をはじめとする海外各地域で環境教育を実施(延べ74校で受講者約6,000名に実施) 	<ul style="list-style-type: none"> 「シャープの森づくり」の積極的な推進と拡大 小学生を対象にした環境教育を延べ500校で、「ものづくり教育」を延べ100校で実施 工場や技術ホールの見学と環境/ものづくり教育を組み合わせた新規活動の展開 障がい者(特別支援学校)に向けた教育支援活動の展開 営業・サービス全拠点での地域社会貢献活動の実施を継続 従業員のボランティア活動の定着化(全社で延べ3万名参加) <ul style="list-style-type: none"> 「シャープ慈善基金」を中心とした中国での社会貢献活動を継続 海外各地域で環境教育を継続強化

社会貢献活動の基本的な考え方

シャープは「広く世界の文化と福祉の向上に貢献する」という経営理念のもと、社会貢献活動を推進します。活動にあたっては、社会的課題に対してグローバルな視点で、地域に根ざした取り組みを自社のリソースを活用して展開しています。特に「環境」「教育」「社会福祉」を社会貢献活動の重点分野と定め、活動のための仕組みや制度を構築して自発的かつ継続的に取り組んでいます。これらの活動によって社会との調和・共存を図るとともに、企業価値の向上にもつなげていきます。

■社会貢献の重点3分野



社会貢献活動を推進する仕組みや制度

国内外での社会貢献活動を推進するために、シャープ(株)に専任部門を設置して、施策や制度を拡充しています。小学生への教育活動では、社員講師の養成研修を国内の各地で実施し、講師を社内資格として人事登録するなど、継続的な人材育成を進めています。ボランティア活動については、労使協同で「シャープグリーンクラブ(SGC)」を組織して、森林保全や地域のクリーンアップ活動など従業員にボランティア活動への参加機会を提供しています。また、国内ではボランティア活動のために最長1年間利用できる「ボランティア休職制度」と、社会貢献活動などに利用できる年間8日の「多目的休暇」を設けて、従業員が社会貢献活動に参加しやすい環境をつくっています。

地域に密着した社会貢献活動を展開するSGC

シャープグリーンクラブ(SGC)は、従業員一人ひとりが社会貢献活動の実践を通じて自らのボランティアマインドを高め、地域社会へ貢献していくことを目的に、2003年6月に労使協同で設立された国内のボランティア団体です。2009年度も地域のクリーンアップ活動や事業所や営業拠点周辺の森林・里山を保全する「シャープの森づくり」等を実施し、延べ約3万名の従業員がボランティア活動に取り組みました。これらの活動が評価され、2009年度は、広島県の「八本松吉川シャープの森」が、広島県みどり推進機構から「広島県緑化功労者賞」を受賞しました。クリーンアップ活動でも、三重事業所での榎田(くした)川の活動が国土交通省中部地方整備局から、また、大阪府・平野事業所 所在の4グループ会社が「美化運動功労者」(団体)として大阪市環境局長から表彰を受けるなど、高い評価をいただいています。



若草山グリーンキャンペーン2010



SGC会長
(執行役員CSR推進本部長)
後藤 和年

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■お客さまとともに
090	■お取引先さまとともに
094	■株主・投資家とともに
096	■従業員とともに
	■地域社会とともに
104 ▼ 109	企業市民としての社会貢献活動
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

取り組み事例 環境分野

シャープは、企業ビジョン「エコ・ポジティブ カンパニー」を掲げ、事業活動を通じた地球環境への貢献はもとより、企業市民の立場からも環境保全活動に取り組んでいます。国内ではSGC(シャープグリーンクラブ)を中心に日本各地の事業所や営業・サービス拠点でクリーンアップ活動や「シャープの森づくり」などを、海外でも世界の各拠点でクリーンアップ活動や植林・植樹などを地域に密着した形で取り組んでいます。

国内での環境保全活動の実施

■「シャープの森づくり」

SGCでは、当社の大規模な事業所や営業・サービス拠点11箇所で「シャープの森づくり」を展開しています。シャープの森は、基本コンセプトを「森・いきもの・人のつながりを理解し、きずなを深め、地球環境への優しい心をはぐくむ」とし、植林に加えて、植えた苗を育て上げる「育林」活動にも重きを置いています。

この活動を通じて森林の再生や里山保全に貢献するとともに、従業員の環境意識を育んでいます。また、シャープの森の新たな活用方法として、生物多様性保全を学ぶ野外環境教室を開始しました。

【関連情報】: P.16「生物多様性保全へのハイブリッド型アプローチ」

P.109「国際生物多様性の日一斉活動」



■クリーンアップ活動の推進

国内の全拠点において、事業所周辺や地域でのクリーンアップ活動を推進しています。2009年度は、810回実施し、延べ約23,000名が参加しました。

【関連情報】: P.22「営業・サービス社員のさらなるCSR意識向上のための活動」



シャープの森で野外環境教室

2009年8月、大阪府の「神於山シャープの森」では、「小学校環境教育」(P.106参照)を受講した子どもたちを対象に、机上では伝えきれない森林保全や里山再生の大切さを野外で体験してもらう野外環境教室を実施しました。



地域のクリーンアップ制度に参加

各地の営業・サービス拠点では、「より地域に喜ばれる活動」をめざし、自治体等が主催する活動への参加を進めています。北九州ビルはそのさきがけとして、2006年に「北九州市道路サポーター制度」に登録しました。市から支給される清掃用具等を使用し、毎月25日にビル周辺道路の清掃活動を行っています。

海外での環境保全活動の実施

世界の各拠点でも、企業市民として、環境分野のさまざまな社会的課題に対し、生物多様性保全等の環境保全活動を積極的に展開しています。

具体的には、植林、育林、マングローブの植樹やサンゴの再生、クリーンアップ活動等を実施しています。

このような活動を通じて、地球環境に貢献するとともに、従業員の環境意識のさらなる醸成を図っています。

今後も、地域に根ざした環境保全活動を展開していきます。

【関連情報】: P.109「国際生物多様性の日一斉活動」



インドネシアでマングローブ植樹

2010年1月、インドネシアの生産拠点PT. Sharp Semiconductor Indonesiaでは、地元カラワン地域の海辺で、地域住民とともに、マングローブ1,000本の植樹活動を実施しました。



マレーシアでクリーンアップ活動

2009年6月、マレーシアの生産拠点S & O Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.では、地域住民とともに、クリーンアップ活動や緑化活動に取り組みました。



アースデイに植樹

2009年5月、カナダの販売拠点Sharp Electronics of Canada Ltd.では、アースデイにちなみ、従業員が参加し、ビルの前にカエデなどの苗木の植樹を行いました。今後もアースデイには会社の周辺に限らず、植樹活動を行う予定です。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■ お客さまとともに
090	■ お取引先さまとともに
094	■ 株主・投資家とともに
096	■ 従業員とともに
	■ 地域社会とともに
104	企業市民としての社会貢献活動
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

取り組み事例 教育分野

シャープは、次代を担う子どもたちに向け、地球環境問題の啓発や理科への関心を高め、また、職業観の醸成につながる教育支援活動に取り組んでいます。国内では2006年度から実施している「小学校環境教育」に加え、2009年度からは「小学校ものづくり教育」を本格的に開始しました。また、環境問題はグローバルな社会的課題との認識のもと、米国、中国等、世界の各地で環境教育に取り組んでいます。

国内での教育活動の実施

■ 「小学校環境教育」の実施

次代を担う子どもたちに、現在の地球環境問題をわかりやすく伝えていくことにより、地球環境を思いやる心を育み、また環境を意識した生活行動につなげることを目的に、2006年10月からNPO法人気象キャスターネットワークとの協働、NPO法人アサザ基金の協力のもと、日本全国、年間延べ500校の小学校で環境教育を実施しています。

2010年1月には累計受講児童数が10万人(延べ約1,500校)に到達、2009年度は延べ500校、約29,000名に実施しました。

また、2010年4月には、当活動が高く評価され、「地球環境大賞※ 文部科学大臣賞」を受賞しました。

授業は、「地球温暖化」に「リサイクル」もしくは「新エネルギー(太陽光発電)」を組み合わせた2コースと、さらにそれぞれのコースに「生態系保護」を加えた計4コースから選択できます。地球温暖化については気象キャスターが、リサイクルと新エネルギーについてはシャープの全国の営業・サービス拠点の従業員から選抜し、研修を受けて任命された講師(ECO・ナビゲーター)が、生態系保護についてはNPO法人アサザ基金の講師が行います。

※ '92年に創設。環境分野における国内でもっとも権威と伝統のある顕彰の一つ。(主催:フジサンケイグループ、後援:経済産業省、環境省、文部科学省、国土交通省)

関連情報 : P.16「生物多様性保全へのハイブリッド型アプローチ」

P.22「営業・サービス社員のさらなるCSR意識向上のための活動」



みんなでECOファン、小学校環境教育のご案内

■ 「小学校ものづくり教育」の実施

子どもたちに、ものづくりの夢や楽しさ、ものづくりに必要なチームワーク、探究心、好奇心の大切さをわかりやすく伝え、理科への興味を高めるきっかけづくりや、職業観の醸成に結びつけることを目的に、2009年度から日本全国、年間延べ100校の小学校で実施しています。授業は、身近な電気製品を題材に、製品の進化の歴史についての講義や未来の新製品企画のグループワーク、製品の分解/組み立て体験などを通じて、ものづくりの楽しさや創意工夫を伝える授業を、各事業本部のエンジニアから選抜し、研修を受けて任命された講師(テクノロジー・ナビゲーター)が行います。



みんなでECOファン、小学校ものづくり教育のご案内



地球環境大賞 文部科学大臣賞を受賞する当社片山社長とNPO法人 気象キャスターネットワーク藤森代表(左)



小学校ものづくり教育授業の様子

海外での環境教育の実施

2008年度より、米国、中国での小学生に向けた環境教育を開始し、2009年度は、アジア等を含め74校で授業を実施しました。

中国での授業

2009年度は中国で36回、約2,400名の小学生に環境授業を実施しました。

中国では、次代を担う子どもたちの健全育成を目的として諸活動を推進する国の外郭団体「中国次世代関心工作委员会」と連携し、レジ袋の削減や省エネなど、国の環境施策と連動した内容の授業として中国国内の全9拠点の従業員が授業を実施しています。



中国の小学校での授業の様子

米州での授業

2009年度は米州で31回、約3,100名の小学生に環境授業を実施しました。

活動当初は米国のニュージャージー州とカリフォルニア州の2拠点での取り組みでしたが、09年度からは、カナダ、メキシコを含む米州8拠点に活動の場を拡大しました。



米国の小学校での授業の様子

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■ お客さまとともに
090	■ お取引先さまとともに
094	■ 株主・投資家とともに
096	■ 従業員とともに
	■ 地域社会とともに
104	企業市民としての社会貢献活動
109	

取り組み事例 社会福祉分野

シャープでは障がい者の雇用促進や授産施設への販売機会提供を通じた障がい者の就労支援、障がいのある子どもたちへの環境教育、寄付や慈善基金による支援など、地域に根ざしたさまざまな活動をグローバルに展開しています。

国内での社会福祉活動の実施

■ 特例子会社での取り組み

シャープ特選工業(株)はエレクトロニクス事業の発展に合わせた業容の変化・拡大や職場体験学習の受け入れなどを通じて、障がい者の社会参加と雇用促進に取り組んでいます。

2009年10月には、障がい者の雇用拡大への取り組みが評価され、(社)大阪府雇用開発協会より「障害者雇用功労事業所」として表彰されるとともに、社員も「永年勤続障害者」として表彰を受けました。

関連情報 : P.100「障がい者の雇用促進」

 シャープ特選工業株式会社



(社)大阪府雇用開発協会より受賞



職場体験学習の受け入れ

■ 授産施設※商品の販売機会の提供

労使共同の取り組みとして、自治体やNPO等と連携し、授産施設による手づくり商品の販売機会を社内で提供し、障がい者の社会参加と自立を支援しています。2009年度は本社・田辺事業所と八尾事業所で定期的な開催を開始し、今後は他事業所へ拡大を図っていきます。



八尾事業所での販売の様子

※ すぐには企業等で雇用されることが難しい障がい者が働く場。

■ 特別支援学校での環境教育の実施

全国展開している「小学校環境教育」について、全国聾学校校長会に評価いただき、全国の聴覚障害教育を行う特別支援学校の小学部でも環境教育を開始しました。授業では、聴覚障害のある児童が理解しやすいように手話を取り入れ、また、視覚的な実験等を工夫し、2010年度から本格的に実施しています。



授業の様子

海外での社会福祉活動の実施

世界の各拠点でも、企業市民として、国や地域における社会福祉分野の優先課題に対し、積極的な活動を展開しています。

具体的には、障がい者や高齢者等の福祉施設や学校等への寄付・寄贈活動を中心に実施しています。

このような活動を通じて、地域社会に貢献するとともに、従業員の社会性向上にもつながっています。

今後も、地域に根ざした社会貢献活動を展開していきます。



タイの障がい者施設に寄贈

2009年8月、タイの販売拠点 Sharp Thai Co., Ltd.では、従業員が、目の見えない子どもたちの施設に衣料や食糧を寄贈するとともに、従業員から募った募金を寄付しました。



中国でチャリティ活動

2009年6月、中国の販売拠点 Sharp Electronics Sales (China) Co., Ltd.では、小学校の建設費用として、チャリティオークションを実施しました。

集まったお金を小学校の建設費用の一部として寄付しました。



インドネシアで健康増進支援活動

2009年7月、インドネシアの生産販売拠点 PT. Sharp Electronics Indonesiaでは、地域の健康センターと協同で事業所周辺の方を対象に無料健康診断を実施しました。また、健康をテーマとした冊子を配布するなどの啓蒙活動を実施しました。

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
	社会とシャープ
080	社会面の目標と実績
083	■お客さまとともに
090	■お取引先さまとともに
094	■株主・投資家とともに
096	■従業員とともに
	■地域社会とともに
104	企業市民としての社会貢献活動
109	
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

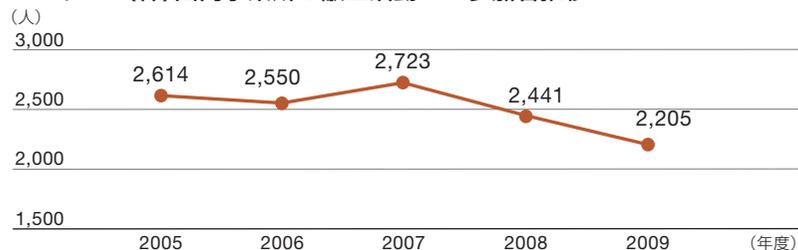
取り組み事例 その他分野

献血活動

当社は、①社会への貢献、②ボランティア意識の啓発、③生化学検査データの通知による自己の健康管理といった観点から、国内事業所で毎年献血活動を実施しています。2009年度は、国内全事業所で2,200名以上が参加しました。

また、国内営業拠点では協力店さまにもご協力いただき、海外においても積極的な活動を実施しています。

■ シャープ(株)国内事業所の献血活動への参加者推移



国内(新潟ビル)での活動



海外(タイ)での活動

被災地復興支援

シャープは「シャープグループ企業行動憲章」の中で「社会との調和」を掲げており、「良き企業市民」として社会貢献活動に取り組んでいます。この考えに基づき、国内外を問わず、大規模災害が発生した際は、各国/各地域での事業活動の状況等を勘案し、現地法人や関係諸団体((社)日本経済団体連合会、(社)関西経済連合会、日本赤十字社等)と連携を取りながら、義援金や救援物資等の支援を行っています。

最近の支援事例

- ①2010年4月 中国青海省地震:
・義援金 約1,400万円
- ②2010年1月 ハイチ地震:
・義援金 約400万円
- ③2009年9月 インドネシア・スマトラ島沖地震:
・義援金/救援物資等 約1,000万円
- ④2009年8月 台湾・台風8号:
・義援金 約300万円

TOPICS

中国の「シャープ慈善基金」では2009年度も病院への液晶テレビ寄贈や奨学金の授与などを積極的に実施しました

2009年6月、シャープ中国拠点は合同で「上海市慈善基金会」に慈善金を寄贈しました。この慈善金は、奨学金の授与、植樹活動、シャープ製品の公的機関への寄贈等の社会貢献活動として活用されます。

上海市の復旦大学附属儿科医院を始め、中国各地の33の公立病院等に38台の液晶テレビを寄贈しました。

今後も、地域の社会的課題に対応した社会貢献活動を推進していきます。



慈善金寄贈式



大学生への奨学金授与

生物多様性保全に貢献する活動をグローバルで一斉に展開

5月22日は国連が定める「国際生物多様性の日」です。シャープでは、この日を中心に生物多様性保全に貢献する活動を一斉に展開しました。

国内ではシャープグリーンクラブ(SGC)が中心となり、「SGCグリーンウェイブ2010」と題して、2010年5月22日に北海道から九州まで全国11カ所の「シャープの森」で、植樹・育林活動はもとより、それぞれの森の特性に合わせて、国際生物多様性年記念植樹や各地の生態系に詳しい専門家を招いての生物多様性学習会・生き物調査など、生物多様性の保全と啓発につながる活動を実施しました。

海外でも植樹・育林活動や野鳥の生態系を守る活動、従業員対象の生物多様性啓発活動など、地域に応じたさまざまな活動を展開しました。

関連情報 : P.16「生物多様性保全へのハイブリッド型アプローチ」 P.105「国内での環境保全活動の実施」「海外での環境保全活動の実施」

世界27の国と地域での生物多様性保全の一斉活動

11カ所の「シャープの森」での一斉活動

				
育林 北海道：さっぽろシャープの森	植樹 栃木：シャープの森 in やいた	森の勉強会 三重：かめやま会故の森	間伐 三重：多気シャープの森	植樹 奈良：SGC明日香の森
				
古墳の竹林整備 奈良：天理古墳シャープの森	生物多様性勉強会 大阪：神於山シャープの森	植樹 香川：香川シャープの森	植樹 広島：ヒロシマエアポートサイド・シャープの森	間伐 広島：龍王山シャープの森
				
育林 福岡：SGC高祖の森				



 植樹 英国	 植樹 フランス	 国立公園の保全 中国	 子ども環境教室 マレーシア	 植樹 タイ	 植樹 フィリピン
			 生物多様性勉強会 米国		
			 植樹 韓国		

001 目次

002 編集にあたって

003 トップメッセージ

005 CSR(企業の社会的責任)についての考え方

007 企業ビジョン

008 特集

012 クローズアップ

017 マネジメント

029 環境とシャープ

社会とシャープ

080 社会面の目標と実績

083 ■お客さまとともに

090 ■お取引先さまとともに

094 ■株主・投資家とともに

096 ■従業員とともに

■地域社会とともに

104 企業市民としての社会貢献活動

110 社外からの評価

112 シャープグループの概要

114 独立保証報告書

社外からの評価 (2009年度以降)

■ 取り組み

年	月	表彰名	主催	受賞者	
2010	6	技術功績賞	プラスチックリサイクル化学研究会	シャープ株式会社	
	4	IEEEマイルストーン認定(太陽光発電の産業化および商業化)	IEEE(米国)	シャープ株式会社	
		第13回環境報告書賞 「優良賞」	東洋経済新報社	シャープ株式会社	
		第19回地球環境大賞 「文部科学大臣賞」(小学校環境教育の取り組み)	フジサンケイグループ	シャープ株式会社/NPO法人 気象キャスターネットワーク	
	3	エコ通勤優良事業所認証	公共交通利用推進等マネジメント協議会	グリーンフロント 堺、八尾事業所、 平野事業所、加美事業所	
		エネルギースター賞2010「優秀賞」	環境保護庁、エネルギー省(米国)	Sharp Electronics Corporation (米国)	
		第56回(平成21年度)大河内記念技術賞 (高性能結晶性シリコンTFTを用いた周辺回路一体化 液晶パネルの開発と実用化)	財団法人大河内記念会	シャープ株式会社/ 株式会社半導体エネルギー研究所	
		第4回 2009年度消費者電子業界アフターサービス満足度企業賞	中国電子商会(中国)	Sharp Electronics Sales(China)Co.,Ltd. (中国)	
		CSR企業ランキング 総合第3位	東洋経済新報社	シャープ株式会社	
		ケアリング・カンパニーロゴ2009/2010 (社会貢献、環境保全の取り組みなど)	香港社会サービス評議会(中国・香港)	Sharp-Roxy (Hong Kong) Ltd. (中国・香港)	
	2	第13回環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門 「奨励賞」	環境省、財団法人 地球・人間環境フォーラム	三重事業所	
	1	世界トップ500企業中国貢献賞	南方週末社(中国)	Sharp Electronics Sales(China)Co.,Ltd. (中国)	
	2009	12	2009第一財経CSR優秀企業賞	第一財経日报社(中国)	Sharp Electronics Sales(China)Co.,Ltd. (中国)
			2009年インターネットIR・ベスト企業賞 「優良企業賞」	大和インベスター・リレーションズ社	シャープ株式会社
11		第4回(2009年)につけい子育て支援大賞 「大賞」	日本経済新聞社	シャープ株式会社	
		スマートウェイプログラム「優秀賞」	環境保護庁(米国)	Sharp Electronics Corporation (米国)	
10		第11回グリーン購入大賞 「大賞」(小学校環境教育の取り組み)	グリーン購入ネットワーク	シャープ株式会社/NPO法人 気象キャスターネットワーク	
		第5回品質経営度調査 「優秀企業賞(総合第3位)」	財団法人日本科学技術連盟	シャープ株式会社	
		循環型社会形成推進功労者等表彰	環境省	幕張事業所	
		2009年度中国最優秀CSR賞	21世紀経済報道社(中国)	Sharp Electronics Sales(China)Co.,Ltd. (中国)	
		上海市清潔生産模範企業	上海市(中国)	Shanghai Sharp Electronics Co.,Ltd. (中国)	
		障害者雇用功労事業所	社団法人大阪府雇用開発協会	シャープ特選工業株式会社	

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110・111	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110・111	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

■ 取り組み

年	月	表彰名	主催	受賞者
2009	9	第1回グリーンプラン賞「銀賞」	リースプラン・ベルギー社(ベルギー)	Sharp Electronics Benelux B.V. Belgium Branch (ベルギー)
		香港環境優秀賞 「Wastewi\$e Label(優秀クラス) (廃棄物削減の取り組み)」	香港社会サービス評議会、環境キャンペーン委員会(中国・香港)	Sharp-Roxy (Hong Kong) Ltd. (中国・香港)
		優良労使関係・労働福祉賞	タイ国政府	Sharp Appliances Thailand Ltd. (タイ)
		美化運動功労者(団体) 「環境局長表彰」	大阪市環境局	シャープエンジニアリング株式会社 シャープドキュメントシステム株式会社 シャープ特選工業株式会社 株式会社ワンストップサポート
	8	アフターサービス満足度ランキング 4部門1位 (薄型テレビ/BD・DVD・HDDレコーダー/エアコン/洗濯乾燥機)	日経BPマーケティング社	シャープ株式会社
	7	河川愛護表彰	国土交通省中部地方整備局	シャープグリーンクラブ(三重)
	6	2009年度中国政府購買電子機器の設置および修理サービスの満足度評価 「顧客サービス満足ブランド(オフィス設備部門/テレビ部門)」	中国家庭用電気修理協会(中国)	Sharp Electronics Sales(China)Co.,Ltd. (中国)
		平成21年度緑化功労者賞(「シャープの森」植樹活動)	社団法人広島県みどり推進機構	シャープグリーンクラブ(福山、三原、広島)
	5	上海市節水型企業	上海市(中国)	Shanghai Sharp Electronics Co.,Ltd. (中国)
	4	2009年顧客サービス満足度評価 「薄型テレビ顧客サービス満足ブランド」	中国家庭用電気修理協会(中国)	Sharp Electronics Sales(China)Co.,Ltd. (中国)
		第12回環境報告書賞「サイトレポート賞」	東洋経済新報社	三重事業所
		平成21年度 さくら功労者(「シャープの森」植樹活動)	財団法人日本さくらの会	シャープグリーンクラブ(福山、三原、広島)

■ 商品

年	月	表彰名	主催	対象
2010	2	日経優秀製品・サービス賞2009 「最優秀賞・日経産業新聞賞」	日本経済新聞社	LEDバックライト搭載液晶テレビ「LEDアクオス」
	1	平成21年度 省エネ大賞(機器・システム部門) 「省エネルギーセンター会長賞」	経済産業省	LED電球 全9機種(DL-L601N他)
		第52回「十大新製品賞」「日本力(にっぽんぶらんど)賞」	日刊工業新聞社	液晶パネルUV ² A技術
2009	5	第36回「技術賞」	社団法人日本冷凍空調学会	除菌イオン搭載 上下両開きロングパネル方式 気流制御エアコン
	4	第41回市村産業賞「貢献賞」	財団法人新技術開発財団	冷え抑制・抗疲労の医学的効果を有する エアコン新気流の実用化

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112・113	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

シャープの事業は、家電製品や情報機器などの「エレクトロニクス機器」と電気製品の基幹部品を提供する「電子部品等」から成り立っています。独自技術に基づいたキーデバイスの開発とその応用商品を手がけることにより、世の中にない「オンリーワン商品・デバイス」を創出し、お客さまに感動を与え、新たな市場を創造すべく積極的な事業活動を展開しています。

会社概要

社名	シャープ株式会社	事業内容 ^{※1}	AV・通信機器、健康・環境機器、情報機器、液晶、太陽電池、その他電子デバイスなどの製造・販売
本社所在地	大阪市阿倍野区長池町22番22号	資本金 ^{※1}	2,046億7,500万円(100万円未満は切捨)
代表	代表取締役会長 町田勝彦 代表取締役社長 片山幹雄	従業員数 ^{※1}	連結対象会社社員数：53,999名 グループ総人員：61,734名(国内31,696名、海外30,038名)
創業	1912年9月15日		^{※1} 2010年3月31日現在

主要製品



AV・通信機器

"AQUOS クアトロン 3D"^{※2} 携帯電話機

液晶カラーテレビ／カラーテレビ／プロジェクター／DVDレコーダー／ブルーレイディスクレコーダー／ブルーレイディスクプレーヤー／携帯電話機／PHS電話機／モバイルコミュニケーション端末／パーソナルコンピュータ／電子辞書／電卓／ファクシミリ／電話機

^{※2} 2010年7月発売予定



健康・環境機器

プラズマクラスターイオン発生機 LED電球

冷蔵庫／過熱水蒸気オーブン／電子レンジ／エアコン／洗濯機／掃除機／空気清浄機／除湿機／加湿機／電気暖房機器／小型調理機器／プラズマクラスターイオン発生機／LED照明機器／ソーラー・LED照明灯



情報機器

インフォメーションディスプレイ デジタルフルカラー複合機

POSシステム機器／ハンディターミナル機器／電子レジスタ／液晶カラーモニター／インフォメーションディスプレイ／デジタル複合機／各種オプション・消耗品／各種ソフトウェア／FA機器／洗浄機



液晶

UV2A技術採用4原色^{※3}液晶パネル メモリ液晶

TFT液晶ディスプレイモジュール／デューティー液晶ディスプレイモジュール／システム液晶ディスプレイモジュール

^{※3} 4原色とは、液晶ディスプレイ上の原色の考え方であり、色や光の3原色の考え方とは異なります。



太陽電池

ルーフィット設計対応 住宅用太陽光発電システム 産業用薄膜太陽電池モジュール

結晶太陽電池／薄膜太陽電池



その他電子デバイス

1/4型500万画素 CMOSカメラモジュール 照明用LEDデバイス

CCD・CMOSイメージャ／液晶用LSI／マイコン／フラッシュメモリ／アナログIC／衛星放送用部品／地上波デジタルチューナ／高周波モジュール／ネットワーク部品／半導体レーザー／LED／光ピックアップ／光センサ／光通信部品／レギュレータ／スイッチング電源

シャープグループの概要

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112・113	シャープグループの概要
114	独立保証報告書

■売上高・営業利益・当期純利益の推移(連結)

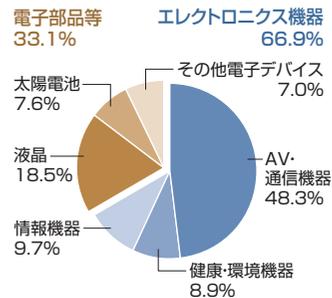


■シャープグループの状況 (2010年3月31日現在)

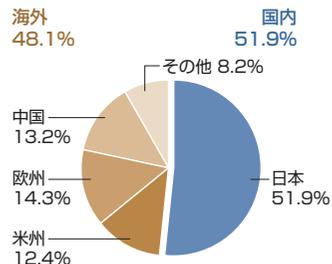
- 連結対象子会社数 57社 (国内13社 / 海外44社)
- 海外事業

販売拠点	25カ国・地域	30カ所
生産拠点	14カ国・地域	23カ所
技術開発拠点	3カ国・地域	4カ所
技術開発・部品供給拠点	1カ国・地域	1カ所
金融会社	1カ国・地域	1社
駐在事務所	1カ国・地域	2カ所
合計	26カ国・地域	61カ所

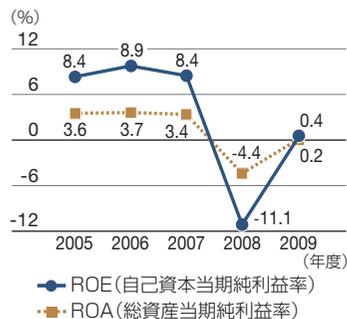
■2009年度部門別売上高構成比(連結)



■2009年度地域別売上高構成比(連結)



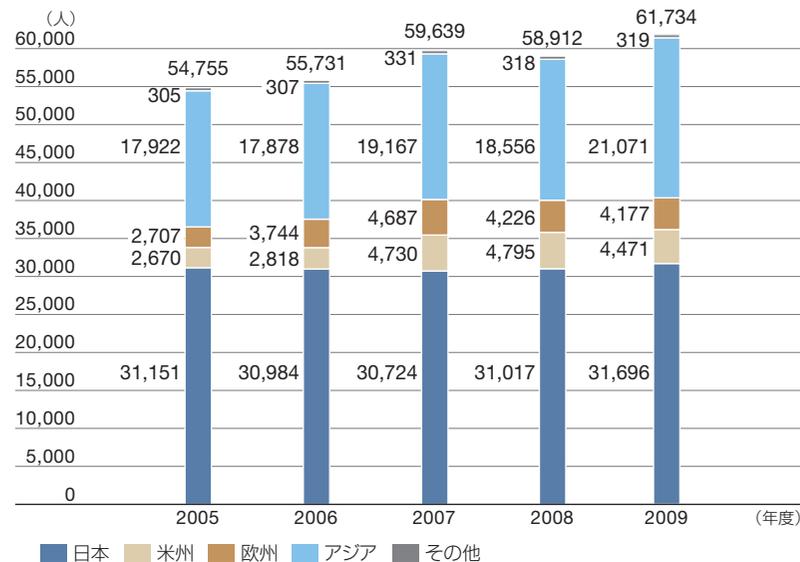
■主要経営指標の推移(連結)



■研究開発費の推移(連結)



■シャープグループ従業員数



※ シャープグループ：シャープ株式会社・連結子会社・持分法適用会社・その他関連会社
各年度とも、年度末(3月31日)の数字

001	目次
002	編集にあたって
003	トップメッセージ
005	CSR(企業の社会的責任)についての考え方
007	企業ビジョン
008	特集
012	クローズアップ
017	マネジメント
029	環境とシャープ
080	社会とシャープ
110	社外からの評価
112	シャープグループの概要
114	独立保証報告書



独立保証報告書

2010年6月24日

シャープ株式会社
取締役会 御中

KPMG あずさサステナビリティ株式会社
大阪府中央区瓦町3丁目6番5号

代表取締役社長 魚住 隆太

取締役 松尾 幸真

目的及び範囲

当社は、シャープ株式会社(以下、「会社」という。)からの委嘱に基づき、会社が作成し会社のウェブサイト上に開示した「シャープ 環境・社会報告書 2010」(以下、「環境・社会報告書」という。)に対して限定的保証業務を実施した。本保証業務の目的は、環境・社会報告書に記載されている2009年4月1日から2010年3月31日までを対象とした、商品の環境性能を除く環境パフォーマンス指標、環境会計指標及び社会性パフォーマンス指標(以下、「指標」という。)が会社の定める基準に従って作成されているかについて保証手続を実施し、その結論を表明することである。環境・社会報告書の記載内容に対する責任は会社であり、当社の責任は、限定的保証業務を実施し、実施した手続に基づいて結論を表明することにある。

判断規準

会社は環境省の環境報告ガイドライン等を参考にして定めた指標の算定・報告基準(以下、「会社の定める基準」という。)に基づいて環境・社会報告書を作成しており、当社はこの会社の定める基準を指標についての判断規準としている。

実施した保証手続

当社は、サステナビリティ情報審査協会のサステナビリティ情報審査実務指針(2008年2月改訂)及び国際監査・保証基準審議会の国際保証業務基準(ISAIE)3000「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」(2003年12月改訂)に準拠して本保証業務を実施した。本保証業務は限定的保証業務であり、主として開示情報の作成に責任を有するもの等に対する質問、分析的手続等の保証手続を通じて実施され、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。

当社の実施した手続には以下が含まれる。

- 環境・社会報告書の作成・開示方針についての質問
- 会社の定める基準の検討
- 指標の把握、集計、開示のためのシステム並びに全社及びサイトレベルでの内部統制の検討
- 全社集計データに対する分析的手続の実施
- 会社の定める基準に従って指標が把握、集計、開示されているかについて、試査による原始証拠との照合並びに再計算の実施
- 一部のサイトにおける現地往査
- 指標の表示の妥当性に関する検討

結論

保証手続を実施した結果、環境・社会報告書に記載されている指標が、すべての重要な点において、会社の定める基準に従って作成されていないと認められる事項は発見されなかった。

当社及び本保証業務に従事したものと会社との間には、サステナビリティ情報審査協会の倫理規程に規定される利害関係はない。

以上

SHARP

シャープ株式会社

〒545-8522 大阪市阿倍野区長池町22番22号

TEL.06-6621-1221 (大代表)

<http://www.sharp.co.jp/>